梅之木遺跡 Ⅱ

県営畑地帯総合整備事業にともなう
縄文時代・弥生時代・平安時代遺跡の発掘調査報告

2003

山梨県明野村教育委員会
峡北地域振興局農務部

梅之木遺跡 Ⅱ

県営畑地帯総合整備事業にともなう
縄文時代・弥生時代・平安時代遺跡の発掘調査報告

2003

山梨県明野村教育委員会
峡北地域振興局農務部

例　言

1　本書は、山梨県北巨摩郡明野村浅尾字梅之木に所在した梅之木遺跡の発掘調査報告書である。

2　本遺跡の現地発掘調査は、平成14年５月14日に着手し、同年９月24日に完了した。

3　発掘調査は、明野地区県営畑地帯総合整備事業梅之木工区の施工にともない実施した。事業主体は、山梨県峡北地域振興局農務部である。

4　発掘調査は、明野村教育委員会が直営で実施した。調査組織は下記のとおりである。

調査主体　明野村教育委員会教育長　深澤昌仁

調査担当　明野村教育委員会文化財調査員　大山祐喜

調査事務局　明野村教育委員会文化財担当

5　本書の執筆、編集は大山があたった。ただし、第６章第３節は原正人氏（駿台甲府中学校教諭、山梨郷土研究会会員）にご執筆いただいた。

6　本文中の註は各章末に、参考文献は巻末に掲示した。

7　本遺跡の出土品および調査に係る諸記録は明野村教育委員会が保管している。

8　本遺跡の調査および報告書作成に際し、次の方々にご指導、ご教示を賜った。記して感謝したい。（五十音順、敬称略）

宇佐美哲也（狛江市教育委員会）、岡安雅彦（安城市教育委員会）、永嶋正春（国立歴史民俗博物館）、保坂康夫（山梨県埋蔵文化財センター）、平野修（山梨文化財研究所）

9　調査参加者（五十音順、敬称略）

秋山高之助、井手研二、井手正美、伊東加代子、伊東典雄、井上町子、長田あい子、小尾嘉子、片山和江、兼松章子、上村ゆきえ、河手寿子、輿石久美、小林ます子、篠原加代子、篠原初美、篠原啓子、清水小春、清水貞子、清水さゆり、清水ヤス子、新藤すみ江、新藤道恵、鈴木節夫、筒井つや子、仲澤千代美、中島律子、西川優子、野田俊夫、藤原和美、藤原喜美子、三井啓介、三井つや子、三井民子、三塚テツ子、皆川禮子、宮川昌蔵、向井直子、森本秀娟、守屋敏子、守屋真弓、山下千代子

凡　例

1　報告書中の地図は、国土地理院発行２万５千分の１地形図「若神子」「韮崎」、山梨県峡北地域振興局農務部「梅之木工区地形現況平面図」、明野村役場地籍集成図を使用した。

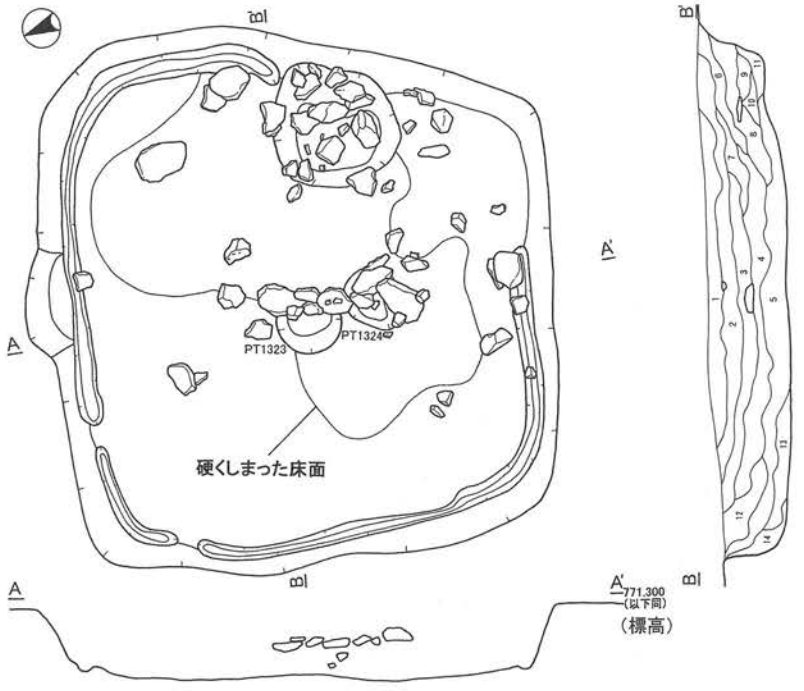
2　平安時代土器の時期は、『宮ノ前遺跡』韮崎市教育委員会1992年に拠った。

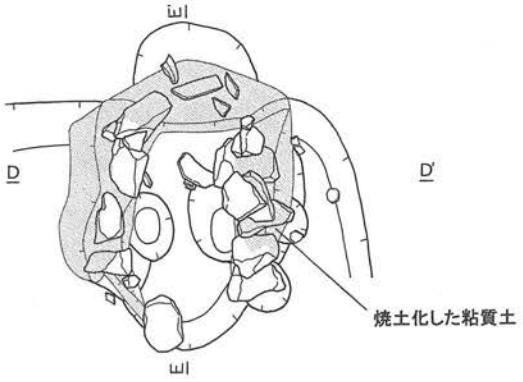
3　図版および観察表中の遺構覆土色および土器胎土色は、『新版標準土色帳』財団法人日本色彩研究所に拠った。

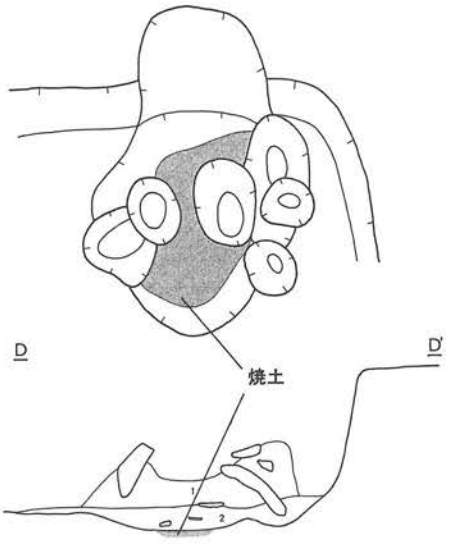
4　遺構番号は『梅之木遺跡』明野村教育委員会2001年から引き継いでいる。

5　本文および実測図中の略号「PH」は平安時代の竪穴住居、「HO」は掘立柱建物、「PJ」は縄文時代の竪穴住居、「PT」はピット、「DK」は土坑を意味する。

6　図版中の網掛部等の意味するところは以下のとおりである。

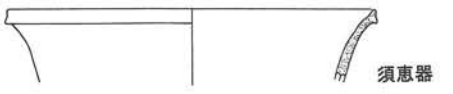

A
A'
PT1323
PT1324
硬くしまった床面
771.300
(以下同)
(標高)


D
D'
焼土化した粘質土


D
D'
焼土

黒色処理
土師器・土師質土器

施釉の範囲
灰釉陶器


須恵器

本文目次

例言・凡例
第１章　調査に至る経緯……1
　第１節　調査に至る経緯と調査区の設定……1
　第２節　調査の経緯……1
　第３節　遺跡の概要……1

第２章　遺跡周辺の環境……4
　第１節　遺跡周辺の地理環境……4
　第２節　遺跡周辺の歴史環境……4

第３章　平安時代の遺構と遺物……9
　第１節　竪穴住居跡と出土遺物……9
　第２節　掘立柱建物……19
　第３節　土坑と出土遺物……20
　第４節　遺構・遺物観察表……21
　第５節　120号住居出土土師器付着物の自然科学分析……108

第４章　縄文時代の遺構と遺物……109
　第１節　竪穴住居跡と出土遺物……109
　第２節　その他の遺構と出土遺物……109
　第３節　遺構外出土遺物……110
　第４節　遺物観察表……110

第５章　弥生時代の遺構と遺物……129
　第１節　土坑と出土遺物……129
　第２節　遺構外出土遺物……129
　第３節　遺物観察表……129

第６章　まとめ……136
　第１節　遺構について……136
　第２節　遺物について……137
　第３節　明野村・梅之木遺跡出土の墨書土器「目」と「倭」について（原　正人）……138

表目次

第１表　遺跡地名表……6
第２表　平安時代住居面積・主軸方向一覧……23
第３表　掘立柱建物面積・柱間寸法一覧……23
第４表　土坑・ピット一覧……24

第５表　平安時代の土器・土製品一覧……31
第６表　金属製品一覧……35
第７表　石器・石製品一覧……35
第８表　縄文時代・弥生時代・その他の時代の土器・土製品一覧……134
第９表　縄文時代・弥生時代の石器・石製品一覧……135
第10表　墨書・刻書土器一覧……140

図版目次

第１図　土木工事の範囲と調査の範囲……2
第２図　調査区位置図……3
第３図　調査範囲と周辺の地形……5
第４図　周辺の遺跡分布図（1/100,000）……7
第５図　遺跡全体図……8
第６図　96号住居（1/40）……36
第７図　96号住居カマド（1/20）　232号土坑（1/20）
96号住居出土遺物（1/2、1 1/4）……37
第８図　97号住居（1/40）……38
第９図　97号住居カマド（1/20）……39
第10図　97号住居出土遺物（1/2）
および遺物出土状況（1/20）……40
第11図　239号土坑（1/20）および出土遺物（1/2）
97号住居出土遺物（1/2）……41
第12図　97号住居出土遺物（1/2、2～6 1/4）……42
第13図　97号住居出土遺物（1/2）……43
第14図　98号住居（1/40）……44
第15図　98号住居カマド（1/20）……45
第16図　98号住居出土遺物（1/2、3･5 1/4）……46
第17図　98号住居出土遺物（1/2）……47
第18図　99号住居（1/40）および出土遺物（1/2）……48
第19図　100号住居（1/40）
100号住居カマド（1/20）……49
第20図　100号住居出土遺物（1/2）……50
第21図　101号住居（1/40）……51
第22図　258号・246号土坑（1/20）
101号住居出土遺物（1/2）……52
第23図　102号住居（1/40）……53
第24図　102号住居カマド（1/20）……54
第25図　102号住居出土遺物（1/2、4～7 1/4）……55
第26図　103号住居（1/40）　103号住居カマド（1/20）
および出土遺物（1/2）……56
第27図　105号住居（1/40）……57
第28図　105号住居遺物出土状況（1/20）
105号住居カマド（1/20）……58
第29図　105号住居出土遺物（1/2、5 1/4）
104号住居カマド（1/20）
および出土遺物（1/2）……59
第30図　106号住居（1/40）……60
第31図　106号住居カマド（1/20）
255号土坑（1/20）および出土遺物（1/2）……61
第32図　106号住居出土遺物（1/2、6 1/4）……62
第33図　107ａ号住居（1/40）……63
第34図　107ａ号住居カマド（1/20）……64
第35図　107ｂ号住居（1/40）
107ｂ号住居カマド（1/20）……65
第36図　107号住居出土遺物（1/2、3･4･8 1/4）……66
第37図　108号住居（1/40）……67
第38図　108号住居カマド（1/20）……68
第39図　1293号ピット（1/20）および出土遺物（1/2）
108号住居出土遺物（1/2、6～8 1/4）……69
第40図　108号住居出土遺物（1/2、1 1/4）……70
第41図　109号住居（1/40）……71
第42図　109号住居カマド（1/20）……72
第43図　272号土坑（1/20）および出土遺物（1/2）
109号住居出土遺物（1/2、9～12･14 1/4）……73
第44図　109号住居出土遺物（1/2）……74
第45図　110号住居（1/40）
110号住居カマド（1/20）……75
第46図　110号住居出土遺物（1/2、9 1/4）……76
第47図　111号住居（1/40）　112号住居（1/60）……77
第48図　112号住居カマド（1/20）　260号土坑（1/20）
112号住居出土遺物（1/2）……78
第49図　113号住居（1/40）……79
第50図　113号住居カマド（1/20）
113号住居出土遺物（1/2）……80
第51図　113号住居出土遺物（1/2、3･6 1/4）……81
第52図　114号住居（1/40）……82
第53図　114号住居カマド（1/20）……83
第54図　114号住居出土遺物（1/2）……84
第55図　114号住居出土遺物（1/2、2･3･12 1/4）……85
第56図　114号住居出土遺物（1/2）

115号住居（1/40）……86
第57図　115号住居カマド（1/20）　270号土坑（1/20）
115号住居出土遺物（1/2、1 1/4）……87
第58図　116ａ号住居および116b号住居（1/40）　……88
第59図　116ｂ号住居（1/40）
116号住居カマド（1/20）……89
第60図　116ｂ号住居集石部（1/20）
116号住居出土遺物（1/2）……90
第61図　116号住居出土遺物（1/2、7･8 1/4）……91
第62図　117号住居（1/40）……92
第63図　117号住居（1/40）
117号住居カマド（1/20）……93
第64図　117号住居出土遺物（1/2、5･6 1/4）……94
第65図　117号住居出土遺物（1/2）……95
第66図　118号住居（1/60）……96
第67図　118号住居（1/60）　297号土坑（1/20）……97
第68図　118号住居カマド（1/20）
および出土遺物（1/4）……98
第69図　118号住居出土遺物（1/2、6･9 1/4）……99
第70図　118号住居出土遺物（1/2、14 1/4）……100
第71図　119号住居（1/40）および出土遺物（1/2）……101
第72図　120号住居（1/40）……102
第73図　120号住居（1/40）および出土遺物（1/2）……103
第74図　120号住居（1/2、5～10 1/4）……104
第75図　120号住居出土遺物（1/2）
121号住居（1/40）……105
第76図　掘立柱建物（1/80）……106
第77図　平安時代の土坑（1/40、1 1/2）……107
第78図　縄文１号住居（1/40）　縄文１号住居炉 ……111
第79図　縄文１号住居出土遺物（1/2）……112
第80図　縄文１号住居出土遺物（1/2）
縄文２号住居（1/40）……113
第81図　縄文２号住居炉（1/20）
縄文２号住居遺物出土状況（1/20）
および出土遺物（1/2）……114
第82図　縄文３号住居（1/40）……115
第83図　縄文３号住居炉（1/20）　埋甕（1/20）
縄文３号住居出土遺物（1/3）……116
第84図　縄文３号住居出土遺物（1/2、1･2 1/3）……117
第85図　縄文３号住居出土遺物（1/2）……118
第86図　縄文３号住居出土遺物（1/2）……119
第87図　縄文３号住居出土遺物（1/2）……120
第88図　縄文４号住居（1/60）
縄文４号住居炉（1/20）
縄文４号住居出土遺物（1/2）……121
第89図　縄文４号住居出土遺物（1/2）……122
第90図　縄文４号住居出土遺物（1/2）……123
第91図　縄文４号住居出土遺物（1/2）……124
第92図　縄文４号住居出土遺物（1/2）
１号埋設土器（1/20）……125
第93図　230号土坑（1/20）および出土遺物（1/2）
１号集石（1/20）……126
第94図　遺構外出土遺物（1/2、17～22 1/1）……127
第95図　遺構外出土遺物（1/2、1･2 1/1）……128
第96図　315号・318号土坑（1/40）
および出土遺物（1/2）……130
第97図　322号土坑（1/20）
および出土遺物（1/2、1･3･5 1/4）……131
第98図　327号土坑（1/20）および出土遺物（1/2）……132
第99図　遺構外出土遺物（1/2、8･13 1/1）……133
第100図 時期別遺構分布図……141
１期（９世紀第３四半期～９世紀第４四半期）…141
２期（９世紀第４四半期～10世紀第１四半期）…141
３期（10世紀第２四半期～10世紀第３四半期）…141
第101図 時期別遺構分布図……142
４期（10世紀第３四半期～10世紀第４四半期）…142
５期（10世紀末～11世紀前葉）……142
墨書刻書土器出土位置図 ……142

写真図版目次

写真図版１　梅之木遺跡全景と金ヶ岳
梅之木遺跡E1・E2区全景……143
写真図版２　96号住居・100号住居（左下）・97号住居（右）・97号住居カマド・墨書土器出土状況（左下）・腰帯具出土状況（右上）・完掘（右下）……144
写真図版３　98号住居・カマド（右上）・103号住居（右下）・101号住居・258号土坑遺物出土状況（右上）・完掘（右下）……145
写真図版４　102号住居・カマド（左下）・カマド遺物出土

状況（右上）・104号住居カマド（右下）・105号住居・カマド（右上）・106号住居（右下）……146
写真図版5　107ａ号住居・カマド（左下）・107ｂ号住居（右上）・カマド（右下）・108号住居・カマド（左下）・110号住居（右上）・カマド（右下）……147
写真図版6　109号住居・カマド（左下）・完掘（右上）・111号住居（右下）・112号住居・カマド（左下）・113号住居（右上）・カマド（右下）…148
写真図版7　114号住居・カマド（左下）・116ａ号住居（左上）・116ｂ号住居（右下）・118号住居・カマド（右上）・117号住居（右下）……149
写真図版8　119号住居・120号住居（左下）・完掘（右上）・302号土坑（右下）・掘立柱建物（左上から22号、23号、24ａ・ｂ号、27号）・PJ1炉・土坑群・PJ2 ……150
写真図版9　PJ3（左上）・PJ4遺物出土状況・弥生時代の土坑（右上左から315号、318号、322号、327号）・９世紀後半の出土品・９世紀末から10世紀初頭の出土品（左下）・10世紀前半から後半の出土品（右上）10世紀末から11世紀初頭の出土品 ……151
写真図版10　120号住居出土土師器内面状況・赤外線写真（左下）・主な金属製品・押型文土器・縄文時代中期後半の出土品・縄文４号住居出土接合資料（左下）・同接合資料（右上）・弥生時代前期の土器 ……152

第１章　調査に至る経緯

第１節　調査に至る経緯と調査区の設定

梅之木遺跡は、すでに縄文時代の埋蔵文化財包蔵地として周知されていた。そのため山梨県農務部および峡北土地改良事務所（当時）が明野村浅尾字梅之木地内で計画した明野地区県営畑地帯総合整備事業の施工に先立ち、明野村教育委員会では２回の埋蔵文化財所在確認調査を地中レーダー探査と試掘調査を併用して実施した。平成12年10月１日より平成13年３月30日には茅ヶ岳広域農道以西の平安時代集落跡37,600㎡を対象に発掘調査が実施された。詳細は『梅之木遺跡Ⅰ』（明野村教育委員会 2001）を参照されたい。

本書で報告する発掘調査は、明野村教育委員会が峡北地域振興局農務部と調査経費負担協定を締結して、平成14年５月14日より９月24日まで、茅ヶ岳広域農道以東の縄文時代および平安時代の集落跡22,500㎡を対象に実施された。対象となった発掘調査の調査の区域は、第２図に示した。調査区の設定は、事前の所在確認調査により遺構が分布することが確認された範囲とした。

第２節　調査の経緯

発掘調査は、平成14年５月14日から開始した。事前の所在確認調査において遺構の分布を完全には把握できなかったため、調査区外では試掘溝を設け遺構分布状況の確認を調査区内の重機による表土剥ぎ作業と併行して実施した（第２図）。表土剥ぎと遺構の分布確認の結果、竪穴住居の集中する地域と竪穴住居がまばらで土坑が集中する地域に分かれることが判明した、そこで調査区南側の２つの区域をＥ１区、北側の２つの区域をＥ２区とした。遺構の調査は７月２日から開始した、出土遺物の取り上げや遺構全体図の作成には光波測量機を用いて記録した。９月24日、最後の遺構の撮影と測量をもって調査を完了した。東に隣接する地域では平成15年度に発掘調査が予定されている。

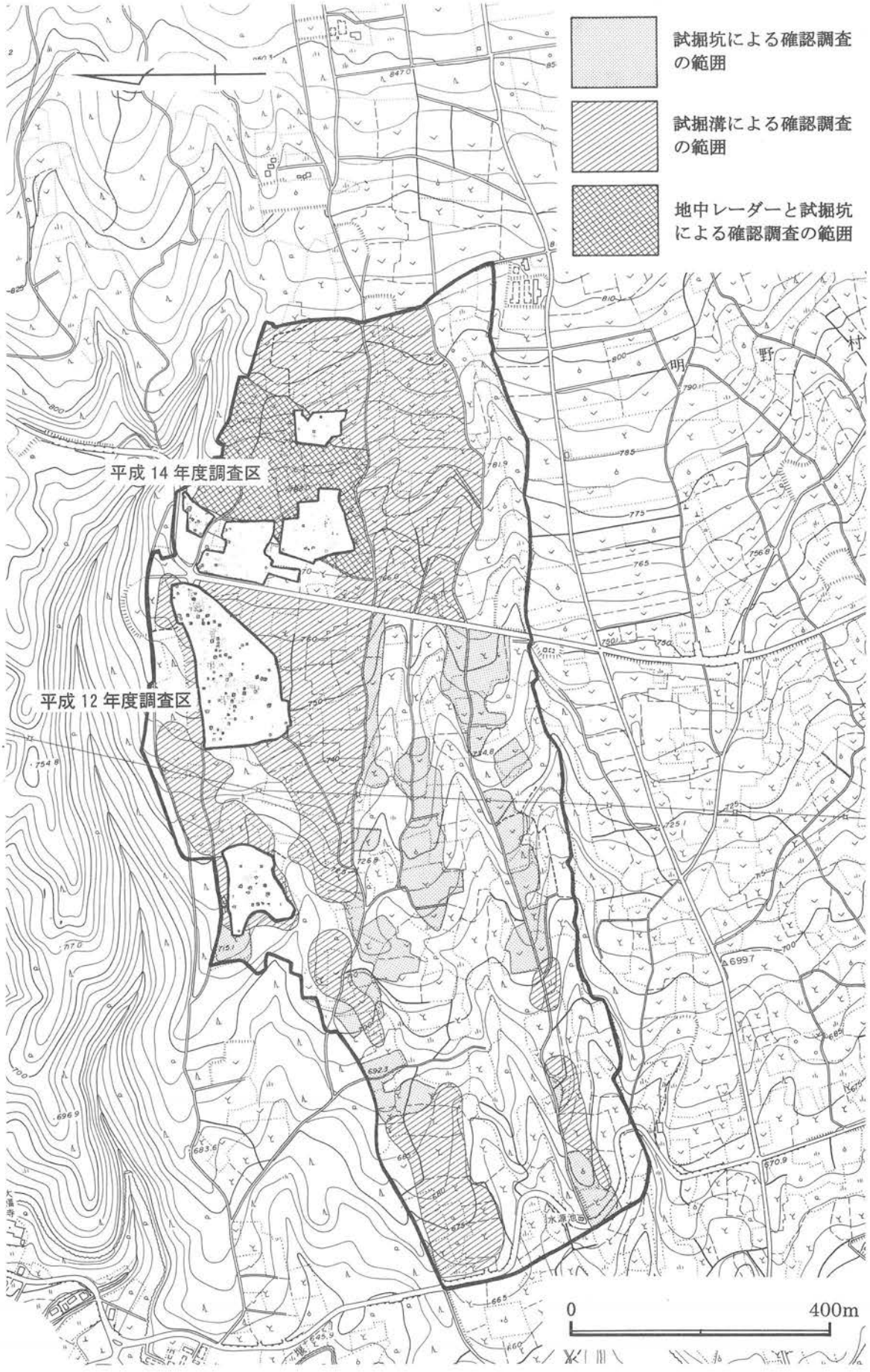
本調査にかかわる事務手続きは以下のとおりである。

埋蔵文化財発掘調査に関する協定書締結		平成14年４月１日
事業者・教育委員会二者協議		平成14年４月23日
埋蔵文化財発掘の通知	山梨県峡北地域振興局農務部発、山梨県教育委員会宛	平成14年５月９日付峡北農６第５－５号
埋蔵文化財調査着手報告	明野村教育委員会発、山梨県教育委員会宛	平成14年５月24日付明教文発第26号
周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について	山梨県教育委員会発、山梨県峡北地域振興局農務部宛	平成14年６月６日付教学文３第５－60号
事業者・教育委員会二者協議		平成14年６月25日
事業者・教育委員会二者協議		平成14年８月12日
埋蔵物発見届	明野村教育委員会発、韮崎警察署宛	平成15年２月17日付明教文発第15号
埋蔵物保管証	明野村教育委員会発、山梨県教育委員会宛	平成15年２月17日付明教文発第16号
埋蔵物保管証	明野村教育委員会発、韮崎警察署宛	平成15年２月17日付明教文発第17号
埋蔵文化財調査終了報告	明野村教育委員会発、山梨県教育委員会宛	平成15年２月17日付明教文発第18号

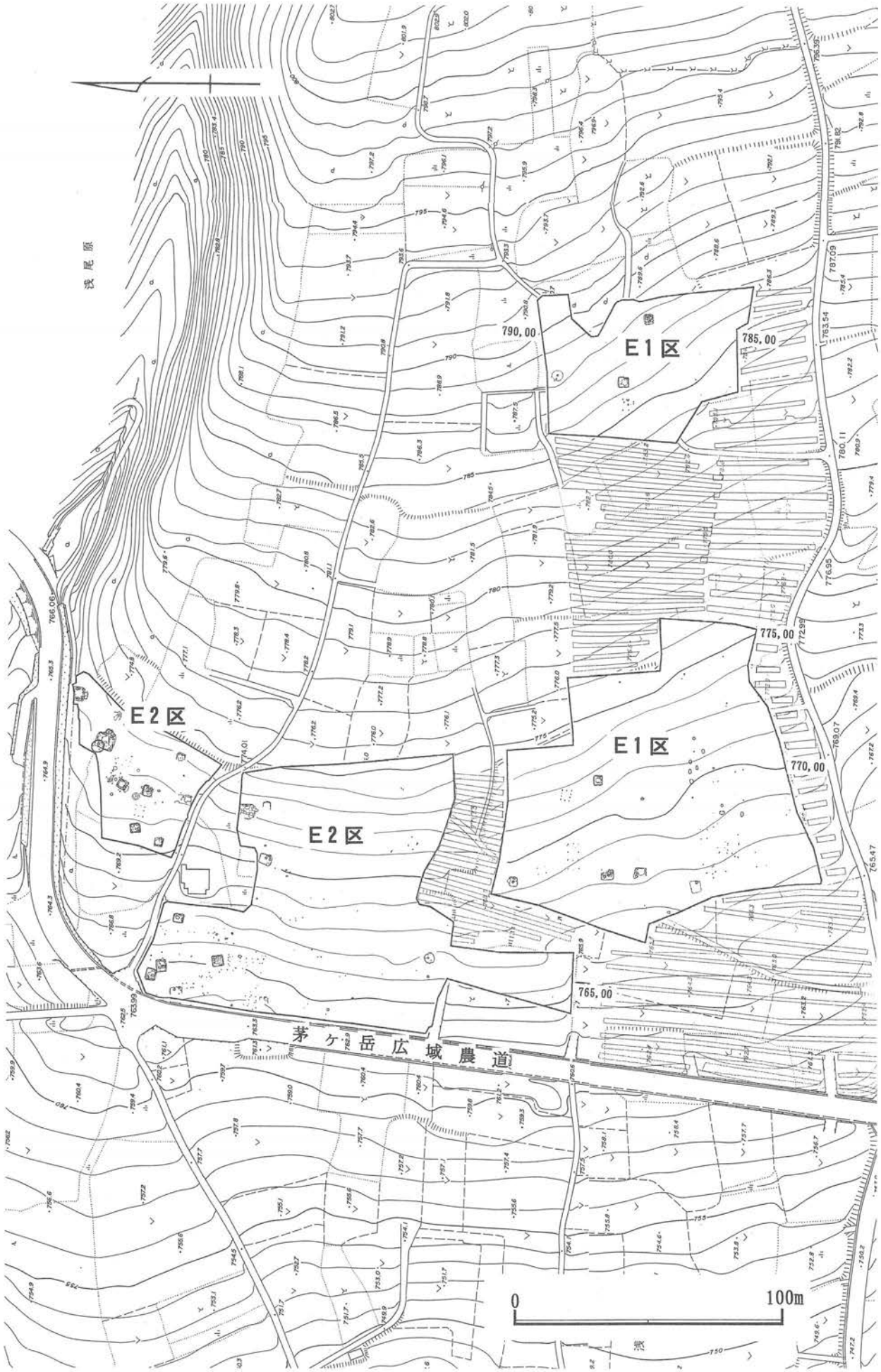
本調査にかかわる調査経費の負担は調査経費総額24,000,000円、事業者側負担額20,760,000円、文化財保護部局負担額3,240,000円である。

第３節　遺跡の概要

発掘調査において検出された遺構は、縄文時代の竪穴住居４軒、埋設土器１基、集石遺構１基、土坑１基、弥生時代の土坑５基、平安時代の竪穴住居26軒、掘立柱建物７棟、土坑102基、ピット347基である。土坑とピットはその多くが平安時代に属するものと思われる。出土した遺物は、縄文時代の土器、石器、弥生時代の土器、平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器、金属製品、石製品である。本遺跡から出土した土師器には「目」、「倭」と墨書されたものがあり県内遺跡での類例がなく特筆される。



第 1 図　土木工事の範囲と調査の範囲



第2図　調査区位置図（□は試掘溝）

第２章　遺跡周辺の環境

第１節　遺跡周辺の地理環境

明野村は金ヶ岳と茅ヶ岳の西麓斜面に立地している。北は鰻沢川で須玉町に接し、正楽寺川の深い谷と正楽寺川の南の尾根筋により韮崎市穂坂町日之城、三之蔵地区から分けられている。鰻沢川から正楽寺川までの山麓面積はおよそ22㎢で、湯沢川、栃沢川によりさらに分断されている。金ヶ岳と茅ヶ岳の山麓は東に急峻な岩場を形成し亀沢川に落ち込み、西は緩やかな斜面の丘陵地と河岸段丘を形成して塩川に至る。河岸段丘は須玉町仁田平から韮崎市穂坂町にかけてその幅や面数を変えながら南北に延び、丘陵部は両山に発する小河川や尾根筋に分断され、現在の明野村と韮崎市穂坂町の間で広大な緩斜面を形成している。

遺跡は湯沢川の南に面する尾根筋、標高760ｍから780ｍ付近に位置する。遺跡周辺の土地利用の現況はほぼ全面が畑地で、荒廃農地にはカヤが茂り湯沢川沿いには松林や雑木林が見られる。

第２節　遺跡周辺の歴史環境

ここでは本遺跡を特徴付ける弥生時代前期と平安時代を中心に歴史環境を概観してみたい。

明野村下大内遺跡からは、再葬墓と思われる壺型土器をともなう土坑１基が検出され、中村道祖神遺跡では水神平式の甕型土器をともなう土坑が検出されている。塩川右岸の旧氾濫原である韮崎市北部の「藤井平」では宮ノ前遺跡から弥生時代前期の水田跡が発見され、稲作が行われていたことが明らかになったとともに明野村下大内遺跡出土の再葬墓との関わりを推測させる遺跡である。八ヶ岳山麓では大泉村寺所遺跡において条痕文土器をともなう土坑が３基検出されている。これらは当時の墓制を解明する上で貴重な資料を提供している。また長坂町柳坪遺跡では水神平式土器をともなう竪穴住居が１軒、大泉村金生遺跡では氷Ｉ式土器および条痕文土器をともなう竪穴住居１軒が検出されている。

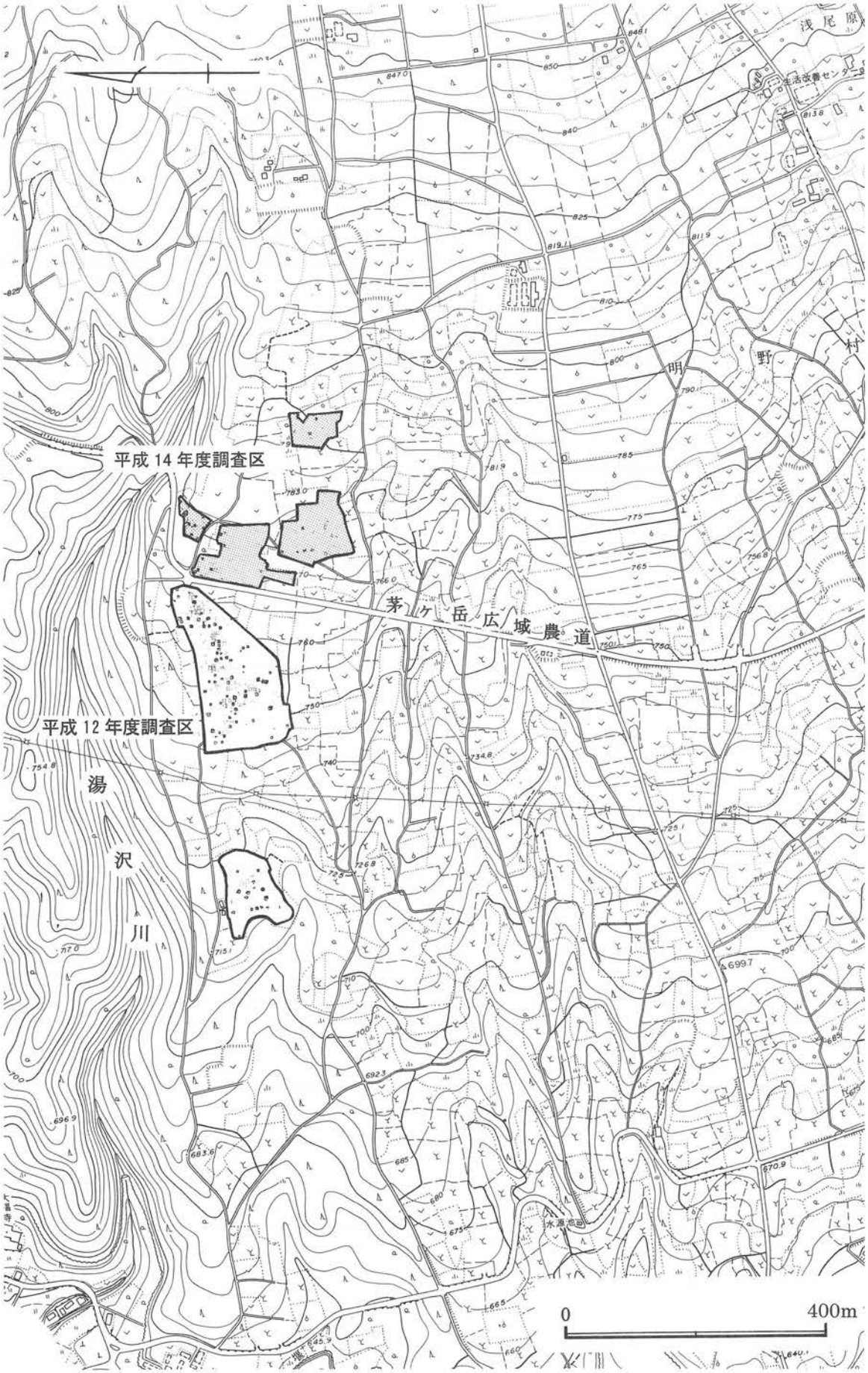
平安時代になると茅ヶ岳山麓の集落遺跡が急増する、本遺跡から北西１㎞に位置する明野村宮後遺跡では、９世紀後半から10世紀後半にかけての竪穴住居21軒と掘立柱建物２棟が調査されている。西２㎞には寺前遺跡がある、９世紀後半から11世紀代の竪穴住居100軒以上と掘立柱建物約20棟が調査されている。本遺跡とともに茅ヶ岳西麓では規模の大きい集落跡で、存続期間も重複するが本遺跡では出土量の少ない灰釉陶器、施釉陶器が多数出土する一方、墨書土器の出土量においては全く逆の状況であるなど、両者の関連性が注目される。

北東1.5㎞、標高800ｍの地点には須玉町上ノ原遺跡がある。９世紀後半から10世紀前半にかけての竪穴住居72軒、掘立柱建物10棟が調査されている。

官衙的性格が強く牧監政庁跡ともいわれる高根町湯沢遺跡は本遺跡から西へ４㎞に位置している。９世紀前半から11世紀までの竪穴住居27軒、掘立柱建物８棟、柵列４条が検出されている。掘立柱建物は規模が大きくコの字状に配置され、柵列は中央に門跡をもっている。

古代の巨麻郡を特徴付けるのが御牧である。八ヶ岳南麓、釜無川右岸、茅ヶ岳山麓に設置された柏前牧、真衣牧、穂坂牧は平安時代のこの地域の開発と関連付けられるが、武川村宮間田遺跡で「牧」と墨書された須恵器破片が出土した以外には、牧を具体的に裏付ける資料に乏しい。

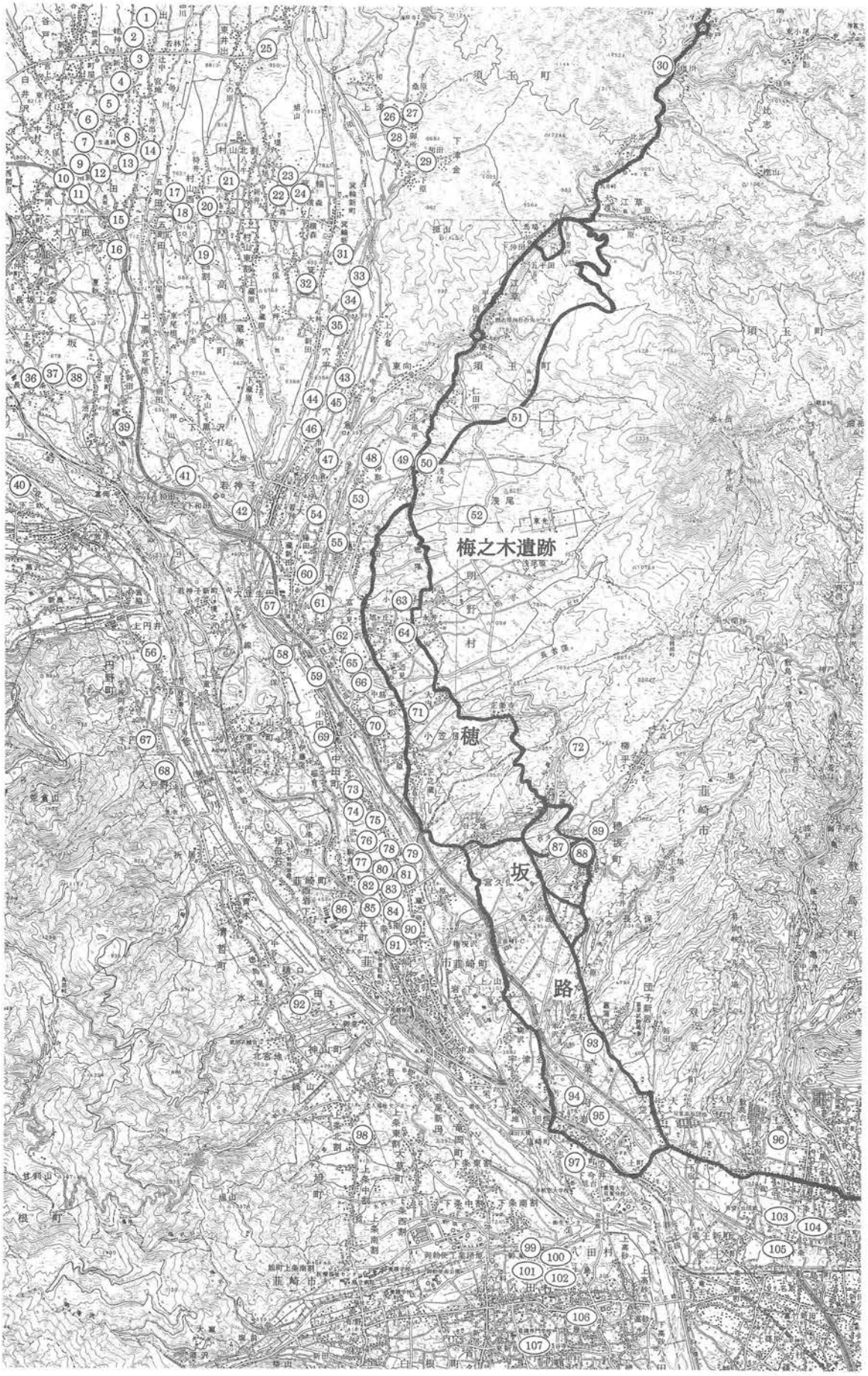
茅ヶ岳山麓に置かれた穂坂牧は、貢馬数において最大規模の官牧で、800頭以上の牧馬を飼育していたと推測される。穂坂牧は現韮崎市穂坂町付近が比定されているが、これまでのところ平安時代遺跡の調査に乏しい。



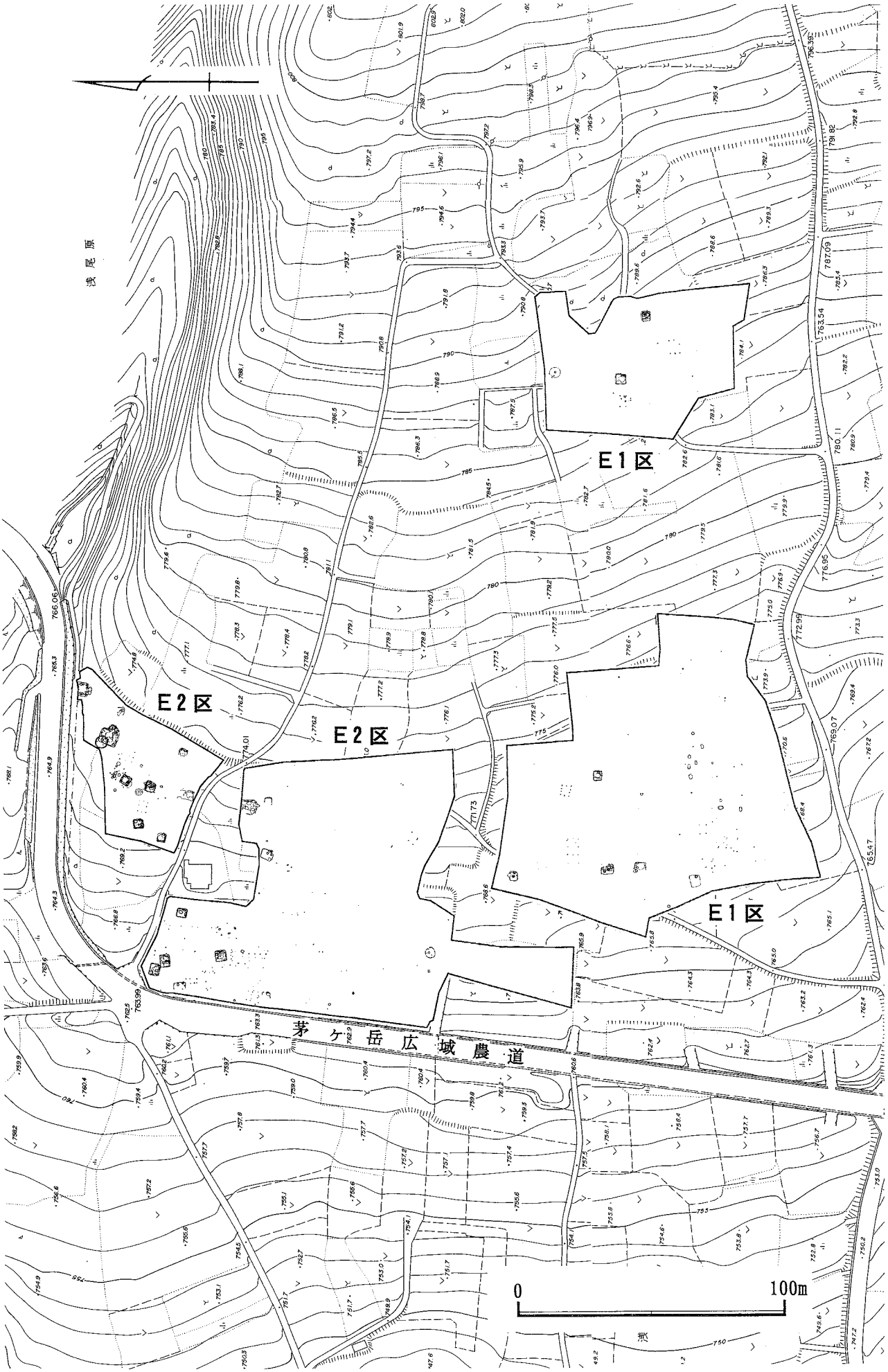
第 3 図　調査範囲と周辺の地形

第１表　遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	時期	主な遺構	特記事項
1	東原	大泉村	9 世紀後半～10世紀末	住居12軒、鍛冶遺構１基	
2	東姥神Ｂ	大泉村	9 世紀後半～10世紀後半	住居 8 軒、鍛冶遺構	「安曇」墨書
3	中村	大泉村	9 世紀～10世紀	住居 7 軒	銅製帯金具出土、東姥神と一体の遺跡か
4	天神	大泉村	9 世紀後半	住居 3 軒	
5	城下	大泉村	10世紀～11世紀前半	住居26軒、掘立柱建物	丸鞆、緑釉陶器、耳皿、土錘
6	豆生田第３	大泉村	9 世紀前半～10世紀後半	住居 8 軒、掘立柱建物	
7	金生	大泉村	弥生時代	住居１軒	氷Ｉ式土器、条痕文土器出土
			9 世紀前半～10世紀後半	住居 6 軒	
8	寺所	大泉村	弥生時代	土坑 3	条痕文期の土坑
			9 世紀末～10世紀末	住居44軒、掘立柱建物３棟	墨書土器多数出土、耳皿
9	大八田・原田	長坂町	9 世紀後半～10世紀後半	住居 8 軒	
10	南新居西	長坂町	10世紀	住居 6 軒	
11	小和田館跡	長坂町	10世紀前半	住居 9 軒、掘立柱建物	
12	深草	長坂町	9 世紀後半	住居１軒	
13	木ノ下・大坪	大泉村	9 世紀後半～10世紀後半	住居 8 軒、堀立柱建物２棟	４間×４間総柱建物あり
14	原田	大泉村	9 世紀後半	住居 5 軒、堀立柱建物１棟	
15	柳坪	長坂町	弥生時代	住居１軒	水神平系土器群一括で出土
			9 世紀後半～10世紀末	住居38軒	革金具、巡方、木製品
16	石原田北	長坂町	10世紀中頃～12世紀初頭	住居19軒	
17	西原北	高根町	9 世紀後半	住居 2 軒	
18	西原	高根町	9 世紀前半～10世紀後半	住居 2 軒	
19	高内	高根町	9 世紀後半	住居 7 軒	
20	藤林寺跡	高根町	9 世紀後半	住居 3 軒	１間×９間の大規模な掘立柱建物１棟あり
21	八ッ牛・八ッ牛北	高根町	11世紀	住居 4 軒、掘立柱建物２棟	
22	青木北	高根町	9 世紀中頃～10世紀末	住居12軒、掘立柱建物５棟	礎石を有する竪穴住居あり
23	東久保	高根町	9 世紀中頃～10世紀末	住居33軒、掘立柱建物７棟	１間×４間、２間×４間の掘立柱建物
24	社口	高根町	9 世紀中頃～10世紀末	住居14軒	鍛冶関連土坑あり
25	薬師堂	高根町	9 世紀前半～９世紀後半	住居 6 軒	八ヶ岳南麓では古い時期の集落
26	原の前	須玉町	9 世紀～10世紀？	住居１軒	
27	桑原南	須玉町	9 世紀末～10世紀後半	住居 7 軒	大型掘立柱建物は平安時代の遺構か？
28	津金御所前	須玉町	9 世紀～10世紀？	住居１軒	焼失住居
29	御屋敷西	須玉町	9 世紀～10世紀？	住居２軒、掘立柱建物２棟	
30	塩川	須玉町	9 世紀後半～10世紀末	住居 5 軒	標高840ｍに立地
31	川又坂上	高根町	9 世紀前半	住居１軒	古墳時代中期の遺構あり
32	海道前	高根町	9 世紀後半	住居 3 軒	
33	川又南	須玉町		住居 5 軒	
34	西川	須玉町	9 世紀後半～10世紀後半	住居14軒	鉄滓
35	夏目原	須玉町		住居 2 軒	
36	紺屋	長坂町	9 世紀後半～10世紀後半	住居10軒	墨書「南」、「東」、「長」、鉄滓
37	龍角西	長坂町	9 世紀末～10世紀後半	住居 7 軒	長坂町教育委員会の教示による
38	龍角	長坂町	10世紀前半	住居１軒	長坂町教育委員会の教示による
39	宮久保	長坂町	9 世紀後半～10世紀初頭	住居 4 軒、堀立柱建物１棟	
40	宮間田	武川村	9 世紀前半～11世紀	住居74軒、堀立柱建物45棟	墨書「牧」、鍛冶遺構、帯金具
41	湯沢	高根町	9 世紀前半～10世紀後半	住居27軒、堀立柱建物８棟	布目瓦、金銅製鈴、牧監政庁説あり
42	大小久保	須玉町	9 世紀後半	住居４軒、土師器焼成遺構８基	ロクロ整形の内黒坏の生産址
43	飯米	須玉町		住居 7 軒	
44	蟹坂	須玉町		住居 2 軒	
45	蟹坂東	須玉町		住居 2 軒	
46	宮田・笠張	須玉町	9 世紀後半	住居 2 軒	
47	中尾城	須玉町	10世紀後半	住居 2 軒	
48	諏訪原	明野村		住居１軒	未報告
49	中村道祖神	明野村	弥生時代	土坑１基	条痕文期の土坑
50	宮後	明野村	9 世紀後半～10世紀後半	住居21軒、掘立柱建物４棟？	周辺にも同時期の遺跡あり
51	上ノ原	須玉町	弥生時代	土坑４基	条痕文期の土坑
			9 世紀中頃～10世紀後半	住居72軒、掘立柱建物10棟	ムギ類炭化種実を検出、「隆平永寶」
52	梅之木	明野村	9 世紀後半～10世紀後半	住居82軒、掘立柱建物21棟	馬歯骨、焼きゴテ
53	寺前	明野村	9 世紀後半～12世紀	住居約90軒	鉄製鈴、火葬施設、火葬墓、鍛冶遺構
54	滝下	須玉町	9 世紀後半～12世紀	住居７軒	
55	大日川原	明野村	9 世紀後半	住居１軒	
56	石ノ坪東	韮崎市	弥生時代	土坑17基	条痕文期の土坑
57	大豆生田	須玉町	8 世紀～11世紀	石列、礎石建物、住居９軒	布目瓦、緑釉陶器、羽口、「西」墨書
58	上本田	韮崎市	8 世紀～10世紀後半	住居11軒、掘立柱建物	
59	下反保	明野村	弥生時代	土坑１基	条痕文期の土坑
60	腰巻・腰巻北	須玉町	8 世紀～10世紀後半	住居20軒、掘立柱建物２棟	古墳時代後期から継続、「大徳」墨書あり
61	神取	明野村	9 世紀前半～10世紀後半	住居12軒	「信」、「?」墨書
62	村之内Ⅱ・Ⅲ	明野村	9 世紀後半～12世紀	住居24軒	鍛冶遺構
63	普門寺	明野村	9 世紀前半	住居１軒	
64	高台・中谷井	明野村	9 世紀後半～10世紀末	住居12軒	緑釉陶器
65	屋敷添	明野村	9 世紀後半～10世紀後半	住居23軒	駿河地方の土師器坏類似品
66	屋敷添第２	明野村	9 世紀後半～10世紀初頭	住居２軒	
67	水無	韮崎市	10世紀～11世紀	住居２軒	八稜鏡出土
68	半縄田	韮崎市	9 世紀後半～11世紀	住居７軒、掘立柱建物１棟	漆紙片、瓦塔、土錘、羽口、鍛冶遺構
69	中道	韮崎市	弥生時代	遺構外	氷Ｉ式土器、条痕文土器出土
			11世紀	住居 4 軒	
70	深山田	明野村	8 世紀～10世紀後半	住居 4 軒	茅ヶ岳西麓唯一の８世紀代の集落跡
71	下大内	明野村	弥生時代	土坑１基	条痕文期の土坑
			9 世紀後半～11世紀	住居12軒	「延喜通寶」、「女」墨書多数
72	日露戦役記念桑園遺跡	韮崎市	平安時代		土師器採集
73	中田小学校	韮崎市	8 世紀～12世紀	住居22軒、掘立柱建物２棟	「葛井」墨書、金銅製鈴２点
74	前田	韮崎市	8 世紀～12世紀	住居10軒	羽口、鉄製品多数
75	立石	韮崎市	11世紀～12世紀	住居 3 軒	羽口
76	宮ノ前第２	韮崎市	9 世紀	住居10軒、掘立柱建物10棟	集落内寺院、瓦、瓦塔
77	宮ノ前	韮崎市	弥生時代前期	水田１面	甕から稲のプラントオパール検出
			8 世紀～11世紀	住居417軒、堀立柱建物54棟	奈良三彩、帯金具、鏡、「寺」墨書
78	宮ノ前第５	韮崎市	8 世紀～11世紀	住居12軒、堀立柱建物１棟	漆紙、宮ノ前遺跡の厨房施設か
79	駒井	韮崎市	8 世紀後半～10世紀	住居１軒	８世紀後半の住居、円筒状土製品
80	北後田	韮崎市	8 世紀～10世紀後半	住居66軒、堀立柱建物４棟	平安時代の住居41軒
81	宮ノ前第３	韮崎市	8 世紀～９世紀後半	住居６軒、掘立柱建物２棟	鍛冶遺構、円筒状土製品、鉄製轡？
82	後田	韮崎市	8 世紀～10世紀後半	住居12軒、掘立柱建物１棟	羽口
83	堂の前	韮崎市	8 世紀～９世紀後半	住居16軒	
84	後田堂ノ前	韮崎市	8 世紀～11世紀	住居４軒	９世紀の住居１軒、11世紀の住居１軒
85	三宮地	韮崎市	10世紀	住居15軒、堀立柱建物５棟	巡方、灰釉陶器製風字硯
86	坂井南	韮崎市	10世紀	住居７軒	
87	横手遺跡	韮崎市	平安時代		土師器採集
88	飯米場遺跡	韮崎市	平安時代		土師器採集
89	倭文遺跡	韮崎市	平安時代		土師器採集
90	下横屋	韮崎市	平安時代	住居２軒	
91	北下条	韮崎市	8 世紀～９世紀	住居９軒	
92	新田	韮崎市	９世紀後半～12世紀	住居６軒	「仁」、呪文墨書
93	西原Ｂ遺跡	双葉町	平安時代		土師器採集
94	藤塚Ｂ遺跡	双葉町	平安時代		土師器採集
95	山の神遺跡	双葉町	平安時代		土師器採集
96	原腰	敷島町	11世紀～12世紀	住居14軒	
97	間々下遺跡	双葉町	平安時代		土師器採集
98	大輪寺東	韮崎市	９世紀前半	住居２軒	
99	大塚	八田村	8 世紀～11世紀	住居33軒	椀形鉄滓
100	石橋北屋敷	八田村	8 世紀～12世紀後半	住居13軒	鉄滓、鍛冶遺構、13世紀代の住居もあり
101	立石下	八田村	９世紀前半～後半	住居13軒、堀立柱建物５棟	溝、奈良三彩
102	野牛島・大塚	八田村	8 世紀～９世紀後半	住居９軒	
103	御岳田	敷島町	10世紀後半～11世紀	住居３軒	
104	松ノ尾	敷島町	９世紀末～12世紀	住居15軒	銅製小仏像、金銅製小仏像、帯金具
105	金の尾	敷島町	弥生時代	遺構外	条痕文土器出土
	金の尾Ⅴ	敷島町	９世紀後半	住居３軒	「人」墨書
106	榎原・天神	八田村	10世紀前半	住居２軒	棚状施設
107	百々	白根町	９世紀～10世紀主体	住居199軒、掘立柱建物13棟	牛馬骨45体、八稜鏡、銅製分銅、緑釉陶器



第４図　周辺の遺跡分布図（1/100,000）



第5図　遺跡全体図

第３章　平安時代の遺構と遺物

第１節　竪穴住居跡と出土遺物

本遺跡で検出された平安時代の竪穴住居跡26軒について、以下に報告する。住居床面積は住居実測図の壁下端あるいは周溝の内側でプラニメーターを用いて計測した。なお、遺構番号は『梅之木遺跡』（明野村教育委員会2001）から引き継ぐものとする。

96号住居（第６図、第７図、写真図版２）

位置　Ｅ１区東端に位置する。

規模・形態　東西4.0ｍ、南北3.9ｍ、床面積11㎡。竪穴は深さ34㎝を測る。

カマド　東壁南寄りで焼土と構築材と思われる焼けて硬くしまった粘質土を検出した。また構築材の礫を設置したと思われる小ピットを検出した。原形は留めていない。

施設　硬くしまった床面が住居中央南寄りで検出された。壁沿いで周溝が検出された。住居床面東半分のみに貼り床が認められた。

時期　遺物が少なく断定できないが、宮ノ前Ⅶ期、９世紀第３四半期から９世紀第４四半期頃と思われる。

出土遺物　大小久保型坏97ｇ、甲斐型甕554ｇ、金属製品３ｇ、縄文土器1,180ｇ。

調査所見　カマド右脇のDK232は床面からの深さは４㎝と浅いが甲斐型甕が出土した（第７図１）。貼床は東半分のみ確認できたが、これは住居構築時に緩斜面の影響を受けて東側を掘りすぎたために埋め戻したものと考えられる。

97号住居（第８図～第13図、写真図版２）

位置　Ｅ１区東端に位置する。

規模・形態　東西4.0ｍ、南北3.6ｍ、床面積8.8㎡。竪穴は深さ72㎝を測る。

カマド　東壁南寄りで礫、焼土、掘り込みを検出した。左右の袖石それぞれ２点と支脚石は小ピットにほぼ垂直に立てられており、原位置を留めているが、天井石と思われる平らな細長い石がカマド正面の床面上で検出されるなど、他の石組みは破壊されている。

施設　硬くしまった床面がカマド付近から南壁沿いにかけて検出された。壁沿いで断続的に周溝が検出された。床面下から５基の土坑と２基のピットが検出された。

時期　宮ノ前Ⅶ期、９世紀第３四半期から９世紀第４四半期頃と思われる。

出土遺物　甲斐型坏・皿・蓋538ｇ、大小久保型坏・皿444ｇ、甲斐型甕4,182ｇ、土師器甕56ｇ、須恵器25ｇ、縄文土器274ｇ。「目」「倭」墨書土器が床面上で出土している。

調査所見　カマドの真下には床面からの深さ28㎝の土坑が検出された、単一の覆土で上層は被熱し焼土化していた。袖石の範囲とほぼ重なる平面位置からカマドにともなう掘り込みと考えられる。床面から検出されたPT1177、DK238はいずれも柱痕は確認されず覆土に焼土が混じる。DK239からは甲斐型甕の破片とともに滑石製の丸鞆が出土している、床面下の土坑からの出土である。本遺跡の他の住居と比べて床面下の土坑の数が多い住居である。

98号住居（第14図～第17図、写真図版３）

位置　Ｅ１区中央北寄り、23号掘立柱建物の南に位置する。

規模・形態　東西3.8m、南北3.3m、床面積8.6㎡。竪穴は深さ62cmを測る。

カマド　東壁南寄りで礫、焼土、掘り込みを検出した。両袖石の礫6点と支脚石は原位置を留めていると思われるが、カマド自体は原形を保っていない。

施設　硬くしまった床面が住居中央から南壁寄りで検出された。周溝が壁沿いで検出された。

時期　宮ノ前Ⅶ期、9世紀第3四半期から9世紀第4四半期頃と思われる。

出土遺物　甲斐型坏・皿30g、大小久保型坏・皿279g、土師器坏・皿16g、甲斐型甕1,581g、ロクロ整形甕395g、須恵器21g、縄文土器50g。

調査所見　床面に土坑・ピットの検出されない住居。カマドは袖石と支脚石が原位置を留めるものの構築材として用いられた焼土化した粘質土が袖石周辺に部分的に残るだけであり、天井石と思われる細長い石がカマド覆土上で検出されたことから人為的に破壊されたものと思われる。床面は貼床により構築されている、掘り方は西壁側がより深く掘り込まれている。

99号住居（第18図）

位置　Ｅ１区西端に位置する。

規模・形態　耕作により削平され平面形は確認できなかった。

カマド　焼土と小礫、小ピットを確認した。

施設　カマドの北西に周溝の一部が検出された。

時期　遺物が少なく断定はできないが宮ノ前Ｘ期、10世紀第3四半期から10世紀第4四半期頃と推測される。

出土遺物　甲斐型坏・皿135g、土師器甕51g、灰釉陶器22g。

調査所見　壁、床面ともに失われていた。カマドは袖石を設置したと思われる小ピットの他に焚口正面にも細い溝状の掘り込みが検出された。

100号住居（第19図、第20図、写真図版2）

位置　Ｅ１区西端に位置する。

規模・形態　西側約1/3は削平されていた。南北4.3m、床面積は推定15.5㎡。竪穴は深さ12cmを測る。

カマド　南東隅で礫、焼土、掘り込みを検出した。原形は留めていない。

施設　硬くしまった床面が住居東壁から中央にかけて検出された。周溝が北壁から東壁にかけて検出された。床面から3基の土坑が検出された。

時期　宮ノ前Ｘ期、10世紀第3四半期から10世紀第4四半期頃と思われる。

出土遺物　甲斐型坏・皿272g、大小久保型坏・皿33g、土師器坏・皿88g、土師器甕33g、灰釉陶器91g、縄文土器41g。

調査所見　床面で2基の土坑が検出された、DK234は住居の硬くしまった床面が底面にまで及んでおり、掘り込まれた状態で機能していた施設と考えられる。DK236は住居覆土の観察により覆土上面から掘り込んでいないことを確認したため、住居とともに機能した施設と考えられる。DK235は住居の床面下まで削平されており新旧関係は不明である。カマドは構築材と思われる礫が焼土の周辺で検出されたが、原位置を保つ袖石は検出されなかった。貼床は検出されず地山を床面としている。

101号住居（第21図、第22図、写真図版3）

位置　Ｅ１区西端に位置する。

規模・形態　表土剝ぎ作業時に遺構確認面を見誤り、東壁及び床面の一部を破壊してしまった。南北4.6m、床面積は推定18.5m²。竪穴は深さ20cmを測る。

カマド　表土剝ぎ作業時に破壊してしまったため、南東角付近で焼土を検出するのみであった。

施設　硬くしまった床面が住居中央から南壁にかけて検出された。周溝が壁沿いで検出された。土坑が床面上で2基、床面下で3基検出された。ピットが3基検出された。

時期　宮ノ前X期、10世紀第3四半期から10世紀第4四半期頃と思われる。

出土遺物　甲斐型坏・皿301g、灰釉陶器11g、金属製品36g、縄文土器30g。墨書土器が1点出土している。

調査所見　床面北西部のDK246は上面に床面は見られなかった。中央のDK247は床面上で検出された、PT1260との切り合いは覆土の観察からDK247がPT1260を切っていると判断した。DK257・263はどちらも床面下で検出された、上面に床面があり覆土は地山と同質の黄褐色土ということから床下土坑と判断した。DK258は覆土中から完形の坏と金属製品2点が出土した、坏は器面に摩滅など食器として使用された痕跡は見られないことから、未使用のまま意図的に埋められたものと考えられる。平面位置がDK247とほぼ重なることから同一の遺構とも考えられたが全く異質の覆土であることから別の遺構と判断した。床面は貼床により構築されている。掘り方は西側がやや深くなっている。

102号住居（第23図～第25図、写真図版4）

位置　E1区北西角に位置する。

規模・形態　北壁と床面の一部が重機による攪乱を受けている。東西3.5m、南北3.0m、床面積7.7m²。竪穴は深さ48cmを測る。

カマド　東壁南寄りで礫、焼土、掘り込み、小ピットを検出した。左側の袖石が1点のみ直立していたが原位置は保っていない。カマドは原形を留めていない。

施設　硬くしまった床面は検出されなかった。周溝は南壁、西壁沿いの一部と北壁、東壁沿いに検出された。土坑が床面上で1基検出された。ピットが床面上で1基、床面下で1基検出された。

時期　宮ノ前IX期、10世紀第2四半期から10世紀第3四半期頃と思われる。

出土遺物　甲斐型坏・皿79g、大小久保型坏・皿34g、土師器坏・皿168g、甲斐型甕1,341g、縄文土器120g。

調査所見　床面中央のDK271の底面からは甲斐型甕の底部が出土した（第25図8）。PT1296は覆土観察からDK271に切られていると判断した。カマドは構築材と思われる礫が周辺で出土したが、数が少ないことから多くは住居外へ持ち出されたようである、カマド上面から扁平で大型の礫が2点出土している、カマドを破壊、埋め戻した後に再度天井石を置いたものと思われる。貼床は検出されず地山を床面としている。

103号住居（第26図、写真図版3）

位置　E2区西端に位置する。

規模・形態　住居西側2/3が削平されている。南北2.9m、床面積は不明。

カマド　東壁南寄りで拳大の礫3点、焼土、構築材の礫を設置したと思われる小ピットを検出した。

施設　硬くしまった床面がカマド正面で検出された。周溝が北東隅、北壁沿いの一部で検出された。南東隅で浅い掘り込みを検出した。

時期　遺物が限られるため推定できない。

出土遺物　大小久保型坏・皿19g、甲斐型甕137g、ロクロ整形甕244g。

調査所見　遺構検出時に既に床面が露出し、壁面も失われており、西側2/3は床面下まで削平されていた。カ

マド中央の礫は小ピット内に直立しており、支脚石と考えられるが原位置を保っているとは言い難い。南東隅の掘り込みからはロクロ整形甕が出土した（第26図１）。貼床は検出されず地山を床面としている。

104号住居（第29図、写真図版４）

位置　Ｅ２区北西、105号住居の東に位置する。

規模・形態　削平され、カマドのみ残存していた住居のため不明。

カマド　焼土、掘り込み、小ピットを検出。

時期　遺物が限られるため推定できない。

出土遺物　甲斐型坏・皿７ｇ、土師器甕27ｇ、灰釉陶器47ｇ、縄文土器６ｇ。

調査所見　壁も床面も削平され一切残っておらず、カマドのみの検出であった。

105号住居（第27図～第29図、写真図版４）

位置　Ｅ２区北西、104号住居の西に位置する。

規模・形態　東西4.1ｍ、南北4.2ｍ、床面積12.8㎡。竪穴は最大で深さ48㎝を測る。

カマド　東壁南東隅寄りで礫、焼土、焼土化した粘質土、掘り込み、小ピットを検出した。袖石は原位置を保たず、カマドも原形を留めていない。

施設　硬くしまった床面が住居中央からカマド正面にかけて検出された。周溝が北壁から東壁沿いに、南壁から西壁沿いの一部に検出された。土坑が床面下で１基、ピットが床面上で１基、床面下で３基検出した。

時期　宮ノ前Ｘ期、10世紀第３四半期から10世紀第４四半期頃と思われる。

出土遺物　甲斐型坏・皿569ｇ、大小久保型坏・皿39ｇ、土師器坏・皿３ｇ、甲斐型甕11ｇ、土師器甕11ｇ、灰釉陶器191ｇ、多孔石１点6,000ｇ。

調査所見　DK249は住居を切る単独の土坑である。住居北西隅のPT1266は周溝の途切れる壁際にあることから出入口施設の可能性もある。北東隅から中央にかけての床面上には、住居全体の覆土とは異質の褐色土が検出された、出入口のスロープとも考えたが、踏み固めたようなしまりはなく、硬くしまった床面がこの褐色土の下にも広がっており、住居の壁土もしくは屋根土が崩落したものと考えられる。またこの褐色土は周溝に切られる検出状況だったが、これは周溝に板材などの構築材が残っている段階で褐色土が崩落したものと推測される。完形の灰釉陶器段皿が東壁北寄りの壁面に貼りつくように出土した。床面は貼床により構築されている。

106号住居（第30図～第32図、写真図版４）

位置　Ｅ２区西端に位置する。

規模・形態　西半分は床面下まで削平されている。南北4.4ｍ、床面積は推定17.6㎡。竪穴は深さ20㎝を測る。

カマド　東壁南東隅寄りで拳大から人頭大の礫、焼土、小ピットを検出した。カマドは原形を留めていない。

施設　残存している床面のほぼ全面にわたって硬くしまった床面が検出された。周溝が北壁沿いに検出された。床面上で土坑が１基、床面下でピットが２基検出された。

時期　宮ノ前Ｘ期、10世紀第３四半期から10世紀第４四半期頃と思われる。

出土遺物　甲斐型坏・皿344ｇ、大小久保型坏・皿167ｇ、土師器坏・皿142ｇ、甲斐型甕・鉢708ｇ、灰釉陶器24ｇ、縄文土器90ｇ。墨書土器が１点出土している。

調査所見　東壁沿いのDK255は焼土の混じる単一の覆土で拳大の礫８点と土師器埦が出土した（第31図１）。床面は貼床により構築されており、非常に硬くしまっている。

107号住居（第33図～第36図、写真図版５）

位置　Ｅ２区西端、109号住居と重複する。

規模・形態　東西4.4ｍ、南北3.8ｍ、床面積12.7㎡。竪穴は最大で深さ60㎝を測る。

壁面、周溝を共有する上下２面の床面とカマドが２基検出された。以下上面の新しい住居を107ａ号住居、下面の古い住居を107ｂ号住居として報告する。

出土遺物　甲斐型坏・皿474ｇ、大小久保型坏・皿96ｇ、土師器坏・皿225ｇ、甲斐型甕2,552ｇ、ロクロ整形甕４ｇ、灰釉陶器29ｇ、縄文土器225ｇ。「十」墨書土器が出土している。

施設　南壁沿いで２基のピット（PT1269、PT1270）を検出した、出入口施設の可能性もあるが攪乱の底面でかろうじて検出されたものでａ、ｂどちらの住居にともなうものかは判断できない。

107ａ号住居

カマド　西壁南寄りで礫、焼土、掘り込み、小ピットを検出した。カマドは原形を留めていない。

施設　硬くしまった床面が住居北西隅を除く全面で検出された。床面上で土坑が１基、ピットが１基検出された。

時期　宮ノ前Ⅶ期、９世紀第３四半期から９世紀第４四半期頃と思われる。

調査所見　西壁南寄りのカマドは拳大の礫が２点の他は、構築材と思われる礫は出土していない。焼土から約５㎝程浮いた状態でほぼ完形の甲斐型皿と甲斐型甕の破片が出土した（36図１、４、８）、これらは支脚石を抜き取ったと思われる小ピットの真上で出土しており、二次焼成をうけていない。以上の２点からカマドを破壊、機能が停止した後に置かれた土器と思われる。

107ｂ号住居

カマド　東壁南寄りで焼土、小ピットを検出した。

施設　硬くしまった床面が住居中央からカマド正面にかけて検出された。床面上のカマド右脇で土坑が１基検出された。床面下で土坑が１基検出された。

時期　遺物が限られ確定できないが、107ａ号住居と大きな時期差は無く、宮ノ前Ⅶ期、９世紀第３四半期から９世紀第４四半期頃と思われる。

調査所見　107ａ号住居床面で検出されたPT1268を調査したところ、壁面に焼土層が確認された。カマドの存在が想定される位置だったので、107ａ号住居の調査終了後にさらに掘り下げたところ本住居の床面を検出した。上下床面の比高差は約５㎝である。カマド右脇の土坑から「十」墨書土器が出土した（36図７）、107ａ号住居覆土から同一個体と思われる土器片が出土している（36図６、９）。

108号住居（第37図～第40図、写真図版５）

位置　Ｅ２区北西、107号住居、109号住居の東に位置する。

規模・形態　東西3.4ｍ、南北3.9ｍ、床面積9.3㎡。竪穴は深さ52㎝を測る。

カマド　東壁南東隅寄りで礫、焼土、掘り込みを検出した。両袖石および支脚石は原位置を保っている。

施設　壁沿いで周溝が検出された。床面下で土坑が４基、ピットが５基検出された。

時期　宮ノ前Ⅶ期、９世紀第３四半期から９世紀第４四半期頃と思われる。

出土遺物　甲斐型坏・皿285ｇ、大小久保型坏・皿320ｇ、甲斐型甕1,969ｇ、ロクロ整形甕313ｇ、土師器甕180ｇ、灰釉陶器28ｇ、縄文土器98ｇ。「山」墨書１点のほか２点の墨書土器が出土している。

調査所見　カマド左脇床面下で検出されたPT1293から「山」字の墨書がある甲斐型皿が正位で出土した。カマ

ドは袖石に焼土化した粘質土が付着しているが原形を留めていない。カマド前面では天井石と思われる扁平で細長い礫が焚口をふさぐような状態で出土した。

109号住居（第41図～第44図、写真図版６）

位置　Ｅ２区西端、107号住居と重複する。

規模・形態　東西4.6ｍ、南北3.7ｍ、床面積14.1㎡。竪穴は最大で深さ52cmを測る。

カマド　東壁南寄りで礫、焼土、掘り込み、小ピットを検出した。袖石、支脚石は原位置を保っている。煙道部が壁の外に大きく張り出す。

施設　硬くしまった床面が西壁からカマド正面にかけて検出された。南壁を除く三方の壁沿いで周溝が検出された。床面上で土坑が１基検出された。床面下で土坑が５基、ピットが７基検出された。

時期　宮ノ前Ⅷ期、９世紀第４四半期から10世紀第１四半期頃と思われる。

出土遺物　甲斐型坏・皿262ｇ、大小久保型坏・皿89ｇ、土師器坏・皿70ｇ、甲斐型甕2,338ｇ、ロクロ整形甕138ｇ、土師器甕・羽釜115ｇ、須恵器592ｇ、灰釉陶器54ｇ、縄文土器220ｇ。「乙」墨書土器が１点出土している。

調査所見　床面で検出されたDK272は出土した甲斐型坏がカマド内から出土した破片と接合しており、住居の廃棄時には開口していたものと思われる。カマド内には人頭大の礫が多く出土したが、カマド解体後に再度積みなおされた構築材と思われる。床面は貼り床によって構築されている。

110号住居（第45図、第46図、写真図版５）

位置　Ｅ２区中央、104号住居の東に位置する。

規模・形態　東西3.7ｍ、南北4.5ｍ、床面積14.0㎡。竪穴は最大で深さ40cmを測る。

カマド　東壁南寄りで拳大の礫、焼土、小ピットを検出した。カマドは原形を留めていない。

施設　壁沿いで部分的に周溝が検出された。床面上で土坑が４基検出された。

時期　宮ノ前Ⅶ期、９世紀第３四半期から９世紀第４四半期頃と思われる。

出土遺物　甲斐型坏・皿95ｇ、大小久保型坏・皿494ｇ、黒色処理耳皿63ｇ、土師器坏・皿５ｇ、甲斐型甕1,828ｇ、須恵器59ｇ、鉄製品３ｇ、鉄滓98ｇ、縄文土器265ｇ。「目」墨書土器のほか１点の墨書土器が出土している。

調査所見　大小久保型坏・皿の出土量が多い住居。床面中央で検出されたDK250は上面に床が貼られておらず、底面が硬くしまっており、覆土は住居のものとは異なり10㎜大の焼土が混じっていた。貼床は検出されず地山を床面としている。角釘と思われる鉄製品１点３ｇ、鉄滓４点98ｇが出土している。

111号住居（第47図、写真図版６）

位置　Ｅ２区中央、112号住居の南に位置する。

規模・形態　西半分は床面下まで削平されている。南北2.8ｍ。竪穴は最大で深さ40cmを測る。

カマド　検出されなかった。

施設　壁沿いで周溝が検出された。

時期　遺物が限られており不明。

出土遺物　土師器甕40ｇ、縄文土器106ｇ。

調査所見　カマドや柱穴を持たない遺構であり、遺物も少なく時期は不明であるが隅丸方形の平面プランや本遺跡の状況から平安時代の遺構と判断した。

112号住居（第47図、写真図版６）

位置　Ｅ２区中央、111号住居の北に位置する。

規模・形態　東西5.0ｍ、南北5.4ｍ、床面積23.9㎡。竪穴は深さ28㎝を測る。

カマド　北東隅で礫、焼土、小ピットを検出した。支脚石は原位置を保っているが、原形を留めていない。

施設　硬くしまった床面が住居中央から南西隅にかけて検出された。壁沿いで周溝が部分的に検出された。床面で土坑が２基検出された。東壁際でピットが２基検出された。

時期　攪乱をうけており断定はできないが、宮ノ前Ⅺ期、10世紀末から11世紀前葉頃と思われる。

出土遺物　甲斐型坏・皿15ｇ、大小久保型坏・皿１ｇ、土師器坏・皿14ｇ、土師器甕346ｇ、縄文土器330ｇ。

調査所見　小型重機による攪乱をうけており、北壁、西壁の全面と南壁の一部が失われている。遺構確認面での攪乱もひどく、セクションベルトによる覆土観察は省略した。床面の一部も攪乱をうけている。東壁際の２基のピット（PT1286、PT1287）は出入口施設と思われる。カマドの位置から調査当初は北側に住居が重複する可能性も考えられたが、重複する住居もなく、カマドの主軸も本住居の中心を向いていることから本遺跡で唯一の北東隅にカマドをもつ住居であると判断した。

113号住居（第49図～第51図、写真図版６）

位置　Ｅ２区中央、114号住居の南に位置する。

規模・形態　東西3.4ｍ、南北3.2ｍ、床面積8.6㎡。竪穴は深さ32㎝を測る。

カマド　東壁南寄りで礫、焼土、小ピットを検出した。焚口正面に溝状の掘り込みを検出した。右側の袖石１点が原位置を保っていた。

施設　硬くしまった床面がカマド正面以外のほぼ全面で検出された。壁沿いで周溝が検出された。床面で土坑が１基、ピットが３基検出された。

時期　宮ノ前Ⅶ期、９世紀第３四半期から９世紀第４四半期頃と思われる。

出土遺物　甲斐型坏・皿195ｇ、大小久保型坏・皿184ｇ、甲斐型甕2,305ｇ、ロクロ整形甕47ｇ、灰釉陶器３ｇ、縄文土器252ｇ。

調査所見　北東隅の壁と床面が攪乱をうけている。床面で検出された土坑、ピットは全て南壁沿いに作られている。カマド内では支脚石の上に甲斐型坏、その上に甲斐型甕の底部が覆うように出土した、これらは二次焼成をうけていない。

114号住居（第52図～第56図、写真図版７）

位置　Ｅ２区北部、27号掘立柱建物の西に隣接する。

規模・形態　東西3.6ｍ、南北3.8ｍ、床面積10.1㎡。竪穴は深さ40㎝を測る。

カマド　東壁南寄りで礫、焼土、掘り込み、小ピットを検出した。焚口正面に溝状の掘り込みを検出した。袖石、支脚石および天井石の一部は原位置を保っていた。

施設　硬くしまった床面がカマド正面から北西隅にかけて検出された。南壁を除く三方の壁沿いに周溝が検出された。床面上で土坑を３基、ピットを１基、床面下で土坑を１基、ピットを６基検出した。

時期　宮ノ前Ⅶ期、９世紀第３四半期から９世紀第４四半期頃と思われる。甲斐型皿は手持ちヘラ削り調整のものが多いが甲斐型坏は内面に暗文をもつものがほとんどである。これらの点から宮ノ前Ⅶ期でも後半段階であると思われる。

出土遺物　甲斐型坏・皿・蓋619ｇ、大小久保型坏・皿583ｇ、甲斐型甕3,477ｇ、ロクロ整形甕82ｇ、土師器甕

21ｇ、須恵器235ｇ、灰釉陶器445ｇ、縄文土器416ｇ、弥生土器41ｇ。砥石１点108ｇ、金属製品12ｇ。「丈ヵ」１点の他に３点の墨書土器が出土している。

調査所見　北東隅のDK289は上面に貼り床は認められなかったが、上面は硬くしまっていることから床下土坑と判断した。床面は貼り床によって構築されており、掘り方は西側がやや深く掘り込まれている。金属製品の刀子が１点出土している。

115号住居（第56図）

位置　Ｅ２区北側、113号住居の東に位置する。

規模・形態　東壁を除く三方の壁が失われており、面積は不明。竪穴は深さ40cmを測る。

カマド　南西隅部で礫、焼土、小ピットを検出した。構築材と思われる礫は原位置を保っておらず、カマドの破壊後１ヶ所にまとめられているように思われる。

施設　硬くしまった床面がカマド正面から住居中央にかけて検出された。南北それぞれの壁沿いと思われる位置で周溝が検出された。床面上で土坑を１基、東壁沿いの床面上でピットを２基検出した。

時期　遺物が少なく断定できないが宮ノ前Ⅶ期～Ⅷ期、９世紀第３四半期から10世紀第１四半期頃と思われる。

出土遺物　甲斐型坏・皿159ｇ、土師器坏・皿10ｇ、甲斐型甕・鉢19ｇ、ロクロ整形甕９ｇ、縄文土器475ｇ、弥生土器９ｇ。

調査所見　南北の壁は床面上まで削平されているが床面に周溝が検出されたので範囲を推定することができた。西壁は床面下まで攪乱をうけており範囲を確認することはできなかった。DK270は覆土観察から本住居を切る遺構ではなく住居埋没時には開口していたものと思われる、上面から甲斐型鉢の口縁部が出土している（57図１）。

116号住居（第58図～第61図、写真図版７）

位置　Ｅ２区北側、27号掘立柱建物の東に隣接する。

壁面の一部と周溝の一部、カマドを共有する上下２面の床面が２基検出された。以下上面の新しい住居を116ａ号住居、下面の古い住居を116ｂ号住居として報告する。

カマド　東壁南寄りで礫、焼土、掘り込みを検出した。礫は原位置を保っていない。

出土遺物　甲斐型坏・皿766ｇ、大小久保型坏・皿28ｇ、土師器坏・皿11ｇ、甲斐型甕1,322ｇ、ロクロ整形甕４ｇ、須恵器366ｇ、灰釉陶器91ｇ、鉄滓17ｇ、縄文土器956ｇ、弥生土器130ｇ、磨石311ｇ。墨書土器が６点、鉄滓が１点出土している。

116ａ号住居

規模・形態　東西4.3ｍ、南北4.2ｍ、床面積10.4㎡。竪穴は深さ64cmを測る。

施設　硬くしまった床面が北東隅から住居中央にかけて検出された。南東隅を除く壁沿いで周溝が検出された、南壁から西壁にかけての周溝は116ｂと共有する。床面上でピットが２基検出された。

時期　宮ノ前Ⅸ期、10世紀第２四半期から10世紀第３四半期頃と思われる。

調査所見　住居中央の覆土中にほぼ同一レベルで拳大から人頭大の礫が南北に並んで出土したが覆土観察からは別遺構の掘り込みは確認されなかった。北壁中央に張り出しを確認した、覆土観察から別遺構とは考えられず、出入口施設と思われるが床面にピットは検出されなかった。116ｂ号住居の床面に５cm程の貼床を構築し北壁および東壁の一部を拡張して作られた住居と考えられる。

116ｂ号住居

規模・形態　東西3.6ｍ、南北3.6ｍ、床面積9.1㎡。竪穴は深さ68㎝を測る。

施設　硬くしまった床面は検出されなかった。カマド右脇に浅い掘り込みを持つ20㎝大の礫の集中が検出された。南東隅を除く壁沿いで周溝を検出した。床面下で土坑が２基検出された。

時期　遺物が少なく断定はできないが、116ａ号住居と壁面の一部やカマド、周溝を共有することから時期差は想定されず、宮ノ前Ⅸ期、10世紀第２四半期から10世紀第３四半期頃と思われる。

調査所見　116ａ号住居の床面を検出したところ、北壁および東壁沿いには貼り床が見られなかった、当初棚状施設かとも思われたが５㎝程の貼り床を下げたところ、段差に沿って周溝が検出されたことからこれらは拡張前の古い住居の壁面と周溝であることが確認された。カマドや南壁から西壁とその周溝は116ａと共有する。

117号住居（第62図～第65図、写真図版７）

位置　Ｅ２区北端、26号掘立柱建物の西に隣接する。

規模・形態　東西3.7ｍ、南北3.8ｍ、床面積10.2㎡。竪穴は深さ32㎝を測る。

カマド　東壁中央南寄りで焼土、掘り込み、小ピットを検出した。

施設　硬くしまった床面がカマド正面からほぼ全面にわたって検出された。北壁沿いから西壁沿いに周溝が検出された。床面上で土坑が６基、壁面でピットが２基、床面下で土坑が１基、ピットが２基検出された。

時期　宮ノ前Ⅶ期、９世紀第３四半期から９世紀第４四半期頃と思われる。

出土遺物　甲斐型坏・皿141ｇ、大小久保型坏・皿35ｇ、甲斐型甕2,594ｇ、ロクロ整形甕407ｇ、土師器甕69ｇ、磨石・凹石888ｇ、弥生土器35ｇ、縄文土器1,060ｇ。

調査所見　床面上において焼土と大型の炭化材が出土した。床面が焼土化した部分もわずかながらあるものの、焼失住居と考えるには炭化材の出土量が少なく思われる。壁面で検出された２基のピット（PT1319、1320）は覆土観察から住居の壁面を掘り込んでいることが確認され、本住居の柱穴と思われる。床面で確認されたDK300、DK301はともに焼土粒子を多く含む単一の覆土であった。カマドは袖石や天井石などの礫は全く出土せず、焼土上で甲斐型甕やロクロ整形甕の破片が出土した。これらの土器は二次焼成を受けていない。

118号住居（第66図～第70図、写真図版７）

位置　Ｅ２区北端、26号掘立柱建物の北に隣接する。

規模・形態　東西7.5ｍ、南北6.8ｍ、床面積36.6㎡。竪穴は最大で深さ60㎝を測る。

カマド　南壁東寄りで礫、焼土、小ピットを検出した。袖石の一部と支脚石は原位置を保っている。支脚石の上には扁平な礫が置かれていた。

施設　硬くしまった床面がカマド正面から「Ｃ」字状に検出された。南壁を除いた壁沿いで周溝が検出された。カマド正面と西壁沿いの周溝の内側に溝が検出された。床面上で土坑が５基、ピットが７基、床面下でピットが３基検出された。

時期　宮ノ前Ⅺ期、10世紀末から11世紀前葉頃と思われる。

出土遺物　甲斐型坏・皿34ｇ、大小久保型坏・皿４ｇ、土師器坏・皿238ｇ、甲斐型甕57ｇ、土師器甕・羽釜854ｇ、須恵器24ｇ、灰釉陶器50ｇ、金床石9,700ｇ、鉄製品92ｇ、鉄滓2,144ｇ、弥生土器14ｇ、縄文土器2,514ｇ。

調査所見　東壁中央北寄りから南壁に張り出しをもつ住居であり、覆土観察やカマド正面と西壁内側の溝が幅、深さともに周溝とは異なっている点などから重複の可能性は考えられない。張り出し部床面で検出された２基の土坑はともに床が貼られ、また底面が硬くしまっていることから開口した状態で機能し、機能停止後に埋め戻さ

れたものと思われる。床面で検出されたピットのうちの５基（PT1330、PT1332、PT1335、PT1338、PT1343）は柱穴と考えられる、同様の配列は120号住居でも見られる。カマド正面の溝はカマド主軸とほぼ直交する方向に施されていることからカマドを意識した間仕切り溝と思われる。覆土中から鉄製品３点92ｇと鉄滓61点2,144ｇが出土している。カマド左脇からは鉄分の付着する平石が床面から５㎝上で出土しており（68図）、また鉄滓の付着した土師器片（69図３）が出土している。住居中央の床面は強く被熱してあたかも土器片がはがれるかのようであった。これらの点から平石は金床石であり被熱した床面は鍛冶炉と考えられ、本住居は鍛冶遺構であると推測される。壁面が被熱している土坑・ピットは見られなかった。

119号住居（第71図、写真図版８）

位置　Ｅ２区北側、115号住居の東に位置する。

規模・形態　住居西側約１/３が削平されている。南北3.1ｍ、床面積は推定で7.7㎡。竪穴は深さ20㎝を測る。

カマド　南東隅で焼土、小ピットを検出した。

施設　住居中央で硬くしまった床面を検出した。北壁沿いの一部で周溝を検出した。床面上で土坑を１基、ピットを２基検出した。

時期　遺物が少なく不明。

出土遺物　甲斐型坏・皿１ｇ、甲斐型甕173ｇ、土師器甕107ｇ、鉄滓64ｇ、弥生土器14ｇ、縄文土器485ｇ。鉄滓は３点出土している。

120号住居（第72図～第75図、写真図版８）

位置　Ｅ２区北端、118号住居の北東に位置する。

規模・形態　東西の壁の一部と北壁が調査区外に及んでいる。東西5.2ｍ、床面積は推定で21.0㎡。竪穴は深さ52㎝を測る。

カマド　調査を行った範囲内には検出されなかった。

施設　住居中央で硬くしまった床面を検出した。東壁沿いの一部で周溝を検出した。床面上で土坑を７基、ピットを４基、床面下で土坑を２基検出した。

時期　宮ノ前Ⅺ期、10世紀末から11世紀前葉頃と思われる。

出土遺物　甲斐型坏・皿15ｇ、土師器坏・皿247ｇ、土師器甕・羽釜2,125ｇ、灰釉陶器42ｇ、鉄滓1,272ｇ、縄文土器3,160ｇ。

調査所見　床面上で焼土と大型の炭化材が出土した。焼失住居とするには炭化材の出土量が少なく思われる。DK302は底面が硬くしまっており、開口した状態で機能していたと思われるが、覆土が被熱していることから途中まで埋め戻された段階でも何らかの機能を持っていたと考えられる。床面上で検出されたピット４基（PT1334、PT1336、PT1337、PT1339）は配列から柱穴と思われるが、同様の配列は118号住居でも見られる。覆土中から鉄滓が42点1,272ｇ出土している。また羽口と思われる土製品が１点出土している（75図１）。これらの点から本住居は鍛冶遺構と考えられ、焼土と炭化材の出土は鍛冶施設にともなうものであると推測される。壁面が被熱している土坑・ピットは見られなかった。覆土中から付着物のある土師器小皿が出土した、永嶋正春氏（国立歴史民俗博物館）により漆紙文書の可能性のご指摘をうけ赤外線撮影による分析を行った。

121号住居（第75図）

位置　Ｅ２区北端、118号住居の北に位置する。

規模・形態　南東隅部と床面の一部を除いて削平されている。竪穴は深さ16cmを測る。

カマド　南東隅部の床面で焼土を検出したが、範囲がせまくカマドとは断定できない。

施設　硬くしまった床面を検出した。壁沿いの一部で周溝を検出した。床面下で土坑を１基検出した。

時期　遺物が少なく不明。

出土遺物　土師器甕130ｇ、縄文土器390ｇ。

第２節　掘立柱建物

本遺跡では掘立柱建物７棟が検出された。柱間寸法は第３表に記載した。建物面積は、四隅の柱穴の中心を結ぶ直線に囲まれる範囲とした。出土遺物を欠くため、その時期は不明であるが、遺跡全体の状況から平安時代に属するものと考えられる。

掘立柱建物は２、３棟がまとまって検出される傾向が認められる。ここに報告する掘立柱建物以外にもピットがまとまって検出された箇所があった。本来はさらに多くの掘立柱建物が存在していたものと考えられる。

22号掘立柱建物（第76図、写真図版８）

位置　Ｅ１区東端、97号住居の南西に位置する。

規模　東西２間もしくは３間、南北２間、建物面積19.1㎡。

調査所見　南東隅は削平されている。出土遺物がなく、時期は不明である。

23号掘立柱建物（第76図、写真図版８）

位置　Ｅ１区中央、98号住居の北に位置する。

規模　東西３間、南北２間、建物面積11.5㎡。

調査所見　近隣の掘立柱建物（24ａ、24ｂ、25号）の柱穴は直径20cm前後であるが本遺構の柱穴は直径30cm前後と比較的大きく、やや異なる印象を受ける。出土遺物がなく、時期は不明である。

24ａ号掘立柱建物（第76図、写真図版８）

位置　Ｅ１区北寄り、101号住居の北東に位置する。

規模　１間四方もしくは東西１間、南北２間、建物面積10.9㎡。

調査所見　調査当初は24ｂ号掘立柱建物を含めて１棟の建物と考えたが、柱穴列にわずかながらズレが生ずるので別の建物と判断した。出土遺物がなく、時期は不明である。

24ｂ号掘立柱建物（第76図、写真図版８）

位置　Ｅ１区北寄り、101号住居の北に位置する。

規模　１間四方もしくは東西１間、南北２間、建物面積12.8㎡。

調査所見　西側のやや外側にはPT1095があるが他の柱穴と直径、断面形状ともに違いが大きいので本遺構からは除外した。出土遺物がなく、時期は不明である。

25号掘立柱建物（第76図、写真図版８）

位置　Ｅ１区北寄り、102号住居の南に位置する。

規模　１間四方、建物面積6.3㎡。

調査所見　出土遺物がなく、時期は不明である。

26号掘立柱建物（第76図、写真図版８）

位置　Ｅ２区北側117号住居の東に位置する。

規模　東西２間以上、南北２間、耕作によると思われる削平により東半分を失っている。

調査所見　出土遺物がなく、時期は不明である。

27号掘立柱建物（第76図、写真図版８）

位置　Ｅ２区北寄り、114号住居の東、116号住居の西に位置する。

規模　２間四方、建物面積11.4㎡。

調査所見　出土遺物がなく、時期は不明である。

第３節　土坑と出土遺物（第77図）

住居に関連せず単独で検出された土坑29基のうち出土遺物から平安時代の遺構と確認されるものは２基で、ほかに10基が形状や位置などから平安時代に属するものと推測される。これらのうち11基を図示した。

220号土坑

位置　Ｅ１区西側南寄りに位置する。

規模・形態　長軸1.9ｍ、短軸1.1ｍの楕円形。深さは12㎝を測る。

時期　甲斐型坏・皿の破片が１点出土している。細片のため時期は不明である。

221号土坑

位置　Ｅ１区西側南寄り、220号土坑の北に位置する。

規模・形態　長軸2.0ｍ、短軸1.3ｍの楕円形。深さは28㎝を測る。

時期　甲斐型坏・皿の破片が２点出土している。細片のため時期は不明である。

222号土坑

位置　Ｅ１区西側南寄り、221号土坑の東に位置する。

規模・形態　直径0.9ｍの円形。深さは16㎝を測る。

時期　甲斐型坏・皿の破片が２点出土している。細片のため時期は不明である。

223号土坑

位置　Ｅ１区西側南寄りに位置する。

規模・形態　長軸1.8ｍ、短軸1.3ｍの楕円形。深さは８㎝を測る。

時期　出土遺物がなく、時期は不明である。

224号土坑

位置　Ｅ１区西側南寄り、DK223の東に位置する。

規模・形態　長軸1.4ｍ、短軸0.8ｍの楕円形。深さは12㎝を測る。

時期　出土遺物がなく、時期は不明である。

225号土坑

位置　Ｅ１区西側南寄り、DK223の東に位置する。

規模・形態　長軸1.7ｍ、短軸1.1ｍの楕円形。深さは20cmを測る。

時期　出土遺物がなく、時期は不明である。

226号土坑

位置　Ｅ１区西側南寄り、DK225の東に位置する。

規模・形態　長軸1.5ｍ、短軸1.0ｍの楕円形。深さは20cmを測る。

時期　出土遺物がなく、時期は不明である。

227号土坑

位置　Ｅ１区西側南寄り、224号土坑の南に位置する。

規模・形態　直径0.7ｍの円形。深さは12cmを測る。

時期　出土遺物がなく、時期は不明である。

228号土坑

位置　Ｅ１区西側南寄り、227号土坑の東に位置する。

規模・形態　長軸1.7ｍ、短軸1.1ｍの楕円形。深さは16cmを測る。

時期　出土遺物がなく、時期は不明である。

229号土坑

位置　Ｅ１区西側南寄り、228号土坑の東に位置する。

規模・形態　直径1.1ｍの円形。深さは16cmを測る。

時期　出土遺物がなく、時期は不明である。

249号土坑

位置　Ｅ２区北西、105号住居を切っている。

規模・形態　直径1.0ｍの円形。深さは90cmを測る。

調査所見　105号住居の検出時には確認できなかったが、住居覆土の掘削途中で確認した。覆土中から扁平な礫と甲斐型坏の破片（77図１）が出土した。

時期　宮ノ前Ｘ期、10世紀第３四半期から10世紀第４四半期頃と思われる。

第４節　遺構・遺物観察表

第３章第３節までに報告した遺構とその出土遺物の観察所見を報告する。観察表は以下のとおりである。

第２表　住居面積・主軸方向一覧

第３表　掘立柱建物面積・柱間寸法一覧

第４表　土坑・ピット一覧

第５表　平安時代の土器・土製品一覧

第６表　金属製品一覧

第７表　石器一覧

「第５表　平安時代の土器・土製品一覧」中の胎土分類の説明は以下のとおりである。

〔第１類〕　第８類より粒度組成がやや粗く、微小な白色粒子（石英、斜長石、カリ長石などの鉱物粒子が容易に観察できる。赤色粒子（褐鉄鉱の濃集部分）が混じるが第８類ほど目立たない。器面の手ざわりはややざらつく。

〔第２類〕　第１類よりさらに粒度組成が粗く、径１㎜程度の鉱物粒子が多量に混じるのが観察できる。赤色粒子は第８類と同類に混じるかやや少ない。器面の手ざわりは非常にざらつく。内外面のロクロ整形が粗雑で、ナデ痕が明瞭に観察される例が多い。

〔第３類〕　第２類と同様の胎土質だが、径３㎜程度の礫が混じる。赤色粒子は第８類と同程度に混じる。器面のナデ調整は丁寧。ヘラ削りのタイミングが第８類より遅く、自然乾燥がかなり進んだ時点で施しているようである。同時期の第８類と比較して、口径の割に底径が大きく、器高が低い。全体に扁平な印象を与える。非常に密で丁寧に暗文を施している。体部、底部のヘラ削りは第８と同様であるが、底部周縁の輪郭が非常にシャープである。第８類よりも赤みが強い色調。

〔第４類〕　第８類と同等程度のキメ細かく緻密な胎土だが、微小な白色粒子が容易に観察できる。赤色粒子が混じるが第８類ほど目立たない。径３㎜を超える大粒の礫が混じることもある。色調はにぶい橙色から黒褐色。器壁が厚手な例もある。

〔第５類〕　第８類より粒度組成が粗い胎土でやや砂っぽい。赤色粒子、微小な白色粒子ともに混じるが、第１類、第２類、第４類ほど目立たない。内外面のロクロ整形が粗雑で、ナデ痕が明瞭に観察される例が多い。色調は黄橙色を示すことが多い。

〔第６類〕　キメの細かい砂っぽい胎土で、第５類をさらに粗粒にした胎土質である。鉱物粒子は第２類ほど多く混じらない。赤色粒子が混じるが第８類ほど目立たない。整形は粗雑で、ヘラ削りに稚拙な印象を受ける。器壁は厚手で、口縁部の玉縁のつくりも第８類と異なる。体部、底部はヘラ削りを施す。黄橙色か淡い赤褐色の色調。内面を黒色に処理する例もある。

〔第７類〕　今のところ大小久保遺跡２号住居例のみが確認できた。キメ細かく緻密な胎土だが、微小な鉱物粒子がやや混じる。わずかだが径２㎜程度の礫も混じる。器壁は厚手で、口径に対して底径が非常に大きい。底部はヘラ削り。底部周縁直近の体部下半しかヘラ削りしない。したがって体部下半のヘラ削りは非常に中途半端な印象を与える。この種のヘラ削りは大小久保遺跡で散見される。非常に密な暗文を施す。

〔第８類〕　典型的な甲斐型坏・皿の胎土。キメ細かく緻密で、微小な赤色粒子が混じる。

〔第９類〕　ロクロ整形、底部糸切、内面の黒色処理を特徴とする、信濃の坏を模倣したと考えられる。「信州系」と通称される。大小久保遺跡で焼成遺構が確認されている。内面はナデ、ヘラ磨きにより調整され、黒色処理されることが多い。底部は回転糸切痕を残し未調整である。径１㎜程度の鉱物粒子を多量に含む胎土で、乳白色、黄褐色、赤褐色、黒褐色の色調を示す。

第2表　平安時代住居面積・主軸方向一覧

住居番号	面積(㎡)	主軸方向
96号住居	11.0	N-90°-E
97号住居	8.8	N-89°-E
98号住居	8.6	N-92°-E
99号住居	不明	不明
100号住居	15.5	N-98°-E
101号住居	18.5	N-90°-E
102号住居	7.7	N-91°-E
103号住居	不明	N-84°-E
104号住居	不明	不明
105号住居	12.8	N-85°-E
106号住居	17.6	N-90°-E
107号住居	12.7	N-105°-E
108号住居	9.3	N-100°-E
109号住居	14.1	N-86°-E

住居番号	面積(㎡)	主軸方向
110号住居	14.0	N-109°-E
111号住居	不明	N-94°-E
112号住居	23.9	N-102°-E
113号住居	8.6	N-103°-E
114号住居	10.1	N-86°-E
115号住居	不明	N-96°-E
116a号住居	10.4	N-110°-E
116b号住居	9.1	N-110°-E
117号住居	10.2	N-122°-E
118号住居	36.6	N-112°-E
119号住居	7.7	N-113°-E
120号住居	21.0	N-98°-E
121号住居	不明	不明

第3表　掘立柱建物面積・柱間寸法一覧

遺構番号	建物面積	ピット番号	柱間(m)
22号掘立柱建物	不明	PT-1026	1.80
		1025	
		1025	4.85
		1021	
		1021	1.85
		1022	
		1022	1.70
		1031	
23号掘立柱建物	11.5㎡	PT-1112	1.50
		1111	
		1111	1.50
		1110	
		1110	1.44
		1119	
		1119	1.10
		1118	
		1118	1.30
		1117	
		1117	1.73
		1116	
		1116	1.63
		1115	
		1115	1.10
		1114	
		1114	1.10
		1113	
		1113	1.28
		1112	
24a号掘立柱建物	10.9㎡	1101	3.90
		1100	
		1100	2.80
		1105	
		1105	3.85
		1103	
		1103	2.80
		1101	
24b号掘立柱建物	12.8㎡	PT-1096	2.05
		1095	
		1095	1.95
		1094	
		1094	3.14
		1099	
		1099	1.90
		1098	
		1098	1.95
		1097	
		1097	3.30
		1096	

遺構番号	建物面積	ピット番号	柱間(m)
25号掘立柱建物	6.3㎡	PT-1106	2.30
		1107	
		1107	2.90
		1108	
		1108	2.20
		1109	
		1109	2.70
		1106	
26号掘立柱建物	不明	PT-1276	2.05
		1275	
		1275	2.30
		1274	
		1274	2.30
		1273	
		1273	1.80
		1278	
		1278	1.95
		1279	
27号掘立柱建物	11.4㎡	PT-1344	1.50
		1345	
		1345	1.50
		1346	
		1346	2.20
		1347	
		1347	1.50
		1348	
		1348	1.50
		1349	
		1349	1.50
		1350	
		1350	1.60
		1351	
		1351	2.15
		1344	

第４表　土坑・ピット一覧　（単位＝cm）

遺構番号	覆土色	大きさ	深さ	位置	備考（遺物など）
PT1009	10YR３/２に10YR４/３が40%、焼土粒子５%まじる。ややしまる。	41×33	21	E－１区	
PT1010	10YR３/２に10YR４/３が50%まじる。ややしまる。	42	27	E－１区	
PT1011	10YR３/２に10YR４/３が50%まじる。ややしまる。	21	21	E－１区	
PT1012	10YR４/３に10YR３/２が50%まじる。ややしまる。	26×35	25	E－１区	
PT1013	10YR３/２に10YR４/３が40%まじる。ややしまる。	21	11	E－１区	
PT1014	10YR４/３に10YR３/２が20%まじる。ややしまる。	27	12	E－１区	
PT1015	10YR３/２に10YR４/３が40%まじる。ややしまる。	22×35	10	E－１区	
PT1016	10YR３/２に10YR４/３が20%まじる。ややしまる。	30	14	E－１区	
PT1017	10YR３/３に10YR３/２が10%、10YR４/４が５%まじる。ややしまる。	30	26	E－１区	
PT1018	10YR３/２に10YR４/３が10%、10YR４/４が10%まじる。ややしまる。	22	30	E－１区	
PT1019	10YR３/２に10YR４/３が20%、10YR４/４が10%まじる。ややしまる。	30	30	E－１区	
PT1020	10YR３/２に10YR４/３が30%まじる。ややしまる。	22	35	E－１区	
PT1021	10YR２/２に10YR３/２が10%、10YR３/４が10%まじる。しまりなし。	20	21	22号掘立	
PT1022	10YR２/２に10YR３/２が20%、10YR３/４が10%まじる。ややしまる。	26	15	22号掘立	PT1030を切る
PT1023	10YR３/２に10YR４/３が20%、10YR４/４が20%まじる。しまる。	20	6	E－１区	
PT1024	10YR３/２に10YR４/４が30%、10YR４/３が10%まじる。しまる。	17	14	E－１区	
PT1025	10YR３/２に10YR４/３が20%まじる。ややしまる。	28	33	22号掘立	
PT1026	10YR３/２に10YR４/３が20%まじる。しまる。	26	10	22号掘立	
PT1027	10YR３/２に10YR４/３が10%、10YR４/４が10%まじる。ややしまる。	25	5	22号掘立	土器片
PT1028	10YR３/２に10YR４/３が20%、10YR４/４が20%まじる。固くしまる。	36	8	E－１区	PT1031を切る
PT1029	10YR３/３に10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	25	12	E－１区	土器片
PT1030	10YR３/２に10YR３/４が10%まじる。ややしまる。	26	16	E－１区	PT1022に切られる
PT1031	10YR３/４に10YR３/２が10%まじる。ややしまる。	30	9	22号掘立	PT1028に切られる
PT1032	10YR２/２に10YR３/２が10%、10YR４/３が５%まじる。ややしまる。	18	11	E－１区	
PT1033	10YR３/２に10YR３/４が10%、10YR４/２が５%まじる。ややしまる。	16	6	E－１区	
PT1034	10YR３/３に10YR３/４が20%まじる。ややしまる。	34	12	E－１区	
PT1035	10YR３/２に10YR２/２が10%、10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	24	14	E－１区	
PT1036	10YR２/２に10YR３/２が10%、10YR４/３が５%まじる。ややしまる。	18	10	E－１区	
PT1037	10YR３/２に10YR４/４が10%、10YR４/２が10%まじる。ややしまる。	18	10	E－１区	
PT1038	10YR２/１に10YR３/２が５%、10YR３/３が５%まじる。ややしまる。	20	6	E－１区	
PT1039	10YR３/３に10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	17	4	E－１区	
PT1040	10YR３/２に10YR４/３が10%まじる。しまる。	14	4.5	E－１区	
PT1041	10YR４/３に10YR４/２が10%まじる。しまりなし。	14	7	E－１区	
PT1042	10YR３/２に10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	25	17	E－１区	
PT1043	10YR３/２に10YR４/４が20%、10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	33	9.5	E－１区	
PT1044	10YR３/２に10YR４/３が10%、10YR４/２が５%まじる。ややしまる。	28×25	26	E－１区	
PT1045	10YR３/３に10YR３/２が20%、10YR４/３が10%まじる。しまりなし。	27	14	E－１区	
PT1046	10YR４/３に10YR３/２が20%、10YR４/４が５%まじる。ややしまる。	32	17	E－１区	
PT1047	10YR３/２に10YR４/３が30%まじる。ややしまる。	20	6.5	E－１区	
PT1048	10YR３/２に10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	19	5	E－１区	
PT1049	10YR３/２に10YR２/２が10%、10YR４/３が５%まじる。ややしまる。	21	5	E－１区	
PT1050	10YR３/２に10YR４/３が20%まじる。ややしまる。	19	7	E－１区	
PT1051	10YR３/２に10YR４/３が20%、10YR４/４が10%まじる。しまりなし。	30	16.5	E－１区	
PT1052	10YR３/２に10YR４/３が20%まじる。ややしまる。	31	12	E－１区	
PT1053	10YR３/２に10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	20×28	15	E－１区	
PT1054	10YR３/２に10YR４/４が20%、10YR４/３が５%まじる。ややしまる。	17	15	E－１区	
PT1055	10YR２/２に10YR４/３が10%、10YR４/４が５%まじる。しまる。	26	17	E－１区	
PT1056	10YR３/２に10YR４/３が20%、10YR４/４が５%まじる。しまる。	30	23	E－１区	
PT1057	10YR３/２に10YR４/４が20%まじる。ややしまる。	15×20	13	E－１区	
PT1058	10YR２/２に10YR４/２が10%、10YR４/４が10%まじる。ややしまる。	21×19	20	E－１区	
PT1059	10YR３/２に10YR４/３が20%まじる。ややしまる。	23	23	E－１区	
PT1060	10YR３/２に10YR４/３が20%、10YR４/４が10%まじる。しまる。	29	9	E－１区	
PT1061	10YR２/２に10YR４/３が20%、10YR３/２が５%まじる。しまる。	20	13	E－１区	
PT1062	10YR２/２に10YR３/２が10%、10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	24	17	E－１区	
PT1063	10YR３/３に10YR４/２が20%まじる。ややしまる。	19	7	E－１区	
PT1064	10YR３/３に10YR４/２が10%、10YR３/２が10%まじる。ややしまる。	14	14	E－１区	
PT1065	10YR３/２に10YR４/２が10%まじる。しまる。	20	8	E－１区	
PT1066	10YR３/２に10YR４/２が10%、10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	23.5	15	E－１区	
PT1067	10YR４/３に10YR４/２が20%、10YR３/２が10%まじる。しまりなし。	16	10	E－１区	
PT1068	10YR３/２に10YR４/２が10%、10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	50	12	E－１区	
PT1069	10YR３/２に10YR４/３が20%まじる。しまりなし。	40	41	E－１区	

遺構番号	覆土色	大きさ	深さ	位置	備考（遺物など）
PT1070	10YR２/２に10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	20	20	E－１区	
PT1071	10YR３/２に10YR４/２が10%、10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	41	15.5	E－１区	
PT1072	10YR３/２に10YR４/３が10%、10YR４/４が５%まじる。ややしまる。	9	7.5	E－１区	
PT1073	10YR３/３に10YR４/４が20%、10YR４/３が10%、焼土粒子１%まじる。ややしまる。	26	22	E－１区	
PT1075	10YR４/３に10YR４/４が20%まじる、しまりなし。	26×31	71	E－１区	
PT1076	10YR３/２に10YR４/３が20%、炭化物粒子５%まじる。ややしまる。	22	50	E－１区	
PT1077	10YR３/３に10YR４/３が20%、10YR６/４が５%、焼土粒子５%、炭化物粒子５%まじる。しまりなし。	39	93	E－１区	
PT1078	10YR２/２に10YR４/３が10%、10YR３/２が10%まじる。ややしまる。	17	4	E－１区	
PT1079	10YR２/２に10YR４/３が20%まじる。ややしまる。	20	5	E－１区	
PT1080	10YR２/２に10YR３/２が10%、10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	22	10	E－１区	
PT1081	10YR４/２に10YR４/３が20%、10YR３/２が５%まじる。ややしまる。	20	5	E－１区	
PT1083	10YR２/１に10YR３/２が10%まじる。ややしまる。	10.5	6	E－１区	
PT1085	10YR３/２に10YR４/３が20%、10YR２/２が10%まじる。しまりなし。	22	12	E－１区	土器片
PT1086	10YR４/３に10YR３/２が20%まじる。ややしまる。	26	12.5	E－１区	
PT1088	10YR３/２に10YR４/３が10%、10YR４/４が10%まじる。ややしまる。	23	5	E－１区	
PT1089	10YR４/３に10YR４/２が30%まじる。ややしまる。	45	61	E－１区	
PT1090	10YR４/３に10YR４/４が20%、10YR３/２が５%まじる。ややしまる。	32	18	E－１区	
PT1091	10YR４/３に10YR４/２が20%、10YR４/４が10%まじる。固くしまる。	50	14.5	E－１区	
PT1092	10YR３/３に10YR４/３が20%まじる。焼土粒子10%、炭化物粒子10%まじる。	10	70	E－１区	
PT1093	10YR３/３に10YR４/３が20%まじる。しまる。	18	10	E－１区	
PT1094	10YR２/２に10YR３/２が20%、10YR４/３が20%、焼土粒子５%まじる。しまりなし。	17	11	24ｂ号掘立	
PT1095	10YR２/２に10YR３/２が20%まじる。ややしまる。	10	2	24ｂ号掘立	
PT1096	10YR２/２に10YR３/２が20%、10YR３/３が20%、焼土粒子５%まじる。ややしまる。	16	11	24ｂ号掘立	
PT1097	10YR３/２に10YR４/３が30%まじる。ややしまる。	27	16	24ｂ号掘立	
PT1098	10YR３/２に10YR４/３が20%まじる。ややしまる。	20	7.5	24ｂ号掘立	
PT1099	10YR３/２に10YR４/３が20%まじる。ややしまる。	23	15	24ｂ号掘立	
PT1100	10YR３/２に10YR４/３が20%、10YR４/４が20%まじる。ややしまる。	23	17.5	24ａ号掘立	
PT1101	10YR３/２に10YR４/３が20%、10YR４/４が10%まじる。ややしまる。	23	19	24ａ号掘立	
PT1102	10YR３/２に10YR４/３が20%、10YR４/４が10%まじる。ややしまる。	22	23	E－１区	
PT1103	10YR３/２に10YR４/３が10%、10YR４/４が10%、焼土粒子５%まじる。ややしまる。	22×31	19	24ａ号掘立	
PT1104	10YR３/２に10YR４/２が10%、10YR３/３が５%まじる。ややしまる。	22	6	24ａ号掘立	
PT1105	10YR３/２に10YR４/２が10%、10YR４/３が10%、焼土粒子１%まじる。ややしまる。	26	24	24ａ号掘立	
PT1106	10YR３/２に10YR４/２が20%まじる。しまる。	19	8	25号掘立	
PT1107	10YR４/２に10YR３/２が10%まじる。ややしまる。	17	10	25号掘立	
PT1108	10YR４/２に10YR３/２が10%まじる。ややしまる。	15	9	25号掘立	
PT1109	10YR４/２に10YR３/２が10%、10YR４/３が５%まじる。ややしまる。	20	20	25号掘立	
PT1110	10YR２/２に10YR３/２が20%、10YR４/３が10%まじる。しまる。	30	21	23号掘立	
PT1111	10YR２/２に10YR４/３が10%まじる。しまる。	25	10	23号掘立	
PT1112	10YR４/３に10YR４/４が30%まじる。ややしまる。	35	19	23号掘立	
PT1113	10YR４/４に10YR５/６が20%まじる。ややしまる。	25	16.5	23号掘立	
PT1114	10YR３/３に10YR４/３が20%、10YR４/４が10%まじる。ややしまる。	29	17	23号掘立	
PT1115	10YR３/３に10YR４/３が20%、10YR４/４が10%まじる。ややしまる。	37	21	23号掘立	
PT1116	10YR３/２に10YR４/３が20%、10YR４/４が10%まじる。ややしまる。	29	23	23号掘立	
PT1117	10YR３/２に10YR４/３が20%まじる。ややしまる。	30	15	23号掘立	
PT1118	10YR３/２に10YR４/３が20%まじる。ややしまる。	25	5.5	23号掘立	
PT1119	10YR３/２に10YR４/３が20%、10YR２/２が10%まじる。ややしまる。	23	6.3	23号掘立	
PT1120	10YR３/２に10YR４/３が20%まじる。ややしまる。	23	6	E－１区	
PT1121	10YR３/２に10YR４/３が10%、10YR４/４が10%まじる。しまる。	11	3.5	E－１区	
PT1122	10YR３/３に10YR４/４が30%、10YR３/２が10%まじる。ややしまる。	30	27.5	E－１区	
PT1123	10YR３/２に10YR４/２が10%、10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	20×23	8	E－１区	
PT1124	10YR４/４に10YR３/２が５%、10YR３/３が５%まじる。しまる。	36	72	縄文１号住内	
PT1125	10YR４/４に10YR３/２が10%、10YR４/６が５%まじる。しまる。	27	74	縄文１号住内	
PT1126	10YR４/４に10YR３/２が10%、10YR４/６が５%まじる。しまる。	21	58	縄文１号住内	
PT1127	10YR４/４に10YR４/３が20%まじる。ややしまる。	29	45	E－２区	
PT1128	10YR４/４に10YR４/３が10%、10YR４/２が10%まじる。ややしまる。	36	129	E－２区	
PT1129	10YR４/４に10YR４/２が10%、10YR４/３が５%まじる。ややしまる。	33	12	E－２区	
PT1130	10YR４/４に10YR４/２が10%、10YR４/３が５%まじる。ややしまる。	34	9	E－２区	
PT1131	10YR４/３に10YR４/４が10%まじる。しまる。	34	17	E－２区	
PT1132	10YR４/３に10YR４/４が10%まじる。しまる。	27	14	E－２区	
PT1133	10YR４/３に10YR４/２が20%10YR３/２が10%まじる。ややしまる。	32	30	E－２区	
PT1134	10YR４/３に10YR３/２が20%、10YR４/２が10%まじる。ややしまる。	22	9	E－２区	
PT1135	10YR４/３に10YR４/２が10%、10YR４/４が５%まじる。ややしまる。	30	15	E－２区	

遺構番号	覆土色	大きさ	深さ	位置		備考（遺物など）
PT1136	10YR３/２に10YR２/１が３%、10YR３/３が10%、焼土粒子１%まじる。ややしまる。	30	14	E－２区		
PT1137	10YR３/２に10YR３/３が10%、10YR４/２が10%まじる。ややしまる。	34	14	E－２区		
PT1138	10YR４/３に10YR４/２が20%まじる。しまる。	23	9	E－２区		土器片
PT1140	10YR２/２に10YR３/４が20%、10YR３/２が５%まじる。ややしまる。	42×17	18	E－２区		PT1141に切られる
PT1141	10YR３/２に10YR４/２が10%、10YR４/３が10%、焼土粒子１%まじる。ややしまる。	33×21	12	E－２区		PT1140を切る
PT1142	10YR３/３に10YR３/２が10%、10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	24	9	E－２区		
PT1143	10YR２/２に10YR３/２が10%、10YR３/３が10%まじる。しまりなし。	26	13	E－２区		
PT1144	10YR４/３に10YR３/２が10%、10YR５/３が５%まじる。固くしまる。	22	7	E－２区		
PT1145	10YR３/２に10YR４/３が10%、10YR３/２が10%まじる。しまる。	28	11	E－２区		
PT1146	10YR２/２に10YR３/２が10%、10YR３/３が10%まじる。ややしまる。	15	6	E－２区		
PT1147	10YR３/２に10YR３/３が10%、10YR２/２が５%まじる。固くしまる。	23	3.5	E－２区		
PT1148	10YR４/３に10YR３/２が５%まじる。しまる。	25	2.5	E－２区		
PT1149	10YR４/３に10YR３/２が５%まじる。しまりなし。	28	6.5	E－２区		
PT1150	10YR３/２に10YR４/２が10%、10YR４/３が５%まじる。ややしまる。	23	8	E－２区		
PT1151	10YR４/３に10YR４/２が５%まじる。ややしまる。	24	5	E－１区		
PT1152	10YR３/４に10YR５/４が20%、焼土粒子１%まじる。固くしまる。	18	14	97号住内	床面で検出	
PT1153	10YR４/４に10YR４/２が20%まじる。ややしまる。	43	15	E－２区		
PT1154	10YR４/４に10YR４/２が30%まじる。しまりなし。	30	16	E－２区		
PT1155	10YR３/３に10YR４/２が20%まじる。ややしまる。	39	16	E－２区		
PT1156	10YR３/２に10YR３/３が20%、10YR４/２が５%まじる。ややしまる。	19	10	E－２区		
PT1157	10YR３/２に10YR４/２が20%、10YR３/３が10%まじる。ややしまる。	19	17.5	E－２区		
PT1158	10YR３/２に10YR４/２が20%まじる。しまりなし。	22	9	E－２区		
PT1159	10YR３/１に10YR３/３が20%まじる。ややしまる。	19	8	E－２区		
PT1160	10YR３/１に10YR３/３が20%、10YR４/２が10%まじる。ややしまる。	17	5	E－２区		
PT1161	10YR３/２に10YR４/２が10%、10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	14	2.5	E－２区		
PT1162	10YR３/２に10YR４/２が10%、10YR４/３が10%まじる。しまる。	23	5	E－２区		
PT1163	10YR３/１に10YR３/２が10%、10YR４/３が10%まじる。しまりなし。	17	17	E－２区		
PT1164	10YR３/１に10YR４/３が20%まじる。ややしまる。	27.5	5	E－２区		
PT1165	10YR３/２に10YR４/３が20%まじる。しまる。	23	17	E－２区		
PT1166	10YR３/２に10YR４/３が20%まじる。ややしまる。	19	3.5	E－２区		
PT1167	10YR３/２に10YR３/３が20%、10YR４/３が20%まじる。しまりなし。	22	2	E－２区		
PT1168	10YR４/３に10YR４/２が20%まじる。ややしまる。	22	11	E－２区		
PT1169	10YR３/３に10YR４/３が20%まじる。ややしまる。	24	13	E－２区		
PT1170	10YR３/３に10YR４/３が30%まじる。ややしまる。	28	16	E－２区		
PT1171	10YR３/３に10YR４/２が20%、10YR４/３が10%まじる。しまりなし。	20	14	E－２区		
PT1172	10YR３/３に10YR４/３が20%、10YR３/２が20%まじる。しまりなし。	20	11	E－２区		
PT1173	10YR３/２に10YR４/３が20%、10YR３/３が10%まじる。ややしまる。	24	21	E－２区		
PT1174	10YR３/３に10YR４/２が20%、10YR４/３が10%まじる。しまりなし。	18.5	11	E－２区		
PT1175	10YR３/２に10YR４/３が20%まじる。しまる。	18	5.5	E－２区		
PT1176	10YR３/２に10YR４/２が10%、10YR４/３が10%まじる。しまる。	21	6	E－２区		
PT1177	10YR３/４に10YR４/６が10%、焼土が粒状～５㎜大で10%まじる。固くしまる固くしまる。	29	25	97号住内	床面で検出	土師器片
PT1178	10YR３/３に10YR４/３が20%、10YR４/２が10%まじる。しまる。	32	12	E－２区		
PT1179	10YR４/３に10YR４/２が10%まじる。しまる。	22	6	E－２区		
PT1180	10YR３/２に10YR４/２が10%、10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	28	24	E－２区		
PT1181	10YR３/３に10YR３/２が10%まじる。ややしまる。	17	3	E－２区		
PT1182	10YR３/２に10YR４/３が20%、10YR２/２が10%、焼土粒子３%、炭化物粒子１%まじる。ややしまる。	43	34	E－２区		土器片
PT1183	10YR４/４に10YR４/２が10%まじる。しまる。	31	6	E－２区		PT1184を切る
PT1184	10YR３/３に10YR４/２が20%まじる。しまる。	16	6	E－２区		PT1183に切られる
PT1185	10YR２/２に10YR４/３が10%、10YR４/２が10%まじる。固くしまる。	25	9.5	E－２区		
PT1186	10YR４/３に10YR３/２が10%まじる。固くしまる。	19	4	E－２区		
PT1187	10YR３/３に10YR４/２が20%まじる。固くしまる。	19	4.5	E－２区		
PT1188	10YR３/３に10YR４/３が30%、10YR４/２が10%まじる。ややしまる。	26	13	E－２区		
PT1189	10YR３/３に10YR４/３が30%まじる。しまりなし。	20	6	E－２区		
PT1190	10YR４/４に10YR３/２が10%まじる。非常に固くしまる。	25	4.5	E－２区		
PT1191	10YR４/３に10YR３/４が20%まじる。しまりなし。	20	24	E－２区		
PT1192	10YR３/２に10YR２/２が30%、10YR４/３が10%まじる。非常に固くしまる。	18	6	E－２区		
PT1193	10YR３/２に10YR４/３が20%、10YR４/２が10%まじる。ややしまる。	18	15	E－２区		
PT1194	10YR３/２に10YR４/４が20%まじる。ややしまる。	25	6	E－２区		
PT1195	10YR３/２に10YR４/３が20%まじる。しまる。	24	9	E－２区		
PT1196	10YR３/３に10YR４/２が20%まじる。しまる。	22	3	E－２区		
PT1197	10YR３/３に10YR４/２が20%、10YR４/４が10%まじる。固くしまる。	28	4	E－２区		
PT1198	10YR２/２に10YR３/２が10%、10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	18	5	E－２区		

遺構番号	覆土色	大きさ	深さ	位置		備考（遺物など）
PT1199	10YR 4 / 2 に10YR 4 / 4 が50%、10YR 3 / 3 が20%まじる。ややしまる。	25	7.5	E－2区		
PT1200	10YR 2 / 2 に10YR 4 / 2 が10%、10YR 4 / 4 が10%まじる。ややしまる。	20	7	E－2区		
PT1201	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 3 が20%まじる。しまる。	22	13	E－2区		
PT1202	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 2 が20%まじる。固くしまる。	29	7	E－2区		
PT1203	10YR 2 / 2 に10YR 3 / 2 が10%、10YR 4 / 3 が10%まじる。固くしまる。	26	15	E－2区		
PT1204	10YR 4 / 4 に10YR 4 / 2 が20%まじる。ややしまる。	19	1	E－2区		
PT1205	10YR 4 / 4 に10YR 4 / 2 が10%まじる。固くしまる。	25	3	E－2区		
PT1206	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 2 が10%、10YR 4 / 4 が５%まじる。ややしまる。	28	14	E－2区		
PT1207	10YR 4 / 2 に10YR 4 / 3 が20%まじる。ややしまる。	26	15	E－2区		
PT1208	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 2 が20%、10YR 4 / 4 が10%まじる。しまりなし。	28	12	E－2区		
PT1209	10YR 4 / 2 に10YR 3 / 2 が10%、10YR 4 / 3 が10%まじる。ややしまる。	24	4	E－2区		
PT1210	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 2 が10%、10YR 4 / 4 が５%まじる。ややしまる。	25	11	E－2区		
PT1211	10YR 3 / 2 に10YR 4 / 2 が10%、10YR 4 / 3 が10%まじる。しまりなし。	23	31	E－2区		
PT1212	10YR 3 / 2 に10YR 4 / 2 が20%、10YR 4 / 3 が10%まじる。ややしまる。	25	19	E－2区		
PT1213	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 4 が30%、10YR 4 / 2 が10%まじる。ややしまる。	27	19.5	E－2区		土器片
PT1214	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 3 が20%、10YR 4 / 2 が10%まじる。ややしまる。	37×25	15	E－2区		土師器片
PT1215	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 2 が10%、10YR 4 / 3 が10%まじる。しまりなし。	25	15	E－2区		土師器片
PT1216	10YR 4 / 2 に10YR 4 / 4 が20%まじる。ややしまる。	34	5.5	E－2区		土師器片
PT1217	10YR 3 / 2 に10YR 4 / 2 が20%、10YR 4 / 3 が10%まじる。ややしまる。	25	12.5	E－2区		
PT1218	10YR 4 / 3 に10YR 3 / 2 が10%まじる。ややしまる。	31	10	E－2区		PT1219に切られる、土師器片
PT1219	10YR 3 / 2 に10YR 4 / 2 が20%、10YR 4 / 3 が10%まじる。ややしまる。	29	27	E－2区		PT1218を切る
PT1220	10YR 4 / 3 に10YR 4 / 2 が20%まじる。ややしまる。	48	19.5	E－2区		
PT1222	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 2 が20%まじる。ややしまる。	28	21.5	E－2区		
PT1224	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 2 が10%まじる。ややしまる。	20	6	E－2区		
PT1225	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 3 が20%まじる。ややしまる。	26	8	E－2区		土師器片
PT1226	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 2 が20%、10YR 3 / 2 が10%、焼土粒子１%、炭化物粒子１%まじる。	27	10	E－2区		土師器片
PT1227	10YR 3 / 2 に10YR 4 / 2 が20%、10YR 4 / 4 が10%まじる。しまりなし。	16	14	E－2区		
PT1228	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 3 が20%まじる。しまりなし。	18	10	E－2区		
PT1229	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 2 が20%、10YR 4 / 4 が20%まじる。ややしまる。	22	15	E－2区		
PT1230	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 2 が20%、10YR 4 / 3 が10%まじる。ややしまる。	39	8	E－2区		
PT1231	10YR 3 / 1 に10YR 4 / 2 が20%、10YR 4 / 3 が10%まじる。ややしまる。	47	11	E－2区		
PT1232	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 3 が20%、10YR 4 / 2 が10%まじる。しまりなし。	30	22	E－2区		
PT1233	10YR 2 / 2 に10YR 4 / 2 が20%まじる。しまる。	23	22	E－2区		
PT1234	10YR 2 / 2 に10YR 3 / 2 が10%、10YR 4 / 2 が１%まじる。しまる。	21	6	E－2区		
PT1235	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 2 が10%、10YR 4 / 3 が10%まじる。ややしまる。	18	5	E－2区		土師器片
PT1236	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 2 が10%、10YR 3 / 2 が10%まじる。しまる。	24	5	E－2区		
PT1237	10YR 3 / 3 に10YR 3 / 2 が10%、10YR 4 / 2 が10%まじる。ややしまる。	21	1	E－2区		縄文土器片
PT1238	10YR 3 / 2 に10YR 3 / 2 が10%、10YR 4 / 2 が10%まじる。しまる。	21	8	E－2区		
PT1239	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 2 が20%まじる。しまりなし。	13	2.5	E－2区		
PT1240		19	15	E－2区		
PT1241	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 3 が20%、10YR 3 / 2 が10%まじる。しまりなし。	22	27.5	E－2区		
PT1242	10YR 3 / 2 に10YR 3 / 3 が20%、10YR 4 / 3 が10%まじる。ややしまる。	18	17	E－2区		
PT1243	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 2 が10%、10YR 4 / 3 が10%まじる。ややしまる。	31	27.5	E－2区		
PT1244	10YR 2 / 2 に10YR 4 / 2 が10%、10YR 4 / 3 が10%まじる。しまりなし。	12	16	E－2区		土器片
PT1245	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 4 が20%、10YR 4 / 2 が10%まじる。ややしまる。	23	19	E－2区		
PT1246	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 2 が10%、10YR 4 / 3 が10%まじる。しまる。	25	44	104号住内		
PT1247	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 3 が20%まじる。しまりなし。	20	7	E－2区		
PT1248	10YR 3 / 2 に10YR 4 / 3 が20%、10YR 2 / 2 が５%まじる。ややしまる。	25	18	E－2区		土師器片
PT1249		23	17	E－2区		
PT1250	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 3 が20%、10YR 4 / 2 が10%、炭化物粒子１%まじる。固くしまる。	29	8	E－2区		
PT1251	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 3 が20%、10YR 4 / 2 が10%、焼土粒子１%、炭化物粒子１%まじる。固くしまる。	27	10	E－2区		
PT1252	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 3 が20%、10YR 4 / 2 が10%、焼土粒子１%、炭化物粒子１%まじる。固くしまる。	25	7	E－2区		
PT1253	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 3 が20%、10YR 4 / 2 が10%、焼土粒子１%、炭化物粒子１%まじる。固くしまる。	30	13	E－2区		
PT1254	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 3 が20%、10YR 4 / 2 が10%まじる。ややしまる。	30	14	E－2区		
PT1255	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 3 が20%、10YR 4 / 2 が10%、焼土粒子１%まじる。固くしまる。	29	13	E－2区		
PT1256	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 2 が20%、10YR 4 / 3 が10%、焼土粒子１%、炭化物粒子１%まじる。固くしまる。	23	10	E－2区		
PT1257	10YR 3 / 3 に10YR 4 / 2 が20%まじる。ややしまる。	24	5	E－2区		縄文土器片
PT1258	10YR 4 / 3 に10YR 3 / 3 が10%まじる。ややしまる。	16	22	E－2区		
PT1259	10YR 4 / 3 に10YR 3 / 3 が10%まじる。固くしまる。	20	11	E－2区		
PT1260	10YR 4 / 3 に10YR 3 / 3 が20%、炭化物粒子１%まじる。ややしまる。	23×18	11	101号住内	床面下で検出	甲斐型坏片
PT1261	10YR 3 / 2 に10YR 4 / 2 が30%、焼土粒子１%まじる。ややしまる。	30	6	101号住内	不明	
PT1263	10YR 4 / 2 に10YR 4 / 3 が10%まじる。ややしまる。	8	3.5	101号住内	不明	

遺構番号	覆土色	大きさ	深さ	位置		備考（遺物など）
PT1264		28	23	97号住内	床面下で検出	
PT1265		28	21	97号住内	床面下で検出	
PT1266	10YR４/３に10YR４/２が20%まじる。ややしまる。	7	33	105号住内	床面上で検出	
PT1267	10YR４/３に10YR４/２が20%、10YR３/３が10%、炭化物粒子３%まじる。ややしまる。	26×20	19	102号住内	床面上で検出	
PT1268	7.5YR３/４に7.5YR２/３が10%、7.5YR３/２が10%、焼土粒子２%まじる。ややしまる。	27×24	20	107号住内		
PT1269	10YR３/３に10YR４/２が20%、10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	16	17	107号住内		
PT1270	10YR３/３に10YR４/２が10%、10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	16	30	107号住内		
PT1271	10YR４/３に10YR４/２が20%、10YR４/４が10%、焼土粒子３%、炭化物粒子１%まじる。しまる。	8	49.5	106号住内	床面下で検出	
PT1272	10YR４/３に10YR４/２が20%、10YR３/３が10%まじる。固くしまる。	30	11	106号住内	床面下で検出	
PT1273	10YR３/２に10YR２/２が10%、10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	15	7.5	26号掘立		
PT1274	10YR３/２に10YR４/３が10%、10YR２/２が10%まじる。ややしまる。	15	9	26号掘立		
PT1275	10YR３/２に10YR４/３が20%まじる。ややしまる。	31×37	10	26号掘立		
PT1276	10YR３/２に10YR２/２が20%、10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	19	7	26号掘立		
PT1277	10YR３/２に10YR２/２が20%、10YR４/３が10%まじる。固くしまる。	15.5	4	Ｅ－２区		
PT1278	10YR３/２に10YR２/２が20%まじる。固くしまる。	22	16	26号掘立		
PT1279	10YR３/２に10YR２/２が10%、10YR４/３が10%まじる。しまる。	24	23	26号掘立		土器片
PT1280	10YR４/３に10YR４/２が10%まじる。しまる。	28	3	Ｅ－２区		
PT1281	10YR４/３に10YR３/３が20%まじる。ややしまる。	24	70	105号住内	床面下で検出	
PT1282	10YR３/２に10YR４/２が20%、10YR４/３が５%まじる。ややしまる。	44	14.5	105号住内	床面下で検出	
PT1283	10YR４/３に10YR４/２が10%、炭化物粒子３%まじる。ややしまる。	44	45	105号住内	床面下で検出	
PT1284	10YR３/３に10YR４/３が20%、炭化物粒子５%まじる。ややしまる。	33	15	119号住内	床面で検出	
PT1285	10YR３/３に10YR４/２が20%、炭化物粒子３%まじる。ややしまる。	35	9	119号住内	床面で検出	
PT1286	10YR２/２に10YR３/２が20%、10YR４/４が10%、焼土粒子２%まじる。ややしまる。	38	17	112号住内	床面で検出	
PT1287	10YR４/２に10YR４/３が20%、10YR３/３が10%まじる。しまる。	23.5	60	112号住内	床面で検出	
PT1288	10YR５/６に10YR４/６が20%まじる。しまる。	28	25	縄文２号住内	床面で検出	
PT1289	10YR５/６に10YR４/６が20%まじる。しまる。	28	24	縄文２号住内	床面で検出	
PT1290	10YR５/６に10YR４/６が20%まじる。しまる。	44	26	縄文２号住内	床面で検出	
PT1291	10YR４/４に10YR３/２が20%、炭化物粒子１%まじる。非常に固くしまる。	23×21	18	108号住内	床面下で検出	
PT1292	10YR３/２に10YR５/４が10%、炭化物粒子20%まじる。固くしまる。	24×23	23	108号住内	床面下で検出	
PT1294	10YR３/２に10YR４/６が10%、焼土粒子５%、炭化物粒子20%まじる。しまる。	24×21	16	114号住内	床面で検出	
PT1295	10YR２/３に10YR４/４が10%まじる。ややしまる。	36×28	18	108号住内	床面下で検出	
PT1296	10YR５/４に10YR５/６が20%まじる。固くしまる。	42	5	102号住内	床面下で検出	
PT1297	10YR３/２に10YR３/３が20%まじる。ややしまる。	17×22	20	108号住内	床面下で検出	
PT1298	10YR４/４に10YR４/３が30%まじる。固くしまる。	22	9	109号住内	床面下で検出	
PT1299	10YR４/４に10YR３/３が10%まじる。ややしまる。	30	7	109号住内	床面下で検出	
PT1300	10YR４/４に10YR４/３が20%まじる。ややしまる。	20	6	109号住内	床面下で検出	
PT1301	10YR４/４に10YR４/６が20%まじる。しまる。	30	40	109号住内	床面下で検出	
PT1302	7.5YR３/４に7.5YR２/３が20%、焼土粒子３%まじる。ややしまる。	38	13	109号住内	床面下で検出	
PT1303	10YR３/３に10YR３/４が20%、10YR４/３が５%、焼土粒子３%まじる。ややしまる。	45×33	20	109号住内	床面下で検出	
PT1304	10YR３/４に10YR４/３が30%、まじる。しまる。	39	12	109号住内	床面下で検出	
PT1305	10YR４/３に10YR３/３が10%まじる。しまる。	31	11	107号住内	床面下で検出	
PT1306	10YR３/３に10YR３/２が10%、10YR４/３が10%、焼土粒子１%まじる。ややしまる。	43	7	113号住内	床面で検出	
PT1307	10YR３/３に10YR４/３が20%、10YR２/２が５%、焼土粒子２%、炭化物粒子１%まじる。ややしまる。	49	17	113号住内	床面で検出	
PT1308	10YR３/３に10YR３/４が20%、10YR４/３が10%、焼土粒子１%まじる。固くしまる。	35	14.5	114号住内	床面下で検出	PT1309を切る
PT1309	10YR３/３に10YR３/２が20%、焼土粒子１%まじる。固くしまる。	39	11	114号住内	床面下で検出	PT1308に切られる
PT1310	10YR３/３に10YR４/３が20%、10YR３/２が10%まじる。ややしまる。	25×20	10	114号住内	床面下で検出	
PT1311	10YR３/３に10YR４/３が30%まじる。ややしまる。	20	4	114号住内	床面下で検出	
PT1312	10YR４/３に10YR３/３が20%まじる。ややしまる。	28×36	18	114号住内	床面下で検出	
PT1313	10YR２/３に10YR３/３が20%、10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	22	5	Ｅ－２区		
PT1314	10YR２/３に10YR３/２が20%まじる。ややしまる。	19	6	Ｅ－２区		
PT1315	10YR３/２に10YR３/３が20%まじる。ややしまる。	16	19	114号住内	床面下で検出	
PT1316	10YR２/２に10YR４/４が２%、焼土が１%まじる。固くしまる。	49	4	113号住内	床面で検出	上面に人頭大の礫あり
PT1317	10YR３/４に10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	45×41	39	117号住内	床面で検出	
PT1318	10YR３/３に10YR４/３が10%まじる。しまりなし。	46	30	117号住内	床面で検出	
PT1319	10YR３/３に10YR２/３が10%、10YR４/３が10%まじる。しまる。	20	37	117号住内	床面で検出	
PT1320	10YR３/３に10YR２/３が30%、10YR４/２が５%まじる。しまる。	20	38	117号住内	床面で検出	
PT1321	10YR３/３に10YR３/２が30%、10YR４/３が10%まじる。固くしまる。	18×20	24	Ｅ－２区		
PT1322	10YR３/３に10YR４/３が20%、10YR３/２が10%まじる。しまりなし。	20	40	115号住内	床面下で検出	
PT1323	10YR４/３に10YR３/３が20%、焼土粒子１%まじる。しまる。	48	9	116ｂ号住内	床面下で検出	
PT1324	10YR３/３に10YR４/３が20%まじる。固くしまる。	45	8	116ｂ号住内	床面下で検出	
PT1325	10YR３/３に10YR３/２が30%、10YR４/３が10%まじる。固くしまる。	38×22	21	Ｅ－２区		
PT1326	10YR３/３に10YR４/２が20%、10YR３/２が10%まじる。固くしまる。	23×18	12	Ｅ－２区		

遺構番号	覆土色	大きさ	深さ	位置		備考（遺物など）
PT1327	10YR３/３に10YR４/３が20%、10YR４/２が10%まじる。しまりなし。	26×16	22	115号住内	床面下で検出	
PT1328	10YR３/３に10YR４/２が20%、10YR４/３が10%まじる。ややしまる。	15	18	E－２区		
PT1329	10YR３/３に10YR４/３が30%、焼土粒子１%、炭化物粒子１%まじる。固くしまる。	21	6	118号住内	床面で検出	
PT1330	10YR３/３に10YR４/３が10%、炭化物粒子１%まじる。ややしまる。	17	48	118号住内	床面で検出	
PT1331	10YR３/３に10YR３/２が20%、10YR４/２が10%まじる。ややしまる。	20	26	118号住内	床面で検出	
PT1332	10YR３/３に10YR３/２が30%、炭化物粒子１%まじる。ややしまる。	25	51	118号住内	床面で検出	
PT1333	10YR４/４に7.5YR３/４が20%、10YR５/４が20%、焼土粒子20%まじる。ややしまる。	44	11	117号住内	床面下で検出	
PT1334	10YR４/３に10YR４/２が20%、10YR３/３が10%まじる。ややしまる。	32	48	120号住内	床面で検出	120号住の柱穴
PT1335	10YR３/３に10YR４/２が20%まじる。ややしまる。	19	59	118号住内	床面で検出	118号住の柱穴
PT1336	10YR４/３に10YR３/３が10%まじる。しまりなし。	25	45	120号住内	床面で検出	120号住の柱穴
PT1337	10YR３/３に10YR４/３が30%まじる。ややしまる。	29	46	120号住内	床面で検出	120号住の柱穴
PT1338	10YR３/３に10YR４/３が20%、10YR３/２が５%まじる。ややしまる。	26	26	118号住内	床面で検出	118号住の柱穴
PT1339	10YR４/３に10YR４/２が30%、10YR４/４が10%まじる。しまりなし。	36	47	120号住内	床面で検出	120号住の柱穴
PT1341	10YR４/３に10YR３/３が20%まじる。ややしまる。	16	8	118号住内	床面下で検出	底面に礫
PT1342	10YR３/３に10YR４/３が20%、10YR４/２が10%まじる。ややしまる。	21	14	118号住内	床面下で検出	
PT1343	10YR４/３に10YR４/２が20%まじる。しまりなし。	26	54	118号住内	床面で検出	118号住の柱穴
PT1344	10YR３/３に10YR４/４が10%、炭化物粒子１%まじる。固くしまる。	25	19	27号掘立		
PT1345	10YR４/３に10YR５/６が10%、炭化物粒子１%まじる。固くしまる。	23	10	27号掘立		
PT1346	10YR４/２に10YR４/４が10%、焼土粒子１%、炭化物粒子１%まじる。固くしまる。	30	28	27号掘立		
PT1347	10YR４/２に10YR３/４が10%、焼土粒子１%まじる。固くしまる。	26	17	27号掘立		
PT1348	10YR３/２に10YR５/４が10%、炭化物粒子１%まじる。固くしまる。	24	22	27号掘立		
PT1349	10YR３/２に10YR４/３が10%、炭化物粒子１%まじる。固くしまる。	19	15	27号掘立		
PT1350	10YR３/１に10YR４/３が10%、焼土粒子１%、炭化物粒子１%まじる。固くしまる。	21	17	27号掘立		
PT1351	10YR４/２に10YR４/３が10%、炭化物粒子１%まじる。固くしまる。	18	14	27号掘立		
PT1352	10YR３/２に10YR５/４が20%まじる。非常に固くしまる。	18	11	E－２区		
PT1353	10YR４/２に10YR５/４が10%まじる。非常に固くしまる。	20	5	E－２区		
PT1354	10YR３/２に10YR５/４が10%、炭化物粒子１%まじる。固くしまる。	19	14	E－２区		PT1355を切る
PT1355	10YR３/２に10YR５/４が10%、焼土粒子５%まじる。非常に固くしまる。	23	11	E－２区		PT1354に切られる
PT1356	10YR５/４に10YR６/４が20%、炭化物粒子２%、固くしまる。	31×27	24	縄文３号住内	床面で検出	縄文３号住の柱穴
PT1357	10YR５/４に10YR６/４が20%まじる。しまる。	31×30	31	縄文３号住内	床面で検出	縄文３号住の柱穴
PT1358	10YR５/３に10YR５/６が10%、炭化物粒子１%まじる。しまる。	51×54	61	縄文３号住内	床面で検出	縄文３号住の柱穴
PT1359	10YR５/３に10YR６/６が20%、炭化物粒子２%まじる。しまる。	33×31	29	縄文３号住内	床面で検出	縄文３号住の柱穴
PT1360	10YR５/３に10YR６/４が20%、炭化物粒子１%まじる。しまる。	28×24	26	縄文３号住内	床面で検出	縄文３号住の柱穴
PT1361	10YR５/３に10YR５/４が10%、炭化物粒子１%まじる。しまる。	31×23	24	縄文３号住内	床面で検出	縄文３号住の柱穴
PT1362	10YR３/３に10YR４/４が20%まじる。しまる。	28	26	E－２区		縄文４号住を切る、底面固くしまる
PT1363	10YR５/４に10YR４/４が10%まじる。固くしまる。	37	31	縄文４号住内	床面で検出	
PT1364	10YR５/４に10YR５/６が10%まじる。固くしまる。	40×36	17	縄文４号住内	床面で検出	
PT1365	10YR５/４に10YR５/６が10%、炭化物粒子１%まじる。しまる。	35	77	縄文４号住内	床面で検出	縄文４号住の柱穴
PT1366	10YR５/４に10YR５/６が10%まじる。しまる。	36	87	縄文４号住内	床面で検出	縄文４号住の柱穴
PT1367	10YR４/４に7.5YR４/４が20%、焼土粒子２%、炭化物粒子２%まじる。しまる。	32	74	縄文４号住内	床面で検出	縄文４号住の柱穴
PT1368	10YR５/４に10YR４/６が10%、炭化物粒子１%まじる。しまる。	28	44	118号住内	床面下で検出	
PT1369	10YR４/４に10YR５/６が20%、炭化物粒子１%まじる。しまる。	36	73	縄文４号住内	床面で検出	縄文４号住の柱穴
PT1370		36	18	117号住内	床面下で検出	縄文４号住の柱穴
PT1371	10YR５/６に10YR４/６が20%、炭化物粒子１%まじる。しまる。	42	60	縄文４号住内	床面で検出	縄文４号住の柱穴
PT1372	10YR３/２に10YR５/６が10%、炭化物粒子１%まじる。しまる。	31	30	E－２区		
PT1373	10YR３/３に10YR４/４が20%、炭化物粒子１%まじる。しまる。	30	26	E－２区		
DK231	10YR３/２に10YR２/３が10%、10YR４/３が10%、焼土粒子10%、炭化物粒子10%まじる。ややしまる。	108×100	26	E－１区		
DK232	10YR３/３に10YR２/２が10%、10YR４/２が10%、焼土粒子５%、炭化物粒子３%まじる。ややしまる。	94	4	96号住内	床面で検出	土師器片
DK233	10YR３/４に10YR３/２が10%まじる。しまりなし。	53	12	E－１区		
DK234	10YR３/３に10YR４/６が10%、焼土が５～15㎜大で８%まじる。固くしまる。	85	5	100号住内	床面で検出	土師器片
DK235	10YR３/３に10YR２/２が10%、10YR４/３が10%、焼土粒子１%、炭化物粒子１%まじる。しまりなし。	97	11	100号住内	床面で検出	
DK236	10YR３/３に10YR４/３が20%、10YR４/４が10%、焼土粒子１%、炭化物粒子１%まじる。ややしまる。	70	15	100号住内	床面で検出	
DK237	10YR３/１に10YR３/２が20%、10YR４/３が20%まじる。ややしまる。	81	23	E－１区		土器片
DK238	10YR３/４に焼土が粒状～20㎜大で10%まじる。固くしまる。	59	24	97号住内	床面で検出	土師器片
DK239	10YR４/３に焼土粒子５%まじる。しまる。	144×68	22	97号住内	床面下で検出	丸鞆、土師器片
DK240	10YR４/３に10YR４/６が10%、焼土粒子10%まじる。固くしまる。	56	25	97号住内	床面下で検出	
DK245	10YR３/３に10YR４/２が10%、10YR３/２が10%まじる。ややしまる。	50	33	E－１区		土師器片
DK247	10YR３/３に10YR４/３が10%、炭化物粒子１%まじる。ややしまる。	74	6	E－１区		
DK250	10YR４/３に10YR２/３が30%、10YR４/６が10～20㎜大で５%、焼土が10㎜大で２%混じる。固くしまる。	82	15	110号住内	床面で検出	
DK251	10YR３/２に10YR４/２が20%、10YR２/２が10%まじる。ややしまる。	82	10	E－２区		
DK252	10YR４/３に10YR３/２が20%まじる。しまる。	66	19	E－２区		
DK253	10YR３/２に10YR４/２が10%、10YR２/２が10%、焼土粒子１%まじる。ややしまる。	53	10	E－２区		

遺構番号	覆土色	大きさ	深さ	位置		備考（遺物など）
DK254	10YR４／３に10YR３／２が10%まじる。ややしまる。	80	19	Ｅ－２区		
DK256	10YR３／４に10YR４／６が20%、焼土粒子10%、炭化物粒子10%まじる。ややしまる。	35	13	107号住内	床面で検出	
DK257	10YR３／３に10YR３／２が10%、10YR４／３が10%、10YR４／４が10%、焼土粒子１%まじる。しまる。	80	21	101号住内	床面下で検出	
DK259	10YR４／４に10YR４／３が20%、10YR４／２が10%まじる。しまる。	137	20	107号住内	床面下で検出	
DK261	10YR３／３に10YR４／３が20%、10YR４／２が10%まじる。しまる。	103	20	Ｅ－２区		
DK262	10YR３／３に10YR４／２が20%、10YR４／３が10%まじる。ややしまる。	64	33	Ｅ－２区		
DK263	10YR４／４に10YR５／６が30%まじる。しまる。	108×88	32	101号住内	床面下で検出	
DK265	10YR２／３に10YR３／４が30%、焼土10%、炭化物粒子５%まじる。しまる。	59	11	110号住内	床面で検出	土師器片
DK266	10YR２／３に10YR３／４が40%、焼土５%、炭化物粒子１%まじる。しまる。	79	14	110号住内	床面で検出	土師器片
DK267	10YR３／３に10YR４／２が10%、10YR３／２が５%焼土粒子１%まじる。ややしまる。	98×94	15	105号住内	床面下で検出	
DK268	10YR３／３に10YR４／２が20%、10YR４／４が５%焼土粒子３%まじる。固くしまる。	76	24	119号住内	床面で検出	
DK269	10YR３／２に10YR２／２が20%、10YR３／３が10%、焼土粒子３%まじる。ややしまる。	93×70	30	112号住内	床面で検出	
DK270	10YR３／２に10YR６／６が５%、焼土粒子５%まじる。しまる。	74×67	26	115号住内	床面で検出	
DK271	10YR４／４に10YR３／２が30%、焼土粒子３%、炭化物粒子１%まじる。しまる。	97×87	4	102号住内	床面で検出	甲斐型甕片
DK273	10YR２／３に10YR４／４が20%、焼土粒子３%、炭化物粒子２%まじる。ややしまる。	48×41	22	108号住内	床面下で検出	DK274を切る、甲斐型甕片
DK274	10YR２／３に10YR４／４が30%、焼土粒子２%、炭化物粒子１%まじる。しまる。	93×80	11	108号住内	床面下で検出	PT1295を切る、土師器片
DK275	10YR２／３に10YR４／６が30%、焼土粒子５%、炭化物粒子２%まじる。ややしまる。	62×44	10	108号住内	床面下で検出	DK276を切る、土師器甕片
DK276	10YR２／３に10YR４／６が30%、焼土粒子５%まじる。しまる。	35×28	15	108号住内	床面下で検出	DK275に切られる
DK277	10YR３／４に10YR４／４が30%、10YR２／３が10%、焼土粒子５%、炭化物粒子１%まじる。ややしまる。	88×50	6	107ｂ号住内	床面で検出	甲斐型甕片
DK278	10YR４／４に10YR３／４が30%まじる。ややしまる。	120×151	17	108号住内	床面下で検出	
DK279	10YR４／４に10YR５／４が20%まじる。しまりなし。	78	15	109号住内	床面下で検出	
DK280	10YR３／３に10YR３／２が20%、10YR４／４が５%まじる。しまる。	54	11.5	109号住内	床面下で検出	
DK281	10YR３／３に10YR４／３が20%、10YR３／２が５%まじる。しまる。	55	6.5	109号住内	床面下で検出	
DK282	10YR３／４に10YR４／３が30%、焼土粒子３%まじる。ややしまる。	75×48	13	109号住内	床面で検出	
DK283	10YR４／３に10YR３／４が30%まじる。ややしまる。	290×60	32	109号住内	床面下で検出	
DK284	10YR３／３に10YR４／３が20%、10YR４／５が５%まじる。ややしまる。	117	14	107号住内	床面下で検出	
DK285	10YR４／３に10YR３／３が10%、焼土粒子１%まじる。しまりなし。	64	13	107号住内	床面下で検出	
DK286	10YR４／４に10YR３／２が10%、焼土粒子５%、炭化物粒子１%まじる。固くしまる。	72	17	114号住内	床面で検出	甲斐型皿片
DK287	10YR３／３に10YR４／３が20%、10YR２／２が５%、焼土粒子２%、炭化物粒子２%まじる。しまる。	71	14	113号住内	床面で検出	
DK288	10YR４／３に10YR３／３が20%、10YR４／２が10%、焼土粒子15%、炭化物粒子３%まじる。しまる。	60	7	114号住内	床面で検出	
DK289	10YR４／３に10YR３／３が20%、焼土粒子５%まじる、かたくしまる。	133×100	10	114号住内	床面下で検出	
DK290	10YR２／３に10YR３／３が20%、10YR４／４が５%まじる。しまりなし。	60	20	114号住内	床面で検出	
DK291	10YR２／３に10YR３／４が10%、10YR２／２が10%、焼土粒子３%まじる。ややしまる。	86	9	114号住内	床面下で検出	
DK292	10YR２／３に10YR３／３が10%、10YR３／４が10%まじる。ややしまる。	45	20	117号住内	床面で検出	
DK293	10YR４／３に10YR４／４が30%、焼土粒子20%、炭化物粒子10%まじる。しまる。	85	23	117号住内	床面で検出	甲斐型坏・甕片
DK294	10YR３／４に10YR４／３が20%、焼土粒子50%まじる。しまる。	60	8	116ｂ号住内	床面下で検出	
DK295	10YR４／３に10YR４／４が30%、炭化物粒子１%まじる。しまる。	60	15	116ｂ号住内	床面下で検出	
DK296	10YR３／３に10YR４／３が20%、10YR４／２が10%まじる。しまる。	81	23	Ｅ－２区		
DK298	10YR３／４（暗褐に10YR４／３が１%、焼土・炭化物粒子１%まじる。固くしまる。	40	9	118号住内	床面で検出	上層固くしまる
DK299	10YR４／３に10YR３／３が20%まじる。ややしまる。	51	23	117号住内	床面下で検出	
DK300	7.5YR４／４に7.5YR４／３が20%、焼土粒子50%まじる。ややしまる。	54	12	117号住内	床面で検出	
DK301	7.5YR３／３に7.5YR４／３が30%、焼土粒子50%まじる。しまりなし。	79	15	117号住内	床面で検出	
DK303	10YR３／３に10YR４／２が10%、10YR４／３が20%、焼土粒子３%まじる。しまりなし。	63	9	120号住内	床面で検出	
DK304	10YR３／３に7.5YR３／４が20%、10YR４／３が10%、焼土粒子10%、炭化物粒子２%まじる。しまりなし。	92	24	120号住内	床面で検出	
DK305	10YR４／３に10YR３／３が20%、10YR４／２が10%、焼土粒子10%、炭化物粒子２%まじる。ややしまる。	90	13	120号住内	床面で検出	
DK306	10YR３／３に10YR４／３が20%、10YR４／２が10%、焼土粒子２%、炭化物粒子２%まじる。ややしまる。	53	10	120号住内	床面で検出	
DK307	10YR４／３に10YR４／２が10%、10YR３／３が10%、焼土粒子３%、炭化物粒子１%まじる。ややしまる。	72×43	11	120号住内	床面で検出	
DK308	10YR３／３に10YR４／３が20%、10YR３／２が10%まじる。ややしまる。	128	18	118号住内	床面で検出	
DK309	10YR３／３に10YR３／２が30%、10YR４／４が10%、焼土粒子１%、炭化物粒子１%まじる。しまる。	54	30	120号住内	床面で検出	
DK310	10YR４／３に10YR３／３が30%、10YR４／２が10%、焼土粒子１%まじる。ややしまる。	73	11	118号住内	床面で検出	
DK311	7.5YR３／３に10YR４／２が20%、7.5YR４／３が10%、焼土粒子10%まじる。	74×96	11	118号住内	床面で検出	上面に焼土が堆積
DK312	10YR３／３に10YR４／４が20%、10YR５／６が10%、炭化物粒子10%まじる。固くしまる。	61×51	7	120号住内	床面下で検出	
DK313	10YR４／３に10YR３／２が10%、10YR５／４が10%固くしまる。	53×51	5	120号住内	床面下で検出	
DK314	10YR４／４に10YR３／３が10%焼土粒子１%、炭化物粒子１%まじる。固くしまる。	87	32	121号住内	床面下で検出	
DK316	10YR４／３に10YR５／６が10%、炭化物粒子３%まじる。しまる。	155×116	16	Ｅ－２区		DK317を切る
DK317	10YR４／３に10YR６／６が10%、炭化物粒子１%まじる。しまる。	137×136	18	Ｅ－２区		DK316に切られる、縄文土器片
DK319	7.5YR４／４に10YR５／４が10%、焼土粒子３%、炭化物粒子１%まじる。しまる。	83×71	19	縄文４号住内		縄文４号住を切る、弥生土器片
DK321	7.5YR５／６に10YR６／６が10%。固くしまる。	50	20	縄文４号住内		縄文４号住を切る
DK323	10YR５／４に7.5YR５／６が10%まじる。固くしまる。	69×67	38	縄文４号住内		縄文４号住を切る、縄文土器片
DK324	7.5YR４／４に10YR６／６が10%まじる。焼土粒子１%、炭化物粒子１%まじる。固くしまる。	74×80	27	縄文４号住内		縄文４号住を切る
DK325	５YR４／４に7.5YR５／４が10%まじる。焼土粒子１%、炭化物粒子１%まじる。固くしまる。	154×110	30	縄文４号住内		縄文４号住、DK326を切る、縄文土器片
DK326	５YR４／３に7.5YR５／４が10%、焼土粒子１%まじる。固くしまる。	87	33	縄文４号住内		DK325に切られる、縄文土器片

第５表　平安時代の土器・土製品一覧

図版番号	種　別	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土分類	胎土色調	残存度	重量(g)	胎土質、釉調、特徴、出土位置（特に記述のない場合は遺構覆土より出土している）
7図1	甲斐型	甕	27.2				7.5YR4/3	1/2	370	鉱物粒子、雲母粒子、赤色粒子が混じる粗くざらつく胎土、DK232より出土
7図2	土師器	坏	11.6	3.6	5.8		2.5Y6/2	1/3	97	内面黒色処理、ミガキ
10図1	土師器	坏	12.8	3.8	5.1	88	2.5Y7/3	完形	146	内面黒色処理、ミガキ、正位「目」墨書あり、床面より出土
10図2	甲斐型	皿	13.4	2.2	4.3	8	7.5YR6/4	完形	120	底部回転ヘラケズリ、正位「倭」墨書あり、床面より出土
11図2	甲斐型	皿	14.0	2.3	5.0	8	10YR6/6	小破片	15	底部回転ヘラケズリ
11図3	甲斐型	皿	13.4	2.5	5.6	8	7.5YR7/6	1/3	60	底部回転ヘラケズリ、床下より出土
11図4	甲斐型	皿	14.0			5	7.5YR6/4	小破片	15	回転ヘラケズリ、PT1177より出土
12図1	甲斐型	皿	13.6			8	5YR5/6	小破片	50	
12図2	甲斐型	甕	31.6				7.5YR4/3	小破片	106	鉱物粒子、雲母粒子が混じるざらつく胎土、DK239より出土
12図3	甲斐型	甕	30.0	39.5	9.0		7.5YR5/4	1/2	1070	鉱物粒子、雲母粒子が混じるざらつく胎土、カマド内より出土
12図4	甲斐型	甕	30.6				7.5YR5/4	1/3	330	鉱物粒子、雲母粒子が混じるざらつく胎土、カマド内より出土
12図5	甲斐型	甕	27.0				7.5YR5/8	小破片	82	鉱物粒子、雲母粒子が混じるざらつく胎土、カマド内より出土
12図6	甲斐型	甕	32.0				7.5YR6/8	小破片	77	鉱物粒子、雲母粒子が混じるざらつく胎土
12図7	甲斐型	甕			8.2		7.5YR5/4	1/3	194	鉱物粒子、雲母粒子が混じるざらつく胎土
12図8	甲斐型	甕	15.6				7.5YR4/4	小破片	46	鉱物粒子、雲母粒子が混じるざらつく胎土、カマド内より出土
13図1	甲斐型	甕	24.0				7.5YR6/6	小破片	110	鉱物粒子、雲母粒子が混じるざらつく胎土、DK238、239より出土
13図2	甲斐型	蓋	17.4	3.2	5.8	1	10YR4/4	完形	212	赤色粒子、白色粒子がまじる細かい胎土、底部回転ヘラケズリ、床面より出土
13図3	土師器	坏	14.4				10YR6/3	小破片	10	内面黒色処理、ミガキ、PT1177より出土
13図4	土師器	坏			5.0	88	10YR7/6	小破片	50	内面黒色処理、ミガキ、二次焼成、カマド内より出土
13図5	土師器	坏	15.6			88	10YR7/3	小破片	22	二次焼成、カマド内より出土
13図6	土師器	坏	12.4	3.9	4.6	88	10YR7/4	1/2	82	内面黒色処理、ミガキ
13図7	土師器	坏	15.6			88	10YR6/4	小破片	10	内面黒色処理、ミガキ
16図1	甲斐型	皿	17.6			1	5YR5/6	小破片	14	胴部下半手持ちヘラケズリ
16図2	甲斐型	甕	31.4				5YR5/4	1/3	460	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土
16図3	甲斐型	甕	32.6				5YR6/6	小破片	61	鉱物粒子、雲母粒子が混じる粗い胎土、カマド内より出土
16図4	土師器	坏	12.3			88	10YR7/3	小破片	10	内面黒色処理、ミガキ
16図5	甲斐型	甕	29.0				5YR5/6	小破片	55	鉱物粒子、雲母粒子が混じる粗い胎土
16図6	土師器	坏	13.3	4.4	5.4	88	2.5YR6/2	完形	150	内面黒色処理、ミガキ
16図7	土師器	坏	16.3			88	10YR8/4	小破片	8	内面黒色処理、ミガキ、二次焼成
17図1	甲斐型	甕			9.2		7.5YR6/6	1/2	410	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土
17図2	土師器	坏	15.6			88	10YR8/4	小破片	21	内面黒色処理、ミガキ、二次焼成
17図3	土師器	甕					5YR7/6	小破片	55	赤色粒子、白色粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土、ロクロ整形
17図4	土師器	甕	16.0				2.5YR6/8	1/2	320	鉱物粒子が混じる胎土、ロクロ整形
17図5	須恵器	壺					2.5Y6/2	小破片	12	鉱物粒子が混じる緻密で細かい胎土
18図1	甲斐型	坏	11.0	2.7	5.4	8	5YR6/8	1/3	34	
18図2	甲斐型	坏	11.2	3.5	5.6	8	7.5YR7/6	1/3	33	カマド内より出土
18図3	甲斐型	皿	9.6	1.7		5	7.5YR7/6	1/3	19	
18図4	灰釉陶器	皿	10.2				2.5Y7/1	小破片	2	緻密で細かい胎土、カマド内より出土
18図5	土師器	甕	14.0				7.5YR6/4	小破片	21	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土、外面縦位、内面横位、斜位ナデ、カマド内より出土
18図6	灰釉陶器	碗	15.4				2.5Y7/1	小破片	18	緻密で細かい胎土
20図1	甲斐型	坏	11.7	3.4	4.7	1	7.5YR6/6	完形	85	
20図2	甲斐型	坏	11.8	2.5	6.3	1	7.5YR6/6	1/2	72	
20図3	甲斐型	坏	11.6			8	7.5YR6/6	小破片	13	DK234より出土
20図4	土師器	坏			7.4	4	7.5YR7/6	小破片	30	内面黒色処理、胴部下半ヘラケズリ、底部糸切痕を残す
20図5	土師器	埦	15.8	5.3	6.8	2	5YR6/6	1/2	88	内面黒色処理、ミガキ、DK234より出土
20図6	土師器	甕？	10.8				10YR6/3	小破片	50	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや細かい胎土、胴部外面粗い縦位ヘラケズリ
20図7	灰釉陶器	碗	13.0				2.5Y6/3	小破片	5	緻密で細かい胎土
20図8	灰釉陶器	碗			7.9		2.5Y8/3	1/3	64	緻密で細かい胎土、見込部磨耗して平滑、転用硯として使用か
20図9	灰釉陶器	碗	16.0				5Y8/2	小破片	20	緻密で細かい胎土、灰釉付け掛け
22図3	甲斐型	坏	12.3	3.4	5.2	8	5YR7/6	完形	122	DK258より出土
22図4	甲斐型	坏	12.0			8	5YR6/6	小破片	15	緻密で細かい胎土、DK246より出土
22図5	甲斐型	坏	12.4			8	5YR6/6	小破片	32	
22図6	甲斐型	坏	13.0	3.7	6.2	8	5YR7/6	1/3	28	
22図7	甲斐型	坏	12.2			8	5YR6/6	小破片	19	PT1260より出土
22図8	甲斐型	坏				8	7.5YR7/6	小破片	6	墨書あり
22図9	灰釉陶器	壺	16.2				2.5Y7/2	小破片	10	緻密で細かい胎土
25図1	甲斐型	坏	13.2	4.5	3.9	1	7.5YR7/6	1/2	46	胴部逆位「仁」刻書あり
25図2	甲斐型	坏	13.6			8	5YR6/6	小破片	4	
25図3	甲斐型	坏	12.0			1	10YR6/6	小破片	9	
25図4	甲斐型	甕	25.5				5YR5/6	小破片	48	鉱物粒子、雲母粒子が混じるざらつく胎土、カマド内より出土
25図5	甲斐型	甕	24.0				5YR5/6	小破片	91	鉱物粒子、雲母粒子が混じる粗い胎土、カマド内より出土
25図6	甲斐型	甕	28.4				5YR4/6	小破片	216	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土、カマド内より出土
25図7	甲斐型	甕	28.0				5YR4/6	1/3	404	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土、カマド内より出土
25図8	甲斐型	甕			9.6		5YR5/6	1/3	165	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土、DK271より出土

図版番号	種　別	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土分類	胎土色調	残存度	重量(g)	胎土質、釉調、特徴、出土位置（特に記述のない場合は遺構覆土より出土している）
25図 9	土師器	皿	13.4	2.8	5.6	2	10YR 6 / 4	完形	168	内面ミガキ、カマド内より出土
25図10	土師器	坏	15.8			88	7.5YR 7 / 6	小破片	6	内面黒色処理、ミガキ
26図 1	土師器	甕	15.0				5 YR 6 / 8	1 / 2	244	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや細かい胎土、胴部外面カキメ
26図 2	土師器	坏	14.0			88	10YR 7 / 6	小破片	19	内面黒色処理、ミガキ
26図 3	甲斐型	甕			9.0		5 YR 5 / 6	小破片	22	鉱物粒子、雲母粒子がまじるやや粗い胎土
28図 1	灰釉陶器	段皿	12.6	2.5	7.0		2.5Y 6 / 3	完形	172	緻密で細かい胎土、付高台の作り粗雑、東山72号窯式
29図 1	甲斐型	坏	11.6	4.0	5.5	8	5 YR 6 / 6	完形	108	カマド内より出土
29図 2	甲斐型	坏	12.0	3.2	3.6	8	5 YR 5 / 6	1 / 3	39	カマド内より出土
29図 3	甲斐型	坏	12.2	4.0	3.8	2	7.5YR 6 / 8	1 / 2	45	糸切痕磨滅
29図 4	灰釉陶器	碗	14.0				2.5Y 6 / 2	小破片	6	緻密で細かい胎土、内面沈線一条、東山72号窯式
29図 6	灰釉陶器	碗	15.0	5.1	7.2		2.5Y 7 / 3	1 / 3	47	緻密で細かい胎土、見込部磨耗して平滑、転用硯として使用か
31図 1	土師器	埦	14.0	5.8	6.7	1	10YR 6 / 6	1 / 2	126	内面黒色処理、カマド内、DK255より出土
32図 1	甲斐型	坏	12.0	3.3	6.0	8	5 YR 5 / 6	1 / 3	31	カマド内より出土
32図 2	甲斐型	坏			6.4	1	7.5YR 7 / 8	1 / 3	64	カマド内より出土
32図 3	甲斐型	坏			7.0	1	7.5YR 6 / 6	小破片	21	
32図 4	甲斐型	坏	17.0			8	7.5YR 5 / 6	小破片	10	
32図 5	甲斐型	坏？				8	7.5YR 6 / 8	小破片	2	ヘラケズリ、墨書あり、坏胴部下半と思われる
32図 6	甲斐型	鉢	37.0				10YR 4 / 4	小破片	164	鉱物粒子、雲母粒子が混じる粗い胎土、カマド内より出土
32図 7	土師器	坏	13.4	4.4	6.4	88	10YR 7 / 6	完形	160	内面黒色処理、ミガキ、胴部下半ヘラケズリ、糸切痕を残す
32図 8	土師器	埦？	14.0			5	5 YR 6 / 8	小破片	50	内面暗文
32図 9	土師器	坏	15.0			2	5 YR 6 / 6	小破片	7	内面黒色処理、ミガキ
32図10	土師器	甕？					5 YR 5 / 8	小破片	53	鉱物粒子、雲母粒子が混じる粗い胎土
32図11	灰釉陶器	碗	15.8				2.5Y 7 / 2	小破片	10	緻密で細かい胎土
36図 1	甲斐型	皿	13.4	2.5	7.8	1	7.5YR 6 / 6	ほぼ完形	154	107ａ号住カマド内より出土
36図 2	甲斐型	坏	12.0			2	2.5YR 5 / 6	小破片	13	
36図 3	甲斐型	甕	30.0				5 YR 3 / 6	小破片	144	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土
36図 4	甲斐型	甕	30.0				5 YR 5 / 6	小破片	220	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土、107ａ号住カマド内より出土
36図 5	甲斐型	皿	14.0	1.9	10.0	1	7.5YR 6 / 6	小破片	14	胴部下半・底部手持ちヘラケズリ
36図 6	甲斐型	高台坏	15.8			1	7.5YR 6 / 6	小破片	24	胴部外面に横位ヘラミガキ、内面に暗文、胴部「十」墨書あり
36図 7	甲斐型	高台坏	15.8			1	7.5YR 6 / 6	小破片	36	胴部外面に横位ヘラミガキ、内面に暗文、胴部「十」墨書あり、DK277より出土
36図 8	甲斐型	甕			10.1		5 YR 5 / 6	1 / 2	610	鉱物粒子、雲母粒子が混じるややざらつく胎土、107ａ号住カマド内より出土
36図 9	甲斐型	高台坏			8.1	1	7.5YR 6 / 6	小破片	59	胴部外面横位ヘラミガキ、胴部内面・高台裏に暗文
36図10	土師器	坏	14.0			88	10YR 7 / 6	小破片	15	内面黒色処理、ミガキ
36図11	土師器	皿	12.8	2.8	4.8	88	7.5YR 7 / 6	1 / 2	106	内面ミガキ、底部糸切痕を残す
39図 1	甲斐型	皿	13.3	2.5	5.6	8	5 YR 6 / 6	完形	110	胴部逆位「山」墨書あり、底部回転ヘラケズリ、PT1293より出土
39図 2	甲斐型	皿			8.0	8	5 YR 7 / 6	1 / 2	68	底部に放射状の線刻あり
39図 3	甲斐型	坏			3.9	8	5 YR 7 / 6	小破片	16	内面放射状暗文
39図 4	甲斐型	坏			4.4	8	5 YR 6 / 6	小破片	15	カマド内より出土
39図 5	甲斐型	甕			8.8		10YR 3 / 4	小破片	51	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土
39図 6	甲斐型	甕			9.0		2.5YR 5 / 6	1 / 4	135	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土、カマド内より出土
39図 7	甲斐型	甕	27.6				5 YR 5 / 6	小破片	69	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土
39図 8	甲斐型	甕	27.0				5 YR 4 / 6	小破片	78	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土、カマド内より出土
40図 1	甲斐型	甕	28.0				5 YR 5 / 6	小破片	136	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土、カマド内より出土
40図 2	土師器	坏	12.3	3.8	5.3	88	10YR 7 / 6	完形	148	内面黒色処理、ミガキ、胴部刻書あり、カマド内より出土
40図 3	土師器	坏	13.6			88	10YR 7 / 4	小破片	15	内面黒色処理、ミガキ、カマド内より出土
40図 4	土師器	坏	13.0			88	10YR 6 / 4	小破片	15	内面黒色処理、内外面にミガキ
40図 5	甲斐型	坏・皿				8	5 YR 6 / 6	小破片	2	胴部墨書あり
40図 6	土師器	坏				88	10YR 7 / 6	小破片	8	内面黒色処理、ミガキ、胴部「十」墨書あり、口縁部破片
40図 7	土師器	甕	19.2				5 YR 7 / 6	1 / 3	180	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや細かい胎土、DK275より出土
40図 8	土師器	甕	16.0				7.5YR 7 / 6	1 / 3	55	鉱物粒子が混じるややざらつく胎土、外面カキメ、ロクロ整形、カマド内より出土
40図 9	土師器	甕	13.2	13.0	7.5		10YR 6 / 4	完形	258	鉱物粒子が混じるややざらつく胎土、外面カキメ、ロクロ整形、カマド内より出土
43図 1	甲斐型	坏	14.2	4.5	4.4	1	5 YR 7 / 6	1 / 2	93	カマド内・DK272より出土
43図 2	甲斐型	坏	13.0			8	5 YR 6 / 6	小破片	3	
43図 3	甲斐型	坏	12.0			8	7.5YR 7 / 6	小破片	4	
43図 4	甲斐型	坏	12.2			8	5 YR 6 / 6	小破片	3	
43図 5	甲斐型	坏	12.0			8	5 YR 7 / 6	小破片	3	
43図 6	甲斐型	坏	12.4			8	5 YR 6 / 6	小破片	3	カマド内より出土
43図 7	甲斐型	坏	12.2			8	5 YR 7 / 6	小破片	3	
43図 8	甲斐型	坏・皿				8	7.5YR 6 / 6	小破片	4	「乙」墨書あり
43図 9	甲斐型	甕	32.6				5 YR 4 / 6	小破片	362	鉱物粒子、雲母粒子が混じる粗い胎土、カマド内より出土
43図10	甲斐型	甕	33.0				5 YR 5 / 6	小破片	296	鉱物粒子、雲母粒子が混じる粗い胎土、カマド内より出土
43図11	甲斐型	甕	32.6				5 YR 5 / 6	小破片	316	鉱物粒子、雲母粒子が混じる粗い胎土、カマド内より出土
43図12	甲斐型	甕	30.0				5 YR 4 / 6	小破片	166	鉱物粒子、雲母粒子が混じる粗い胎土
43図13	土師器	坏	14.0			88	10YR 7 / 4	小破片	5	内面黒色処理、ミガキ
43図14	土師器	羽釜	26.0				7.5YR 6 / 6	小破片	66	鉱物粒子の多く混じる粗い胎土、床下より出土
44図 1	土師器	皿			6.4	2	5 YR 5 / 6	1 / 2	70	内面ミガキ

図版番号	種　別	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土分類	胎土色調	残存度	重量(g)	胎土質、釉調、特徴、出土位置（特に記述のない場合は遺構覆土より出土している）
44図 2	土師器	甕			6.4		7.5YR 7 / 6	1 / 3	122	鉱物粒子が混じるやや細かい胎土、外面カキメ、底部静止糸切痕、カマド内より出土
44図 3	須恵器	凸帯付壺					2.5YR 7 / 3	小破片	144	鉱物粒子が混じる細かい胎土、カマド内より出土
44図 4	須恵器	甕					2.5Y 7 / 3	小破片	166	緻密で細かい胎土、カマド内より出土
44図 5	須恵器	壺					2.5Y 7 / 3	小破片	61	鉱物粒子が混じる細かい胎土
44図 6	灰釉陶器	皿	15.0				2.5Y 6 / 1	小破片	6	緻密で細かい胎土
44図 7	灰釉陶器	皿	14.2	2.5	7.3		2.5Y 7 / 1	小破片	37	緻密で細かい胎土、付高台
46図 1	土師器	坏	12.5	4.0	5.4	88	10YR 6 / 4	完形	120	内面黒色処理、ミガキ、胴部逆位「金ヵ」墨書あり
46図 2	土師器	坏	12.8	4.0	6.2	88	10YR 6 / 6	1 / 3	36	内面黒色処理、ミガキ、胴部正位「目」墨書あり
46図 3	土師器	坏	12.8	4.5	5.8	88	7.5YR 6 / 6	1 / 2	100	内面黒色処理、ミガキ
46図 4	土師器	坏	13.2	4.0	6.0	88	7.5YR 6 / 4	1 / 2	70	内面黒色処理、ミガキ
46図 5	土師器	坏	12.9	4.2	5.3	88	10YR 5 / 4	1 / 2	92	内面黒色処理、ミガキ
46図 6	土師器	坏	14.4			88	7.5YR 6 / 6	小破片	22	ミガキ、二次焼成、DK265・266より出土
46図 7	土師器	坏	12.0			8	5 YR 5 / 8	小破片	5	DK265・266より出土
46図 8	土師器	耳皿			5.3	88	10YR 6 / 2	1 / 2	63	鉱物粒子が混じるやや粗い胎土、内・外面ともに黒色処理、外面はミガキがやや粗い
46図 9	甲斐型	甕	30.0				5 YR 4 / 3	1 / 4	324	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土
46図10	須恵器	壺					10YR 5 / 1	小破片	57	鉱物粒子が混じる細かい胎土、人為的に頸部を打ち欠いている
48図 2	土師器	小皿	9.2				7.5YR 4 / 6	小破片	14	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土
48図 3	土師器	甕			18.2		7.5YR 5 / 6	小破片	51	鉱物粒子が混じる粗い胎土
50図 1	甲斐型	坏	12.0			5	10YR 7 / 6	小破片	4	内面放射状暗文、床下より出土
50図 2	甲斐型	坏			6.0	5	7.5YR 7 / 6	小破片	11	胴部下半・底部手持ちヘラケズリ
50図 3	甲斐型	皿			5.0	8	2.5YR 6 / 6	小破片	7	内面渦巻状暗文、底部手持ちヘラケズリ
51図 1	甲斐型	皿	17.0	3.1	8.4	4	5 YR 6 / 6	1 / 3	75	胴部下半・底部手持ちヘラケズリ、胴部墨書あり
51図 2	甲斐型	甕			9.0		5 YR 4 / 6	1 / 4	178	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土、カマド内より出土
51図 3	甲斐型	甕	27.0				5 YR 4 / 6	小破片	61	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土、カマド内より出土
51図 4	甲斐型	甕	16.4				5 YR 4 / 4	小破片	23	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土
51図 5	甲斐型	甕	14.4				7.5YR 6 / 6	小破片	7	鉱物粒子が混じるやや細かい胎土、ロクロ整形
51図 6	甲斐型	甕	28.0				5 YR 4 / 6	1 / 4	372	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土、カマド内より出土
51図 7	土師器	坏	16.5	5.6	6.0	88	10YR 7 / 2	1 / 2	112	内面黒色処理、ミガキ、二次焼成、カマド内より出土
51図 8	甲斐型	甕			9.0		5 YR 5 / 4	小破片	162	鉱物粒子が混じるやや粗い胎土、ロクロ整形、二次焼成
51図 9	甲斐型	坏・皿				8	7.5YR 6 / 6	小破片	6	胴部墨書あり
51図10	甲斐型	坏・皿				8	5 YR 7 / 6	小破片	2	外面に墨書あり、胴部破片
51図11	甲斐型	坏				5	10YR 6 / 4	小破片	3	外面に墨書あり、ヘラケズリ、口縁部破片
51図12	甲斐型	坏・皿				8	7.5YR 7 / 6	小破片	1	外面に墨書あり、ヘラケズリ、胴部破片
54図 1	甲斐型	皿	13.0	2.7	8.1	1	5 YR 5 / 6	ほぼ完形	106	内面渦巻状暗文、見込の暗文密、胴部下半・底部手持ちヘラケズリ、胴部逆位「丈ヵ」墨書あり
54図 2	甲斐型	坏	12.8	3.6	6.8	1	5 YR 5 / 6	小破片	14	内面放射状暗文、胴部下半・底部手持ちヘラケズリ、カマド内より出土
54図 3	甲斐型	坏	12.2	3.9	6.4	8	7.5YR 6 / 4	小破片	13	内面放射状暗文、胴部下半・底部手持ちヘラケズリ
54図 4	甲斐型	坏	11.2	3.8	5.0	8	7.5YR 5 / 6	小破片	10	内面放射状暗文、胴部下半・底部手持ちヘラケズリ、カマド内より出土
54図 5	甲斐型	皿	13.6			8	5 YR 6 / 4	小破片	6	内面渦巻状暗文、胴部下半手持ちヘラケズリ
54図 6	甲斐型	坏	12.0	3.6	5.9	8	5 YR 5 / 4	1 / 3	32	内面放射状暗文、胴部下半・底部手持ちヘラケズリ、カマド内より出土
54図 7	甲斐型	蓋	18.4			8	5 YR 6 / 6	小破片	25	内面渦巻状暗文
54図 8	甲斐型	皿	12.6			4	5 YR 6 / 6	小破片	8	内面放射状暗文、胴部下半ヘラケズリ
54図 9	甲斐型	蓋	17.8			1	5 YR 6 / 6	小破片	6	内面渦巻状暗文
54図10	甲斐型	皿	12.2	1.8	4.8	8	5 YR 5 / 6	小破片	11	内面渦巻状？暗文、胴部下半・底部回転ヘラケズリ
54図11	甲斐型	蓋	15.2			1	7.5YR 6 / 6	小破片	9	内面渦巻状暗文
54図12	甲斐型	甕	24.6				7.5YR 4 / 6	小破片	136	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土、カマド内より出土
55図 1	甲斐型	甕	18.0				5 YR 4 / 3	小破片	56	鉱物粒子、雲母粒子が混じる粗い胎土
55図 2	甲斐型	甕	26.2				10YR 6 / 4	小破片	58	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土、カマド内より出土
55図 3	甲斐型	甕	31.6				7.5YR 5 / 4	小破片	136	鉱物粒子、雲母粒子が混じる粗い胎土
55図 4	土師器	坏	12.8	4.3	5.9	88	7.5YR 6 / 6	ほぼ完形	140	内面黒色処理、ミガキ
55図 5	土師器	坏	14.2			88	7.5YR 6 / 4	小破片	12	内面黒色処理、ミガキ、胴部墨書あり、カマド内より出土
55図 6	土師器	坏	13.6			88	5 YR 5 / 4	小破片	19	内面ミガキ、二次焼成により黒色処理が消失したものと思われる、カマド内より出土
55図 7	土師器	坏	14.2	5.6	6.0	88	10YR 7 / 4	1 / 2	156	内面黒色処理、ミガキ、胴部内面より穿孔、胴部墨書「金ヵ」あり
55図 8	土師器	甕			6.4		10YR 7 / 4	小破片	51	鉱物粒子、赤色粒子が混じるやや細かい胎土、ロクロ整形
55図 9	土師器	坏	14.6	4.2	7.4	88	7.5YR 6 / 4	1 / 4	36	内面黒色処理、ミガキ、二次焼成
55図10	土師器	甕	15.2				5 YR 5 / 3	小破片	21	鉱物粒子、雲母粒子、赤色粒子が多量に混じるやや粗い胎土
55図11	須恵器	壺					10YR 6 / 2	小破片	19	
55図12	須恵器	甕					10YR 4 / 1	小破片	214	自然釉
55図13	甲斐型	坏・皿				1	7.5YR 6 / 4	小破片	3	胴部墨書あり、胴部破片
55図14	灰釉陶器	壺	9.8				10YR 7 / 2	小破片	9	
56図 1	灰釉陶器	壺					2.5Y 7 / 2	小破片	400	
57図 1	土師器	鉢	33.0				10YR 6 / 4	小破片	122	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや細かい胎土、外面縦ハケメ、内面横ハケメ
57図 2	土師器	鉢					7.5YR 6 / 4	小破片	17	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや細かい胎土、床下より出土
60図 1	甲斐型	坏	16.0			8	7.5YR 7 / 6	小破片	7	胴部下半手持ちヘラケズリ、床下より出土
60図 2	甲斐型	坏	14.0			1	5 YR 7 / 6	小破片	5	
60図 3	甲斐型	坏	17.2			1	10YR 7 / 6	小破片	2	
60図 4	甲斐型	坏	12.6			8	7.5YR 7 / 6	小破片	7	胴部下半手持ちヘラケズリ

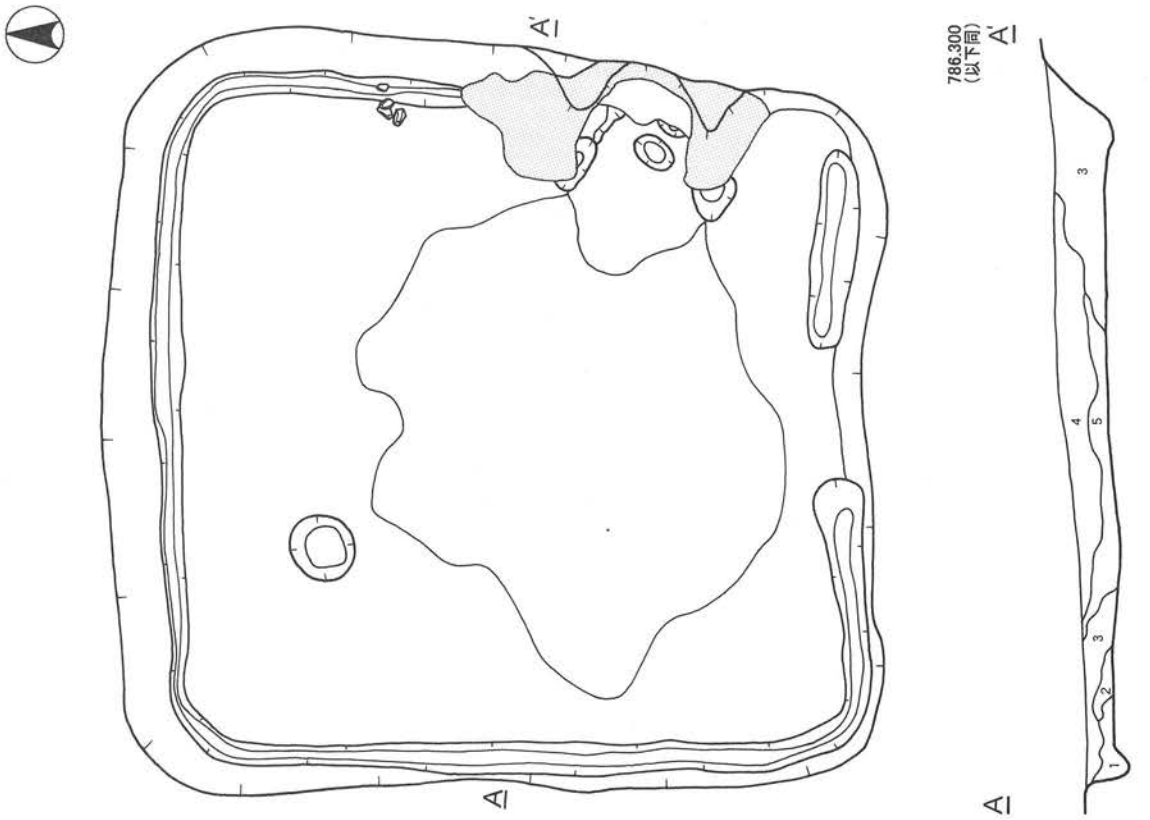
図版番号	種　別	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土分類	胎土色調	残存度	重量(g)	胎土質、釉調、特徴、出土位置（特に記述のない場合は遺構覆土より出土している）
60図5	甲斐型	坏	16.2			8	7.5YR6/4	小破片	5	内面黒色処理
60図6	甲斐型	坏	14.2			8	2.5YR5/6	小破片	5	
60図7	甲斐型	坏			4.6	1	7.5YR7/6	1/3	21	胴部下半手持ちヘラケズリ、底部糸切痕を残す
60図8	甲斐型	皿	12.8	2.5	4.6	8	5YR5/6	ほぼ完形	78	胴部下半・底部手持ちヘラケズリ、カマド内より出土
60図9	甲斐型	皿	13.6	2.5	5.0	1	7.5YR7/6	1/3	18	胴部下半・底部手持ちヘラケズリ
60図10	甲斐型	坏	12.8	3.3	5.3	8	2.5YR6/6	ほぼ完形	102	
60図11	甲斐型	甕			6.6		5YR6/6	小破片	32	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土
61図1	甲斐型	坏・皿				1	7.5YR6/6	小破片	6	胴部破片、墨書あり
61図2	甲斐型	坏・皿				1	5YR7/6	小破片	5	胴部破片、墨書あり
61図3	土師器	坏				88	7.5YR7/6	小破片	3	口縁部破片、内面黒色処理、ミガキ、墨書あり
61図4	甲斐型	坏・皿				1	10YR7/4	小破片	4	口縁部部破片、墨書あり
61図5	甲斐型	坏・皿				1	5YR6/6	小破片	6	胴部破片、墨書あり
61図6	土師器	坏	12.2			6	7.5YR5/4	小破片	11	鉱物粒子が多く混じる
61図7	須恵器	甕			20.8		2.5Y7/3	小破片	302	
61図8	須恵器	甕	36.4				2.5Y6/3	小破片	64	自然釉
61図9	灰釉陶器	壺	17.2				2.5Y7/2	小破片	28	
61図10	灰釉陶器	碗	19.4				2.5Y7/2	小破片	18	
61図12	灰釉陶器	壺					2.5Y7/3	小破片	25	
64図1	甲斐型	坏	11.1	4.1	5.3		5YR6/6	ほぼ完形	82	内面放射状暗文、胴部下半・底部手持ちヘラケズリ
64図2	甲斐型	坏	11.8			8	7.5YR6/6	小破片	11	胴部下半ヘラケズリ、DK293より出土
64図3	甲斐型	甕	21.6				5YR5/6	小破片	36	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土、カマド内から出土
64図4	甲斐型	甕	22.0				5YR5/4	小破片	23	鉱物粒子、雲母粒子が混じる粗い胎土
64図5	甲斐型	甕	26.0				5YR4/6	小破片	114	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土、カマド内から出土
64図6	甲斐型	甕	25.2				5YR4/6	小破片	218	鉱物粒子、雲母粒子が多く混じる粗い胎土、カマド内から出土
64図7	甲斐型	甕	16.2				2.5YR5/6	小破片	21	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土、DK293より出土
64図8	甲斐型	甕	15.4				2.5YR5/6	小破片	15	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土、DK293より出土
64図9	甲斐型	甕			7.5		2.5YR5/6	1/3	138	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土、カマド内より出土
64図10	甲斐型	甕			8.4		5YR6/6	小破片	94	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土、カマド内より出土
65図1	土師器	甕			5.0		10YR7/4	1/3	81	鉱物粒子が混じるやや粗い胎土、ロクロ整形
65図2	土師器	甕	14.0				5YR5/4	小破片	8	鉱物粒子が混じるやや細かい胎土、ロクロ整形
65図3	土師器	甕	13.0	13.0	7.4		10YR6/4	ほぼ完形	308	鉱物粒子が混じるやや細かい胎土、ロクロ整形、カマド内、DK293より出土
69図1	土師器	小皿	9.4	2.0	4.5		5YR5/4	完形	69	雲母粒子が混じる細かい胎土
69図2	土師器	小皿	9.6	2.3	5.4		10YR5/4	ほぼ完形	100	雲母粒子が多く混じるやや細かい胎土
69図3	土師器	皿？			5.4		2.5YR5/4	小破片	14	鉱物粒子が混じるやや細かい胎土、見込に鉄滓付着、坩堝として使用か
69図4	土師器	小皿	10.0	2.9	5.4		10YR6/4	小破片	12	雲母粒子が混じるやや細かい胎土
69図5	土師器	坏・皿			6.0		5YR6/6	小破片	28	雲母粒子が混じる細かい胎土、脚高高台坏・皿
69図6	土師器	甕			13.5		10YR6/4	1/3	440	鉱物粒子が混じる細かい胎土、雲母粒子は混じらない
69図7	土師器	甕？	16.0				10YR8/3	小破片	92	鉱物粒子が混じる細かい胎土
69図8	土師器	羽釜					7.5YR7/6	小破片	114	鉱物粒子が混じるやや粗い胎土、摘み状把手
69図9	土師器	羽釜	24.0				10YR7/4	小破片	208	鉱物粒子が混じる細かい胎土
69図10	須恵器	甕					7.5YR5/1	小破片	20	
69図11	灰釉陶器	碗	17.0				2.5Y7/2	小破片	7	
69図12	灰釉陶器	碗	16.0				2.5Y7/1	小破片	3	内面沈線1条
71図1	土師器	甕？			16.0		5YR5/6	小破片	73	鉱物粒子が混じる粗い胎土、底部に木葉痕あり
71図2	土師器	甕					5YR5/4	小破片	34	鉱物粒子が混じる粗い胎土、1－1と同一個体か
73図1	土師器	小皿	9.6	2.3	4.6		7.5YR6/4	完形	86	雲母粒子が混じるやや粗い胎土、内面に漆紙と思われる付着物あり
74図1	土師器	不明					10YR6/4	小破片	49	雲母粒子が混じるやや粗い胎土
74図2	土師器	坏・皿			5.2		5YR4/6	1/2	44	雲母粒子が混じる細かい胎土
74図3	土師器	小皿	10.0	2.4	5.2		7.5YR6/4	ほぼ完形	104	雲母粒子が混じるやや細かい胎土
74図4	土師器	甕？			14.0		5YR5/6	小破片	100	鉱物粒子が混じる粗い胎土、外面横位ヘラケズリ
74図5	土師器	羽釜	28.8				10YR7/4	小破片	118	鉱物粒子が混じるやや細かい胎土、内外面横位ナデ
74図6	土師器	甕	29.8				5YR5/6	小破片	316	鉱物粒子が混じる粗い胎土
74図7	土師器	羽釜	27.2				5YR5/6	小破片	379	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや粗い胎土
74図8	土師器	羽釜	29.6				10YR8/4	1/4	650	鉱物粒子が混じるやや粗い胎土
74図9	土師器	羽釜	29.6				10YR8/4	小破片	64	鉱物粒子、雲母粒子が混じる粗い胎土
74図10	土師器	羽釜	25.3				5YR5/4	小破片	87	鉱物粒子が混じる粗い胎土、外面に縦位の粗いヘラナデ
74図11	土師器	甕・壺					10YR5/3	小破片	198	鉱物粒子、雲母粒子が混じるやや細かい胎土
74図12	灰釉陶器	碗			7.6		2.5Y7/2	小破片	42	断面が三角形状を呈する高台
75図1	土製品	羽口？					2.5Y8/2	小破片	14	赤色粒子が混じる細かい胎土
77図1	甲斐型	坏	12.0	4.0	5.4	8	5YR6/8	1/2	46	DK249より出土

第6表　金属製品一覧

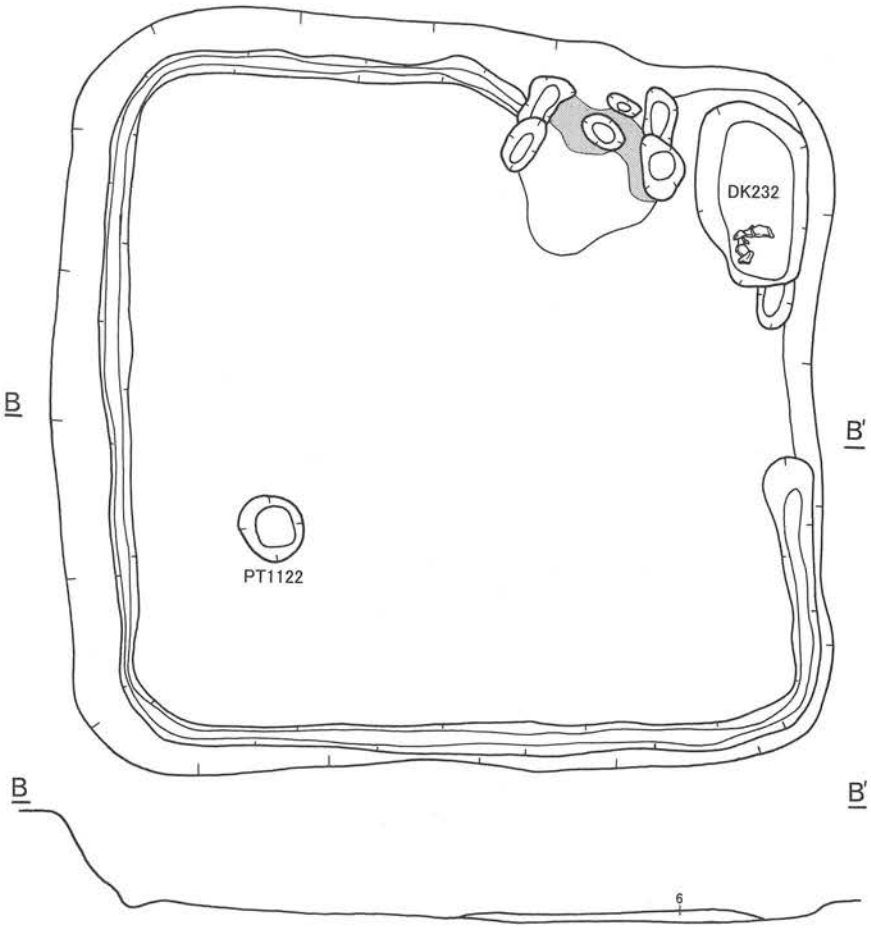
図版番号	出土遺構	種　別	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	材質	重量(g)	特徴、出土位置、など
7図3	96号住	釘？	6.8	6.2	5.2	鉄	3	カマド内より出土、角釘か
22図1	101号住	鎌	12.5	2.8	0.4	鉄	25	木質付着、床下DK258より出土
22図2	101号住	刀子	11.3	1.3	0.5	鉄	11	片関型、床下DK258より出土
56図3	114号住	刀子	14.3	1.5	0.5	鉄	12	両関型
65図6	117号住	釘？	5	1.2	0.8	鉄	2	上端部欠損、DK293内より出土、角釘か
70図1	118号住	釘？	4.4	0.5	0.6	鉄	2	角釘か
70図2	118号住	刀子	5.5	0.9	0.5	鉄	3	両関型
70図3	118号住	鉄滓	8.4	7.3	2.6		222	椀形滓
70図4	118号住	鉄滓	3.7	5.0	1.0		16	
70図5	118号住	鉄滓	3.6	3.7	1.8		37	
70図6	118号住	鉄滓	5.5	6.8	2.7		88	
70図7	118号住	鉄滓	6.8	5.7	3.3		126	
70図8	118号住	鉄滓	4.7	6.1	1.6		65	椀形滓
70図9	118号住	鉄滓	4.6	7.0	1.8		54	椀形滓
70図10	118号住	鉄滓	2.8	3.2	1.1		6	
70図11	118号住	鉄滓	6.1	6.3	2.5		95	
70図12	118号住	鉄滓	4.6	6.1	1.3		44	椀形滓
70図13	118号住	鉄滓	4.2	3.8	1.6		17	
70図14	118号住	鉄鍋			0.5	鉄	87	推定口径31.6cm
75図2	120号住	鉄滓	5.8	6.9	1.9		110	椀形滓
75図3	120号住	鉄滓	6.4	5.1	2.6		82	
75図4	120号住	鉄滓	4.7	6.2	1.9		81	
75図5	120号住	鉄滓	4.9	7.4	2.3		156	
75図6	120号住	鉄滓	5.0	4.9	2.5		104	椀形滓
75図7	120号住	鉄滓	4.1	4.6	2.1		39	椀形滓
99図16	表採	銭貨			2.0	銅	2	寛永通宝、「新寛永」、文銭

第7表　石器・石製品一覧

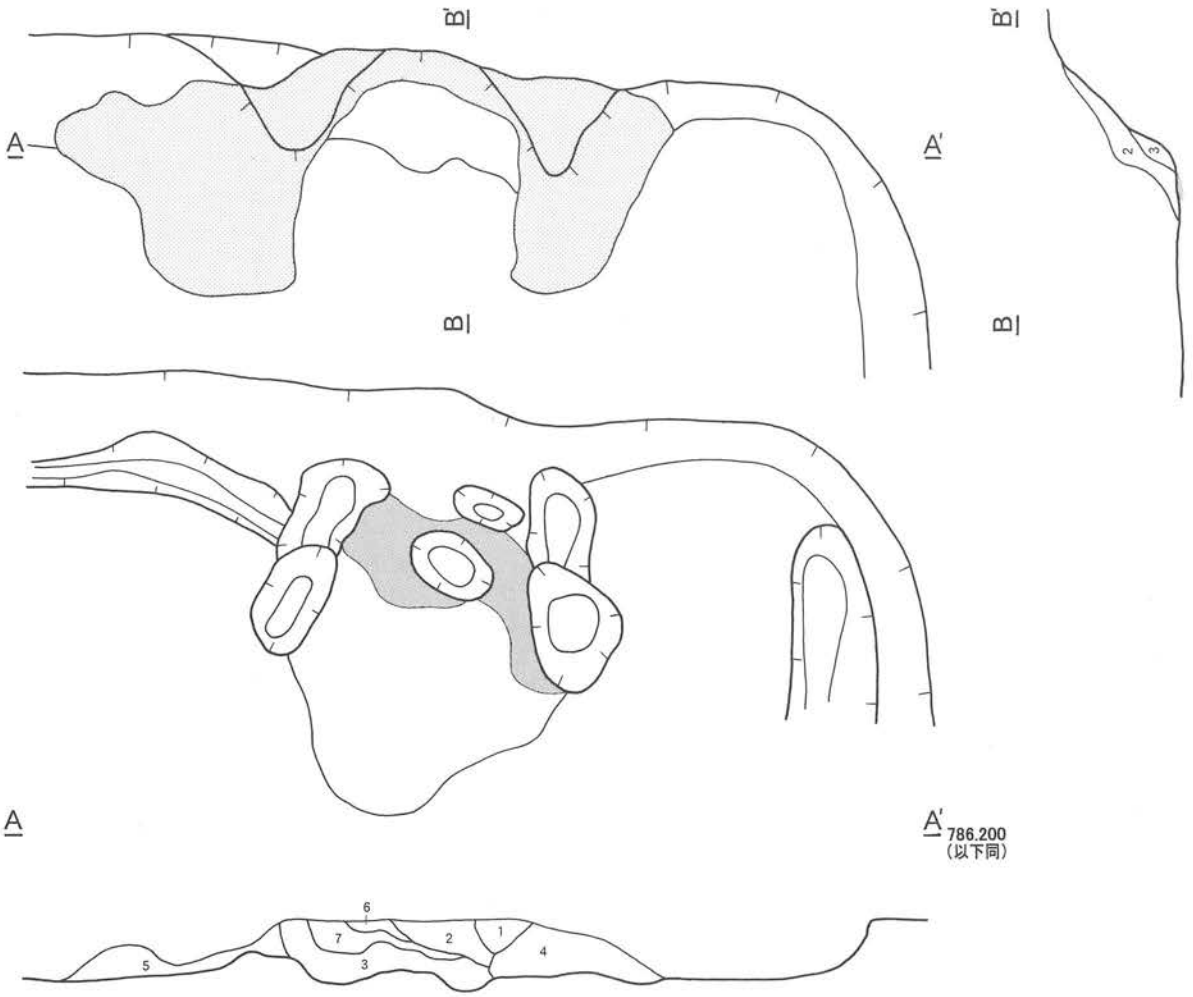
図版番号	種　別	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	石質	重量(g)	特徴、出土位置など
11図1	腰帯具(丸鞆)	2.3	3.2	0.6	滑石	9	97号住床下DK239より出土
29図5	多孔石	24.5	13.3		凝灰岩	6000	105号住床面上約10cmより出土、石棒片か
48図1	砥石	(9.2)	7.2	7.7	凝灰岩	695	表面に磨痕
56図2	砥石	8.5	3.7	2.2	凝灰質流紋岩	108	左右側面に線状痕あり、114号住覆土より出土
61図11	磨石	7.0	6.1	4.8	砂岩	311	表面、両側面、裏面の一部に磨痕、116号住覆土より出土
65図4	磨石	11.8	7.2	3.7	砂岩	408	表裏両面に磨痕、117号住覆土より出土
65図5	凹石	9.5	6.9	4.7	安山岩	480	表裏両面に凹み、117号住覆土より出土
68図1	金床石	(42.4)	20.0	8.6	砂岩	9700	表面に鉄錆付着、表面・裏面の一部に磨痕
74図13	砥石	6.7	2.8	1.3	ホルンフェルス	38	表面、右側面、裏面に線状痕、120号住床下より出土



1層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が1%混じる。しまる。シルト粒土。
2層　10YR4/4(褐)に10YR4/6(褐)が5%混じる。しまる。シルト粒土。
3層　10YR2/2(黒褐)に10YR2/1(黒)が7%、10YR4/4(褐)が2%混じる。しまる。シルト粒土。
4層　10YR2/1(黒)に10YR4/4(褐)が2%、焼土粒子が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
5層　10YR2/2(黒褐)に10YR2/1(黒)が7%、10YR4/4(褐)が5%、焼土粒子が1%混じる。しまる。シルト粒土。
6層(貼床)　10YR4/4(褐)に10YR3/3(暗褐)が5%、10YR4/6(褐)が2%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が5%混じる。しまる。シルト粒土。

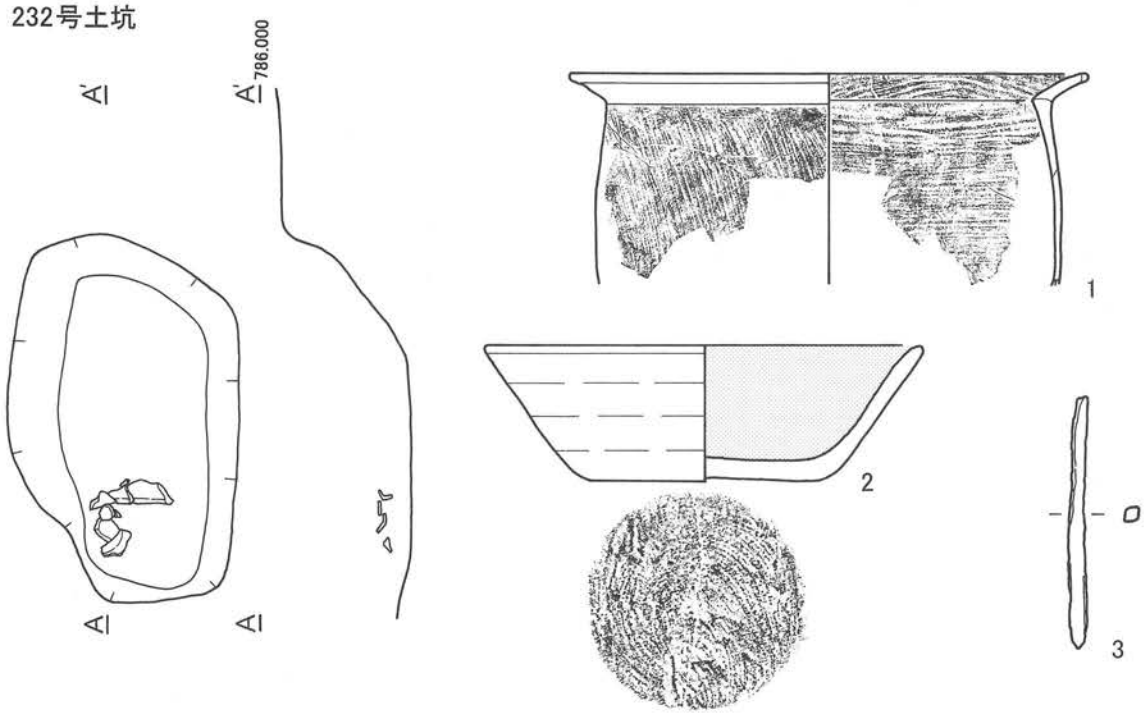


第6図　96号住居（1/40）

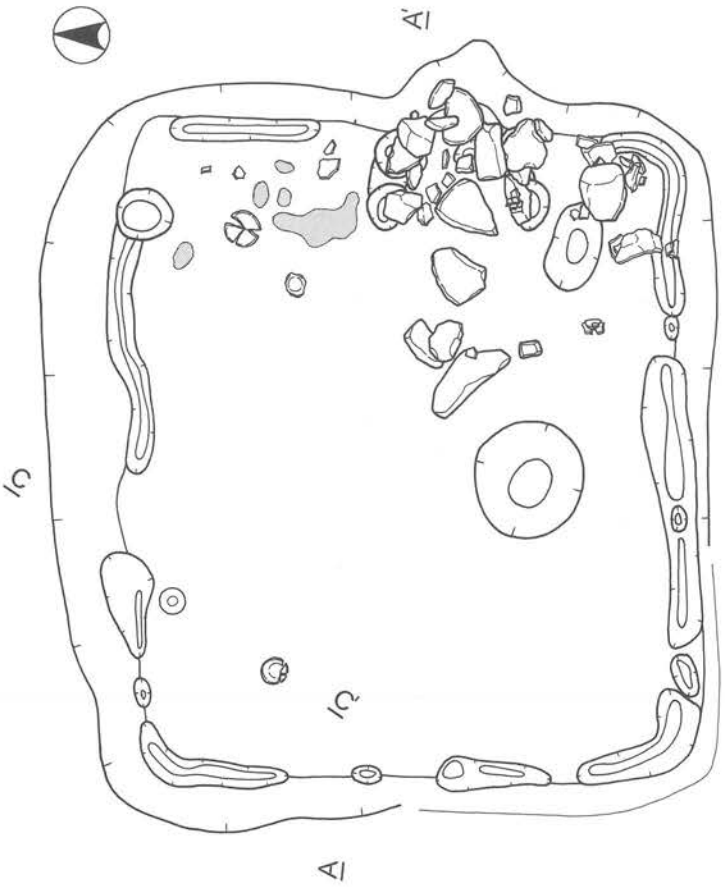


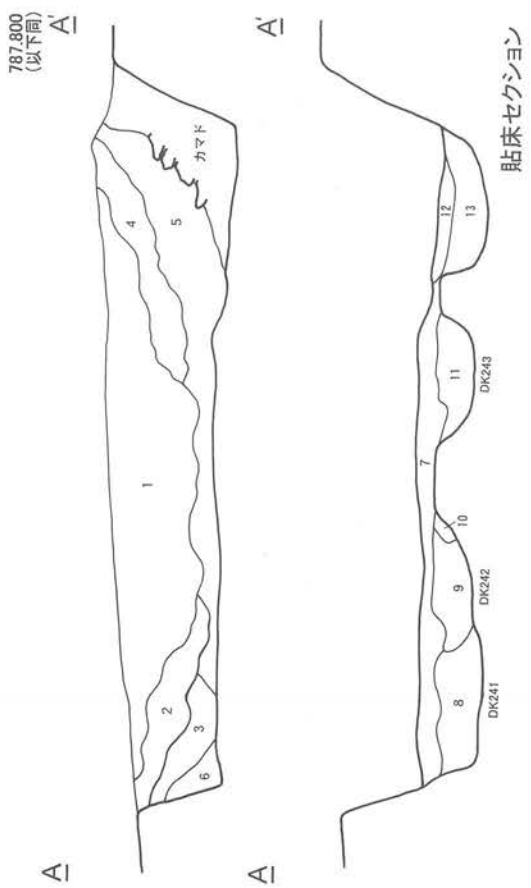
1層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が5%、10YR4/4(褐)が3%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
2層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が2%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
3層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が5%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。10YR4/4(褐)は非常に固くしまる。
4層　10YR4/4(褐)に10YR2/2(黒褐)が7%、10YR4/6(褐)が5%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
5層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/1(黒)が5%、10YR4/6(褐)が3%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
6層　10YR4/4(褐)に10YR2/2(黒褐)が2%混じる。固くしまる。シルト粒土。
7層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。

232号土坑

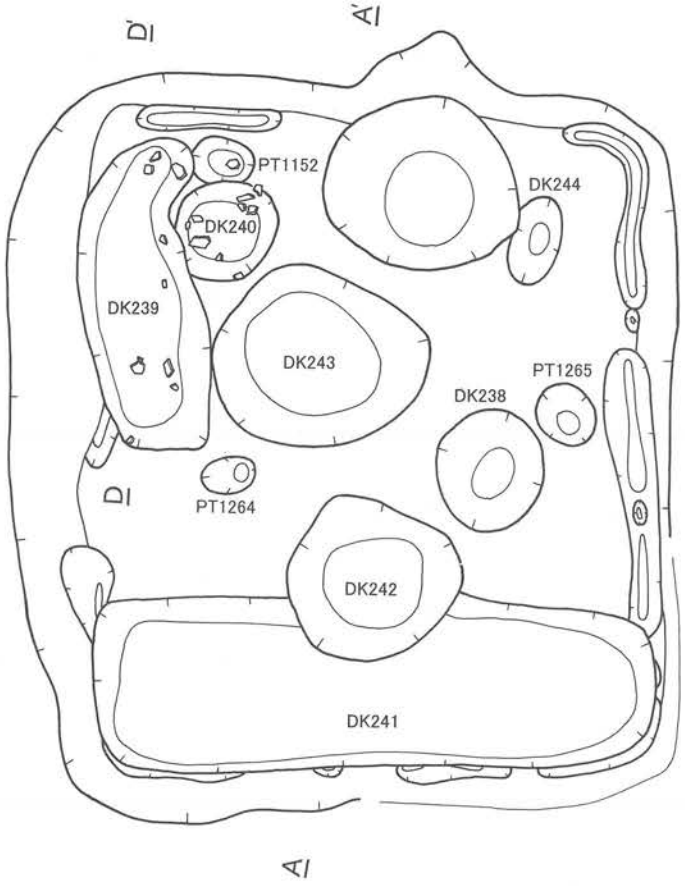


第7図　96号住居カマド（1/20）　232号土坑（1/20）　96号住居出土遺物（1/2、1　1/4）

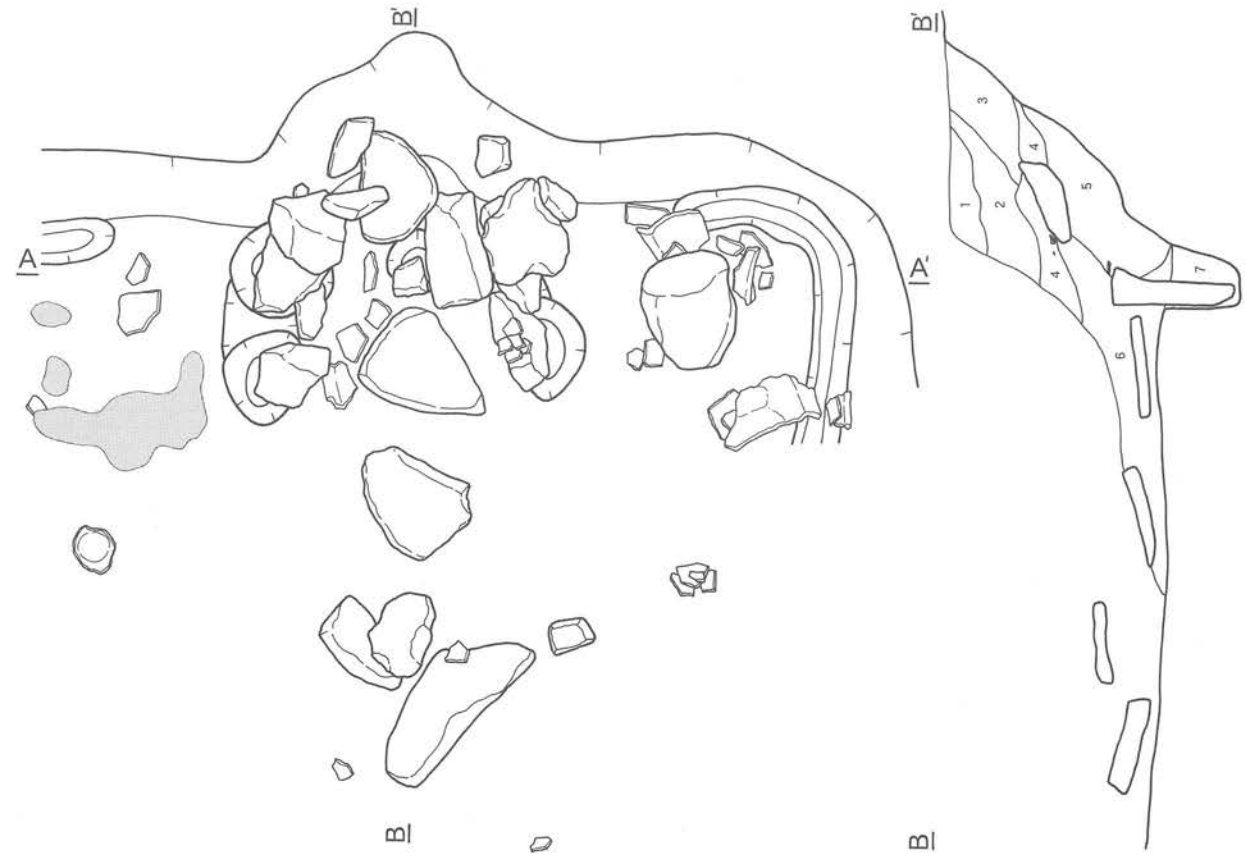




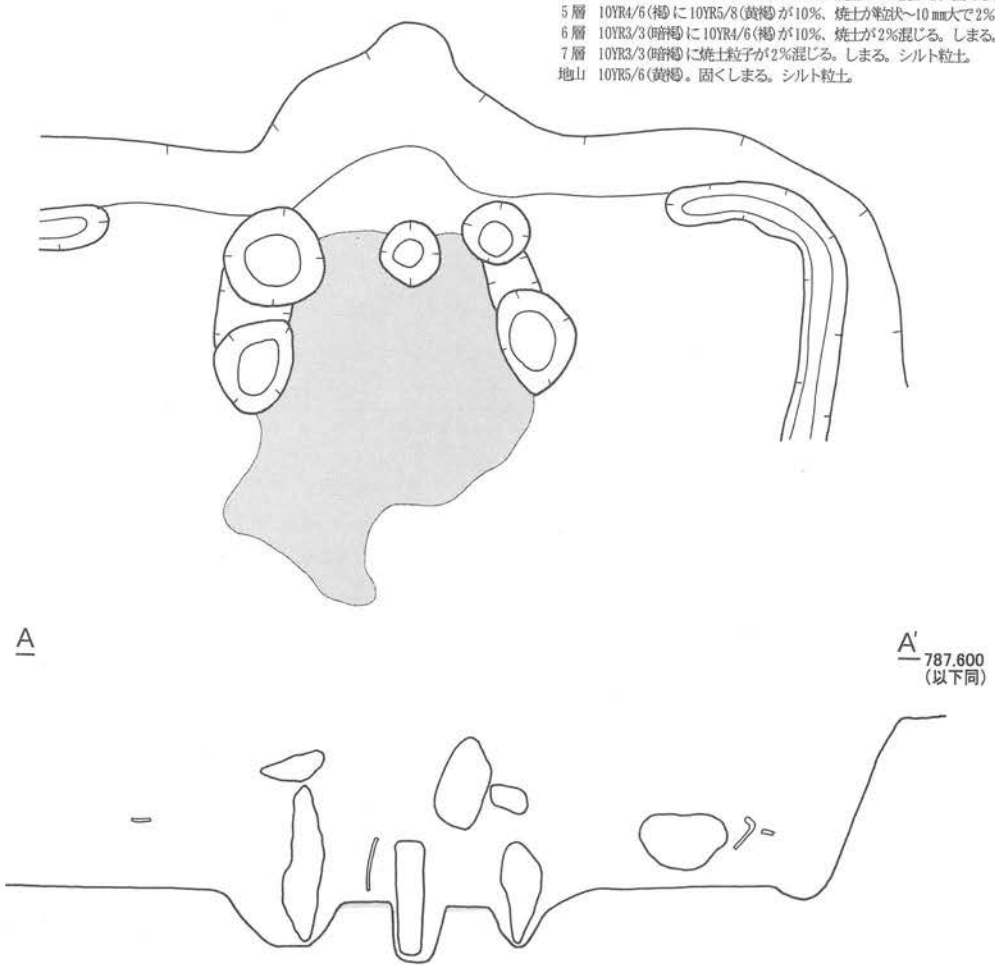
1層　7.5YR2/2(黒褐)に10YR2/1(黒)が40%、7.5YR3/3(暗褐)が5%混じる。固くしまる。シルト粒土。
2層　7.5YR3/2(黒褐)に7.5YR2/1(黒褐)が10%混じる。しまる。シルト粒土。
3層　7.5YR3/2(黒褐)に7.5YR4/3(褐)が40%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
4層　7.5YR3/3(暗褐)に7.5YR3/2(黒褐)が40%、7.5YR4/4(褐)が2～10mm大で1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
5層　7.5YR3/4(暗褐)に7.5YR3/3(暗褐)が30%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
6層　7.5YR3/4(暗褐)に7.5YR4/4(褐)が30%、10YR2/1(黒)が1～5mm大で1%、7.5YR4/4(褐)が2～6mm大で1%、焼土・炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
7層(貼床)7.5YR4/6(褐)に7.5YR4/4(褐)が30%、7.5YR5/6(明褐)が10%、7.5YR1/2(黒)が1%、焼土が2～5mm大で1%、炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
8層　7.5YR4/4(褐)に7.5YR5/6(明褐)が30%混じる。固くしまる。シルト粒土。
9層　5YR4/8(赤褐)の焼土に7.5YR4/4(褐)が20%、炭化物が2%混じる。固くしまる。シルト粒土。
10層　7.5YR4/3(褐)。固くしまる。シルト粒土。
11層　7.5YR4/3(褐)に7.5YR5/6(明褐)が20%、炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
12層　5YR4/8(赤褐)の焼土に5YR5/8(明赤褐)の焼土が30%混じる。固くしまる。シルト粒土。
13層　7.5YR4/4(褐)に7.5YR5/6(明褐)が10%混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)。固くしまる。シルト粒土。



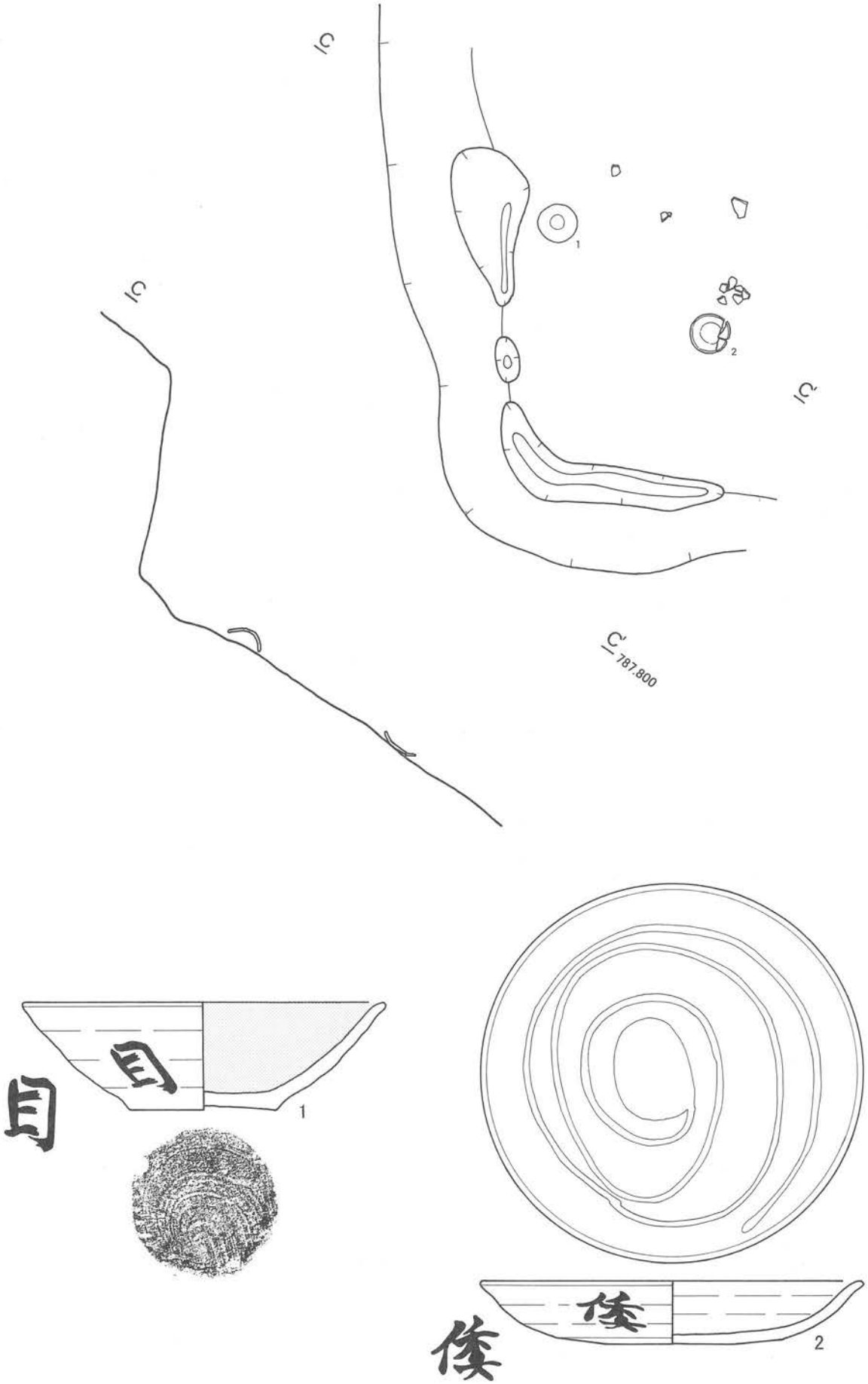
第8図　97号住居（1/40）



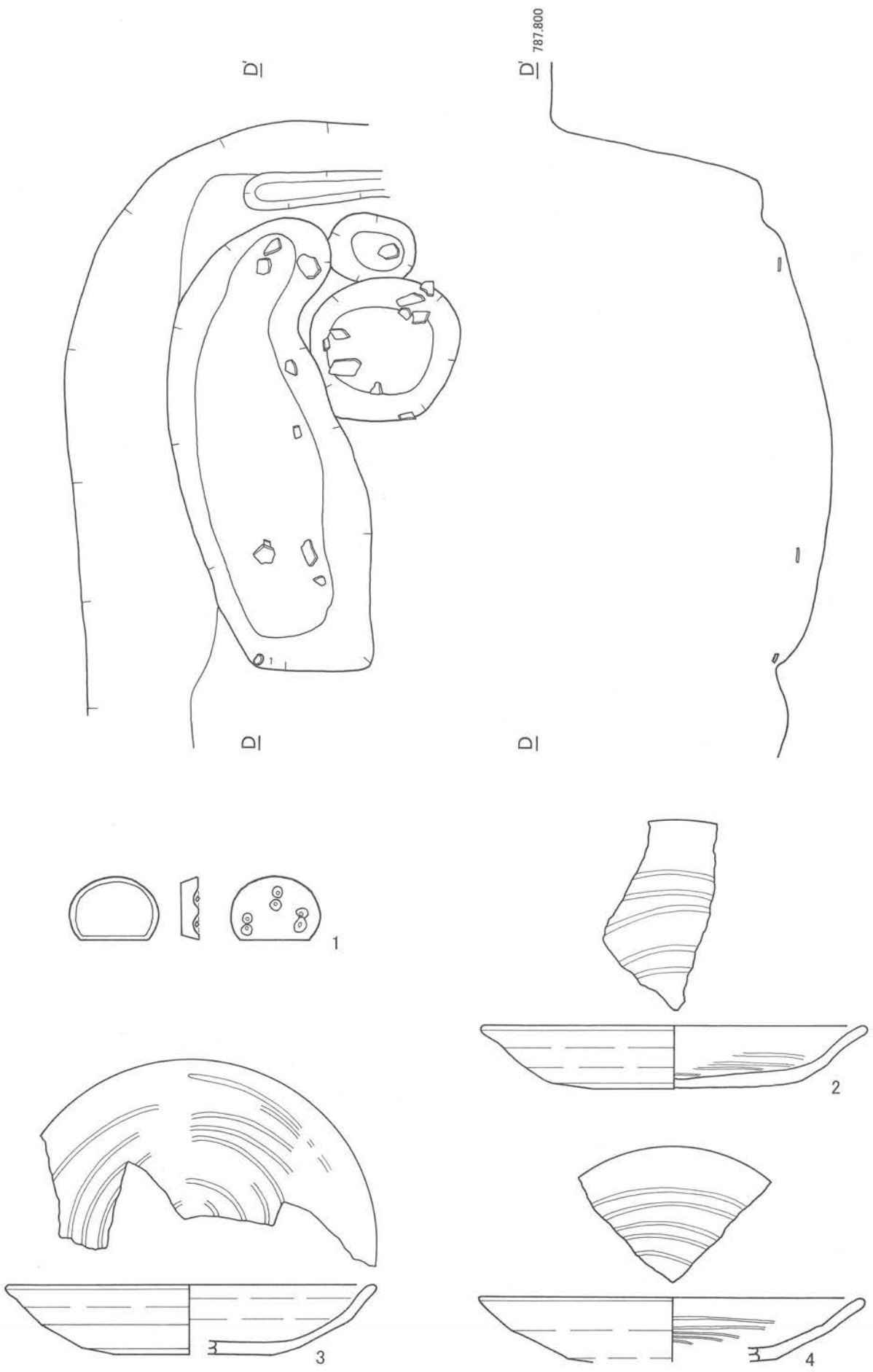
1層　10YR4/6(褐)に10YR3/3(暗褐)が10%混じる。固くしまる。シルト粒土。
2層　10YR4/6(褐)に10YR3/3(暗褐)が20%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
3層　10YR4/6(褐)に10YR3/3(暗褐)が10%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
4層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が20%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
5層　10YR4/6(褐)に10YR5/8(黄褐)が10%、焼土が粒状～10㎜大で2%混じる。しまる。シルト粒土。
6層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が10%、焼土が2%混じる。しまる。シルト粒土。
7層　10YR3/3(暗褐)に焼土粒子が2%混じる。しまる。シルト粒土。
地山　10YR5/6(黄褐)。固くしまる。シルト粒土。



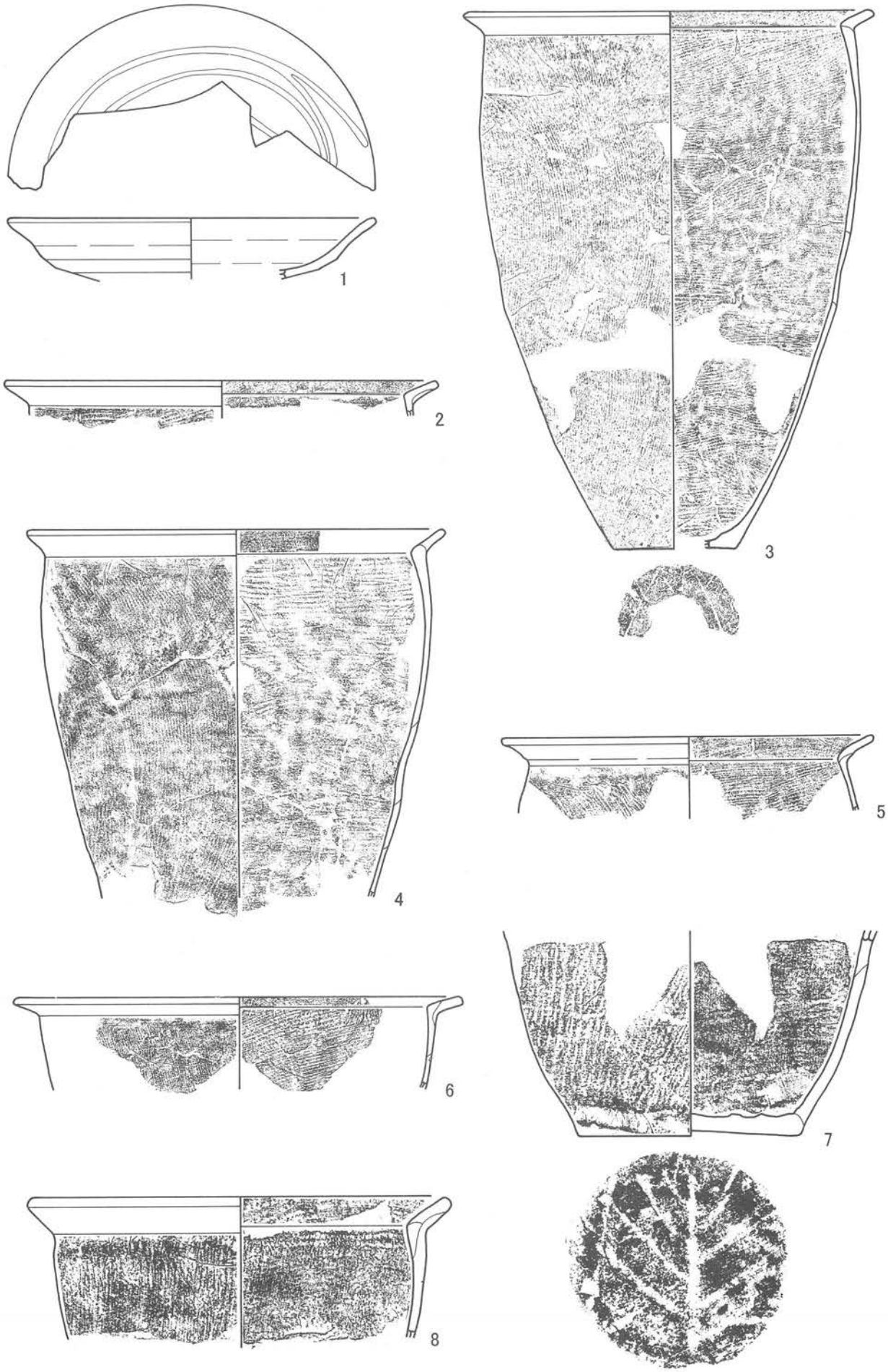
第9図　97号住居カマド（1/20）



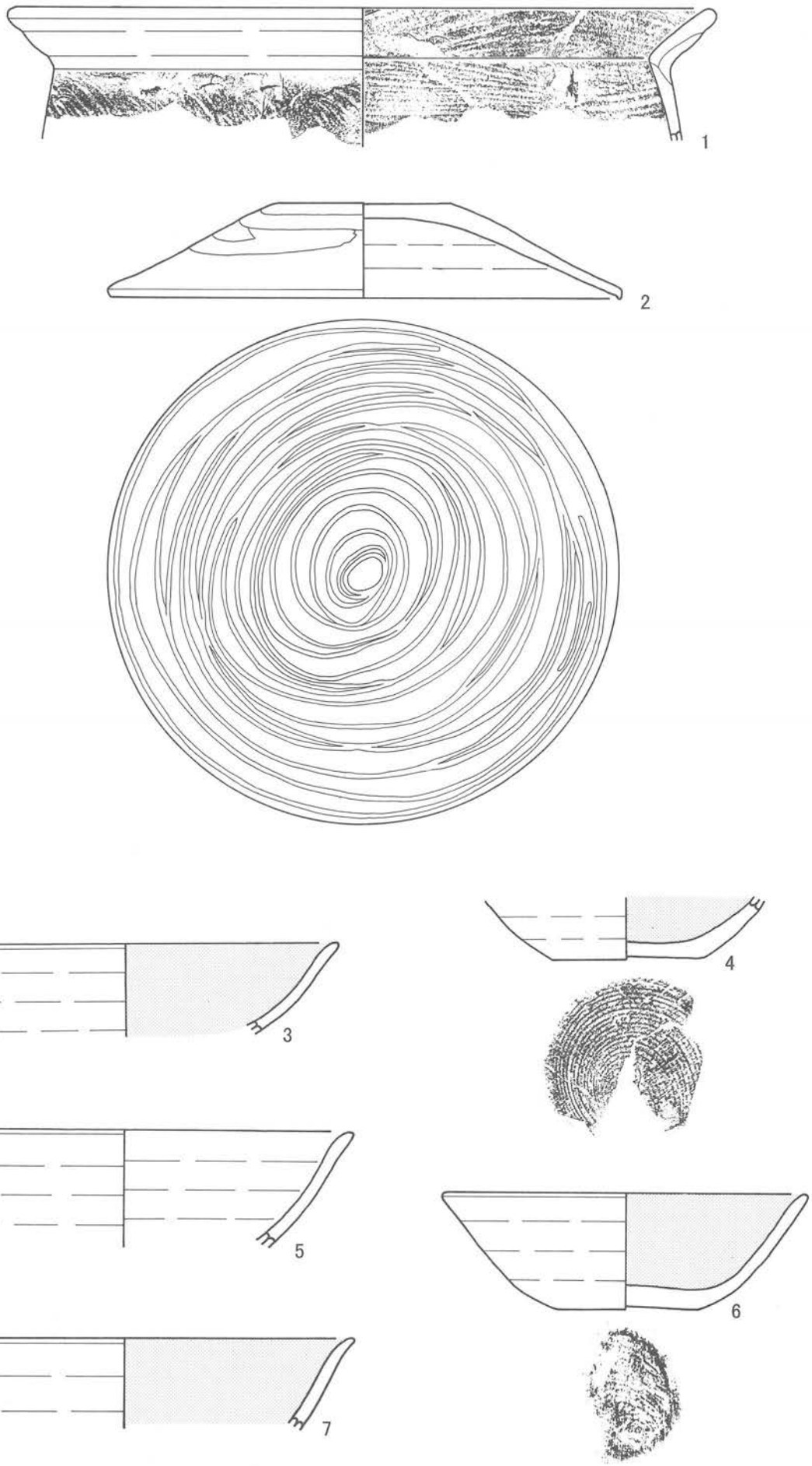
第10図　97号住居出土遺物（1/2）および遺物出土状況（1/20）



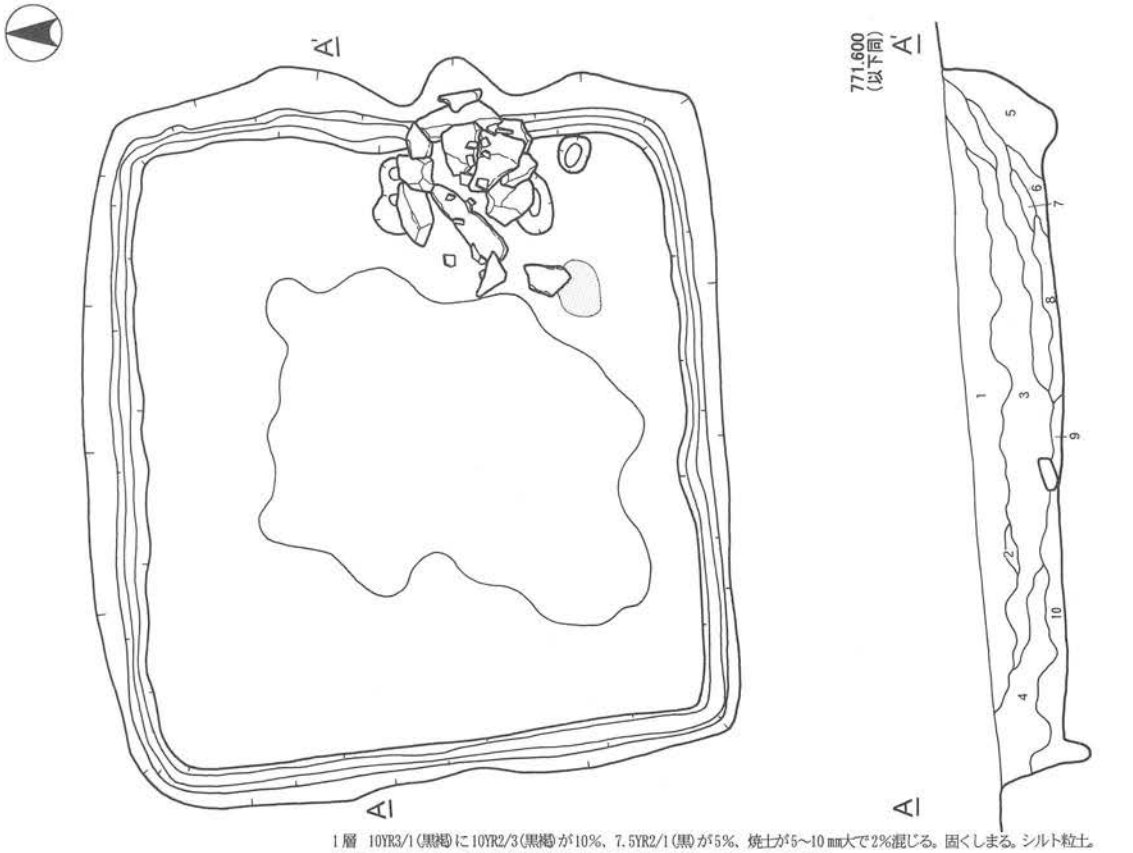
第11図　239号土坑（1/20）および出土遺物（1/2）　97号住居出土遺物（1/2）



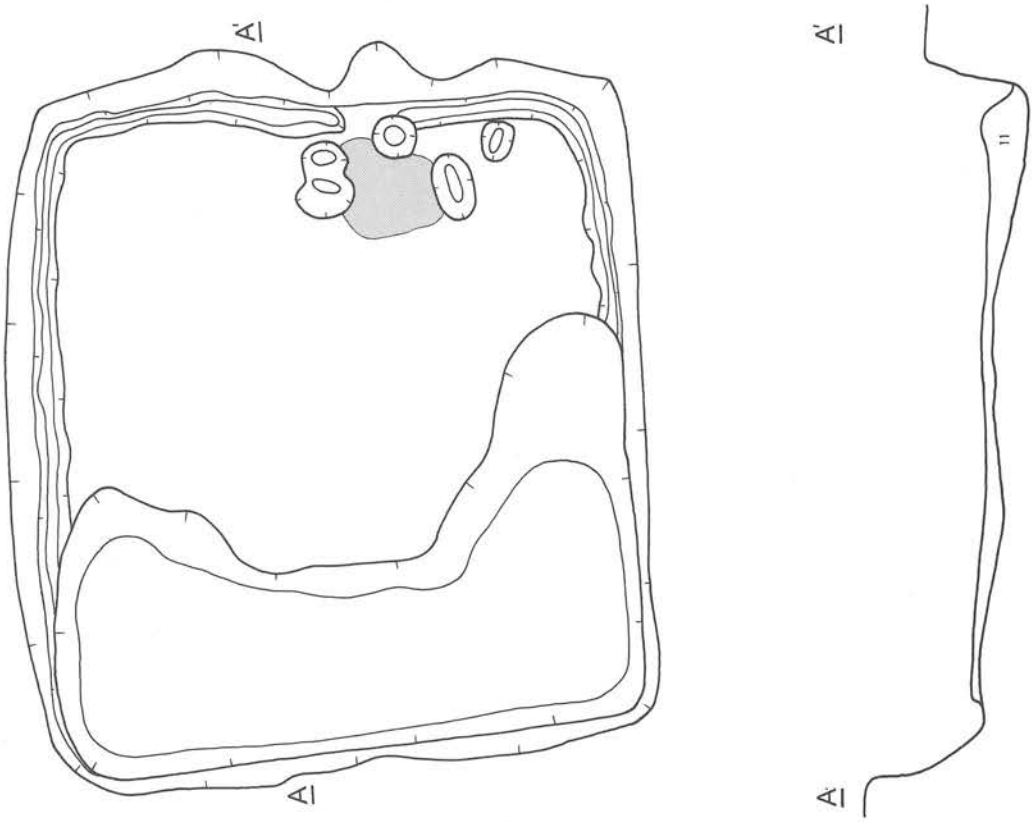
第12図　97号住居出土遺物（1/2、2～6 1/4）



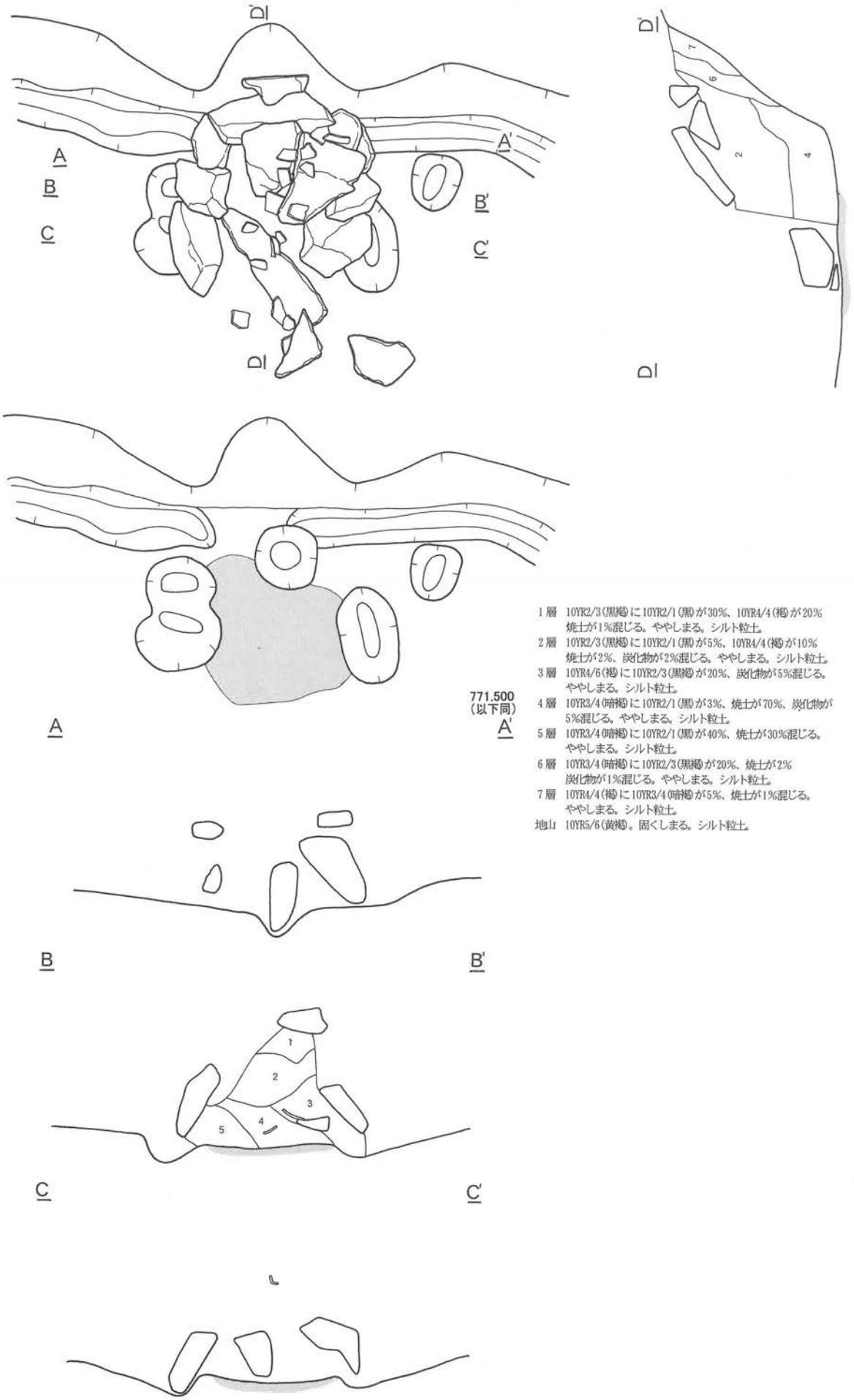
第13図　97号住居出土遺物（1/2）



1層　10YR3/1(黒褐)に10YR2/3(黒褐)が10%、7.5YR2/1(黒)が5%、焼土が5～10㎜大で2%混じる。固くしまる。シルト粒土。
2層　10YR2/1(黒)に10YR5/6(黄褐)が3～4㎜大で5%混じる。しまる。シルト粒土。
3層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が20%、7.5YR5/6(明褐)が5～10㎜大で2%、10YR2/1(黒)が1%混じる。しまる。シルト粒土。
4層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/1(黒)が20%混じる。しまる。シルト粒土。
5層　10YR5/6(黄褐)に10YR4/2(灰黄褐)が30%、10YR2/1(黒)が5%混じる。しまる。シルト粒土。
6層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が20%、焼土が10㎜大で4%混じる。しまる。シルト粒土。
7層　10YR2/1(黒)に10YR3/3(暗褐)が20%混じる。しまる。シルト粒土。
8層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が25%混じる。しまる。シルト粒土。
9層　10YR3/3(暗褐)に焼土が5～10㎜大で10%混じる。しまる。シルト粒土。
10層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が30%混じる。しまる。シルト粒土。
11層(貼床)　10YR5/8(黄褐)に10YR2/1(黒)が2%混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR5/6(黄褐)。固くしまる。シルト粒土。

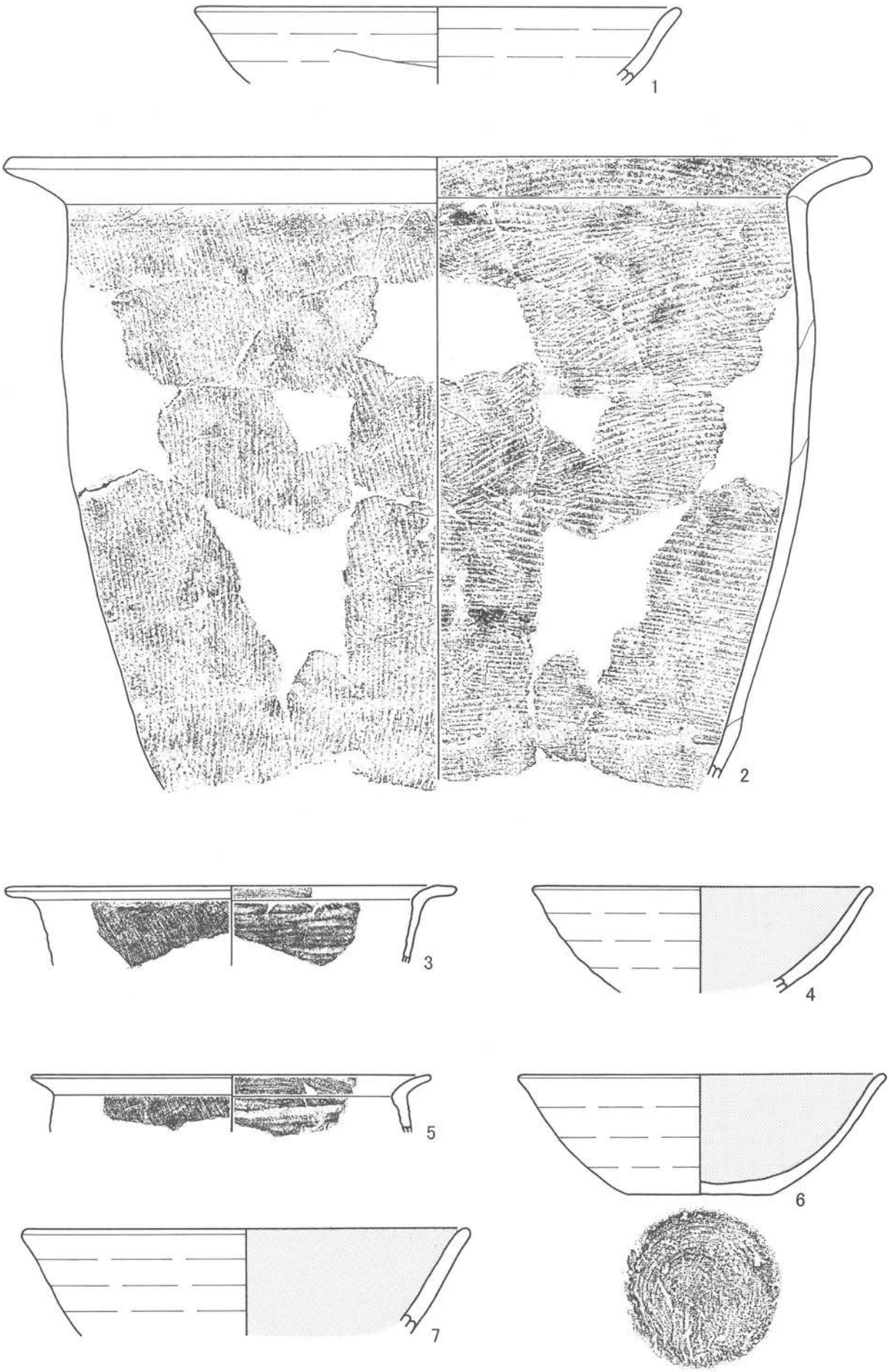


第14図　98号住居（1/40）

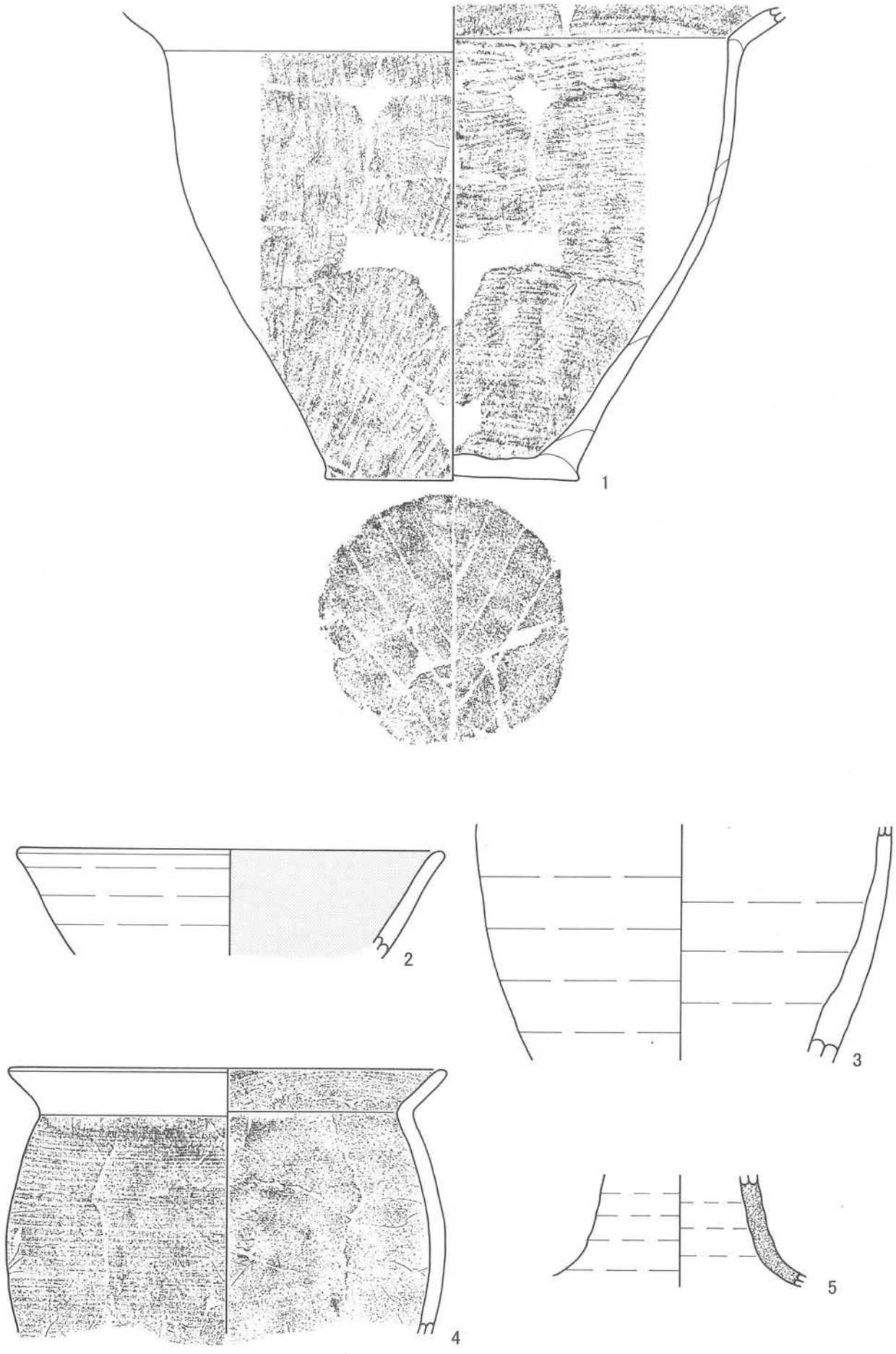


1層　10YR2/3(黒褐)に10YR2/1(黒)が30%、10YR4/4(褐)が20%
焼土が1%混じる。ややしまる。シルト粒土。
2層　10YR2/3(黒褐)に10YR2/1(黒)が5%、10YR4/4(褐)が10%
焼土が2%、炭化物が2%混じる。ややしまる。シルト粒土。
3層　10YR4/6(褐)に10YR2/3(黒褐)が20%、炭化物が5%混じる。
ややしまる。シルト粒土。
4層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/1(黒)が3%、焼土が70%、炭化物が
5%混じる。ややしまる。シルト粒土。
5層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/1(黒)が40%、焼土が30%混じる。
ややしまる。シルト粒土。
6層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が20%、焼土が2%
炭化物が1%混じる。ややしまる。シルト粒土。
7層　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が5%、焼土が1%混じる。
ややしまる。シルト粒土。
地山　10YR5/6(黄褐)。固くしまる。シルト粒土。

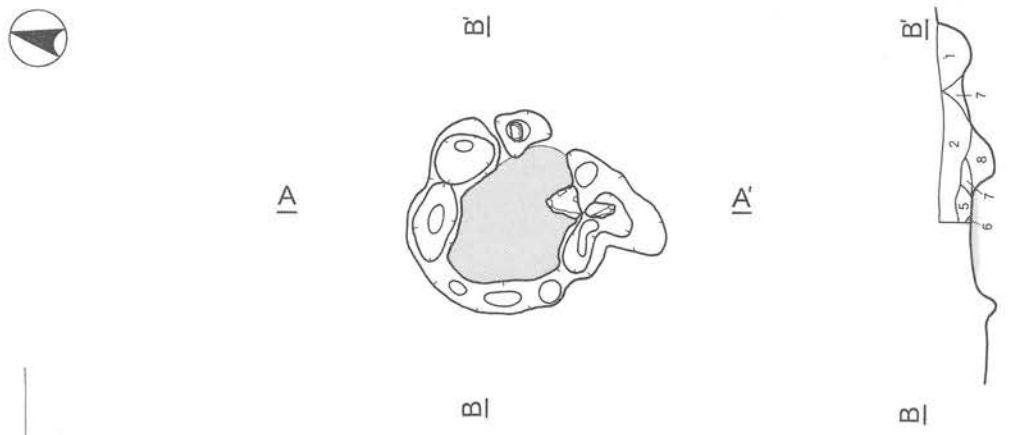
第15図　98号住居カマド（1/20）

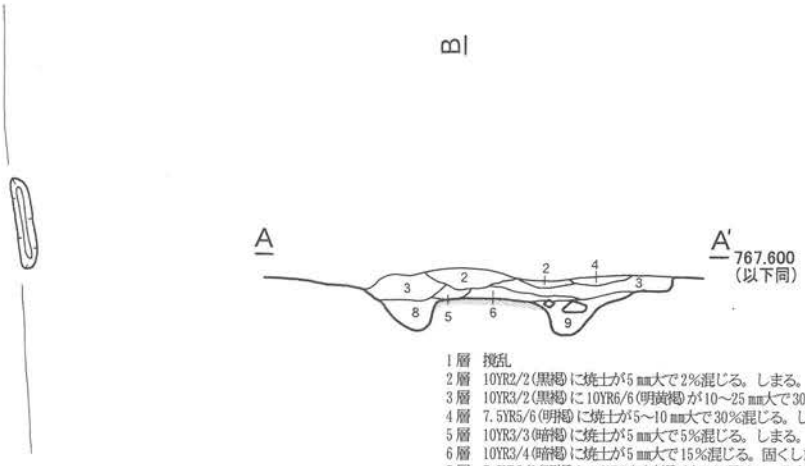


第16図　98号住居出土遺物（1/2、3･5 1/4）

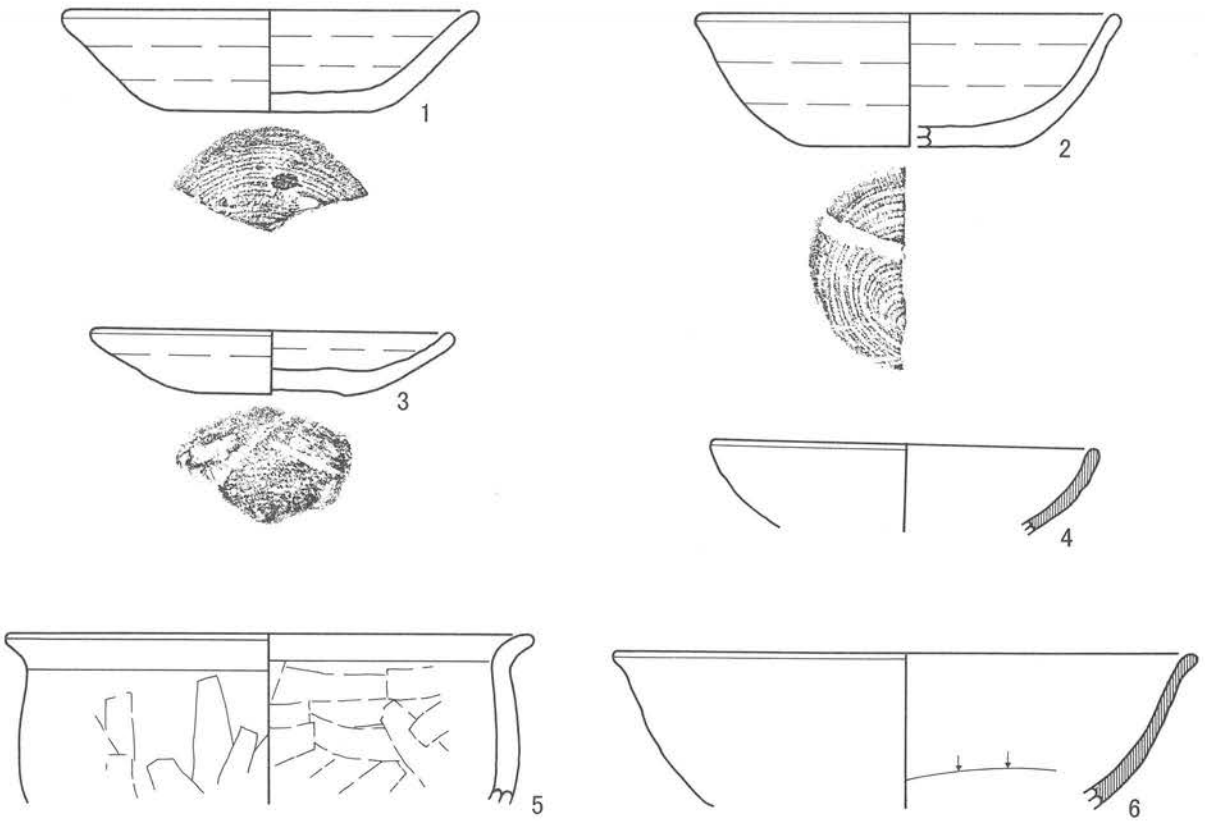


第17図　98号住居出土遺物（1/2）

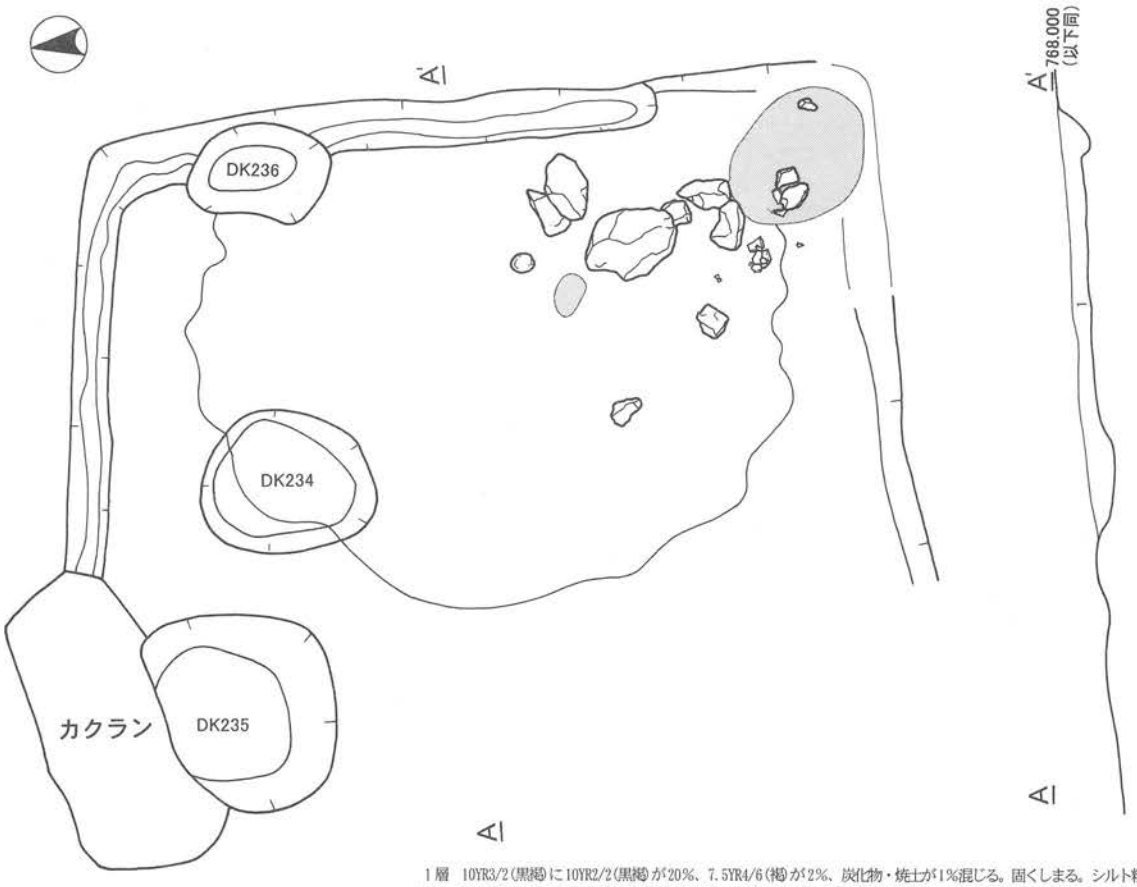




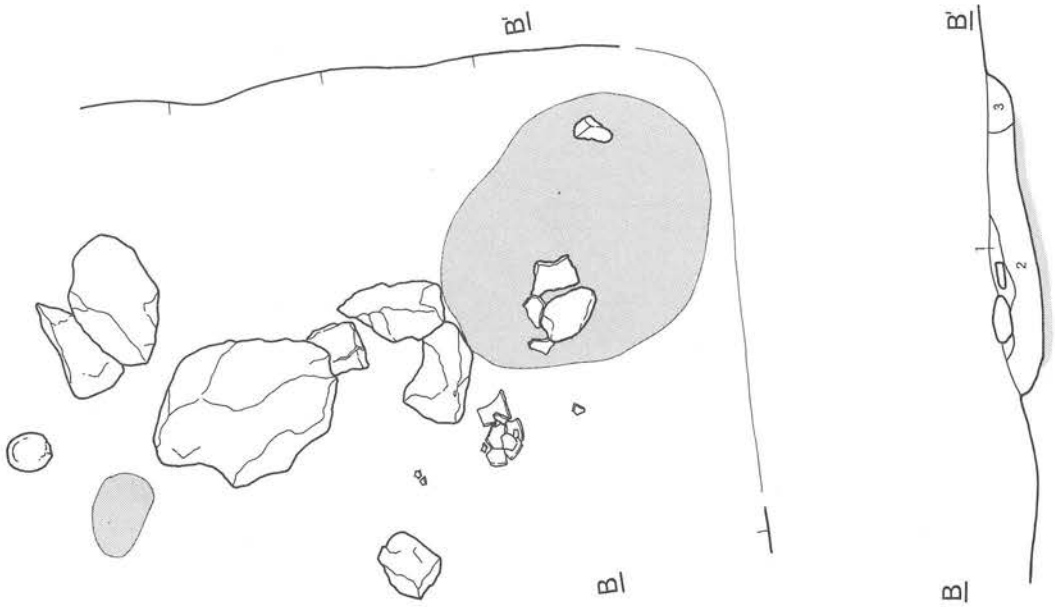
1層　撹乱
2層　10YR2/2(黒褐)に焼土が5㎜大で2%混じる。しまる。シルト粒土。
3層　10YR3/2(黒褐)に10YR6/6(明黄褐)が10～25㎜大で30%、50㎜大の礫が5%混じる。しまる。シルト粒土。
4層　7.5YR5/6(明褐)に焼土が5～10㎜大で30%混じる。しまる。シルト粒土。
5層　10YR3/3(暗褐)に焼土が5㎜大で5%混じる。しまる。シルト粒土。
6層　10YR3/4(暗褐)に焼土が5㎜大で15%混じる。固くしまる。シルト粒土。
7層　7.5YR5/6(明褐)に10YR3/4(暗褐)が40%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。
8層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%、焼土が5～10㎜大で10%混じる。固くしまる。シルト粒土。
9層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR2/2(黒褐)が10%、焼土が5～10㎜大で10%混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山　7.5YR5/6(明褐)に10YR3/2(黒褐)が30%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。



第18図　99号住居（1/40）および出土遺物（1/2）

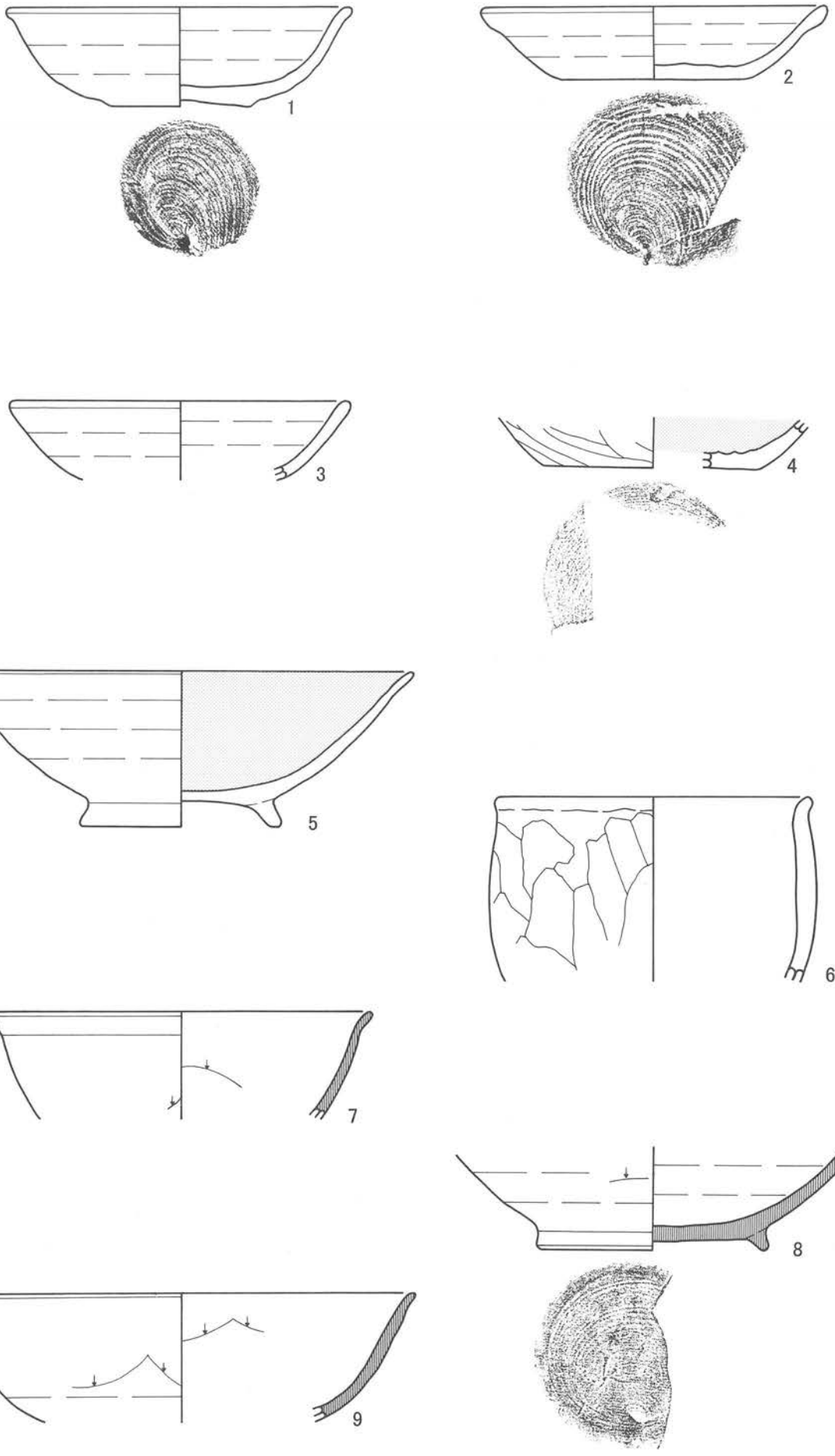


1層　10YR3/2(黒褐)に10YR2/2(黒褐)が20%、7.5YR4/6(褐)が2%、炭化物・焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が20%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。

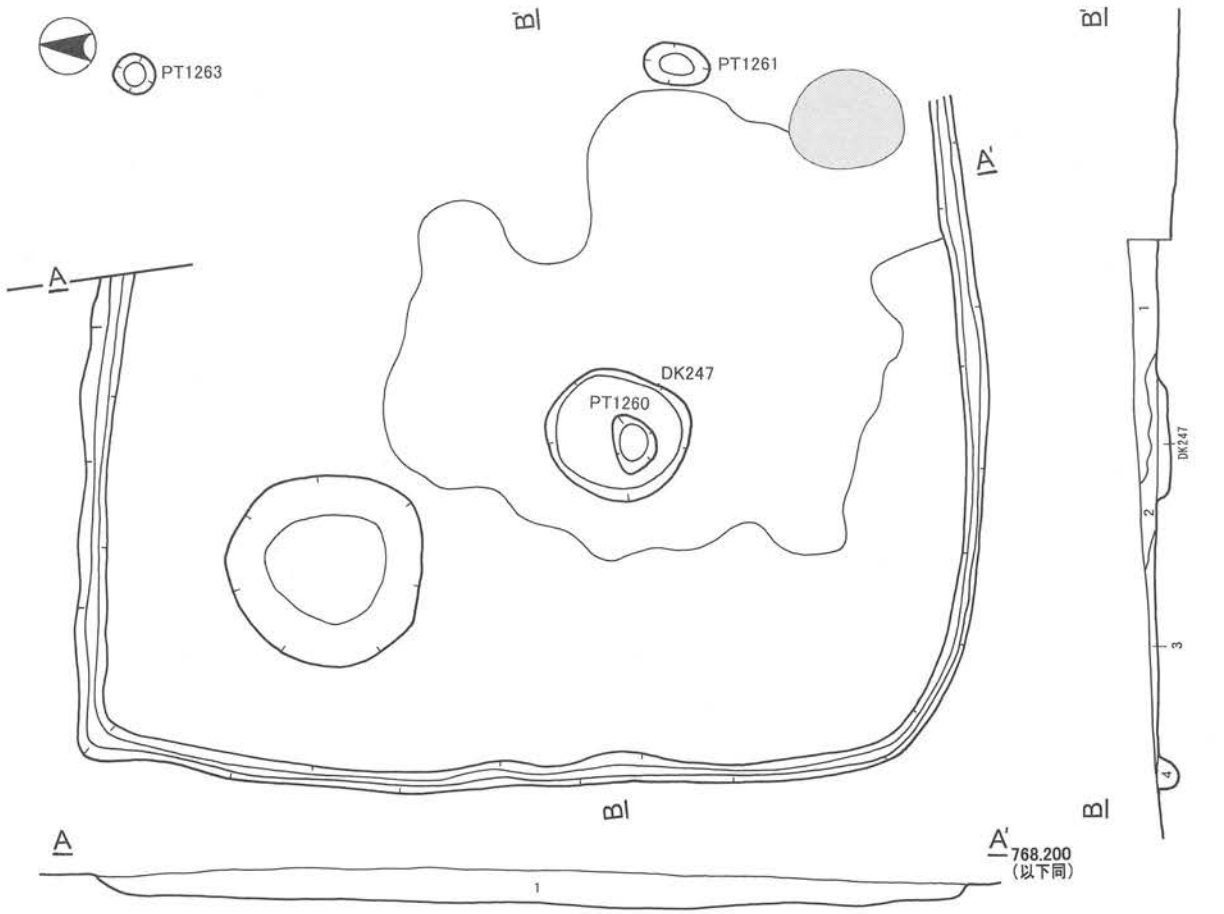


1層　10YR3/2(黒褐)。しまる。シルト粒土。
2層　5YR3/2(暗赤褐)に焼土が5～10㎜大で15%、炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
3層　10YR2/2(黒褐)に焼土が10%混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/2(黒褐)が5%混じる。固くしまる。シルト粒土。

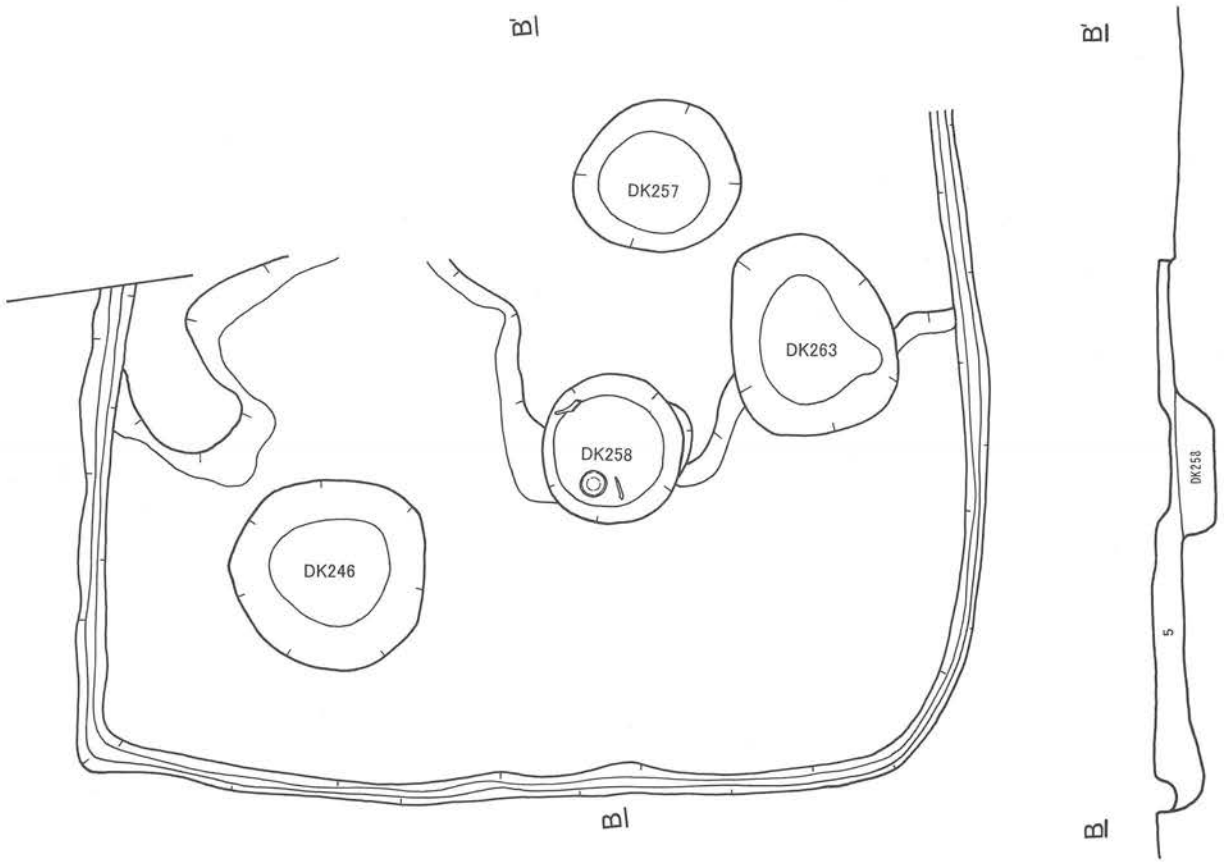
第19図　100号住居（1/40）　100号住居カマド（1/20）



第20図　100号住居出土遺物（1/2）

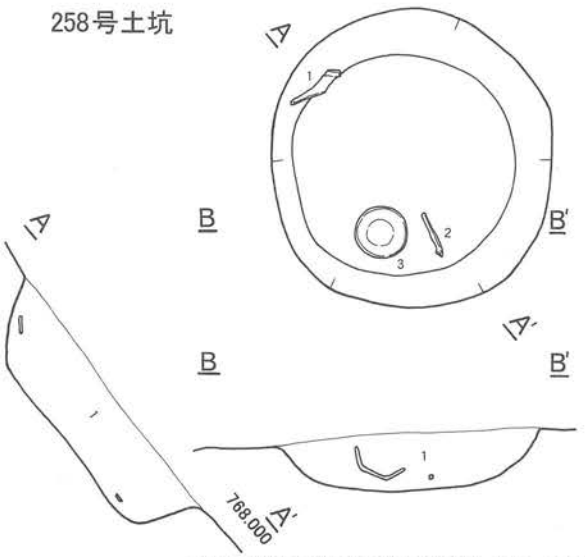


1層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が5%、焼土・炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が15%、焼土・炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
3層　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が10%混じる。固くしまる。シルト粒土。
4層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が10%混じる。しまる。シルト粒土。
5層(貼床)　10YR4/6(褐)。非常に固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR5/6(黄褐)。固くしまる。シルト粒土。



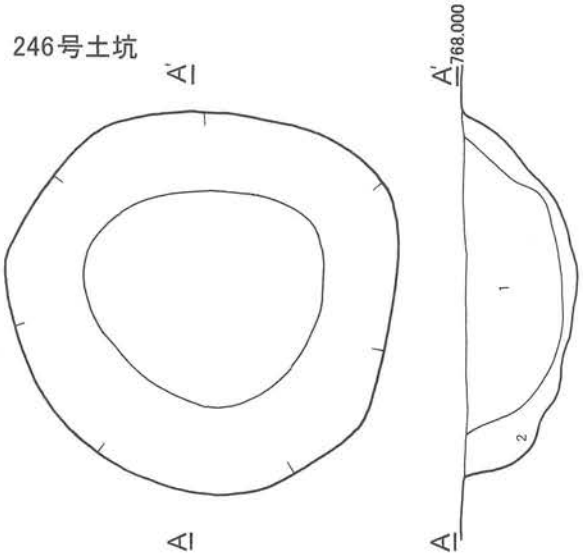
第21図　101号住居（1/40）

258号土坑

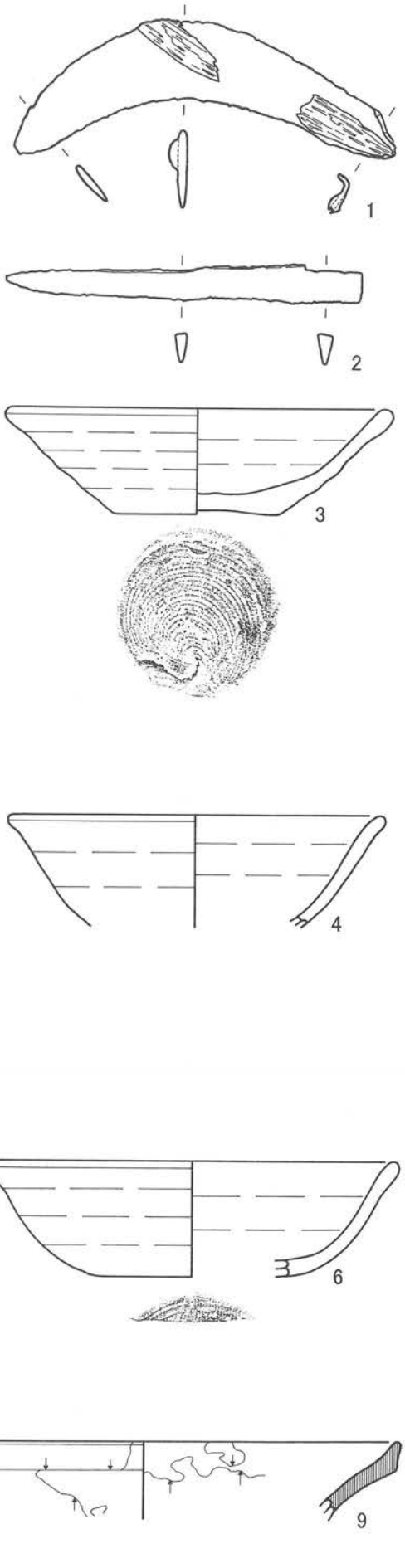


1層　10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が30%混じる。しまる。シルト粒土。
地山　10YR5/6(黄褐)。固くしまる。シルト粒土。

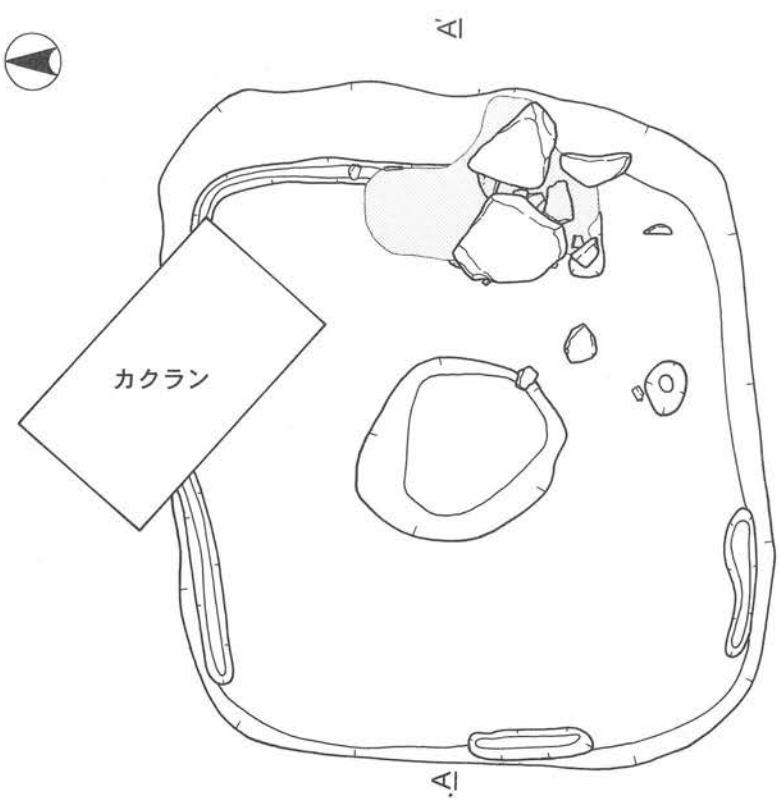
246号土坑



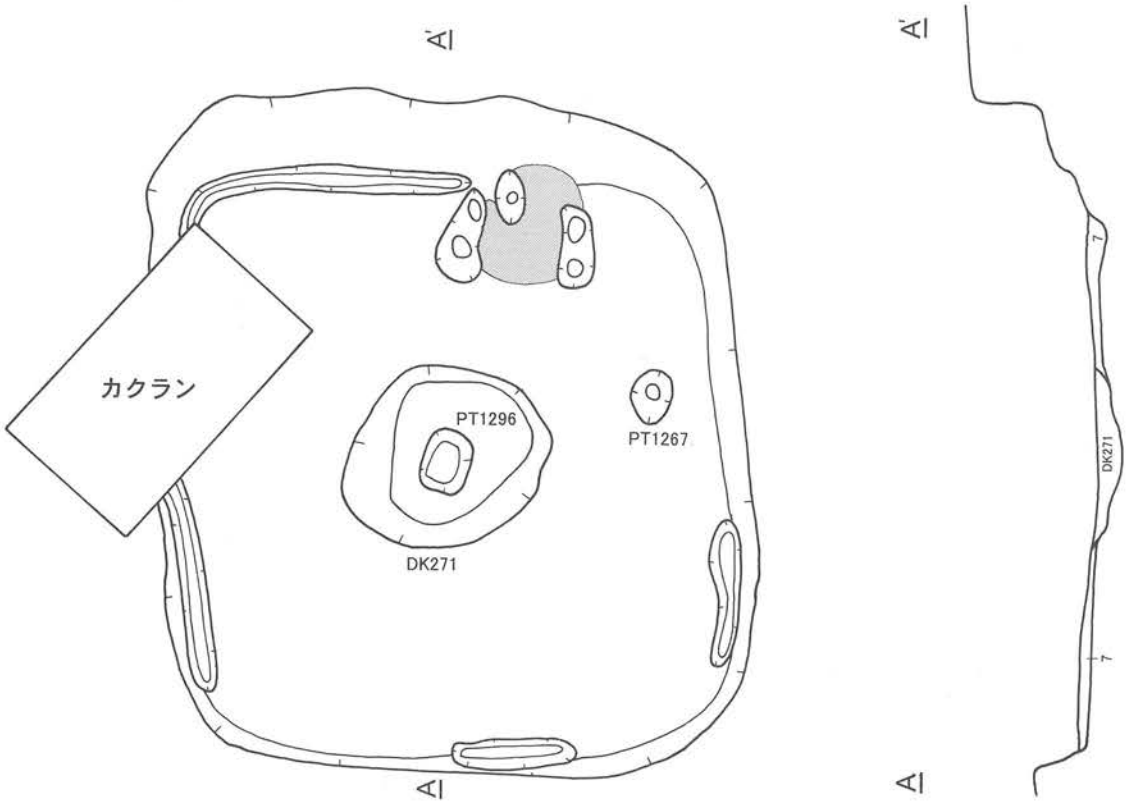
1層　10YR2/3(黒褐)に10YR2/1(黒)が10㎜大で2%、10YR4/6(褐)が10㎜大で2%、焼土が5㎜大で1%混じる。しまる。シルト粒土。
2層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR2/1(黒)が10㎜大で5%、10YR4/6(褐)が5～10㎜大で2%混じる。しまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)。固くしまる。シルト粒土。



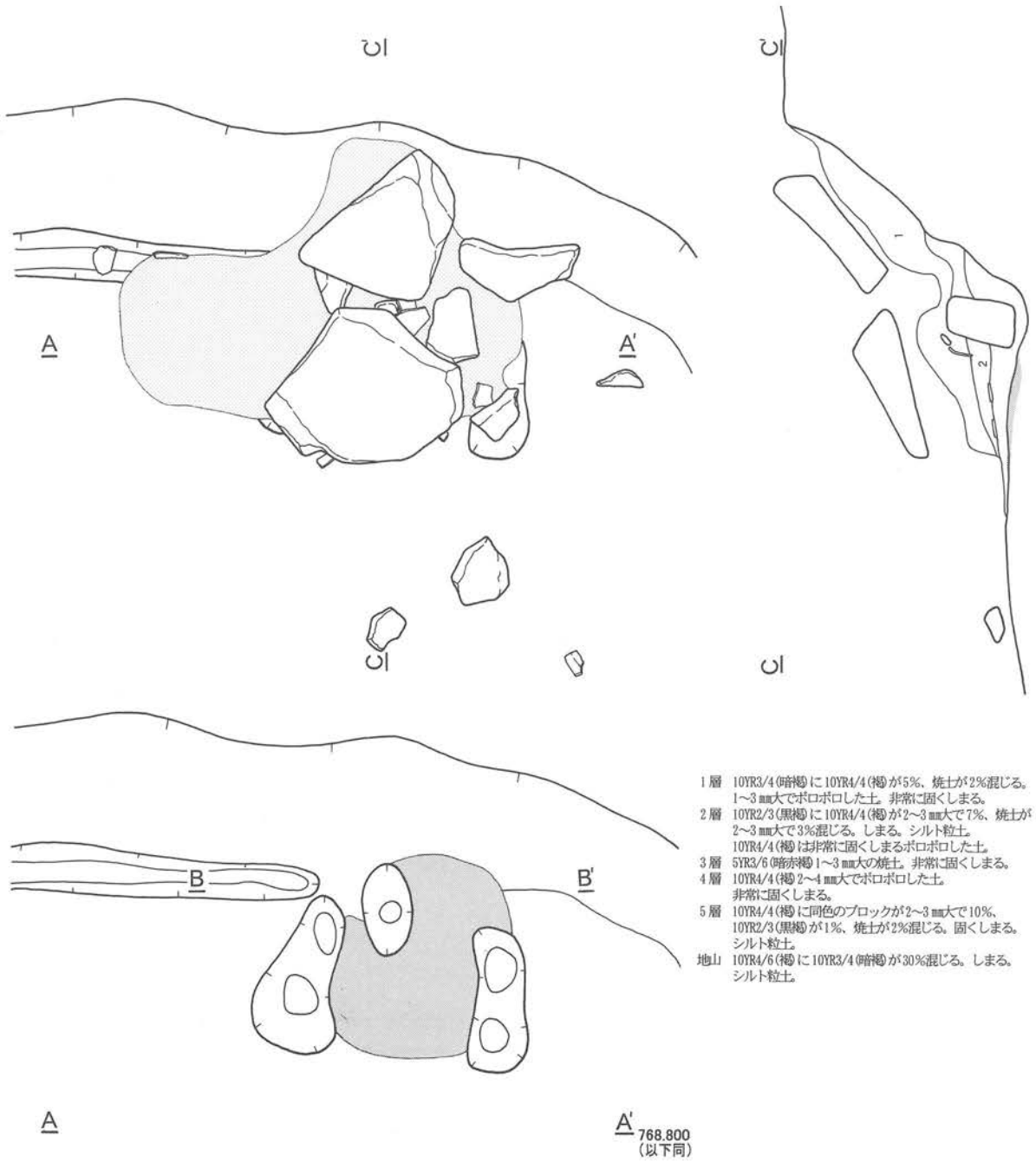
第22図　258号・246号土坑（1/20）　101号住居出土遺物（1/2）



1層　撹乱
2層　10YR2/1(黒)に10YR3/4(暗褐)が30%、焼土が2%、炭化物が10%混じる。しまる。シルト粒土。
3層　10YR2/1(黒)に10YR3/4(暗褐)が10%、焼土が1%、炭化物が3%混じる。しまる。シルト粒土。
4層　10YR2/1(黒)に10YR4/6(褐)が20%、焼土が1%、炭化物が5%混じる。しまる。シルト粒土。
5層　10YR4/6(褐)に10YR2/1(黒)が20%、炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
6層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/1(黒)が10%、焼土・炭化物が5%混じる。ややしまる。シルト粒土。
7層(貼床)　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が10%混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が30%混じる。しまる。シルト粒土。



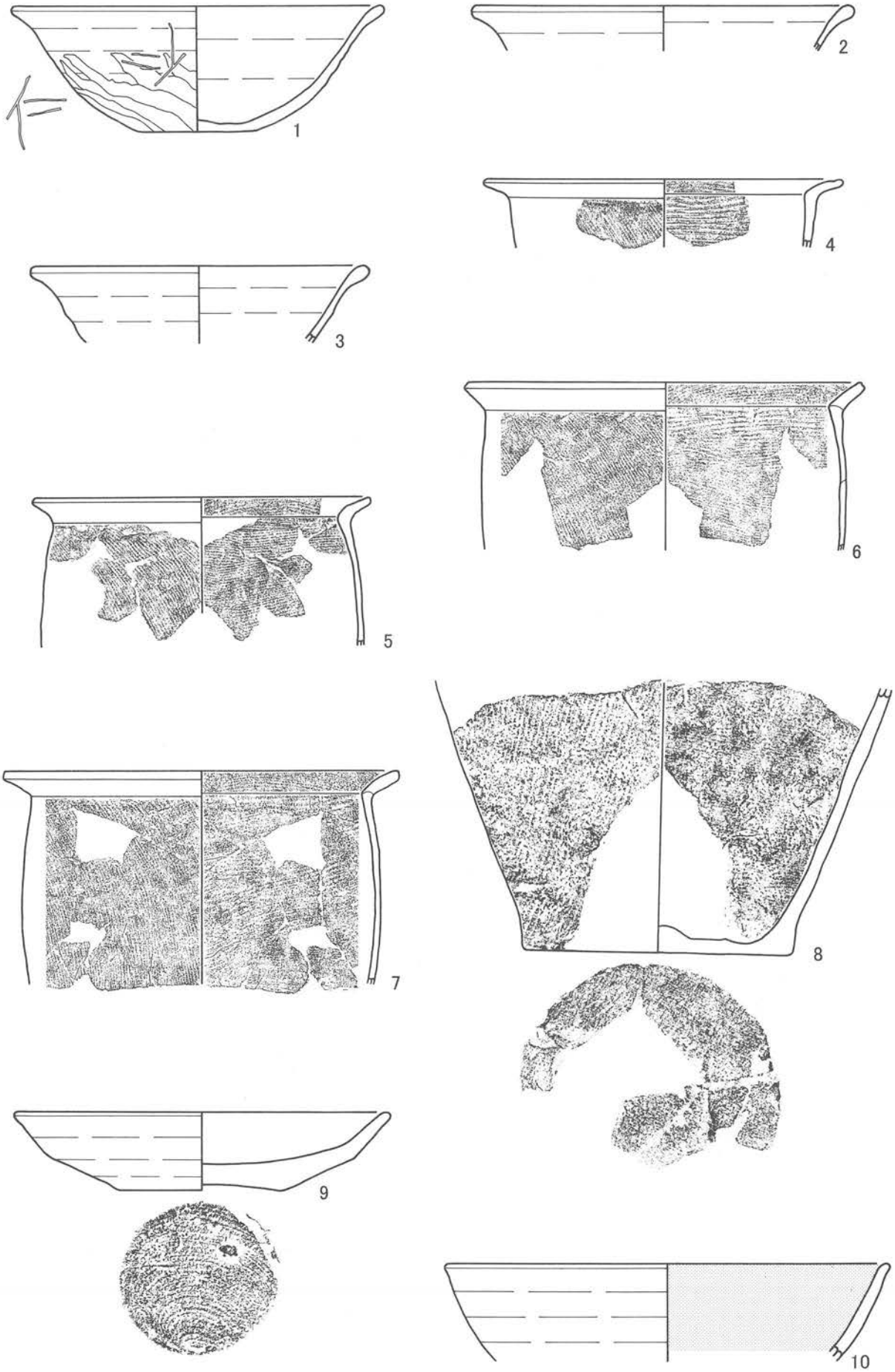
第23図　102号住居（1/40）



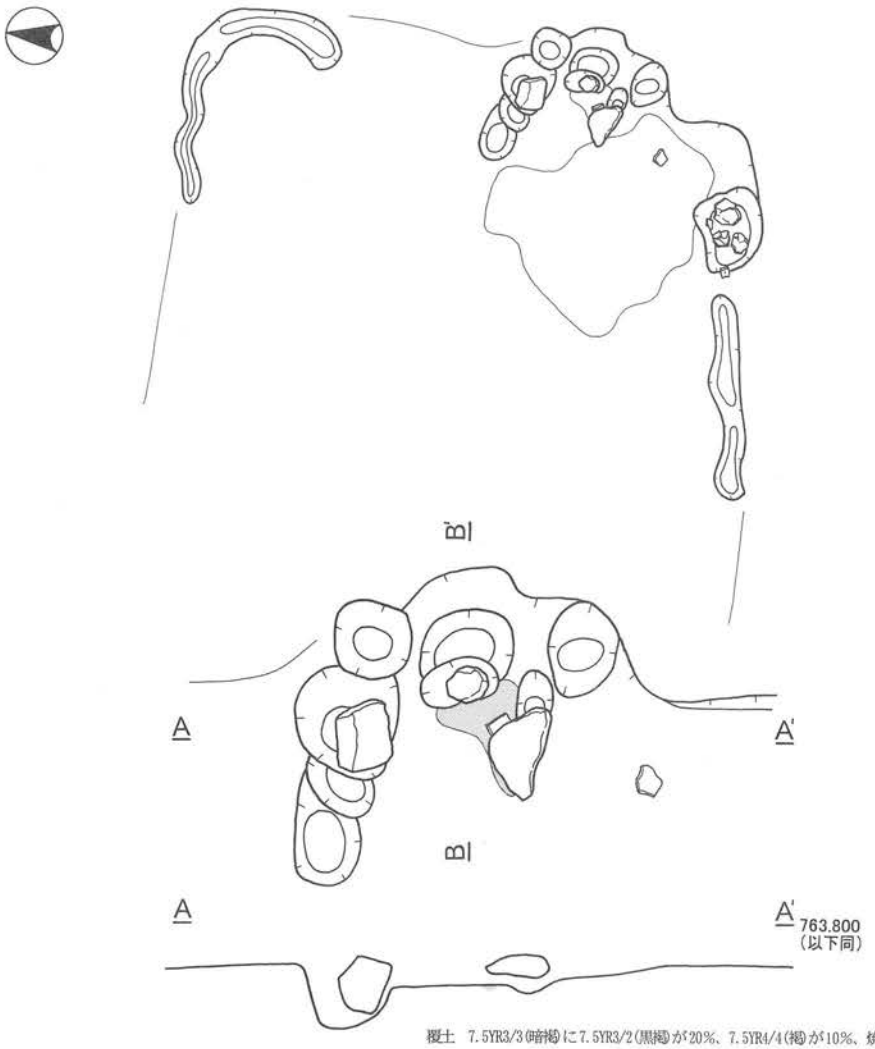
1層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が5%、焼土が2%混じる。
1～3㎜大でポロポロした土。非常に固くしまる。
2層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が2～3㎜大で7%、焼土が
2～3㎜大で3%混じる。しまる。シルト粒土。
10YR4/4(褐)は非常に固くしまるポロポロした土。
3層　5YR3/6(暗赤褐)1～3㎜大の焼土。非常に固くしまる。
4層　10YR4/4(褐)2～4㎜大でポロポロした土。
非常に固くしまる。
5層　10YR4/4(褐)に同色のブロックが2～3㎜大で10%、
10YR2/3(黒褐)が1%、焼土が2%混じる。固くしまる。
シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が30%混じる。しまる。
シルト粒土。

768.800
(以下同)

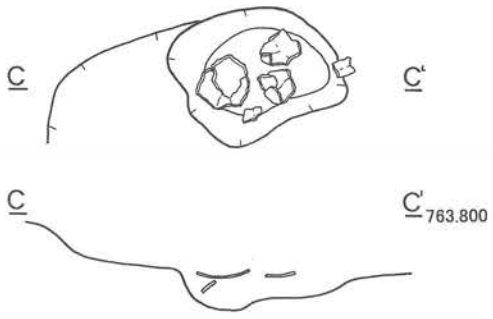
第24図　102号住居カマド（1/20）



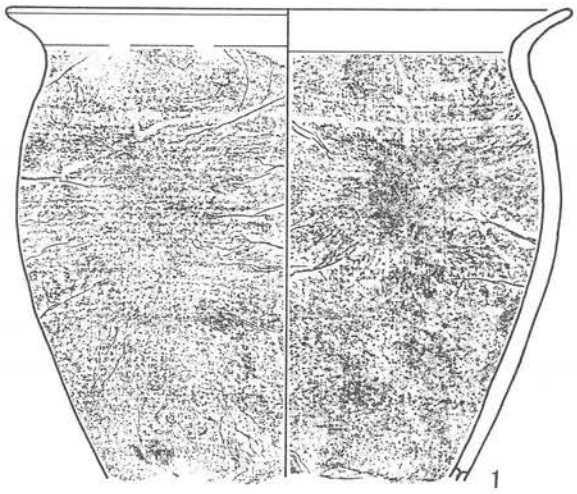
第25図　102号住居出土遺物（1/2、4～7 1/4）

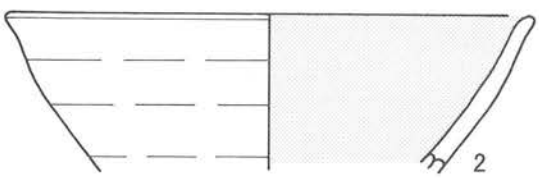


覆土　7.5YR3/3(暗褐)に7.5YR3/2(黒褐)が20%、7.5YR4/4(褐)が10%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。

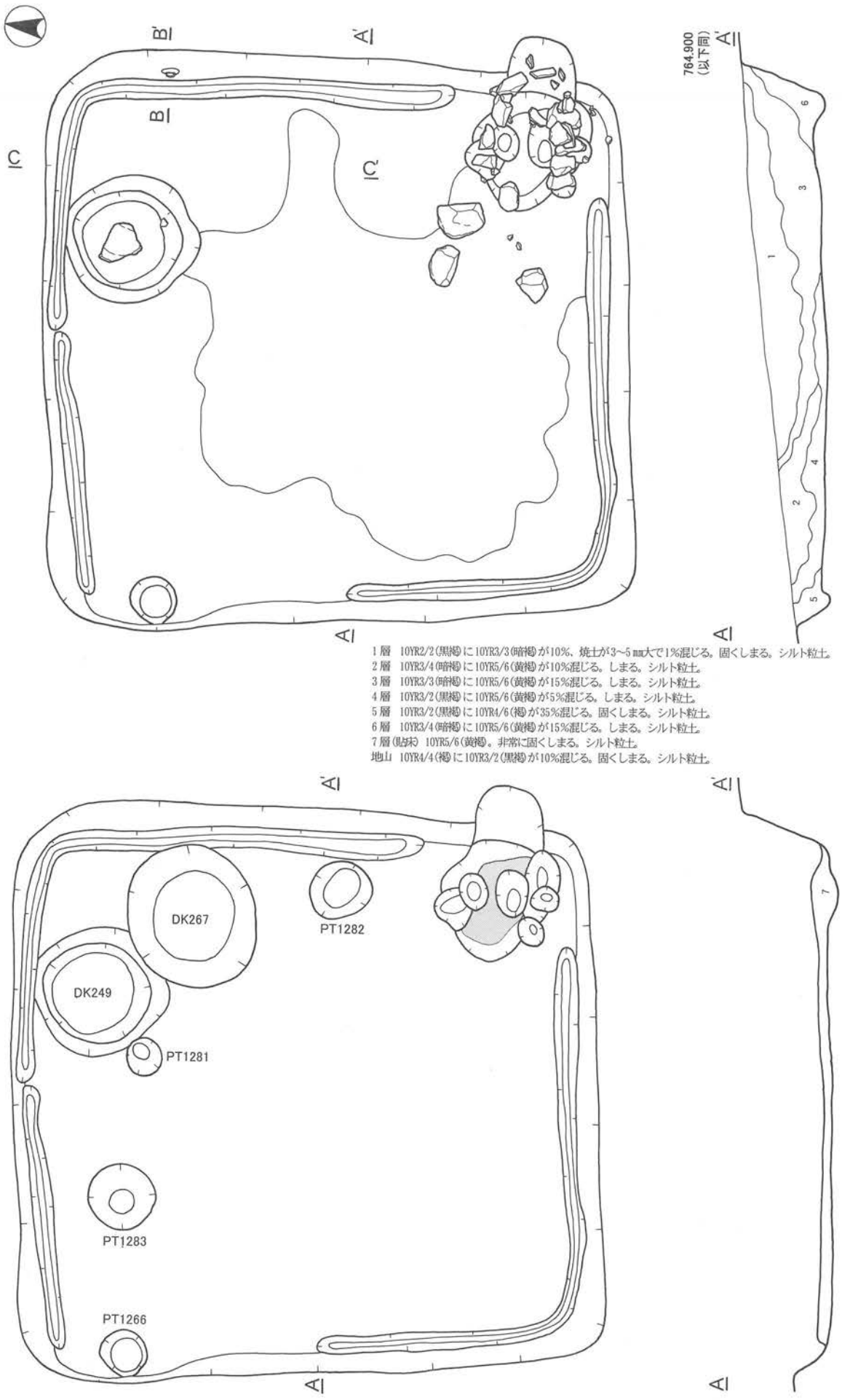


覆土　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR3/3(暗褐)が30%、焼土2%
炭化物2%混じる。固くしまる。シルト粒土。



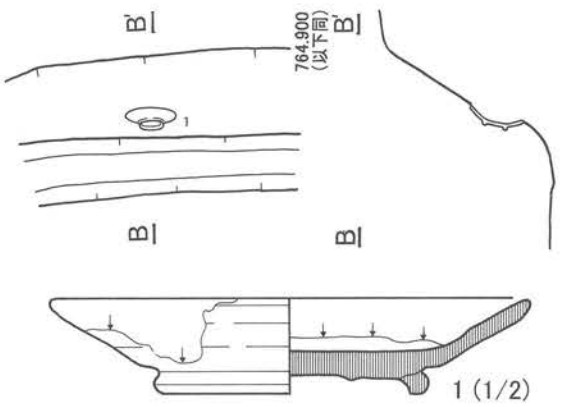


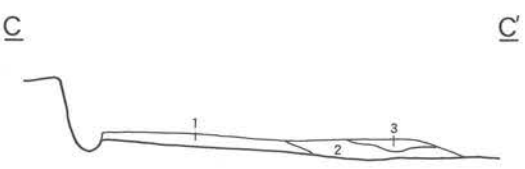
第26図　103号住居（1/40）　103号住居カマド（1/20）および出土遺物（1/2）



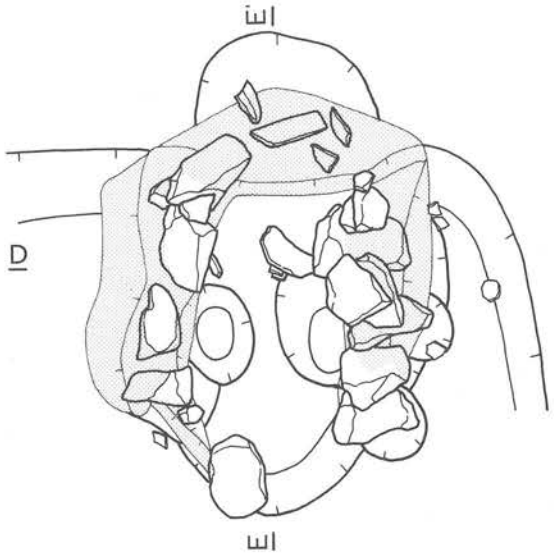
1 層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が10%、焼土が3~5㎜大で1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
2 層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が10%混じる。しまる。シルト粒土。
3 層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が15%混じる。しまる。シルト粒土。
4 層　10YR3/2(黒褐)に10YR5/6(黄褐)が5%混じる。しまる。シルト粒土。
5 層　10YR3/2(黒褐)に10YR4/6(褐)が35%混じる。固くしまる。シルト粒土。
6 層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が15%混じる。しまる。シルト粒土。
7 層(貼床)　10YR5/6(黄褐)。非常に固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/4(褐)に10YR3/2(黒褐)が10%混じる。固くしまる。シルト粒土。

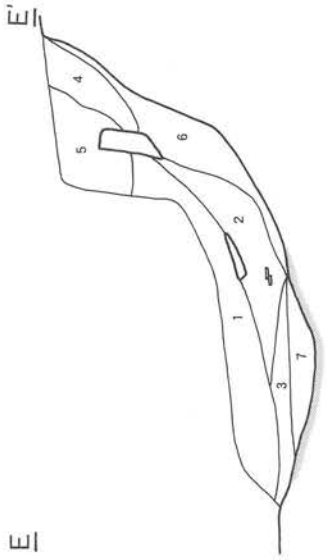
第27図　105号住居（1/40）

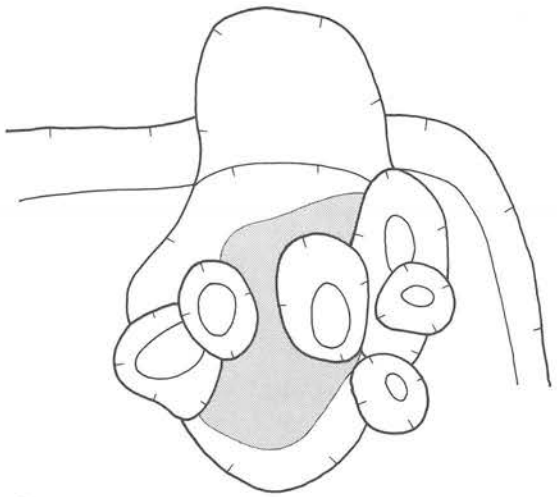


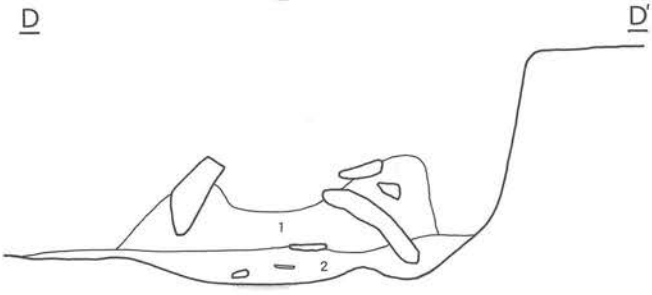


1層　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が20%、10YR2/3(黒褐)が5%混じる。ややしまる。シルト粒土。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が20%、10YR4/6(褐)が10%焼土が1%混じる。しまる。シルト粒土。
3層　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が30%混じる。ややしまる。シルト粒土。



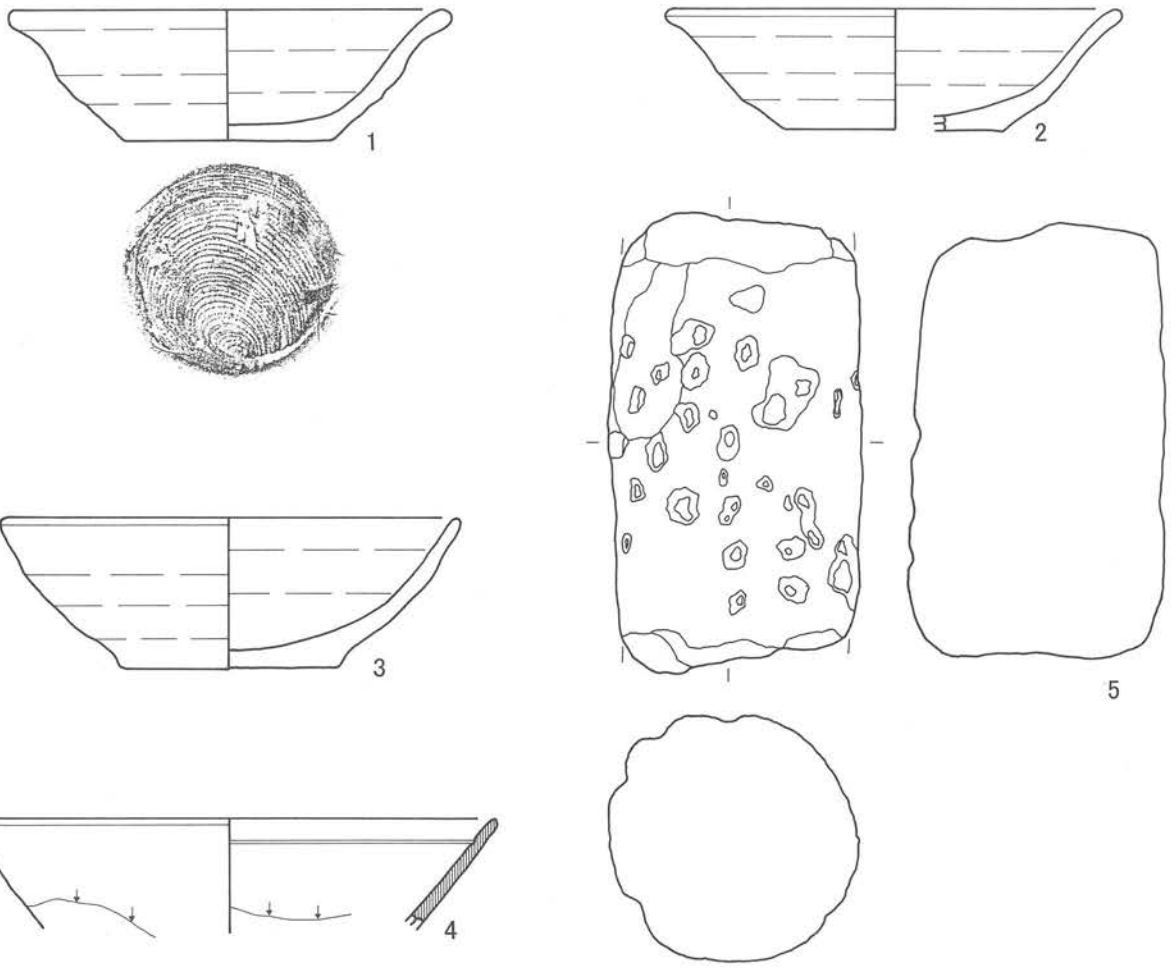


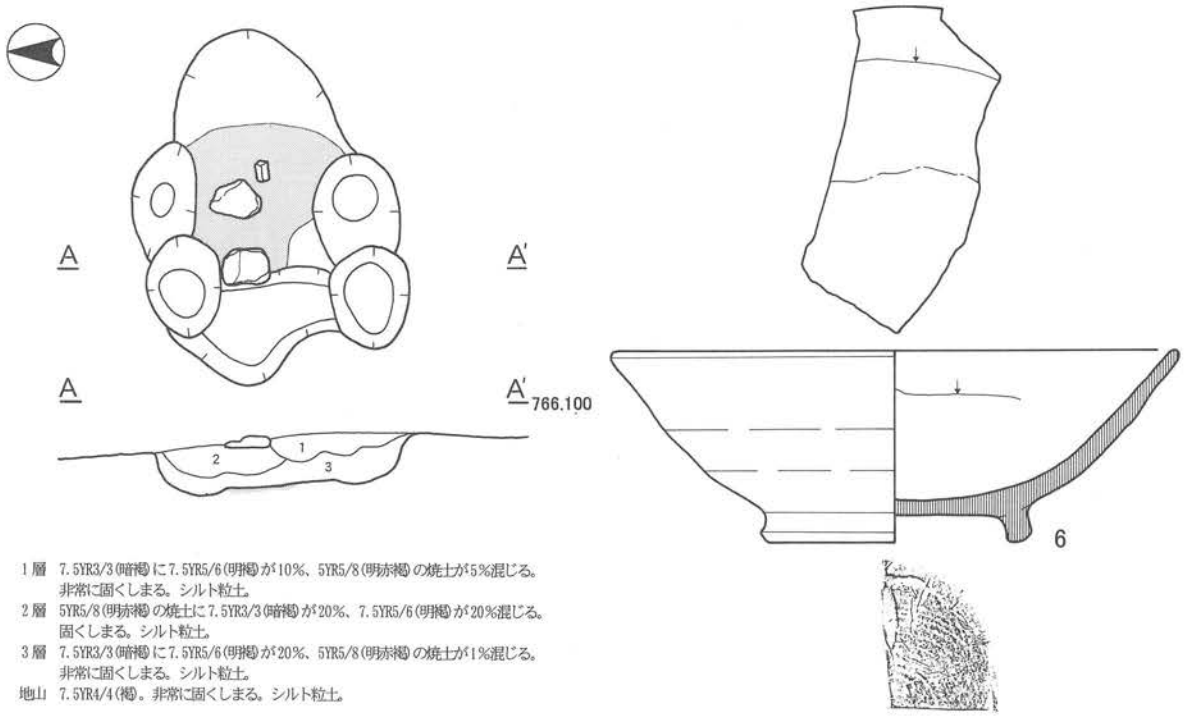




1層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が5%、焼土が3%混じる。しまる。シルト粒土。
2層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が20%、焼土が10%混じる。しまる。シルト粒土。
3層　10R5/8(赤)の焼土に10YR2/3(黒褐)が20%、炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
4層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が3%、10YR4/6(褐)が10%焼土・炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
5層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が2~10㎜大で40%焼土・炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
6層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が20%、焼土・炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
7層　10YR3/2(黒褐)に2.5YR4/6(赤褐)の焼土が2~5㎜大で20%混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が10%、焼土が1%混じる。しまる。シルト粒土。

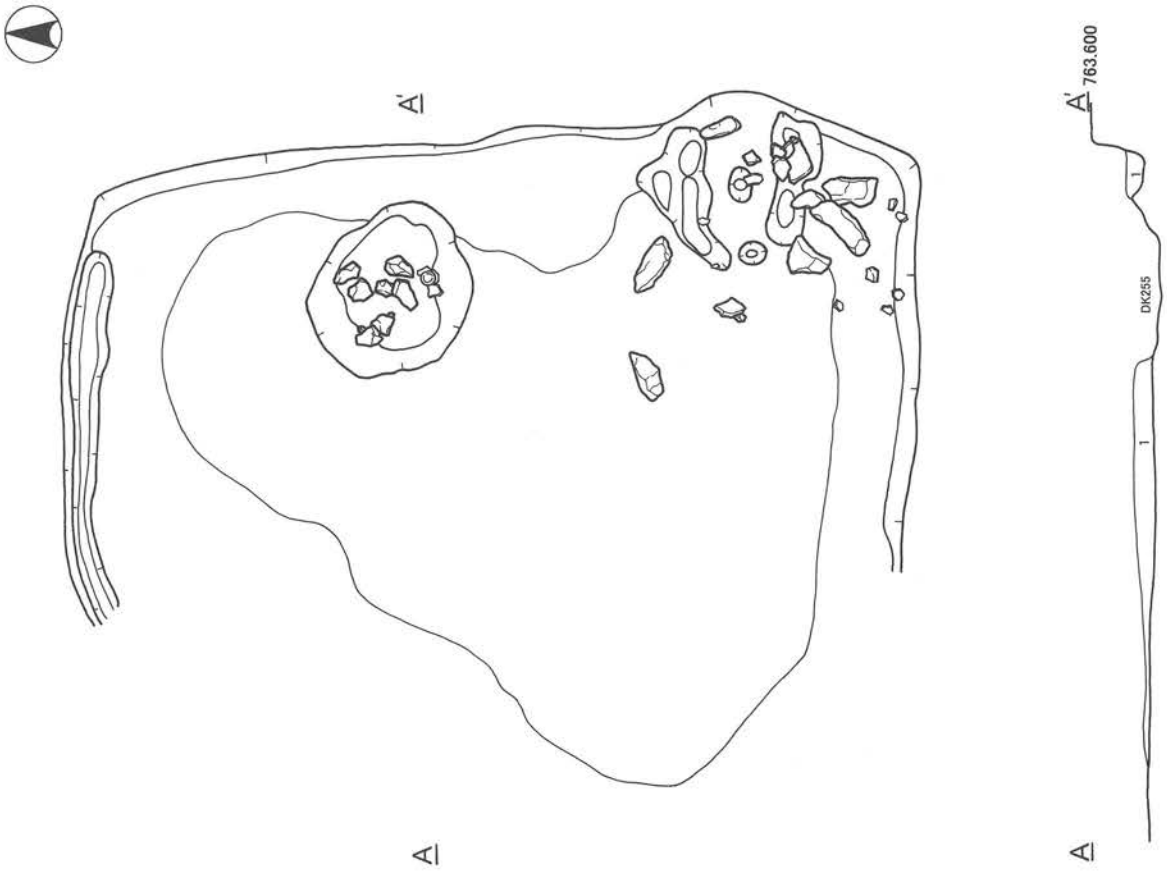
第28図　105号住居遺物出土状況（1/20）　105号住居カマド（1/20）



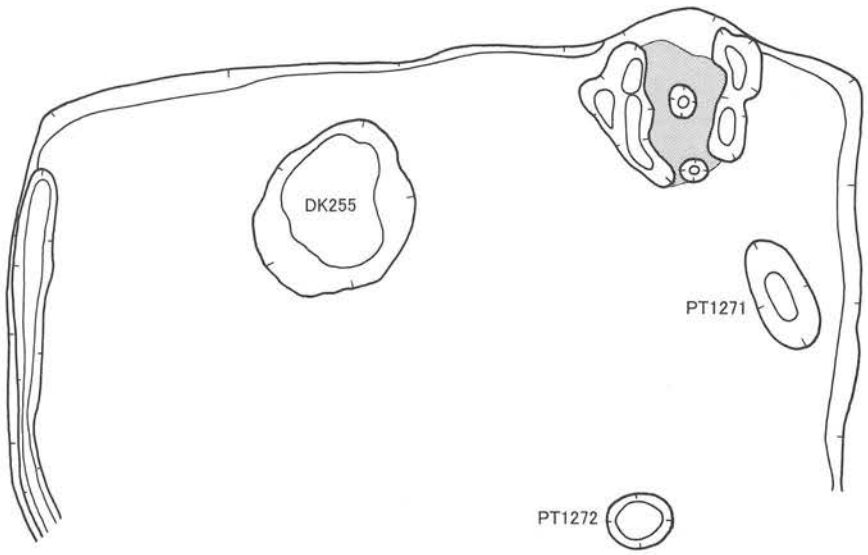


1層　7.5YR3/3(暗褐)に7.5YR5/6(明褐)が10%、5YR5/8(明赤褐)の焼土が5%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。
2層　5YR5/8(明赤褐)の焼土に7.5YR3/3(暗褐)が20%、7.5YR5/6(明褐)が20%混じる。固くしまる。シルト粒土。
3層　7.5YR3/3(暗褐)に7.5YR5/6(明褐)が20%、5YR5/8(明赤褐)の焼土が1%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。
地山　7.5YR4/4(褐)。非常に固くしまる。シルト粒土。

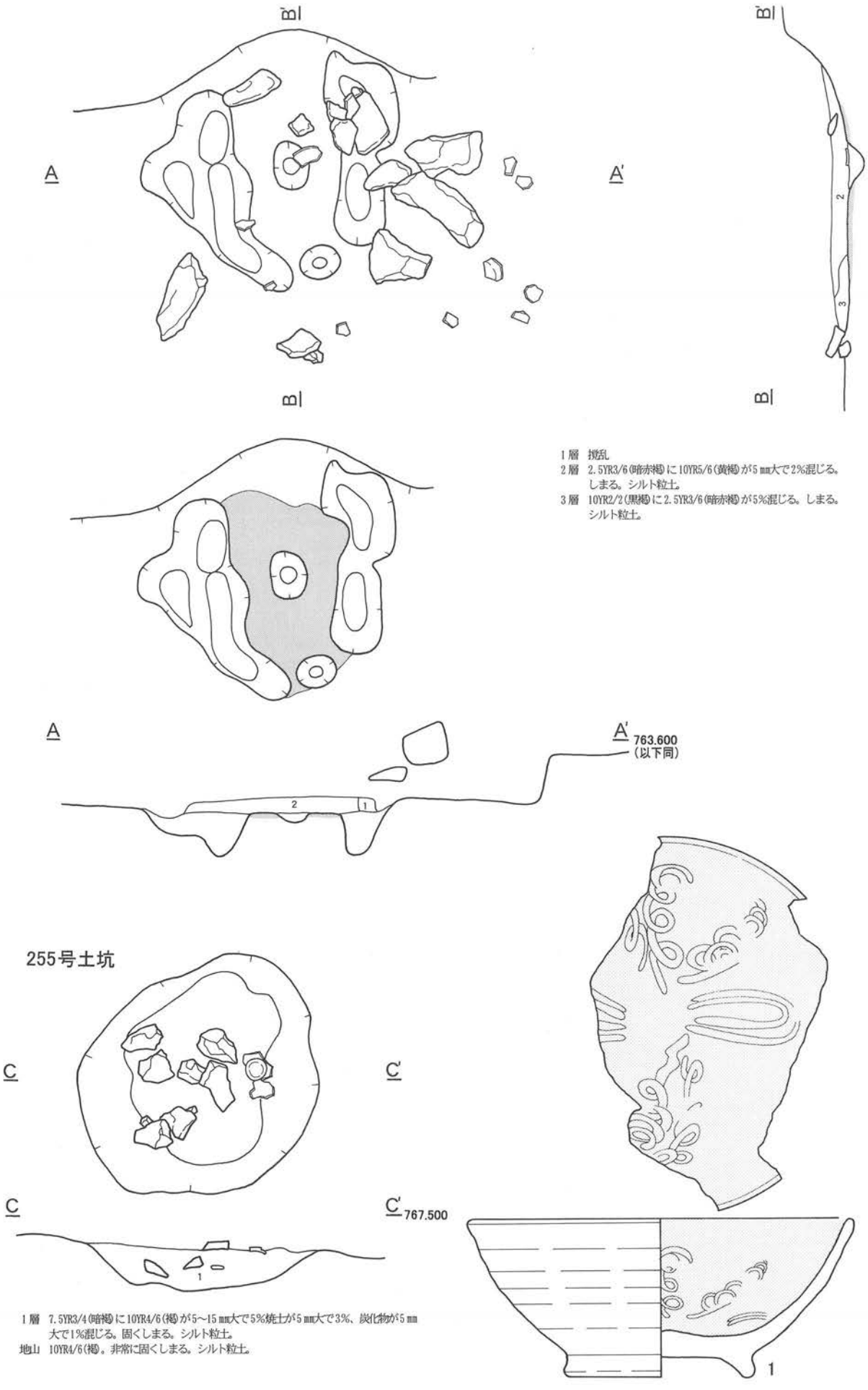
第29図　105号住居出土遺物（1/2、5 1/4）　104号住居カマド（1/20）および出土遺物（1/2）



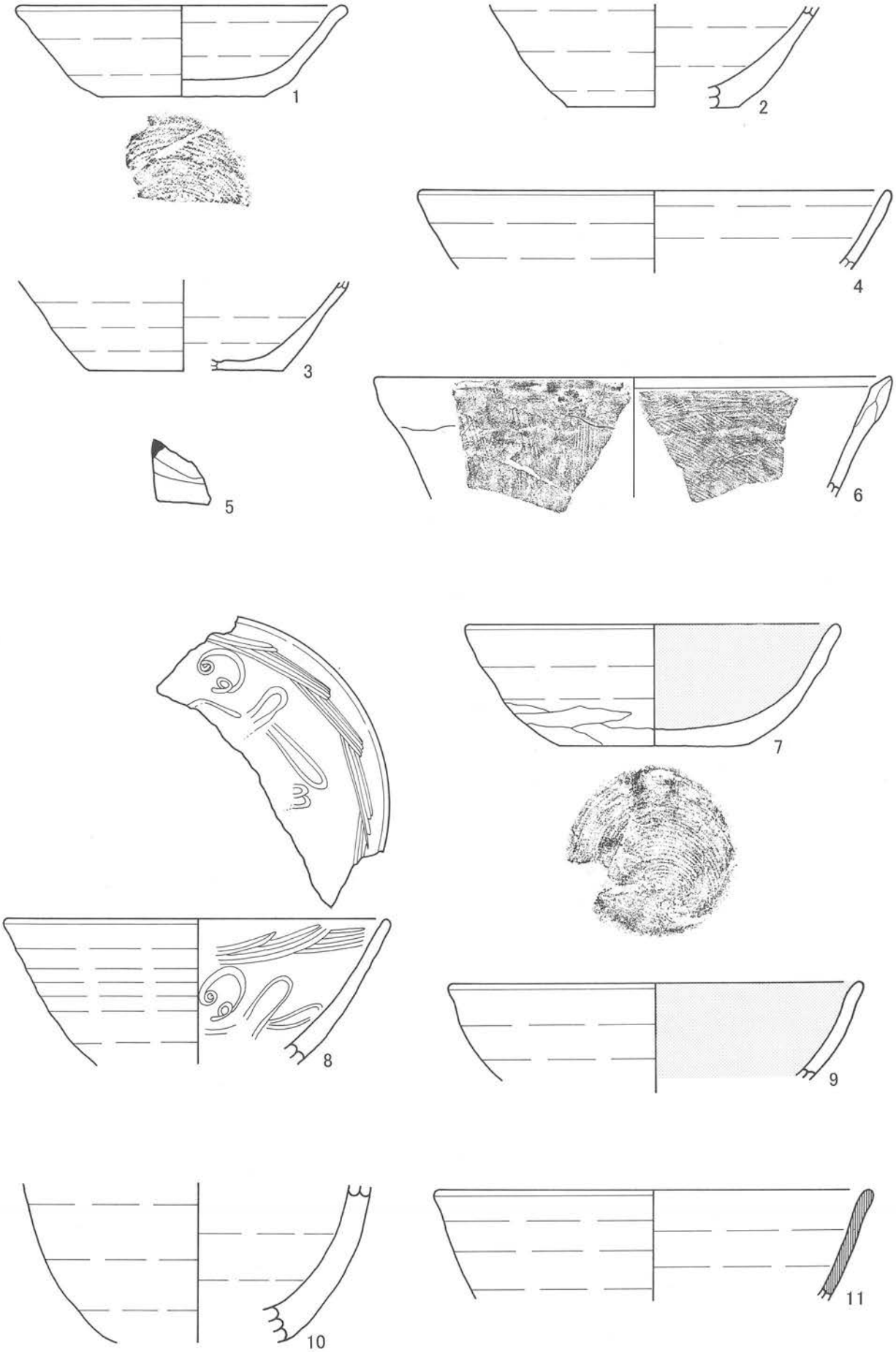
1層　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が2%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。
床面　10YR4/6(褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が1%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)。非常に固くしまる。シルト粒土。



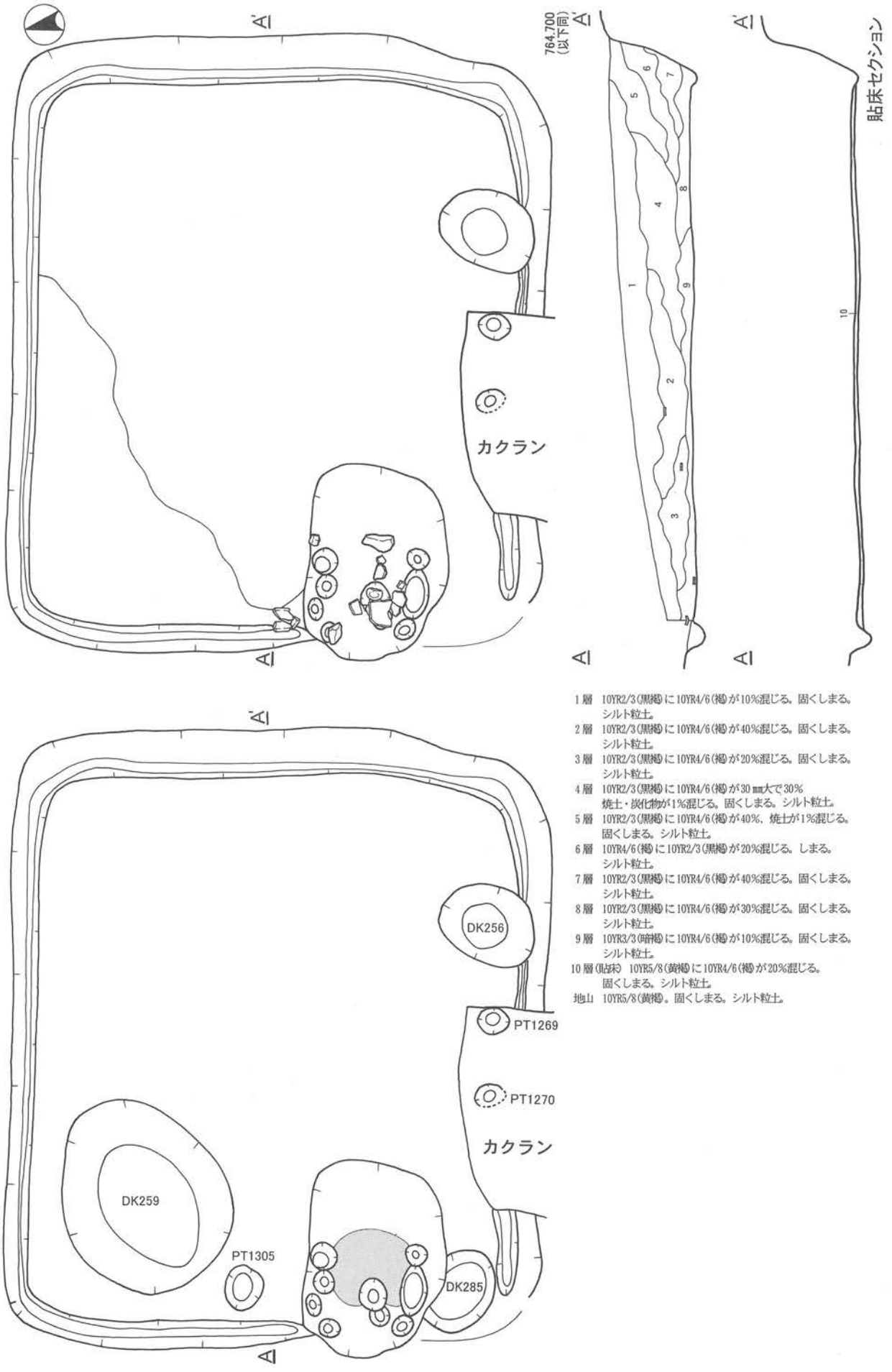
第30図　106号住居（1/40）



第31図　106号住居カマド（1/20）　255号土坑（1/20）および出土遺物（1/2）

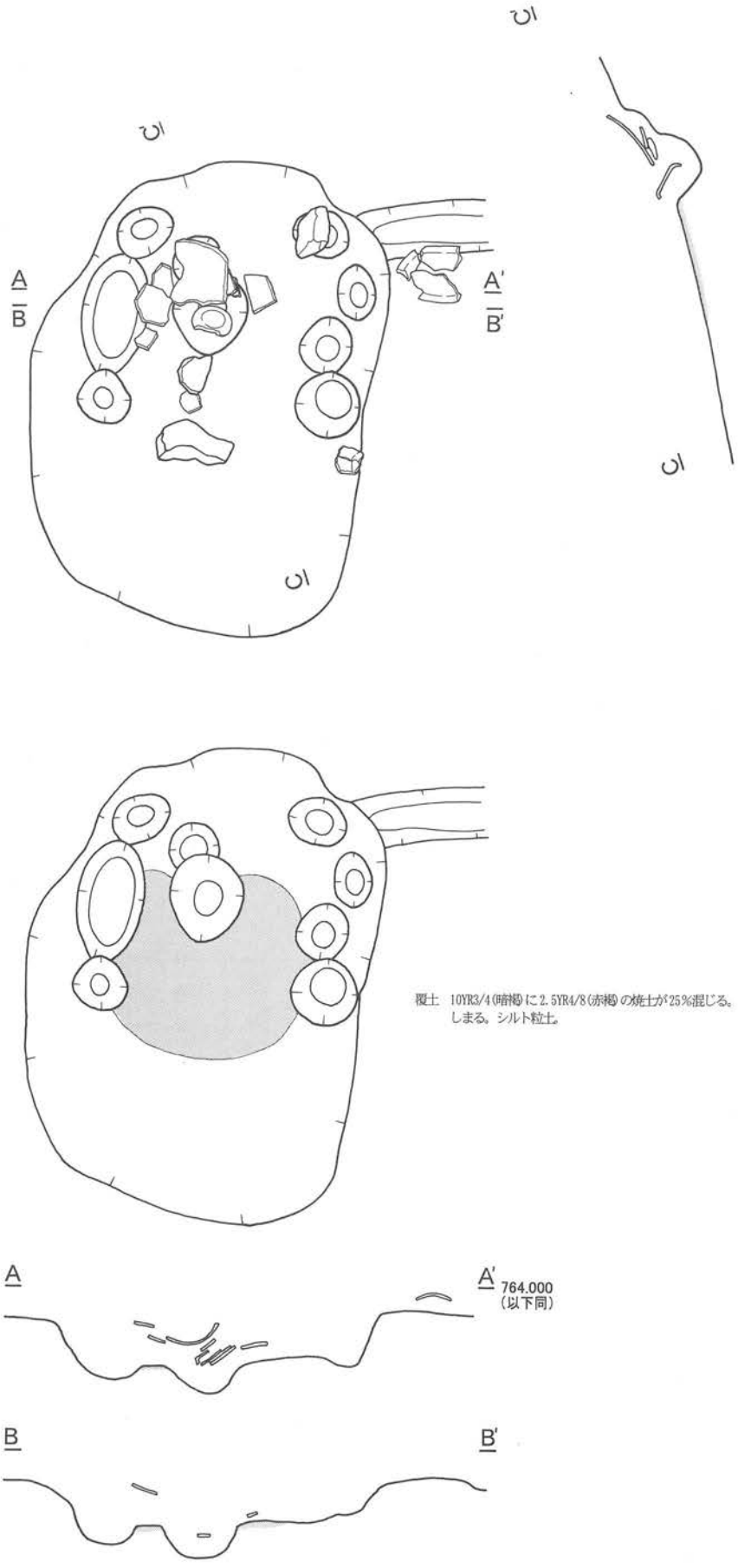


第32図　106号住居出土遺物（1/2、6 1/4）

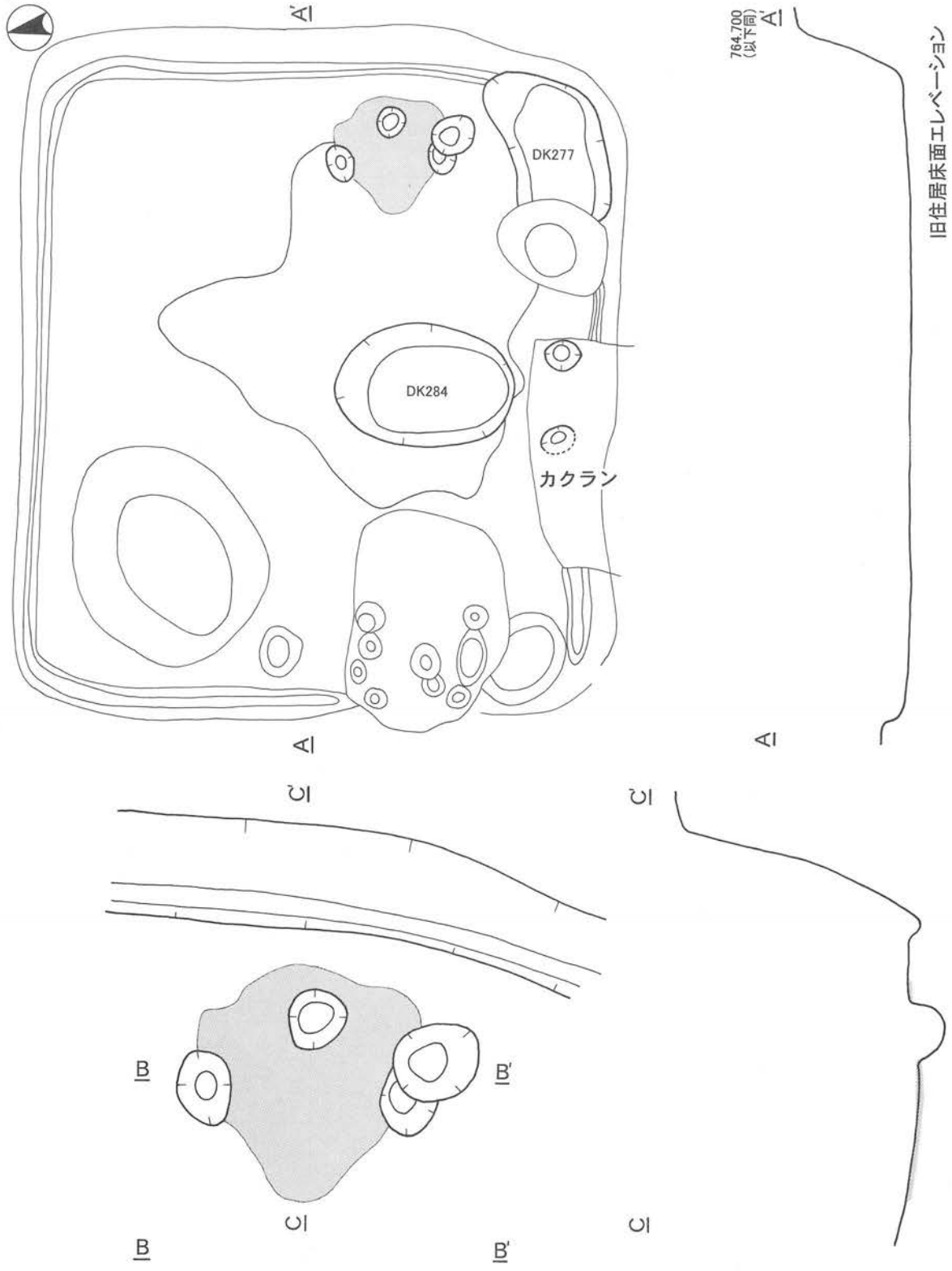


1層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が10%混じる。固くしまる。
シルト粒土。
2層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が40%混じる。固くしまる。
シルト粒土。
3層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が20%混じる。固くしまる。
シルト粒土。
4層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が30㎜大で30%
焼土・炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
5層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が40%、焼土が1%混じる。
固くしまる。シルト粒土。
6層　10YR4/6(褐)に10YR2/3(黒褐)が20%混じる。しまる。
シルト粒土。
7層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が40%混じる。固くしまる。
シルト粒土。
8層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が30%混じる。固くしまる。
シルト粒土。
9層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が10%混じる。固くしまる。
シルト粒土。
10層(貼床)　10YR5/8(黄褐)に10YR4/6(褐)が20%混じる。
固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR5/8(黄褐)。固くしまる。シルト粒土。

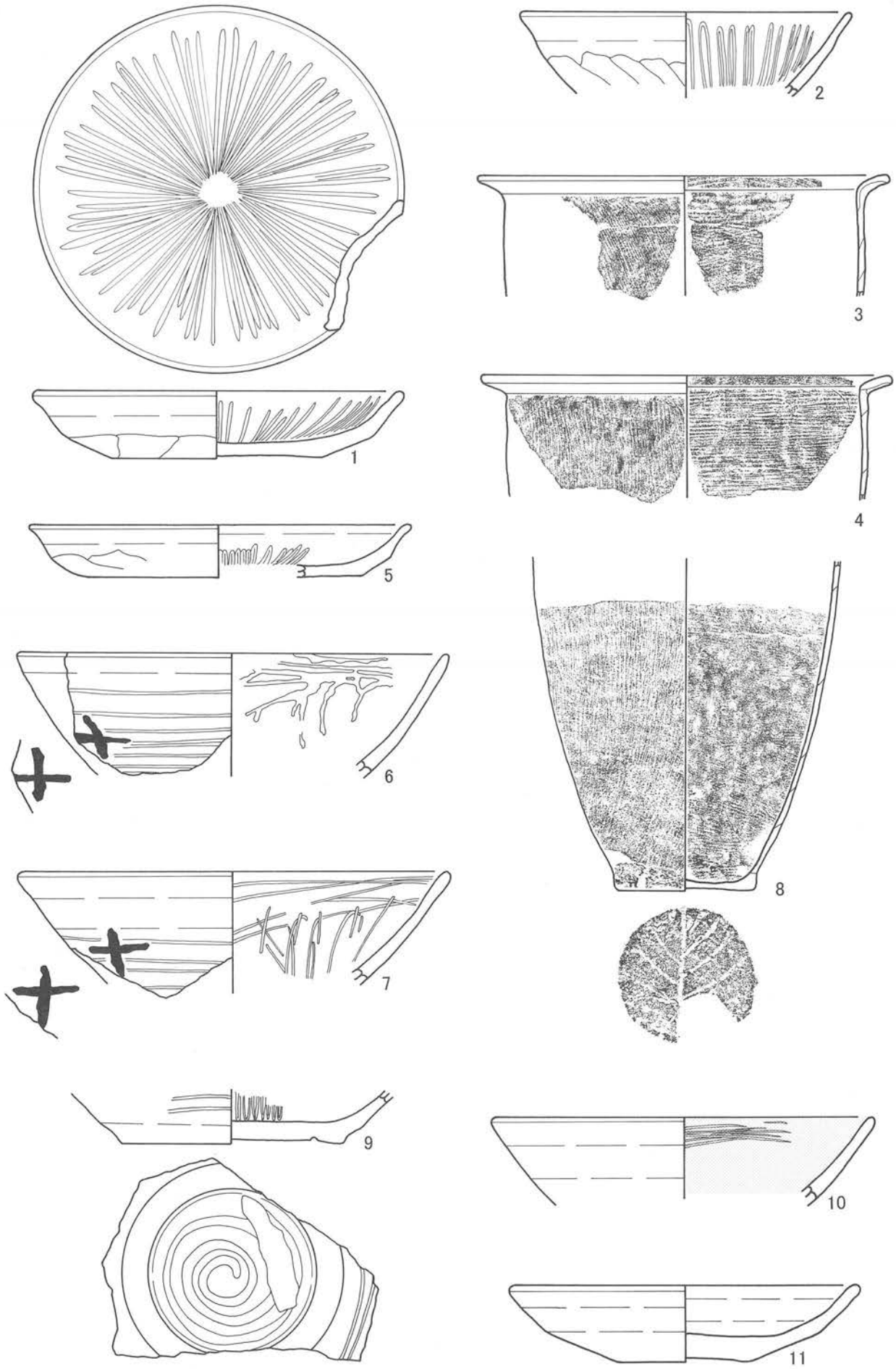
第33図　107a号住居（1/40）



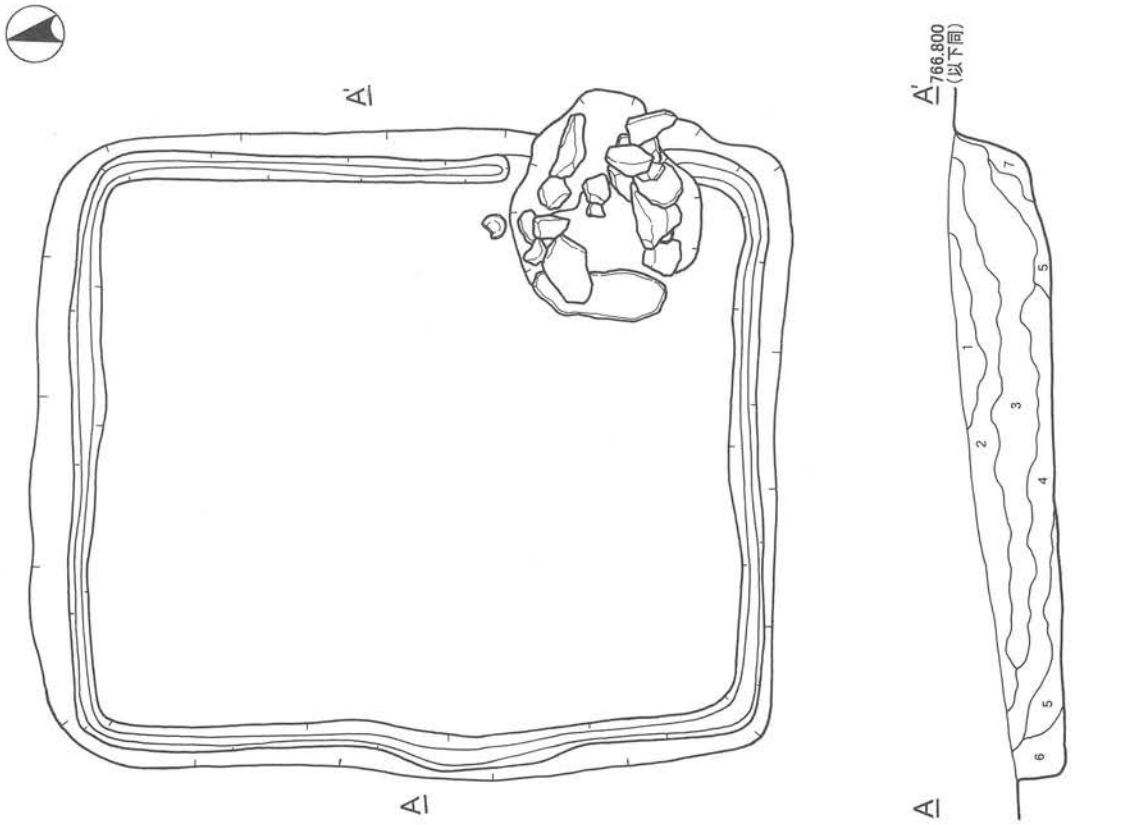
第34図　107ａ号住居カマド（1/20）



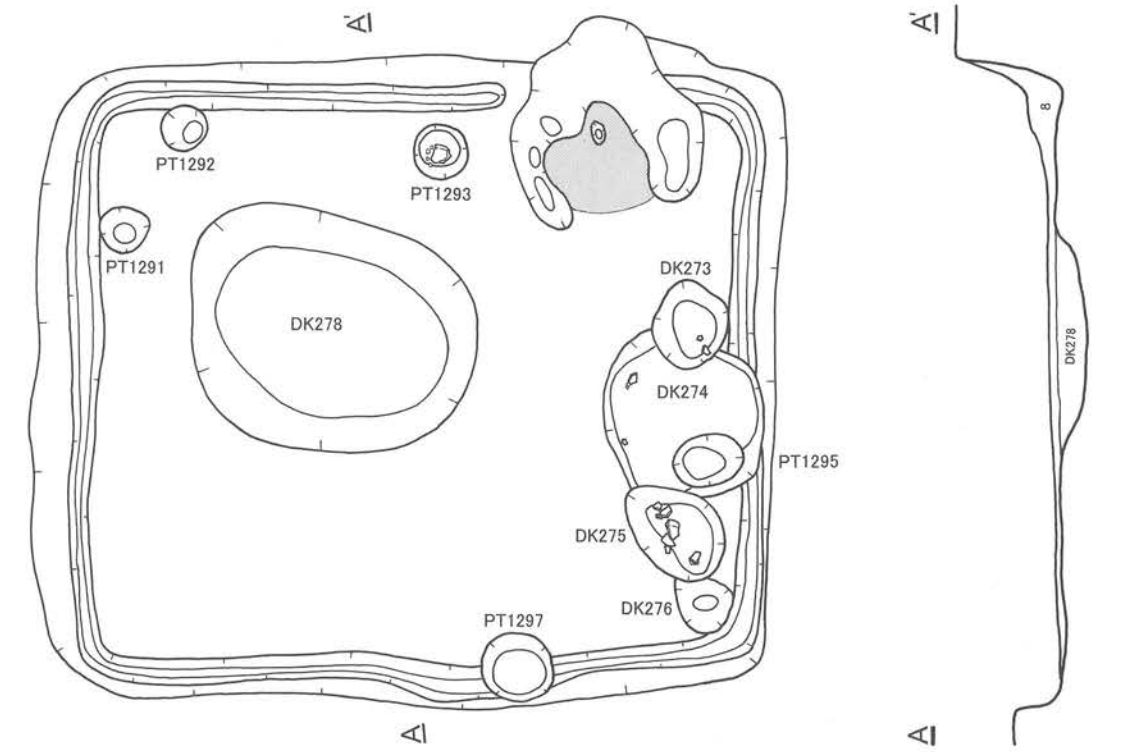
第35図　107ｂ号住居（1/40）　107ｂ号住居カマド（1/20）



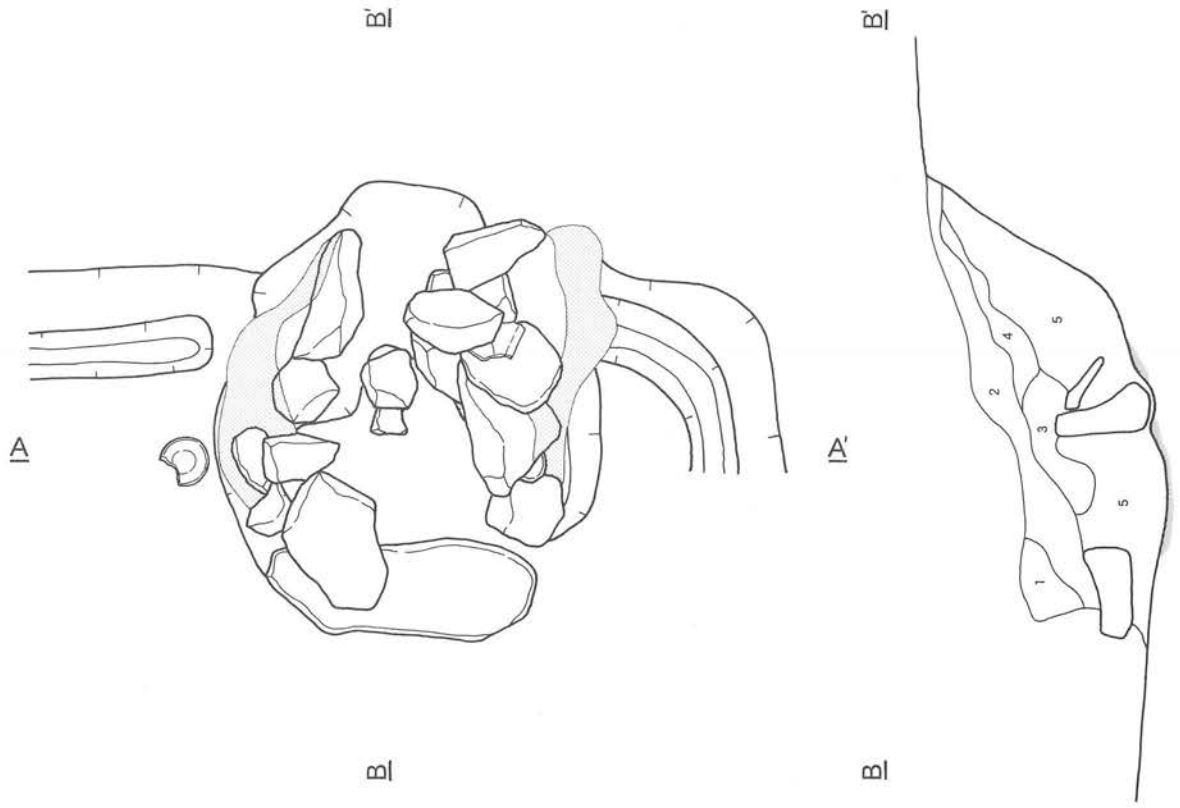
第36図　107号住居出土遺物（1/2、3･4･8 1/4）



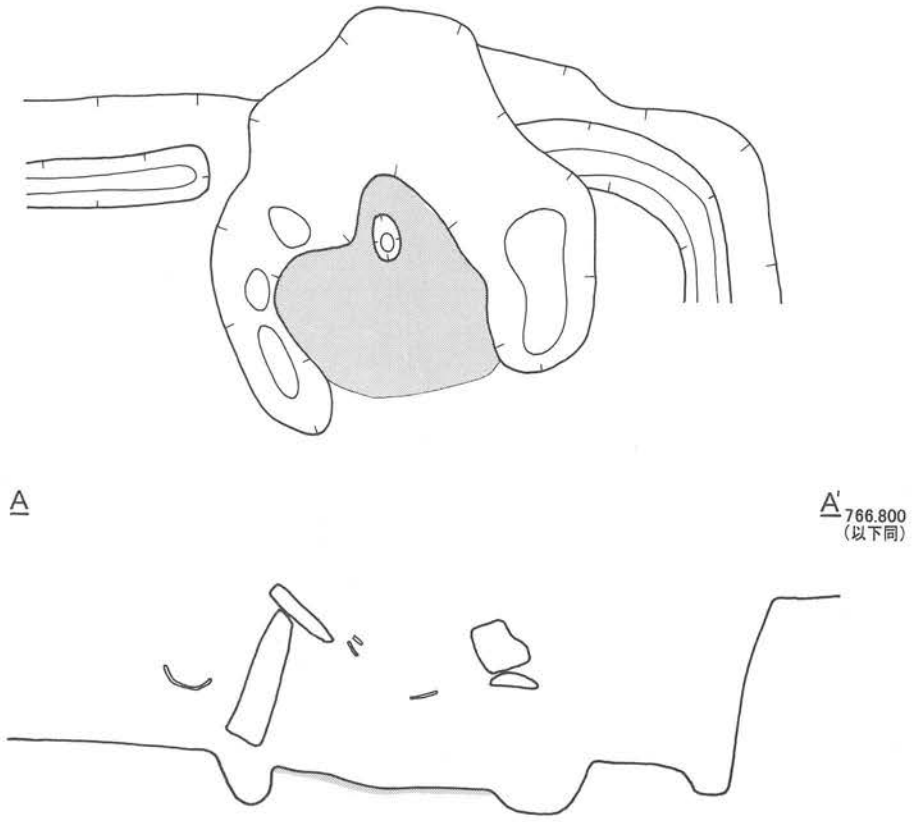
1層　10YR4/4(褐)に10YR3/3(暗褐)が30%混じる。固くしまる。シルト粒土。
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%混じる。固くしまる。シルト粒土。
3層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が10%、焼土が1%混じる。シルト粒土。
4層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が5%、焼土・炭化物が1%混じる。シルト粒土。
5層　10YR4/4(褐)に10YR3/3(暗褐)が20%混じる。固くしまる。シルト粒土。
6層　10YR4/4(褐)に10YR3/3(暗褐)が10%混じる。固くしまる。シルト粒土。
7層　10YR4/4(褐)に10YR3/3(暗褐)が5%混じる。固くしまる。シルト粒土。
8層(貼床)　10YR5/8(黄褐)。固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR6/8(明黄褐)に10YR5/6(黄褐)が30%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。



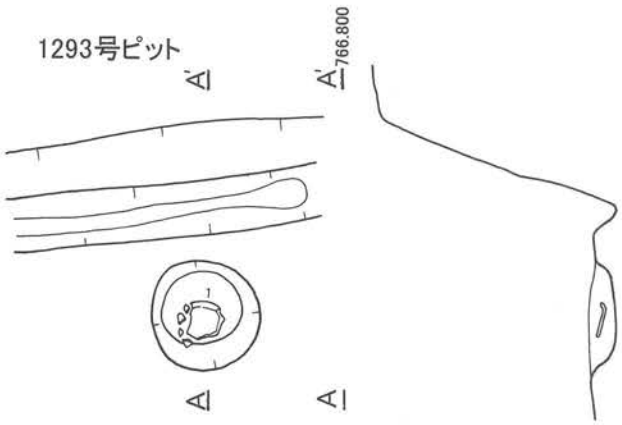
第37図　108号住居（1/40）



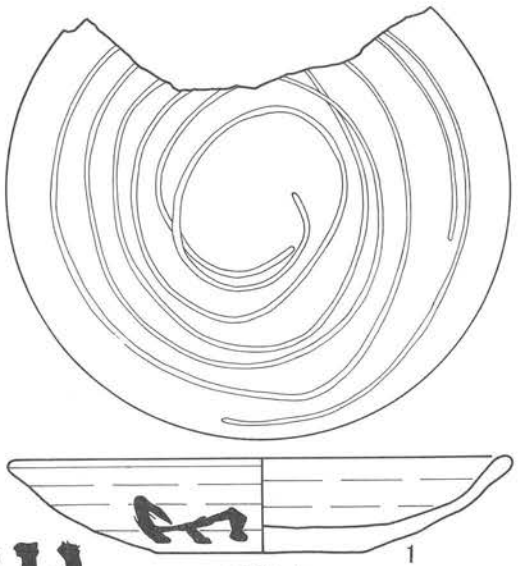
1層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)のポロポロした土が1～2㎜大で5%、焼土が2%混じる。固くしまる。シルト粒土。
2層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)のポロポロした土が1～3㎜大で2%、焼土・炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
3層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)のポロポロした土が2～3㎜大で1%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
4層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)のポロポロした土が1～2㎜大で2%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
5層　10YR3/4(暗褐)に焼土が2～20㎜大で5%、10YR4/4(褐)が2%混じる。固くしまる。シルト粒土。

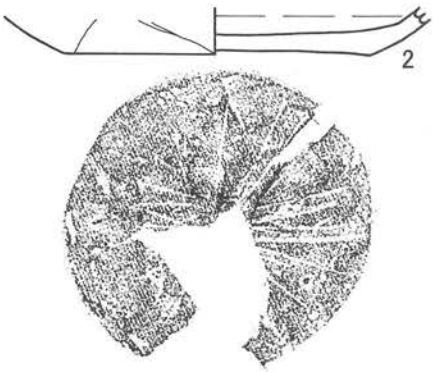


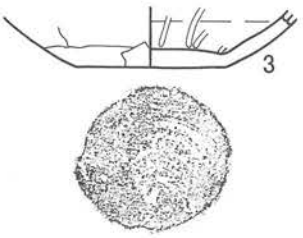
第38図　108号住居カマド（1/20）

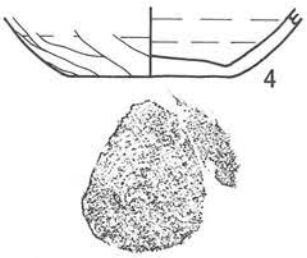


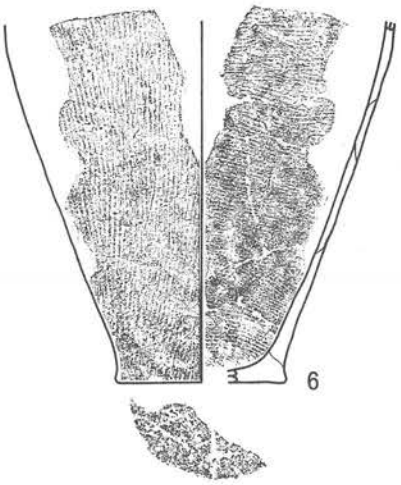
覆土　10YR4/4(褐)に10YR3/2(黒褐)が40%、炭化物粒子が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。

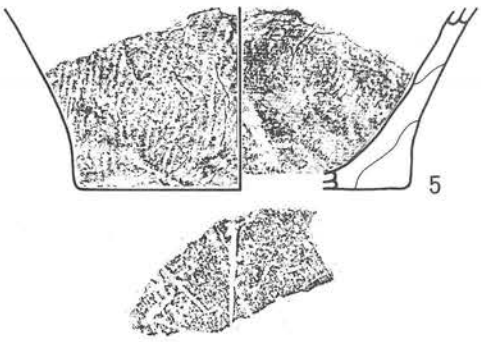


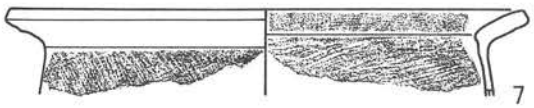


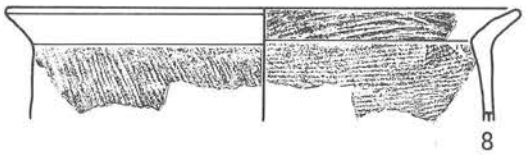




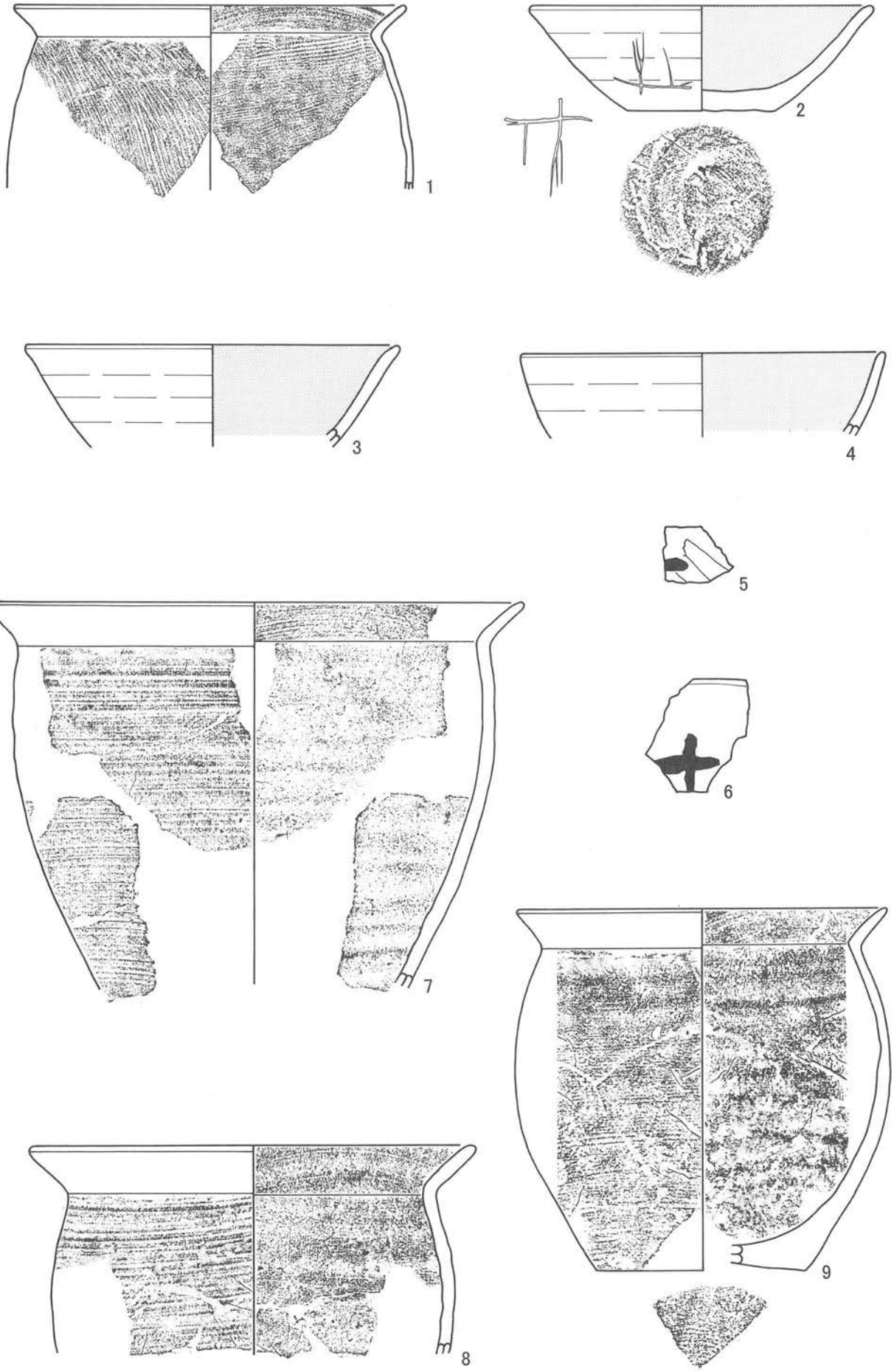




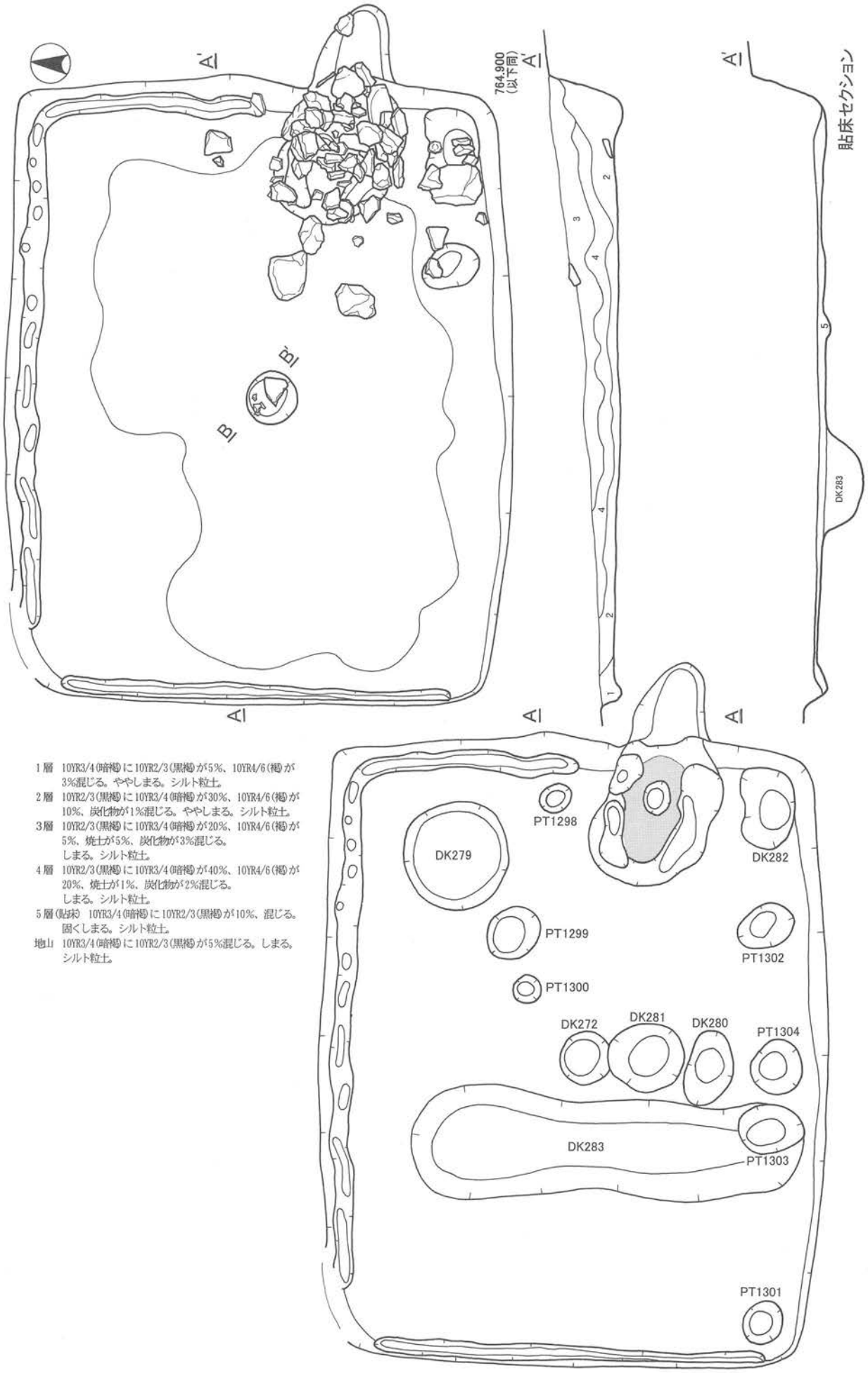




第39図　1293号ピット（1/20）および出土遺物（1/2）　108号住居出土遺物（1/2、6～8 1/4）

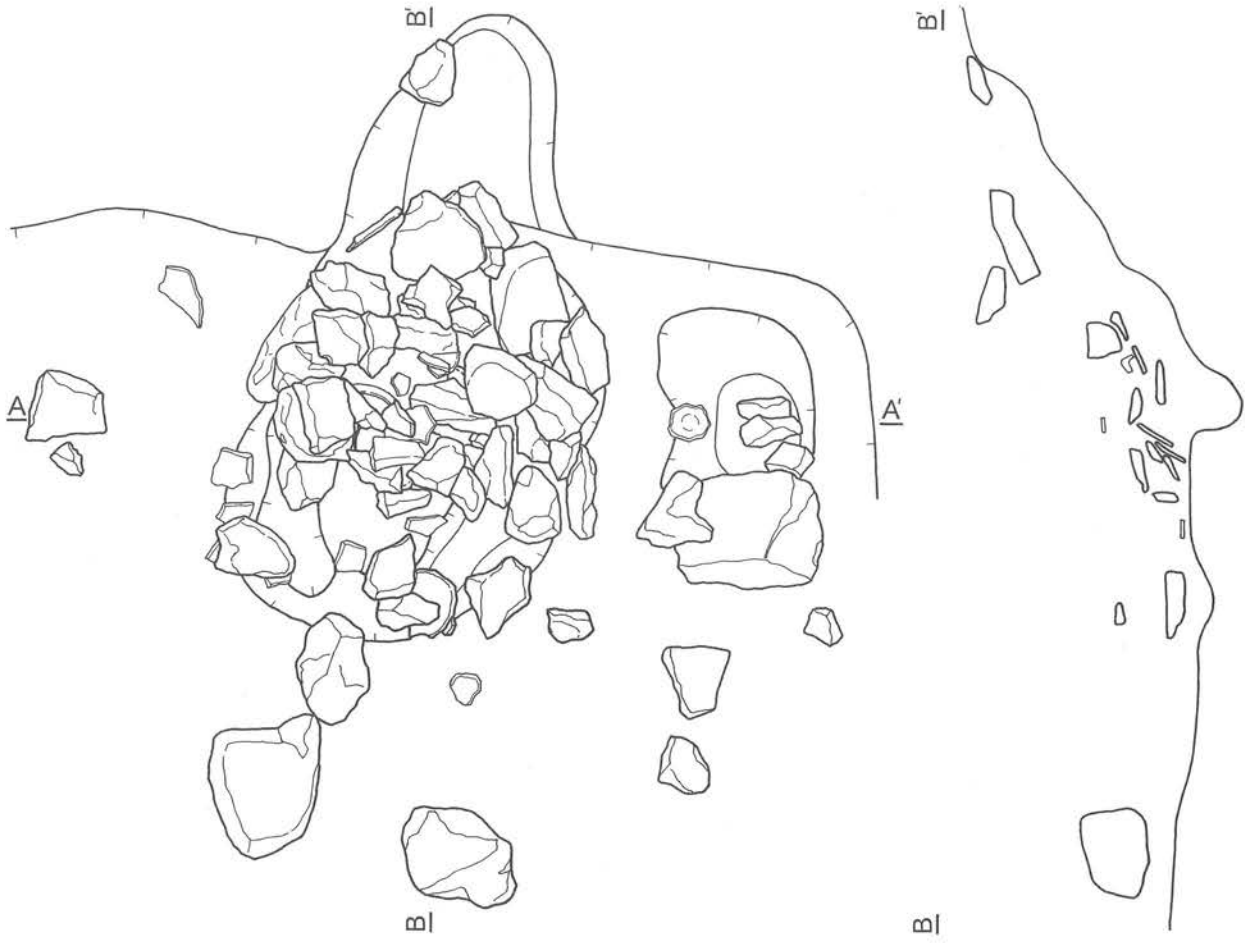


第40図　108号住居出土遺物（1/2、 1 1/4）

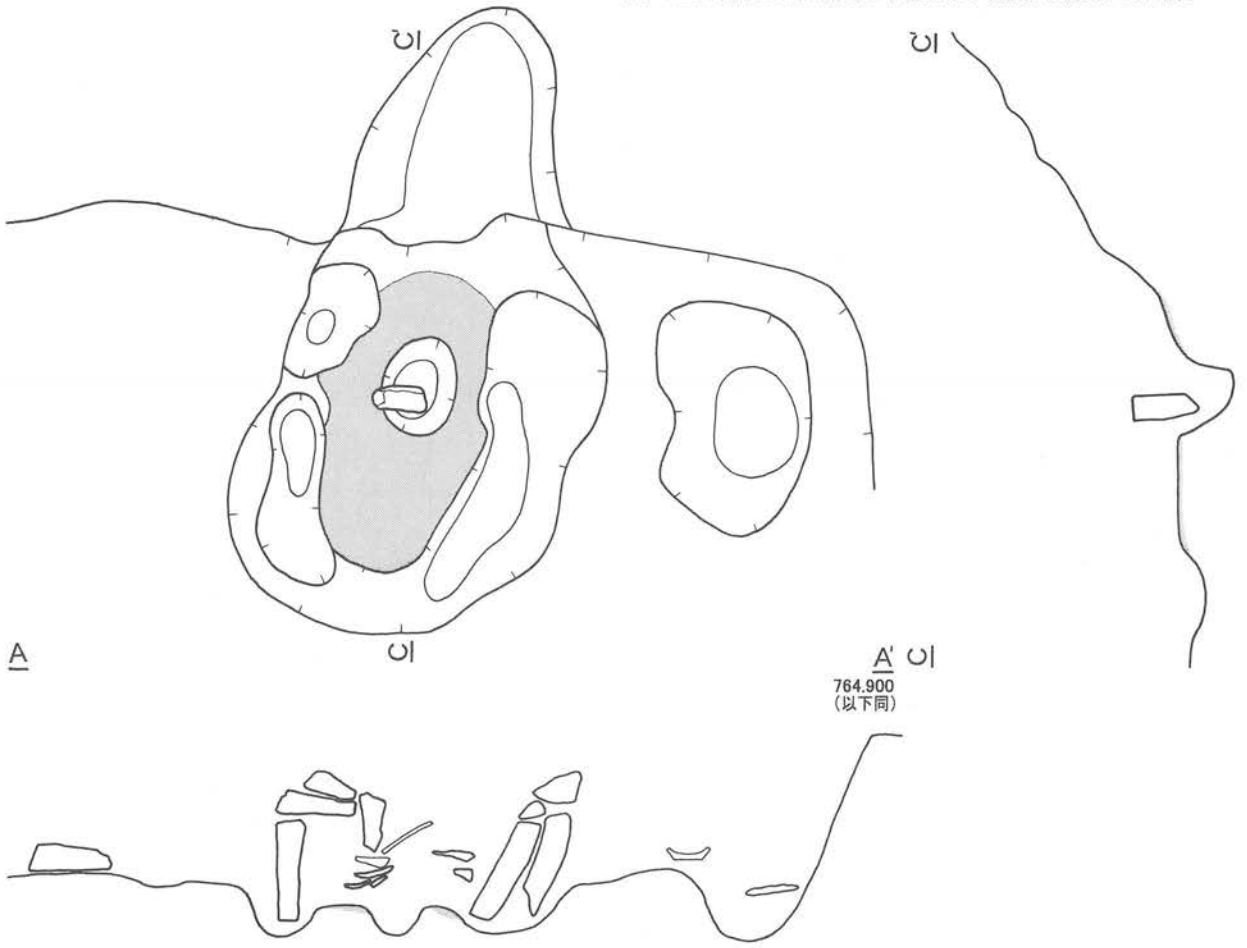


1層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が5%、10YR4/6(褐)が3%混じる。ややしまる。シルト粒土。
2層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が30%、10YR4/6(褐)が10%、炭化物が1%混じる。ややしまる。シルト粒土。
3層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が20%、10YR4/6(褐)が5%、焼土が5%、炭化物が3%混じる。しまる。シルト粒土。
4層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が40%、10YR4/6(褐)が20%、焼土が1%、炭化物が2%混じる。しまる。シルト粒土。
5層(貼床)　10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が10%、混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が5%混じる。しまる。シルト粒土。

第41図　109号住居（1/40）

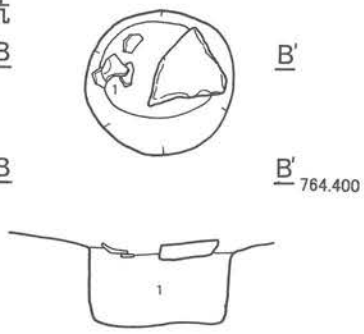


上層　10YR3/2(黒褐)。しまりなし。シルト粒土。
下層　10YR3/4(暗褐)に10YR3/2(黒褐)が5%、焼土が10%、炭化物が5%混じる。シルト粒土。

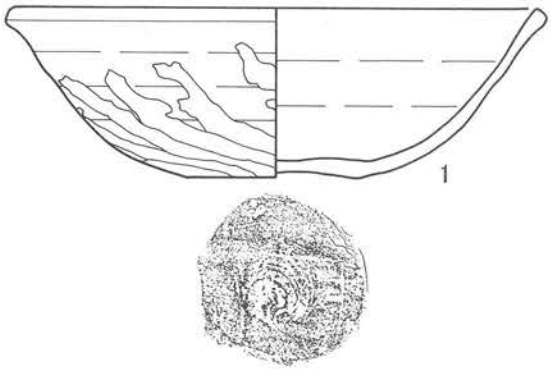


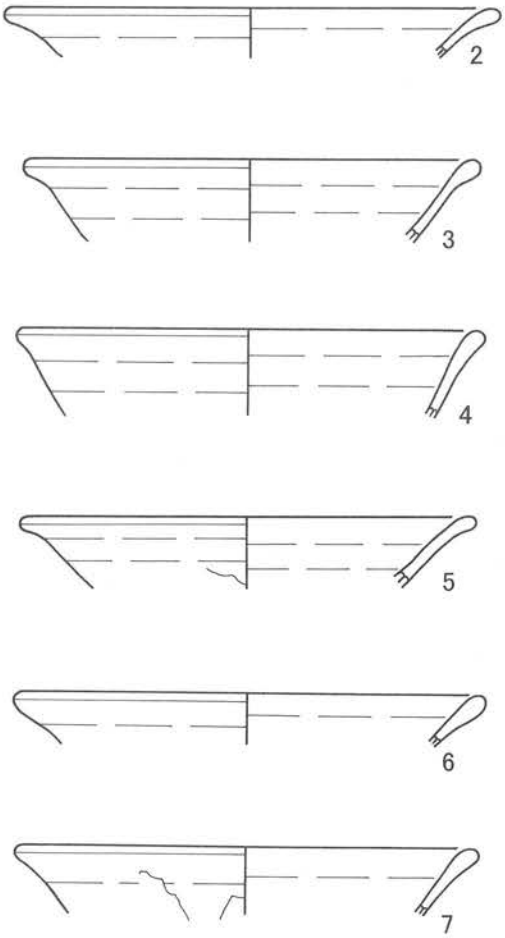
第42図　109号住居カマド（1/20）

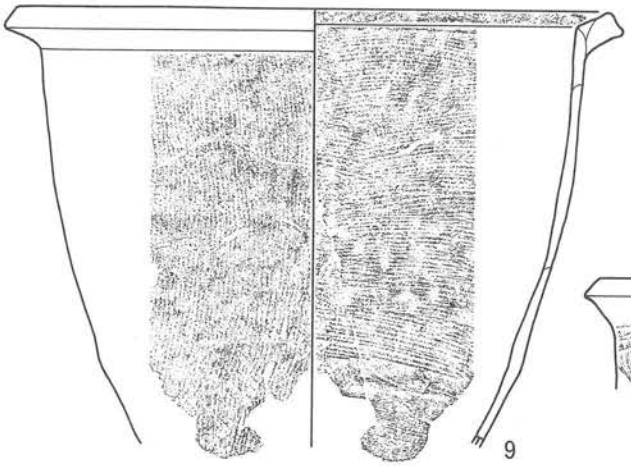
272号土坑

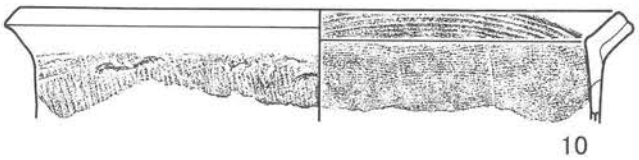


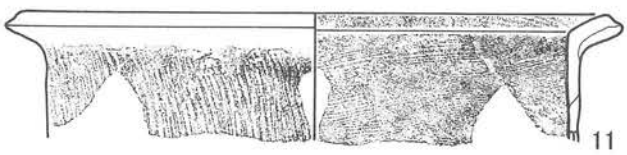
1層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が20%、焼土が10㎜大で5%混じる。固くしまる。シルト粒土。

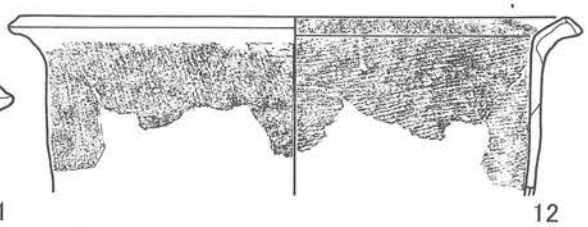


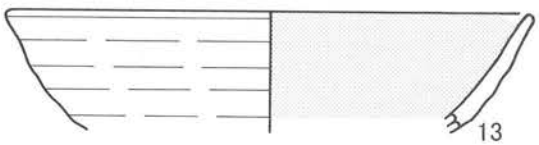


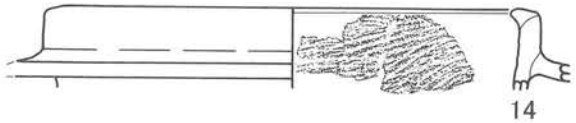




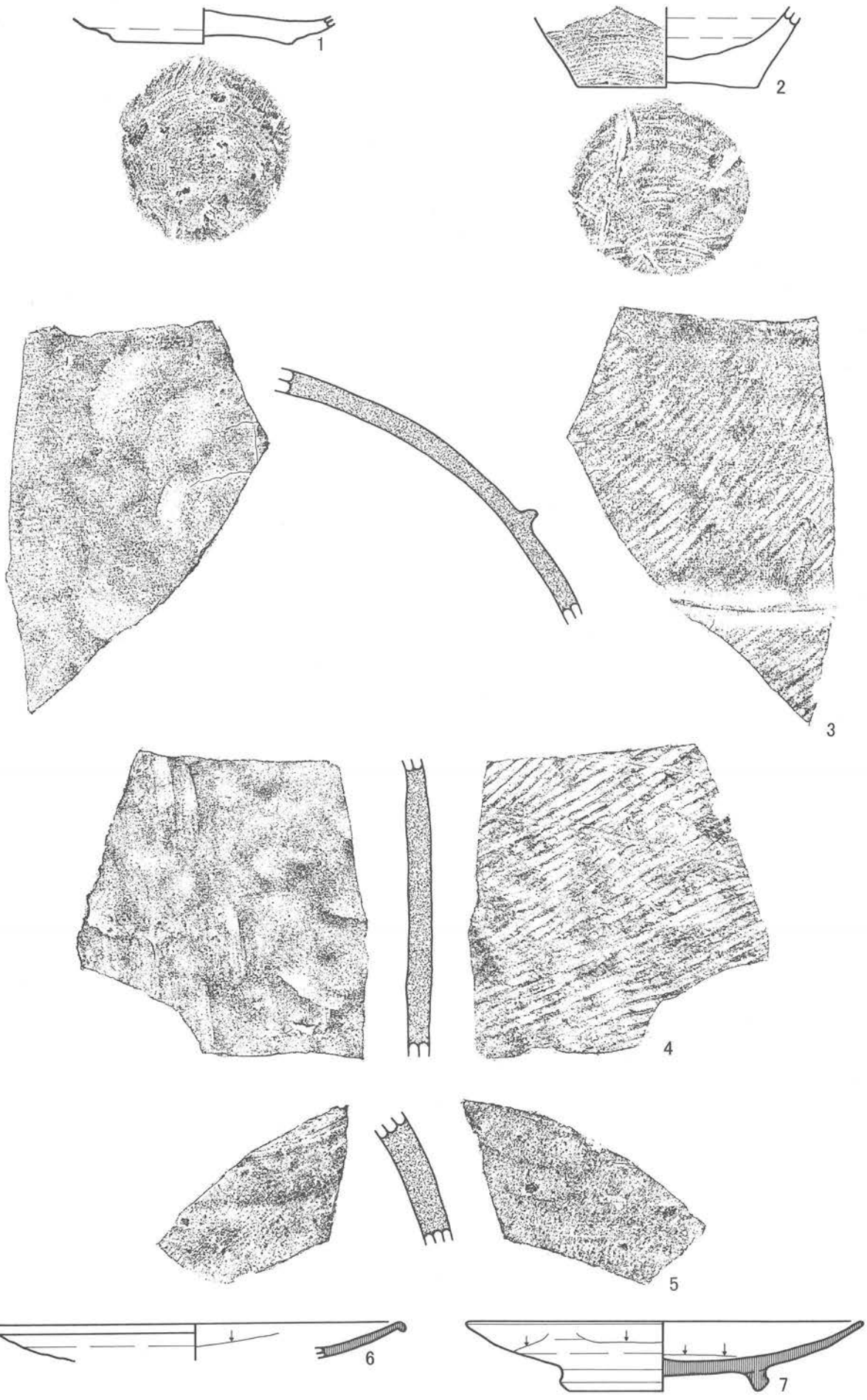




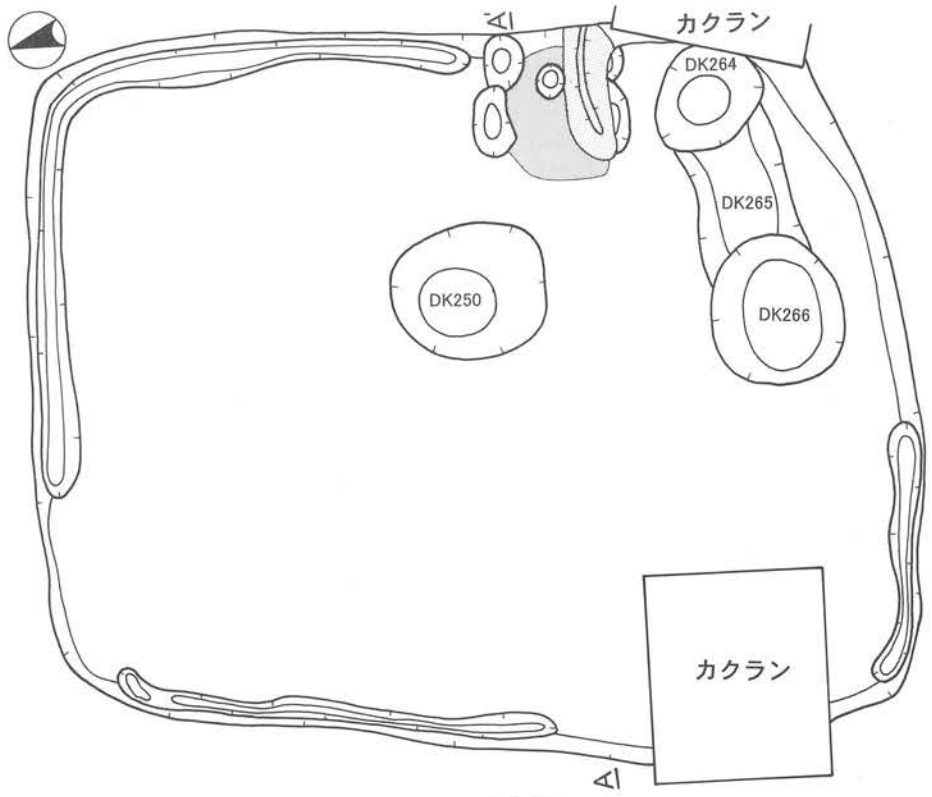




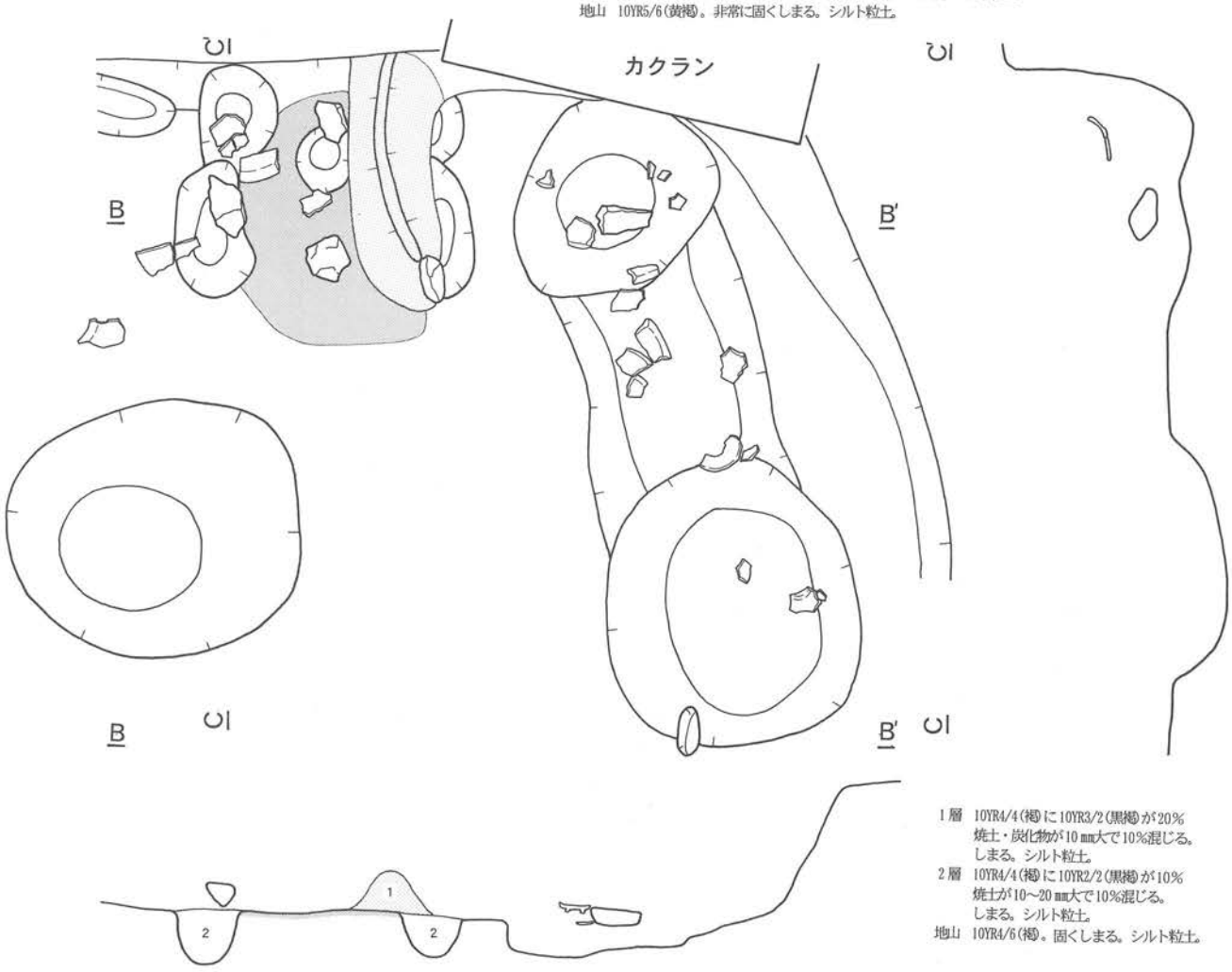
第43図　272号土坑（1/20）および出土遺物（1/2）　109号住居出土遺物（1/2、9～12・14 1/4）



第44図　109号住居出土遺物（1/2）

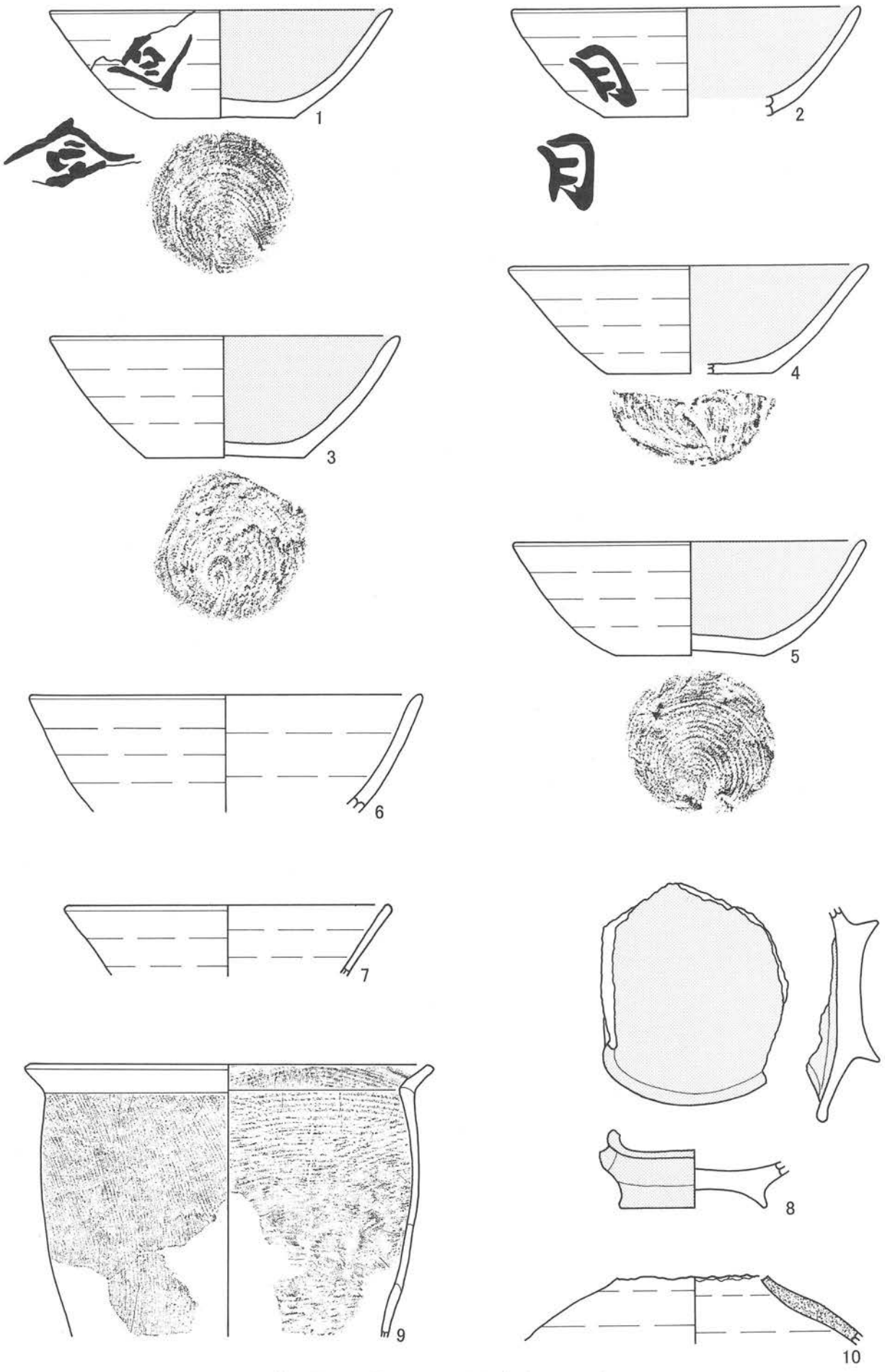


1層　撹乱
2層　10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が10%、焼土1%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。
3層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が粒状~30㎜大で20%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
4層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が粒状~50㎜大で40%、焼土が2%混じる。固くしまる。シルト粒土。
床面　10YR5/6(黄褐)に10YR4/4(褐)が30%混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR5/6(黄褐)。非常に固くしまる。シルト粒土。

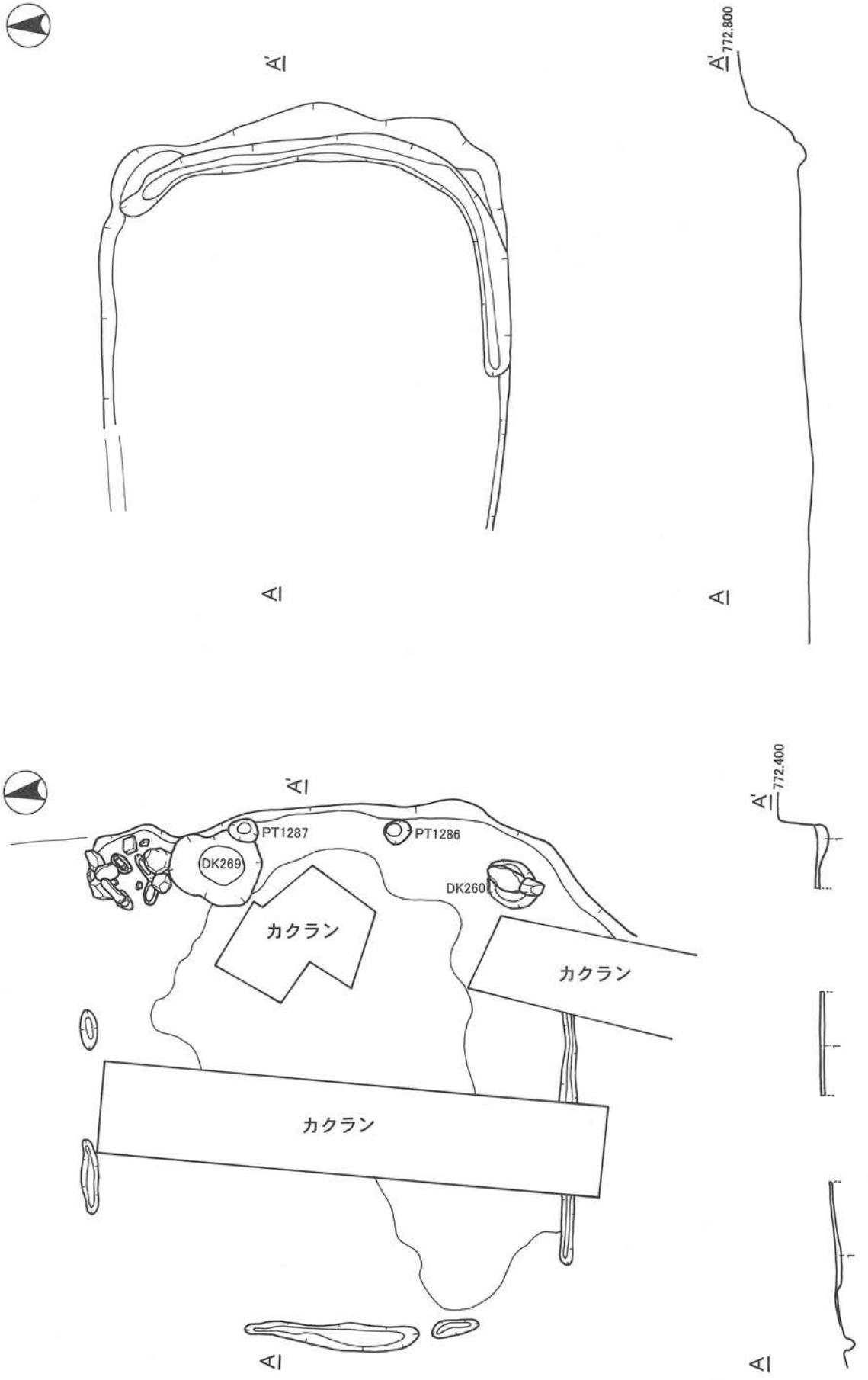


1層　10YR4/4(褐)に10YR3/2(黒褐)が20%
焼土・炭化物が10㎜大で10%混じる。
しまる。シルト粒土。
2層　10YR4/4(褐)に10YR2/2(黒褐)が10%
焼土が10~20㎜大で10%混じる。
しまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)。固くしまる。シルト粒土。

第45図　110号住居（1/40）　110号住居カマド（1/20）

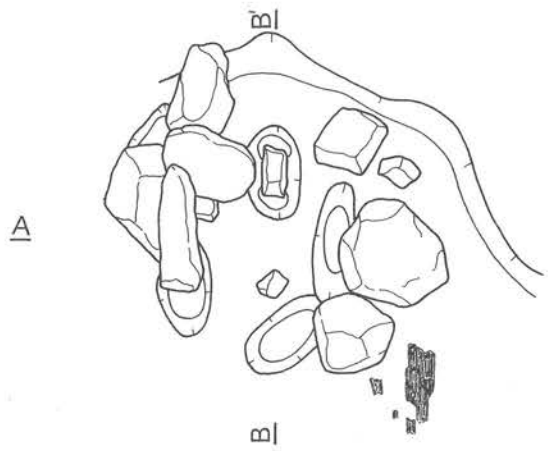


第46図　110号住居出土遺物（1/2、9 1/4）

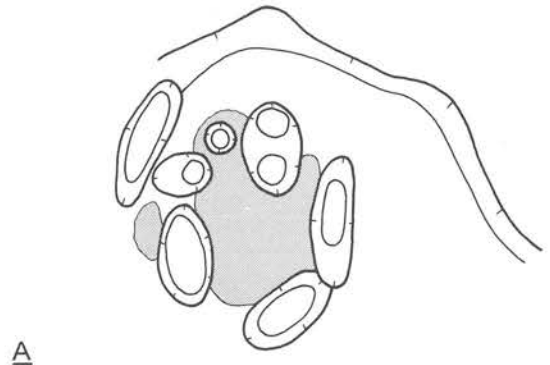


1層(貼床) 10YR5/4(にぶい黄褐)に10YR4/4(褐)が20%、10YR3/2(黒褐)が10%混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山 10YR5/4(にぶい黄褐)。しまる。シルト粒土。

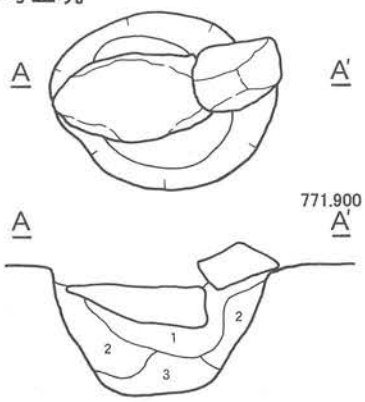
第47図　111号住居（1/40）　112号住居（1/60）



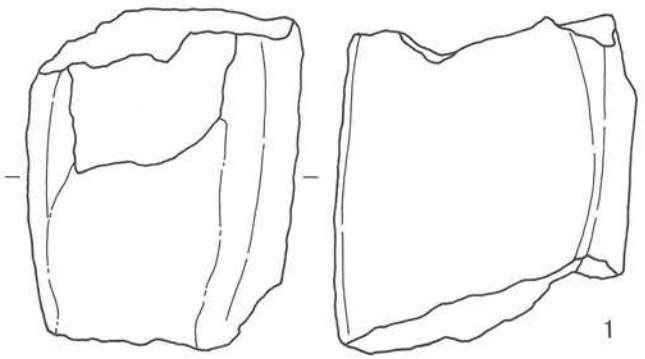
1層　撹乱
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が10%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
3層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が10%、焼土が5%混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR5/6(黄褐)。固くしまる。シルト粒土。

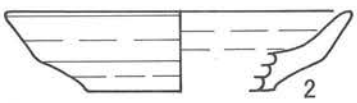


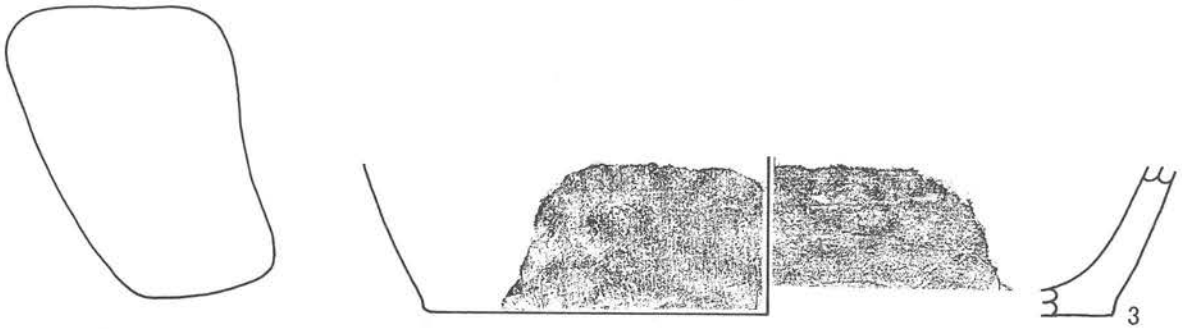
260号土坑



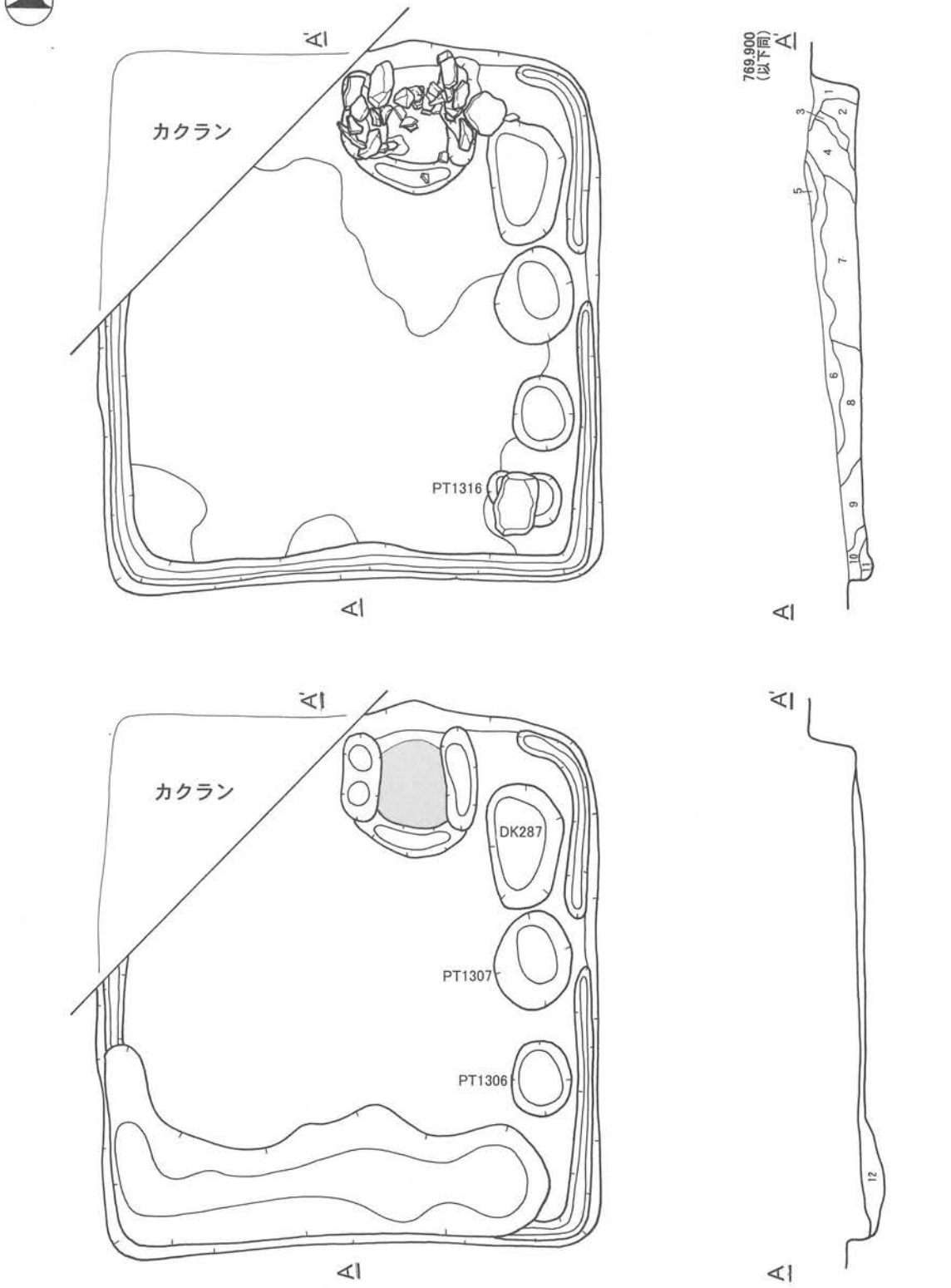
1層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が20%
10YR4/6(褐)が10%、2.5YR5/8(明赤褐)
の焼土が7%混じる。ややしまる。
シルト粒土。
2層　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が30%
混じる。ややしまる。シルト粒土。
3層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が20%
10YR4/6(褐)が10%混じる。固くしまる。
シルト粒土。
地山　10YR5/6(黄褐)。固くしまる。
シルト粒土。





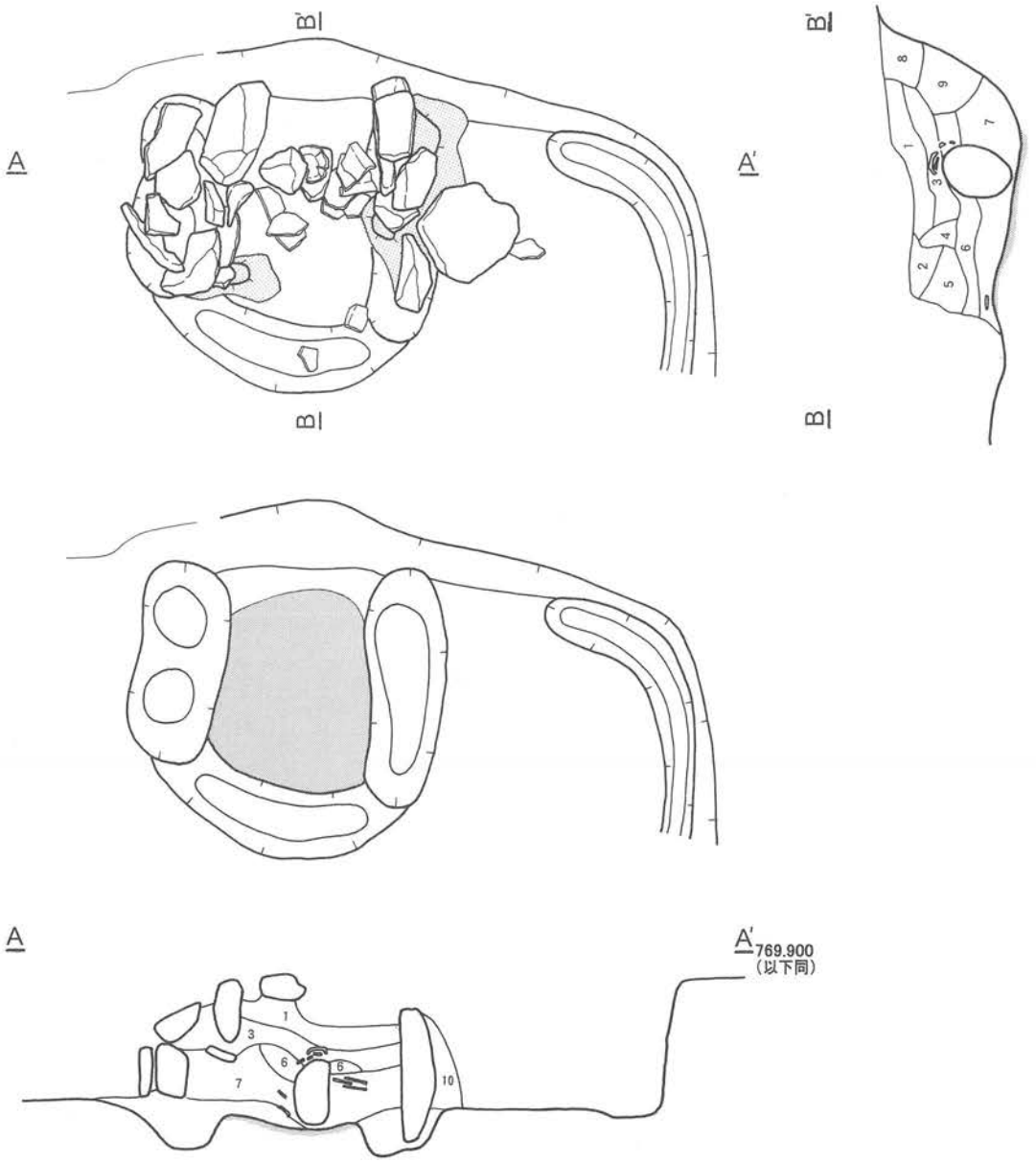


第48図　112号住居カマド（1/20）　260号土坑（1/20）　112号住居出土遺物（1/2）

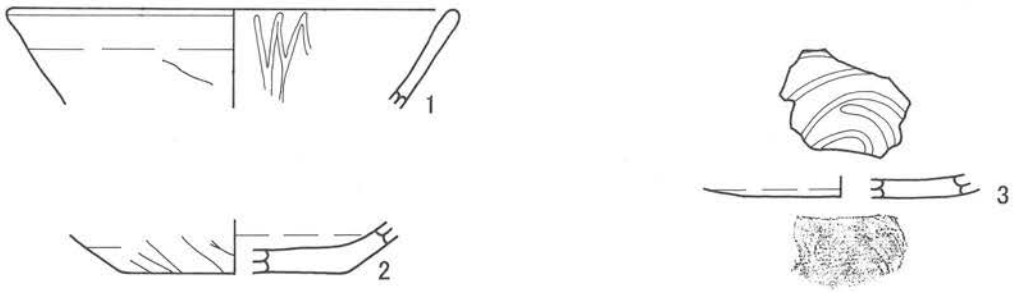


1層　撹乱
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が1～2㎜大で3%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
3層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が1～2㎜大で7%混じる。固くしまる。シルト粒土。
4層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が1～1.5㎜大で5%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
5層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が3%混じる。固くしまる。シルト粒土。
6層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が1～3㎜大で2%、焼土・炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
7層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が1～10㎜大で5%、焼土・炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
8層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が1～2㎜大で2%、焼土・炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
9層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が1～2㎜大で1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
10層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が1～3㎜大で2%混じる。固くしまる。シルト粒土。
11層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が7%混じる。固くしまる。シルト粒土。
12層(貼床)　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が1%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/4(褐)に10YR3/3(暗褐)が3%混じる。固くしまる。シルト粒土。

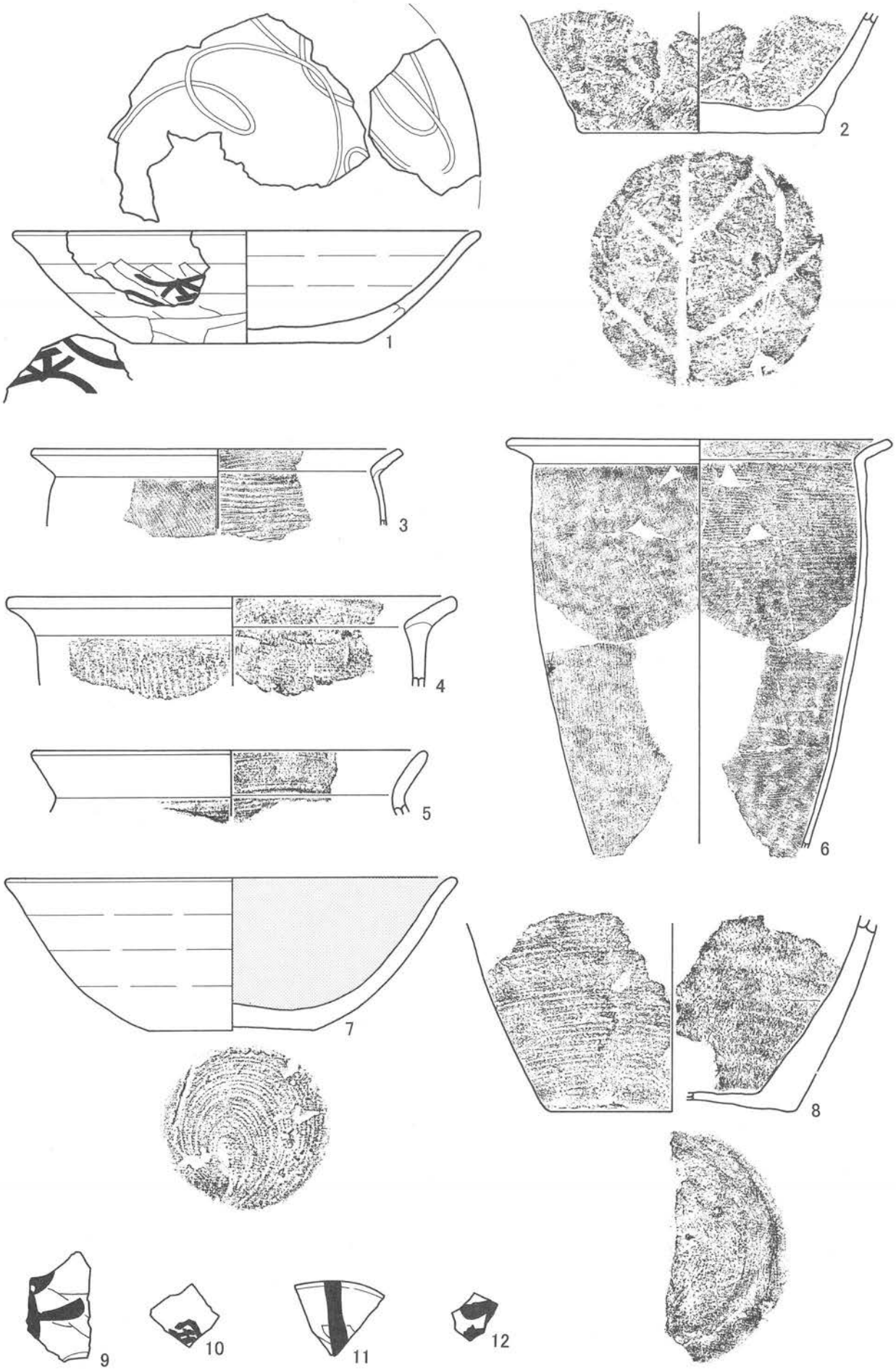
第49図　113号住居（1/40）



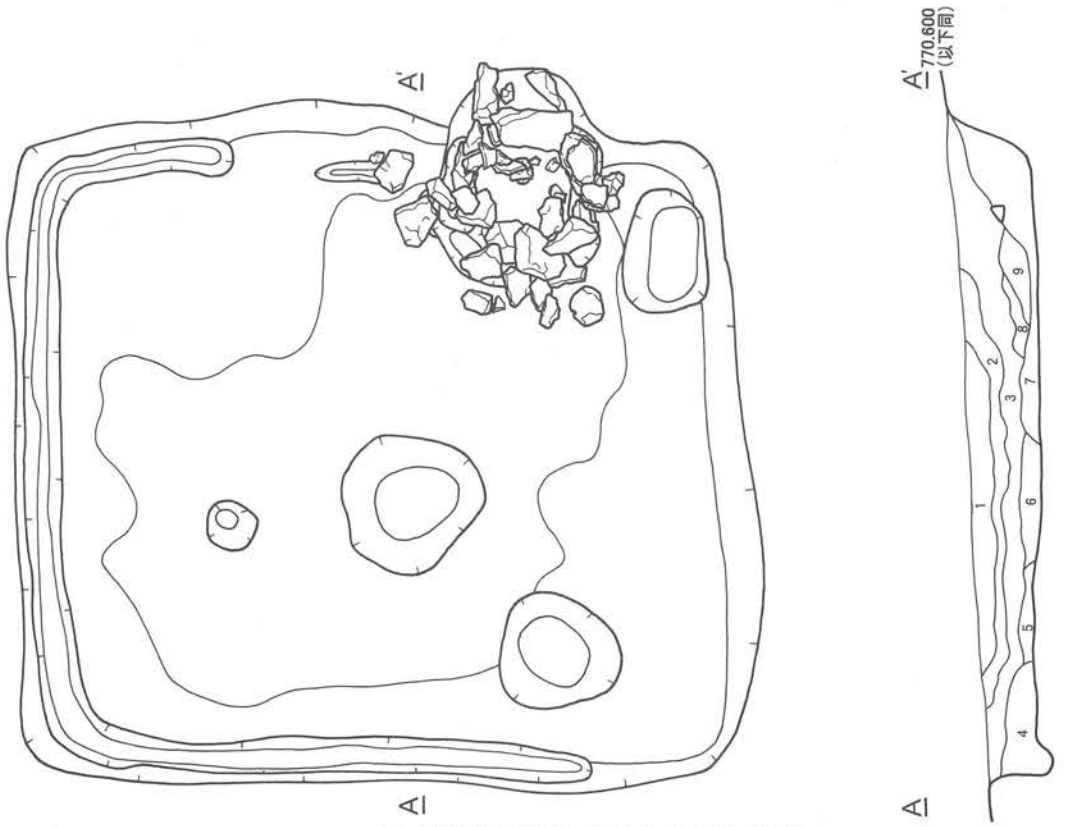
1層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)のボロボロした土が1～3㎜大で3%、10YR2/3(黒褐)が1%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が1～2㎜大で5%、10YR2/3(黒褐)が1%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
3層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)のボロボロした土が1～3㎜大で2%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
4層　10YR4/4(褐)のボロボロした2～3㎜大の土に10YR3/3(暗褐)が2%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
5層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が1㎜大で3%、焼土・炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
6層　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が2%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
7層　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が2%、焼土が3%混じる。固くしまる。シルト粒土。
8層　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が2%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
9層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が2%、焼土が2%混じる。固くしまる。シルト粒土。
10層　10YR4/4(褐)のボロボロした3～5㎜大の土。固くしまる。シルト粒土。



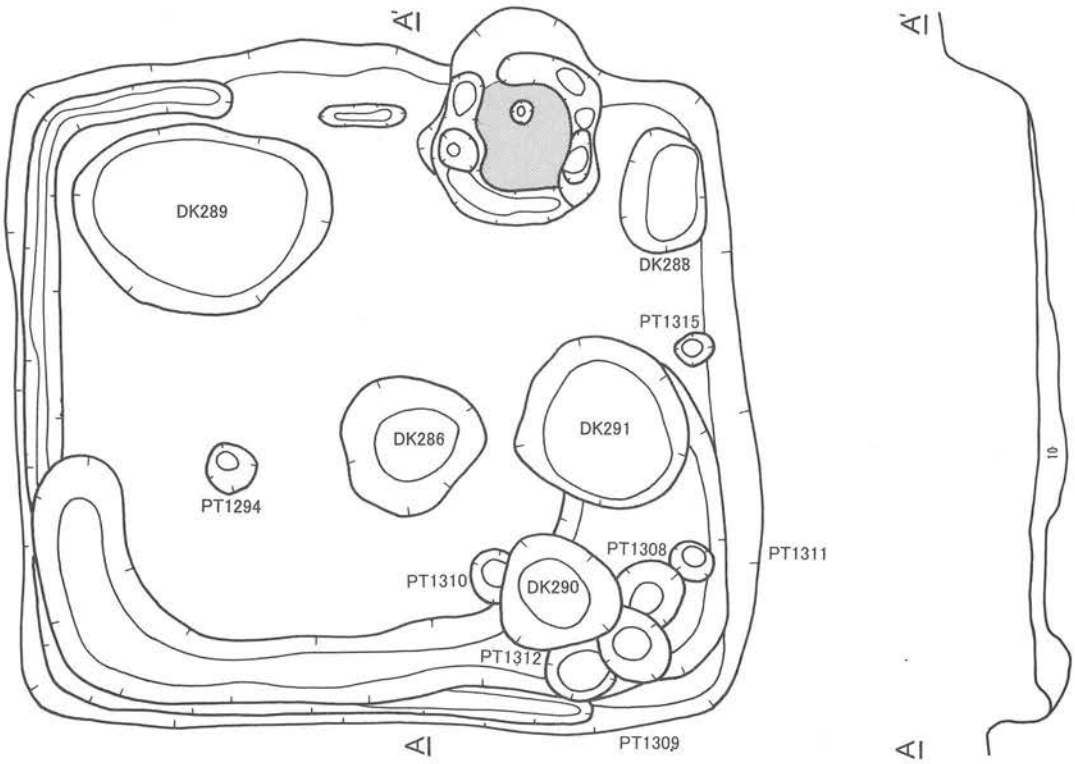
第50図　113号住居カマド（1/20）　113号住居出土遺物（1/2）



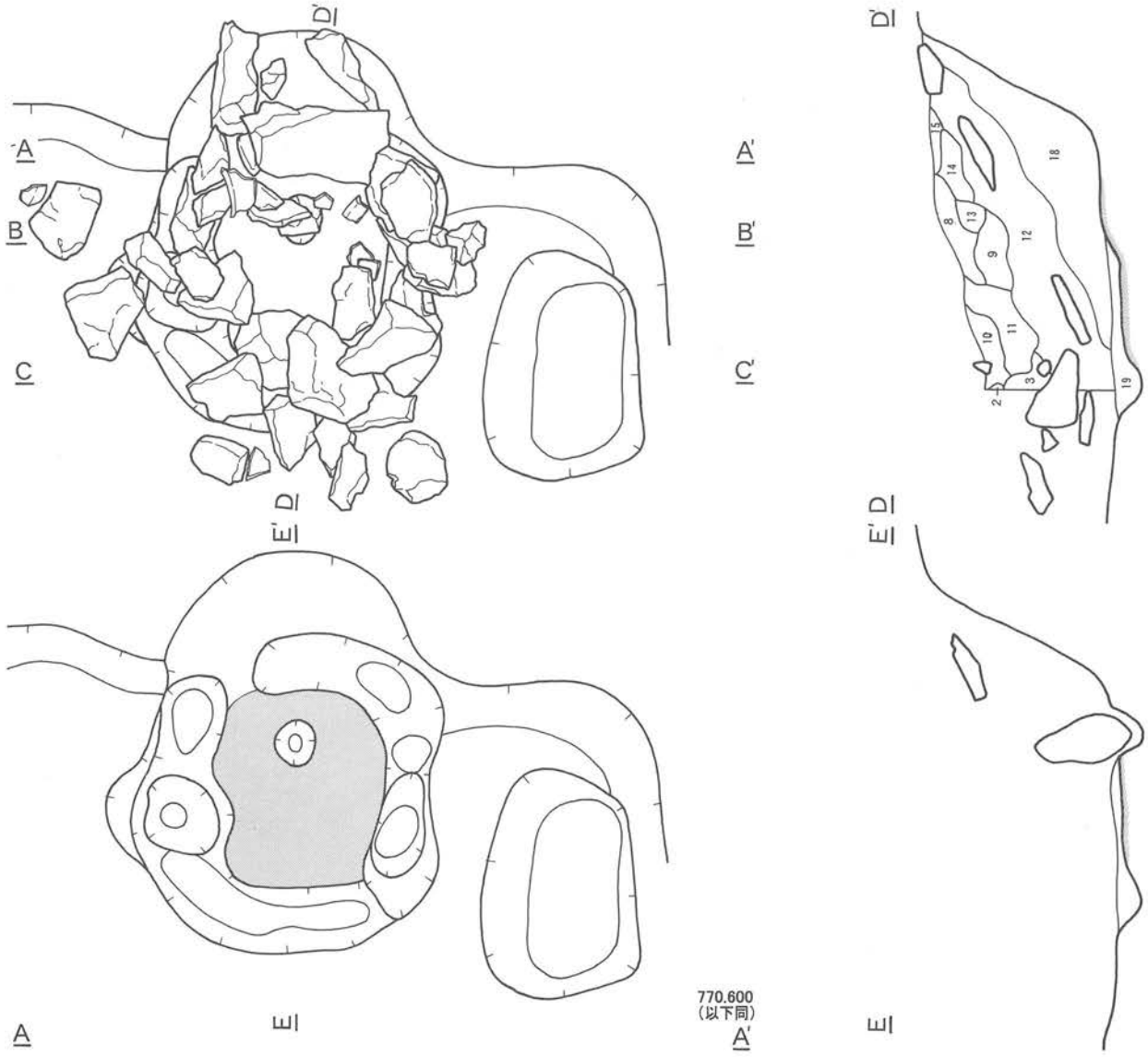
第51図　113号住居出土遺物（1/2、3･6 1/4）

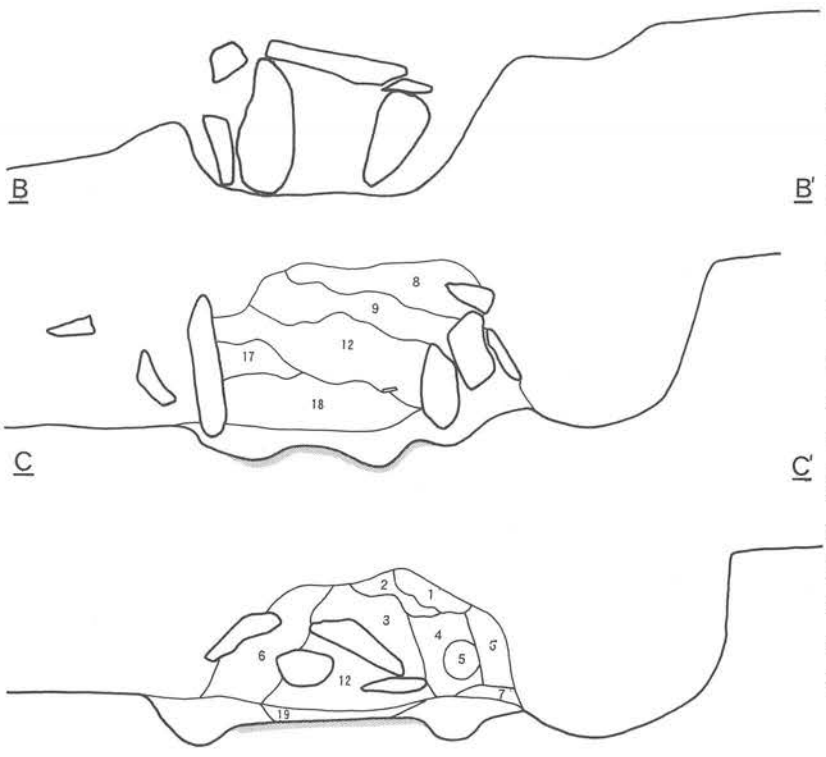


1層　10YR3/2(黒褐)に焼土が5㎜大で1%混じる。しまる。シルト粒土。
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR3/2(黒褐)が5%、焼土が5㎜大で1%混じる。しまる。シルト粒土。
3層　10YR3/4(暗褐)に10YR3/2(黒褐)が5%、10YR5/6(黄褐)が5～20㎜大で2%混じる。しまる。シルト粒土。
4層　10YR3/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が10%混じる。しまる。シルト粒土。
5層　10YR4/4(褐)に10YR3/2(黒褐)が20%混じる。しまる。シルト粒土。
6層　10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が20㎜大で2%、焼土が5㎜大で1%混じる。しまる。シルト粒土。
7層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/8(黄褐)が40㎜大で5%、炭化物が10㎜大で1%混じる。しまる。シルト粒土。
8層　10YR3/2(黒褐)に10YR5/6(黄褐)が20%混じる。しまる。シルト粒土。
9層　10YR5/6(黄褐)に10YR3/2(黒褐)が30%混じる。しまる。シルト粒土。
10層(貼床)　10YR5/8(黄褐)に10YR3/4(暗褐)が20%、焼土・炭化物が2%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR5/6(黄褐)に10YR3/2(黒褐)が20～50㎜大で10%混じる。固くしまる。シルト粒土。



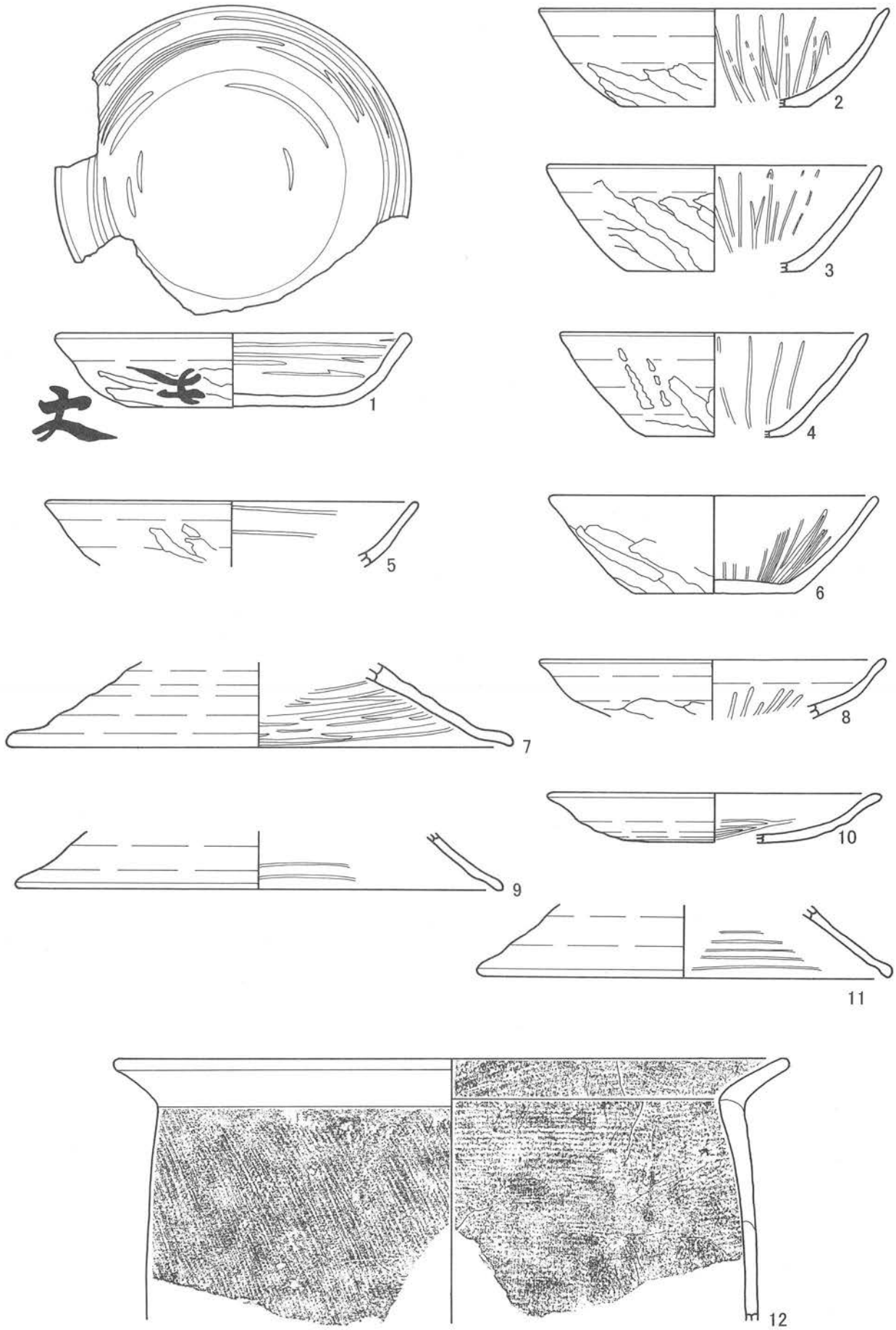
第52図　114号住居（1/40）



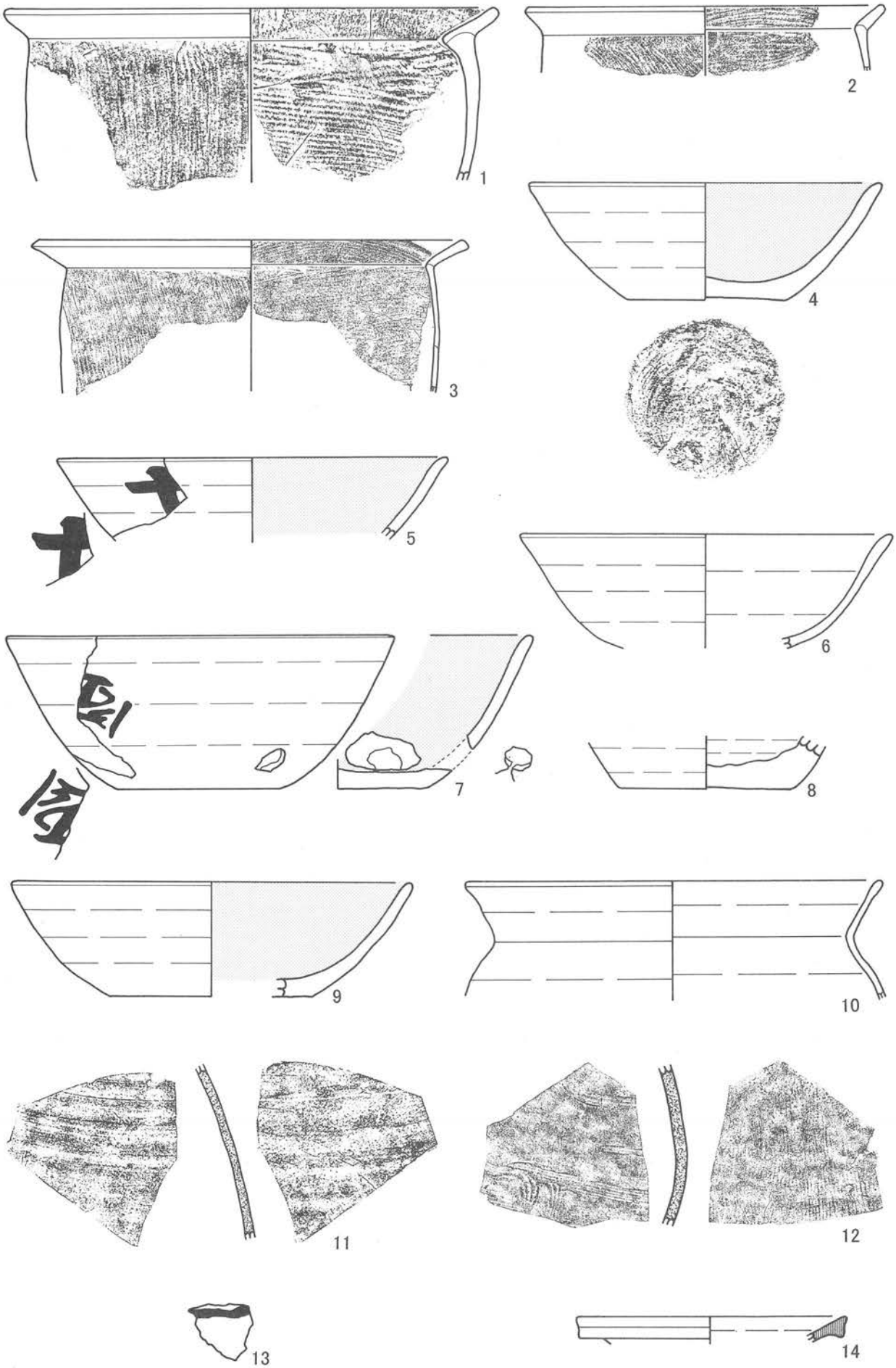


1層　10YR5/6(黄褐)に10YR3/2(黒褐)が5%混じる。しまる。シルト粒土。
2層　10YR2/2(黒褐)に焼土が5㎜大で2%混じる。しまる。シルト粒土。
3層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が20%、焼土が10㎜大で2%混じる。しまる。シルト粒土。
4層　10YR3/2(黒褐)に10YR5/6(黄褐)が10%、焼土が10㎜大で2%混じる。しまる。シルト粒土。
5層　10YR4/6(褐)。しまる。シルト粒土。
6層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が10%、焼土が5㎜大で1%混じる。しまる。シルト粒土。
7層　10YR3/2(黒褐)に焼土が5~15㎜大で15%混じる。しまる。シルト粒土。
8層　10YR3/2(黒褐)に10YR5/6(黄褐)が5~10㎜大で3%混じる。しまる。シルト粒土。
9層　10YR3/2(黒褐)に10YR5/6(黄褐)が10%、焼土が10㎜大で2%、炭化物が5㎜大で2%混じる。しまる。シルト粒土。
10層　10YR3/3(暗褐)に焼土が5~10㎜大で3%混じる。しまる。シルト粒土。
11層　10YR4/2(灰黄褐)に10YR4/6(褐)が10%、焼土が15㎜大で3%混じる。しまる。シルト粒土。
12層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が2%、焼土が5㎜大で5%混じる。しまる。シルト粒土。
13層　10YR3/1(黒褐)。しまりなし。シルト粒土。
14層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が5%、焼土が5%混じる。しまる。シルト粒土。
15層　7.5R4/6(赤)の焼土に10YR2/2(黒褐)が20%混じる。しまりなし。シルト粒土。
16層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が5%混じる。しまる。シルト粒土。
17層　10R4/8(赤)に10YR3/4(暗褐)が35%混じる。粘性なし。しまる。シルト粒土。
18層　5YR4/6(赤褐)に10YR4/6(褐)が10㎜大で3%混じる。しまる。シルト粒土。
19層　10YR8/3(浅黄橙)の焼土。しまりなし。シルト粒土。

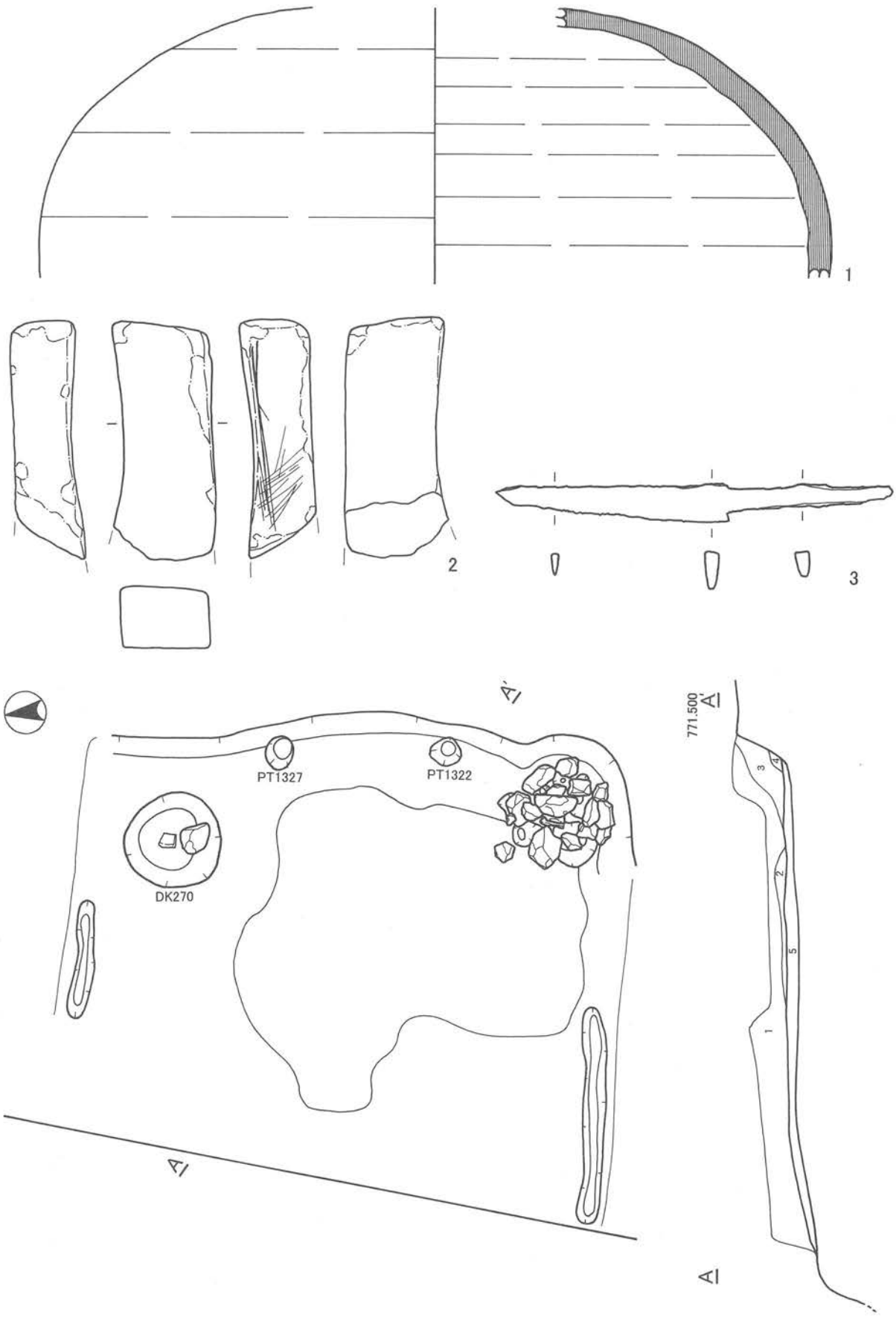
第53図　114号住居カマド（1/20）



第54図　114号住居出土遺物（1/2）

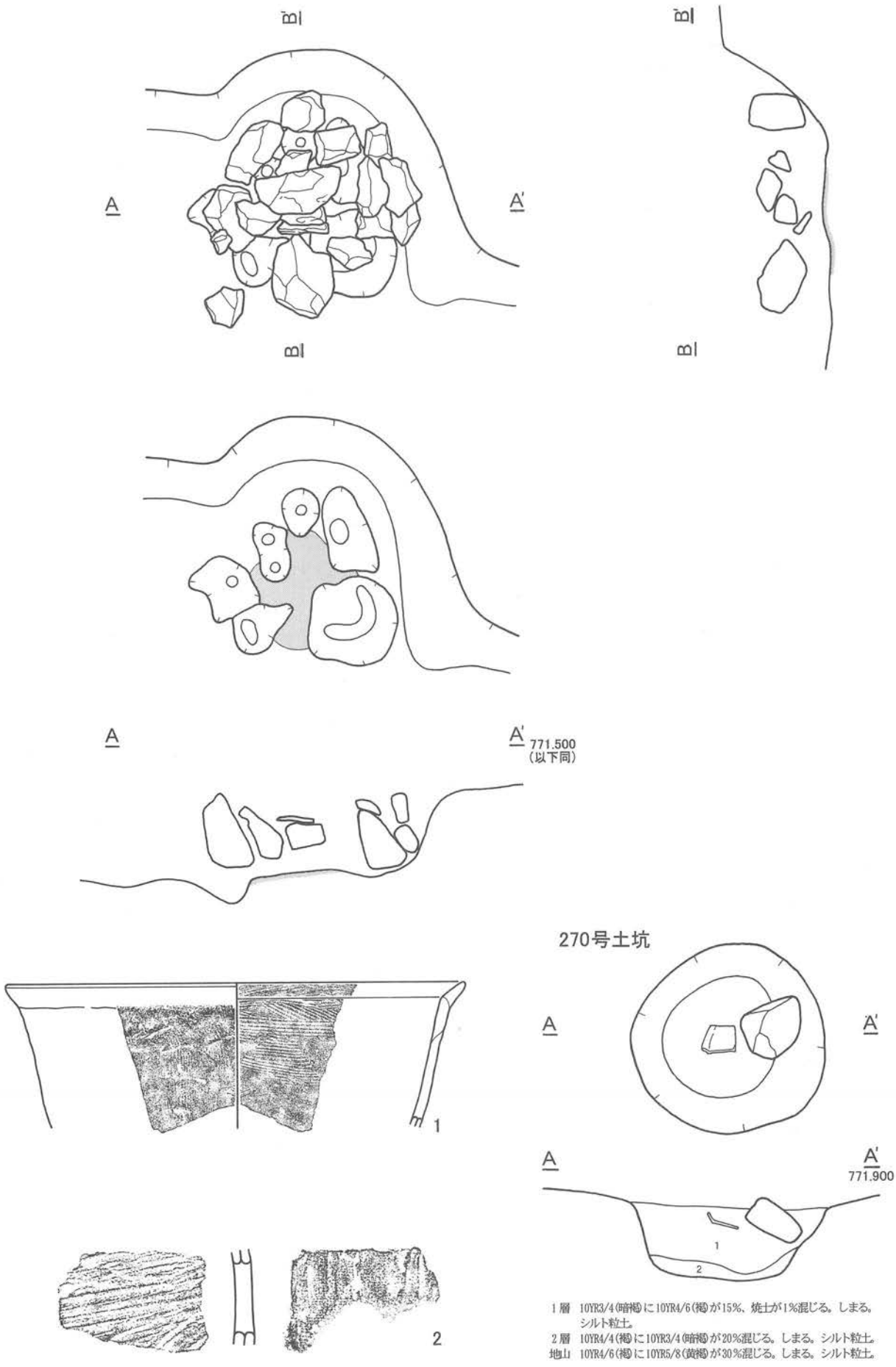


第55図　114号住居出土遺物（1/2、2･3･12 1/4）

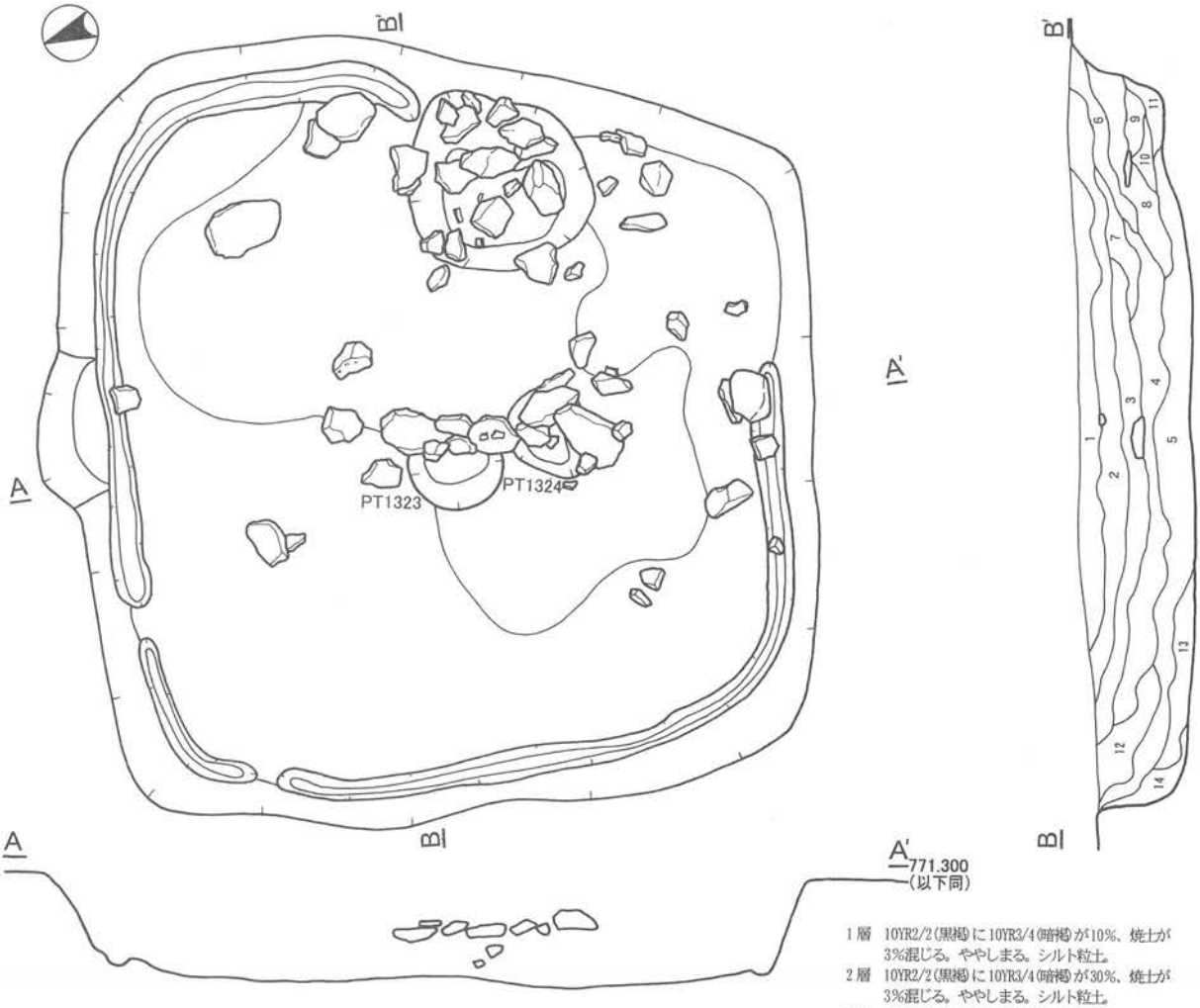


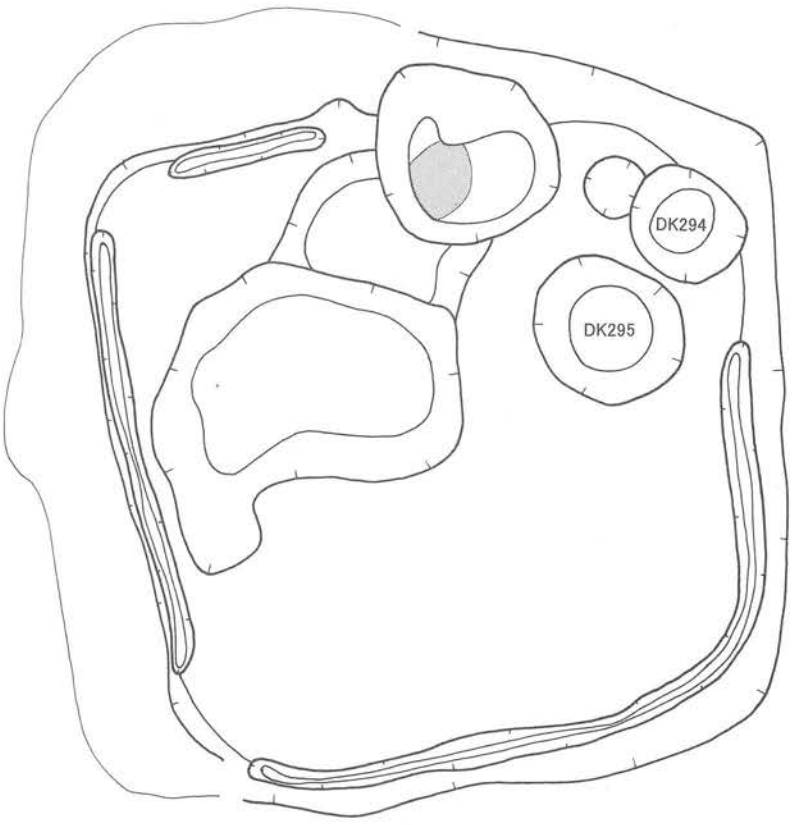
1層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が30%、10YR4/6(褐)が10%、焼土・炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
2層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が30%混じる。ややしまる。シルト粒土。
3層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が40%、焼土が10%、炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
4層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/6(褐)が30%、焼土が1%混じる。しまる。シルト粒土。
5層(貼床)　10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が10%混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が20%混じる。ややしまる。シルト粒土。

第56図　114号住居出土遺物（1/2）　115号住居（1/40）



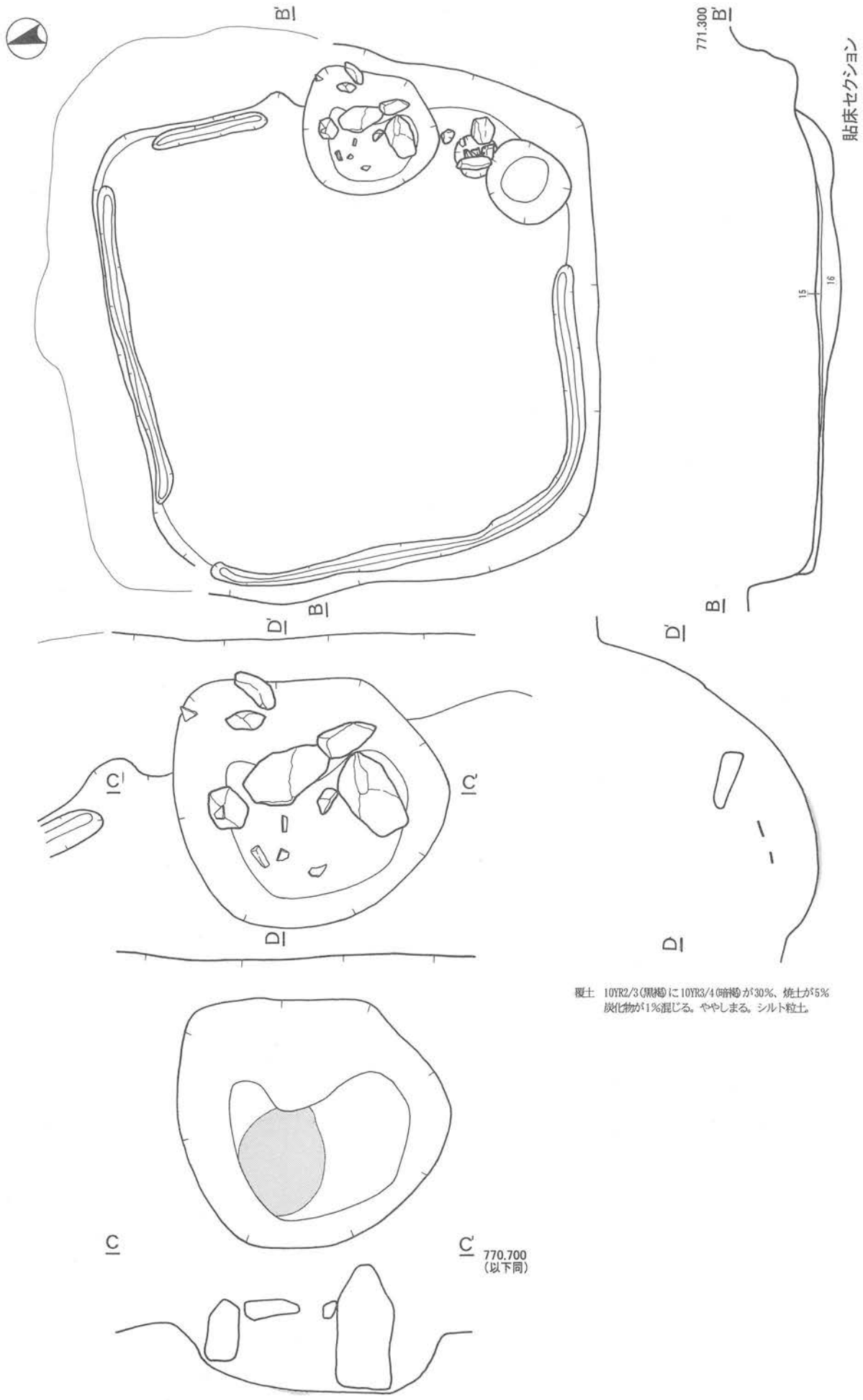
第57図　115号住居カマド（1/20）　270号土坑（1/20）　115号住居出土遺物（1/2、1 1/4）



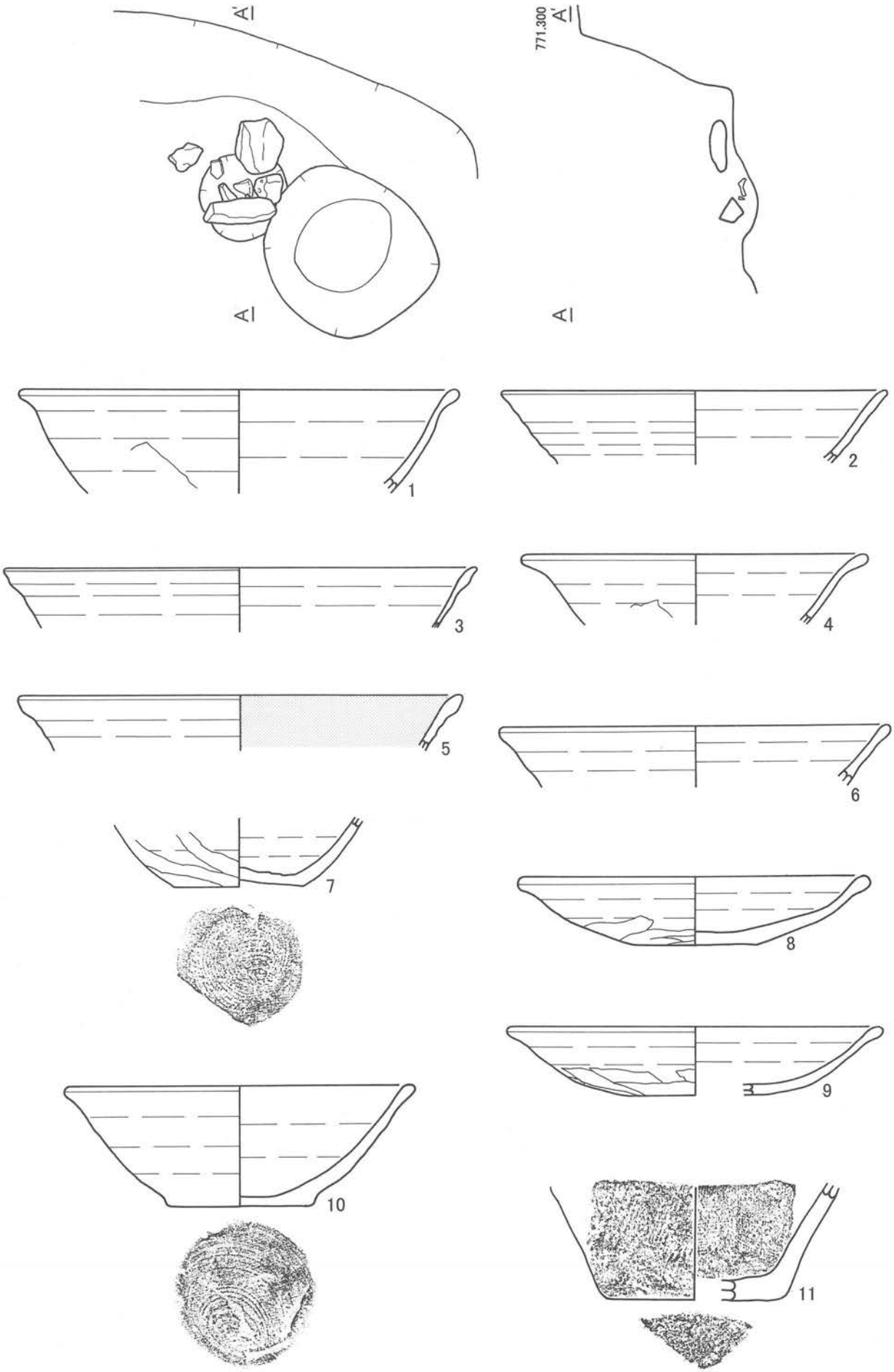


1層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が10%、焼土が3%混じる。ややしまる。シルト粒土。
2層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が30%、焼土が3%混じる。ややしまる。シルト粒土。
3層　10YR2/2(黒褐)に10YR2/1(黒)が20%
10YR3/4(暗褐)が20%、焼土が5%
炭化物が3%混じる。ややしまる。シルト粒土。
4層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が30%
10YR4/6(褐)が10%、焼土が5%、炭化物が3%混じる。ややしまる。シルト粒土。
5層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が20%
10YR3/4(暗褐)が20%、焼土が10%
炭化物が5%混じる。ややしまる。シルト粒土。
6層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/2(黒褐)が10%、焼土が3%、炭化物が1%まじる。ややしまる。
シルト粒土。
7層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が20%、焼土が2%、炭化物が1%混じる。ややしまる。
シルト粒土。
8層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が40%、焼土が10%、炭化物が1%混じる。ややしまる。
シルト粒土。
9層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が30%、焼土が5%、炭化物が5%混じる。ややしまる。
シルト粒土。
10層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が40%、焼土が1%混じる。ややしまる。シルト粒土。
11層　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が20%、焼土が1%混じる。ややしまる。シルト粒土。
12層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が30%、焼土が3%混じる。ややしまる。シルト粒土。
13層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が30%
焼土・炭化物が1%混じる。ややしまる。
シルト粒土。
14層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が40%、炭化物が1%混じる。ややしまる。シルト粒土。
15層(貼床)　10YR3/4(暗褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が20%、10YR4/6(褐)が10%混じる。固くしまる。
シルト粒土。
16層(貼床)　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が3%
10YR2/3(黒褐)が1%混じる。固くしまる。
シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が10%混じる。
しまる。シルト粒土。

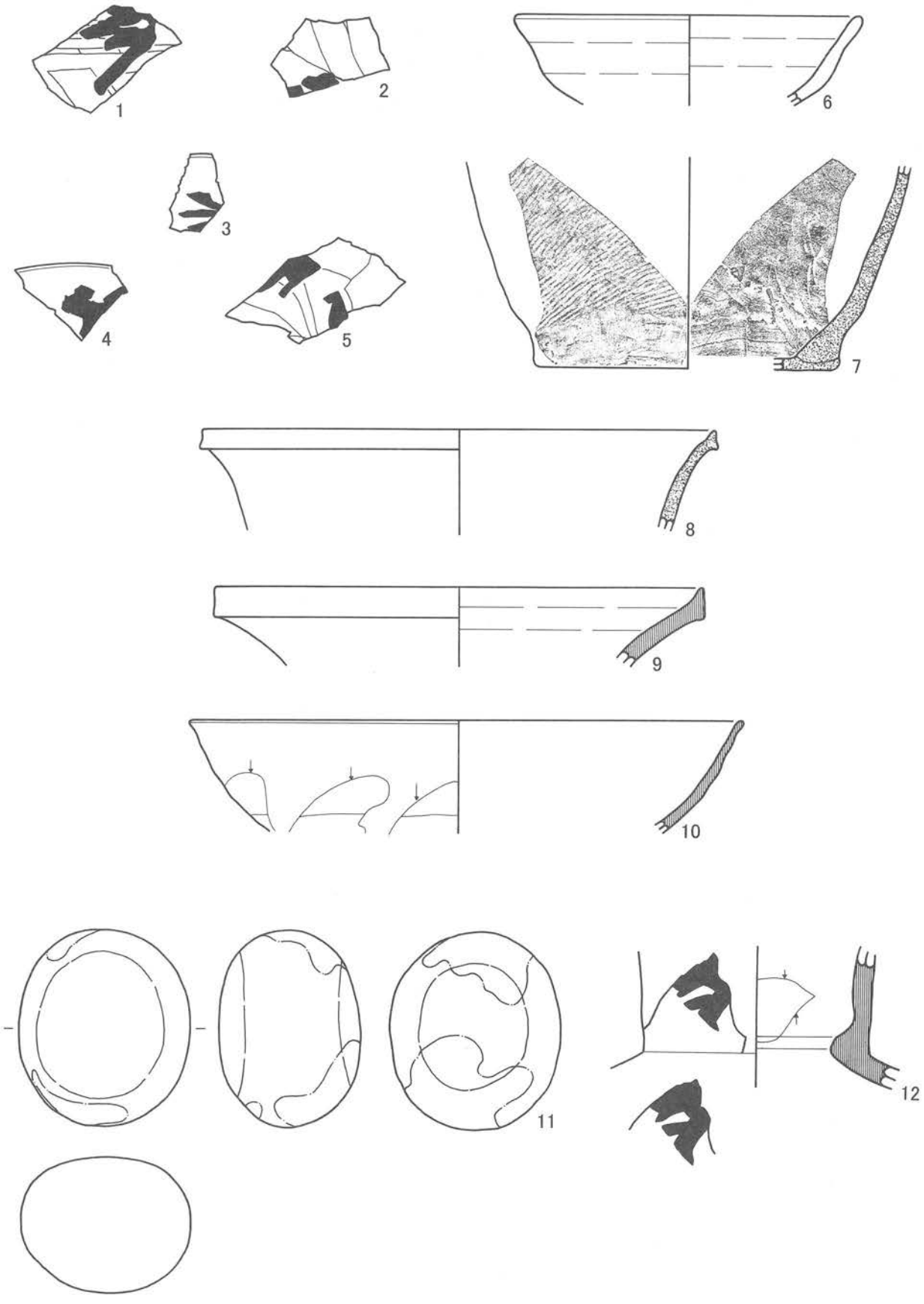
第58図　116a号住居および116b号住居（1/40）



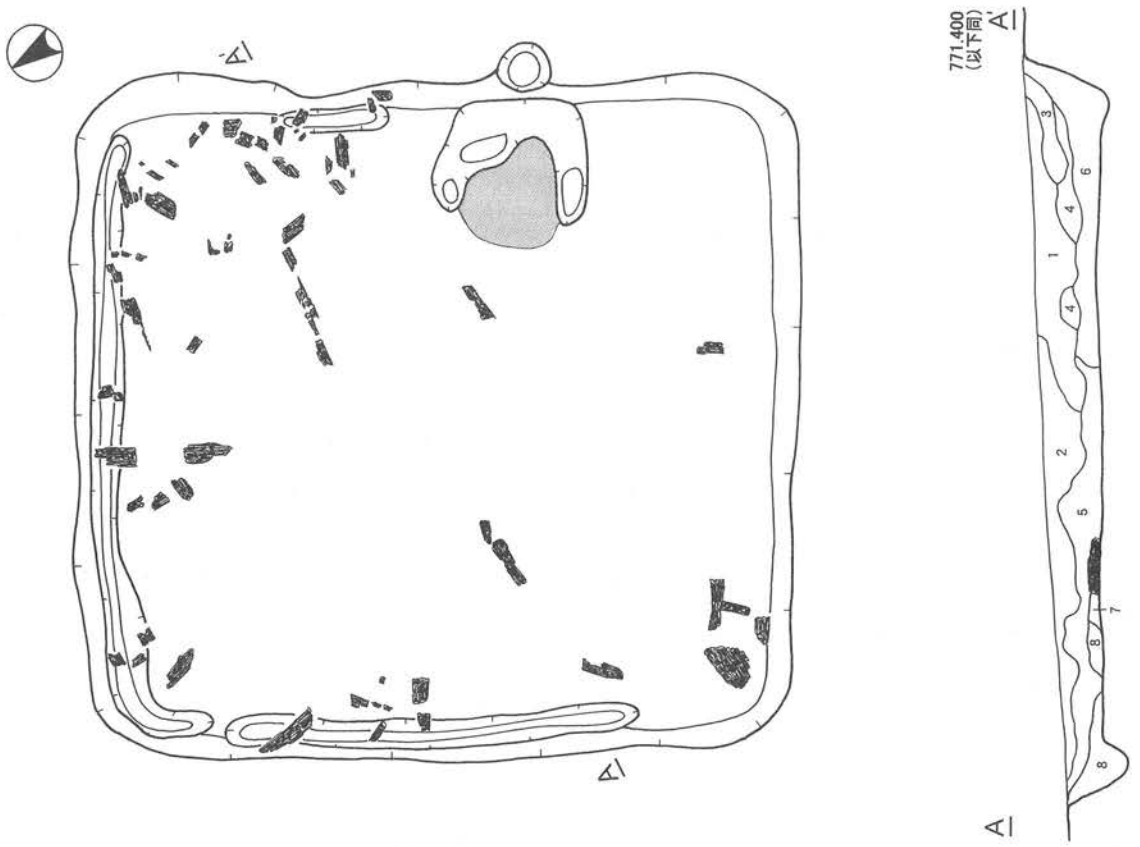
第59図　116ｂ号住居（1/40）　116号住居カマド（1/20）



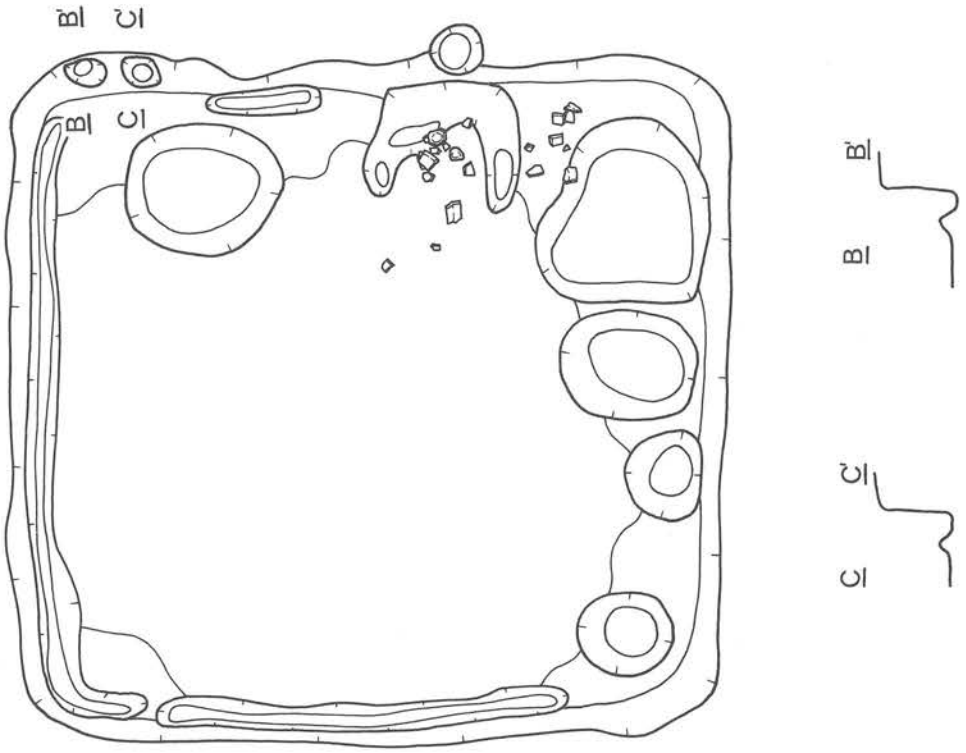
第60図　116ｂ号住居集石部（1/20）　116号住居出土遺物（1/2）



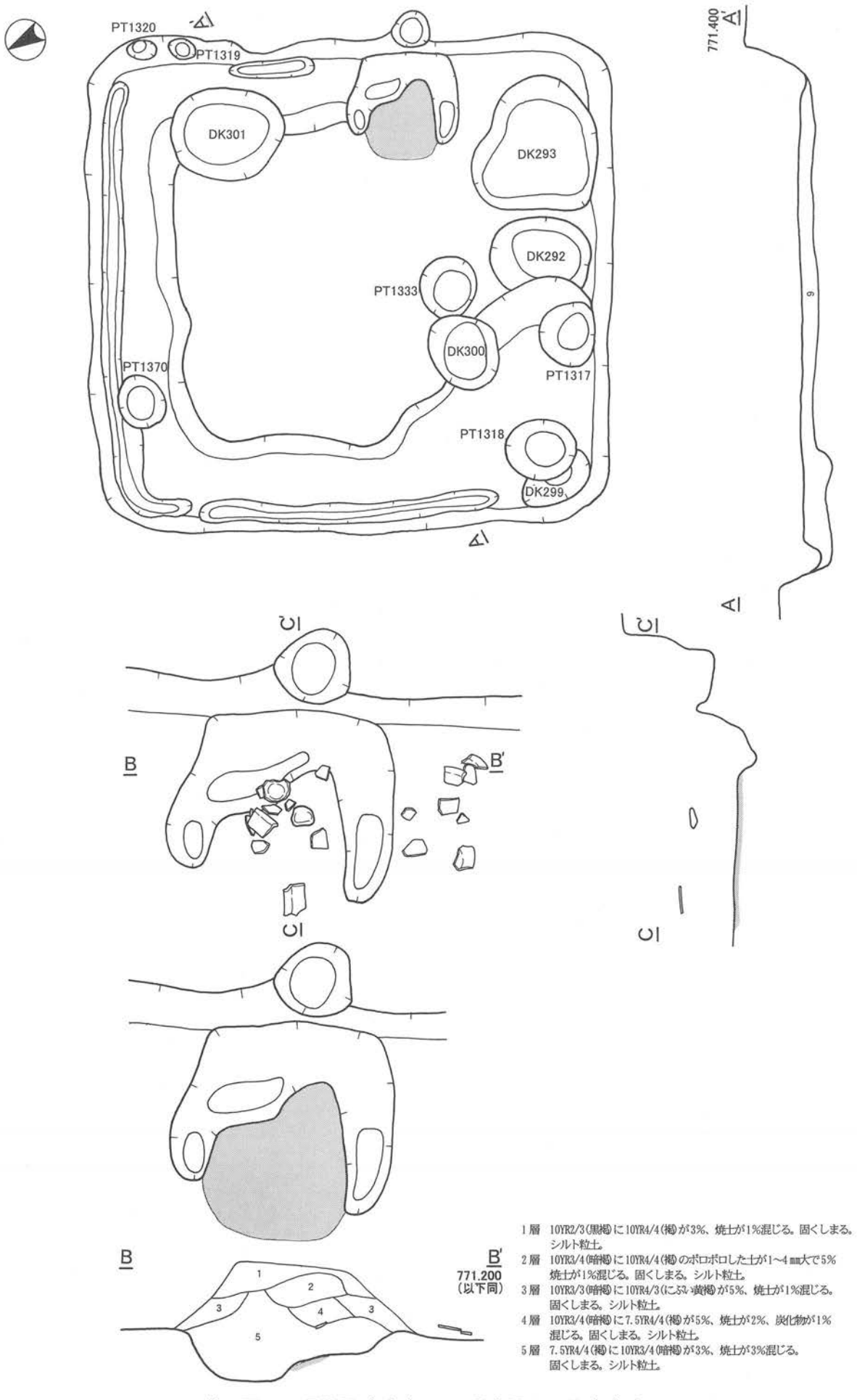
第61図　116号住居出土遺物（1/2、7･8 1/4）



1層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が5～10㎜大で5%、焼土が5～20㎜大で5%混じる。固くしまる。シルト粒土。
2層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が15%混じる。固くしまる。シルト粒土。
3層　10YR3/2(黒褐)に10YR7/4(にぶい黄橙)が20㎜大で2%、焼土が5～10㎜大で1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
4層　10YR2/3(黒褐)に10YR7/6(明黄褐)が5㎜大で2%、炭化物が10㎜大で2%混じる。固くしまる。シルト粒土。
5層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が10%、焼土が5～20㎜大で2%混じる。固くしまる。シルト粒土。
6層　10YR3/2(黒褐)に10YR4/6(褐)が15%、焼土が30㎜大で2%、炭化物が5～30㎜大で2%混じる。固くしまる。シルト粒土。
7層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が5%混じる。しまる。シルト粒土。
8層　7.5R3/2(暗赤褐)に7.5R4/8(赤)が20～30㎜大で10%、10YR4/6(褐)が10%混じる。しまる。シルト粒土。
9層(貼床)　10YR5/6(黄褐)に焼土・炭化物10%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)。固くしまる。シルト粒土。

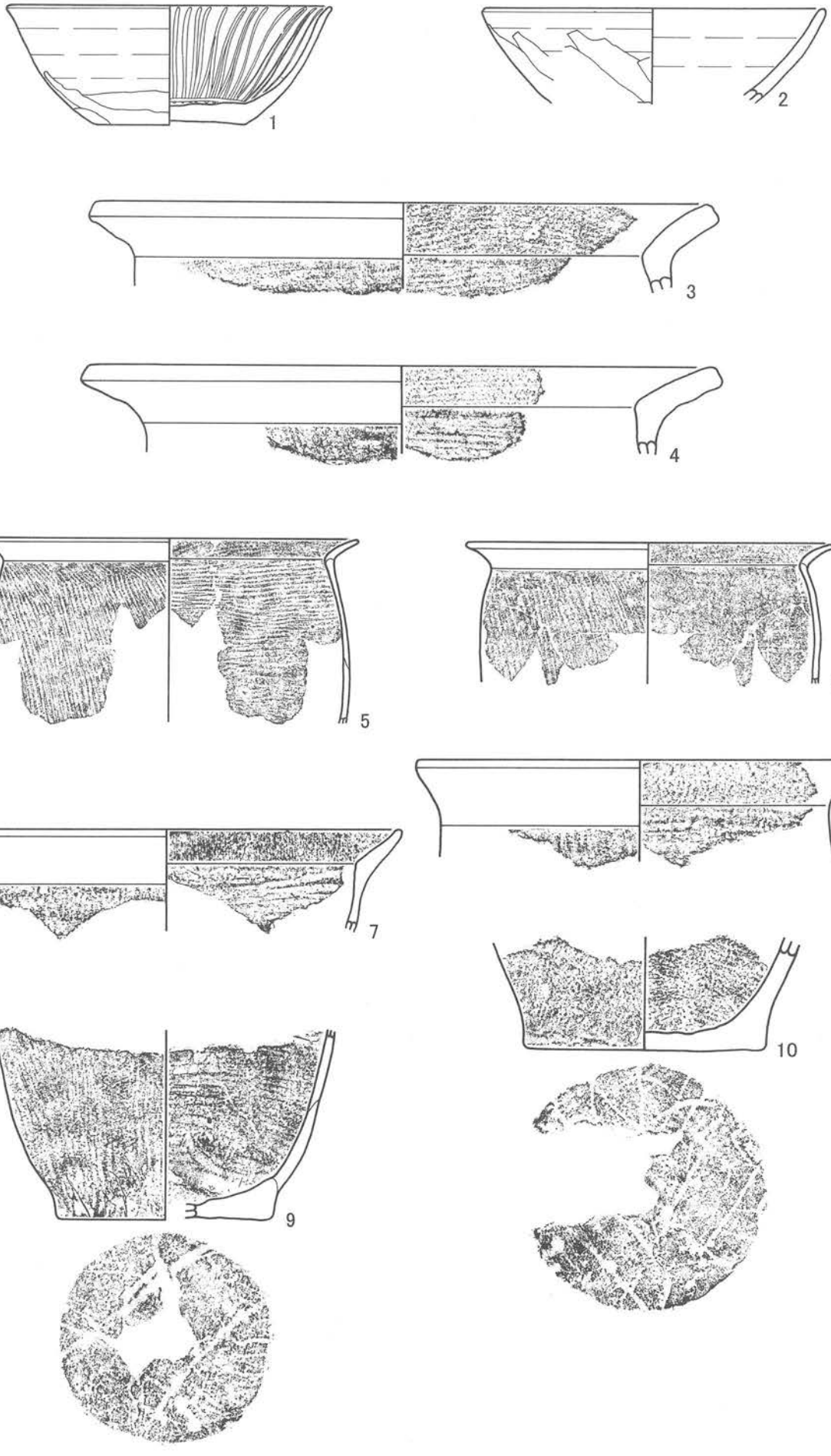


第62図　117号住居（1/40）

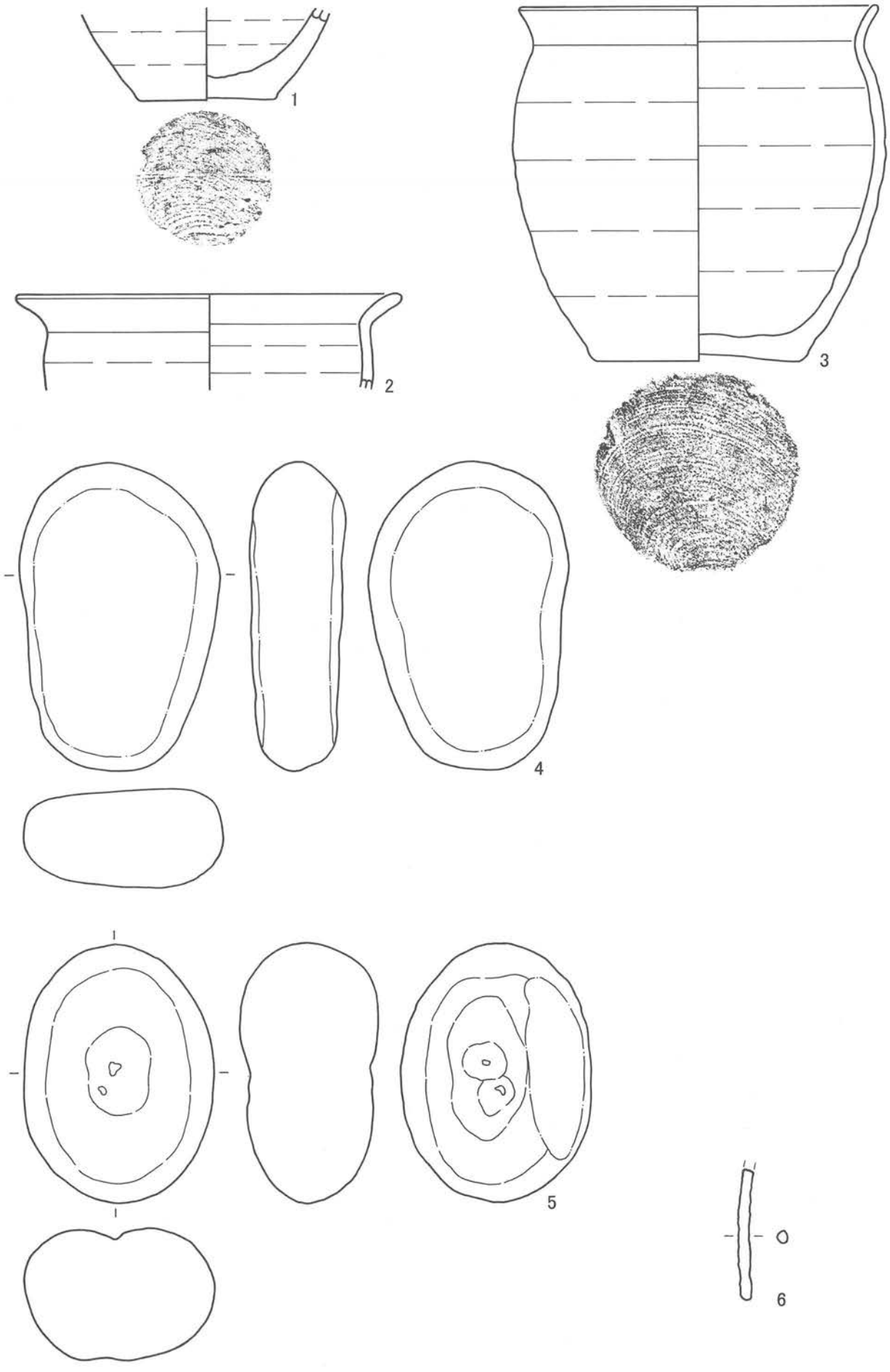


1層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が3%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)のポロポロした土が1～4㎜大で5%焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
3層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が5%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
4層　10YR3/4(暗褐)に7.5YR4/4(褐)が5%、焼土が2%、炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
5層　7.5YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が3%、焼土が3%混じる。固くしまる。シルト粒土。

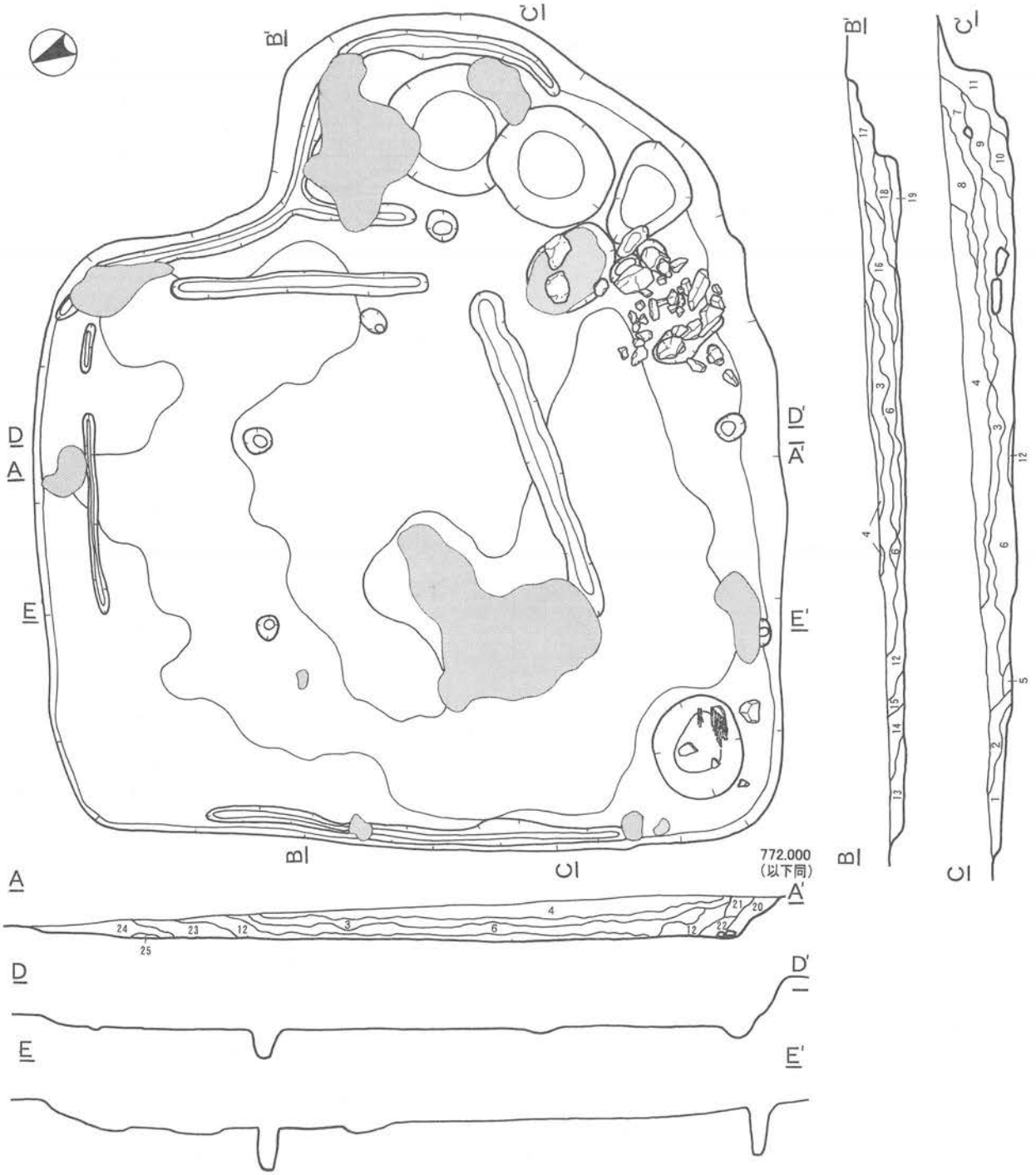
第63図　117号住居（1/40）　117号住居カマド（1/20）



第64図　117号住居出土遺物（1/2、5･6 1/4）

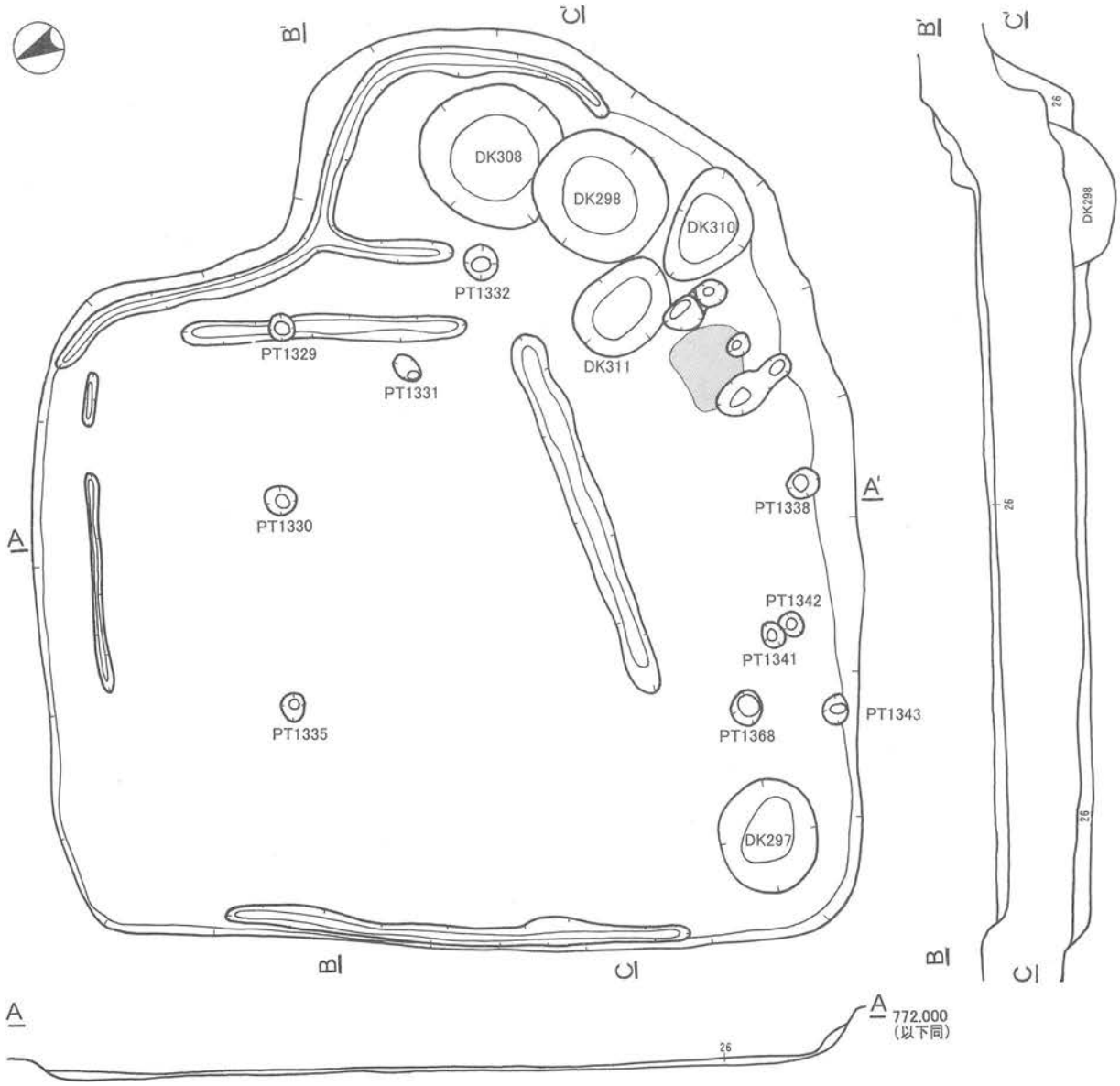


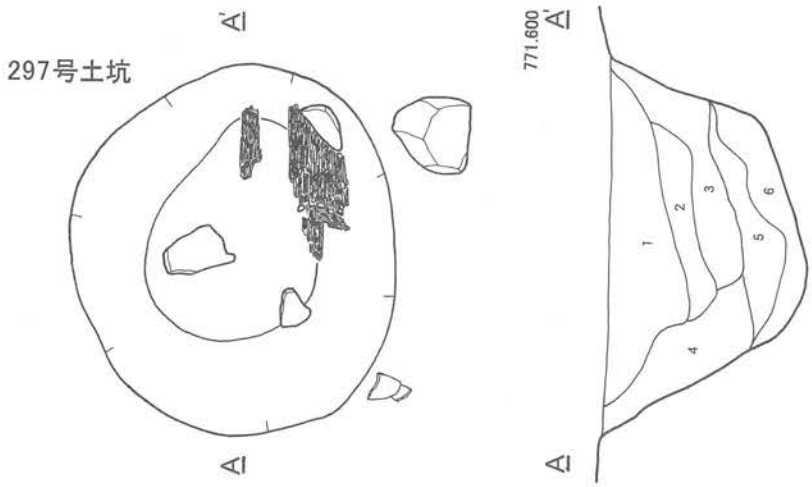
第65図　117号住居出土遺物（1/2）



1層　10YR3/4(暗褐)に10YR3/2(黒褐)が10%、焼土が30㎜大で3%混じる。固くしまる。シルト粒土。
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/2(黒褐)が25%混じる。固くしまる。シルト粒土。
3層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が15%混じる。固くしまる。シルト粒土。
4層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR3/2(黒褐)が20%、10YR6/8(明黄褐)が5㎜大で1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
5層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が15%、炭化物が10㎜大で5%混じる。固くしまる。シルト粒土。
6層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が35%、10YR6/8(明黄褐)が5㎜大で1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
7層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が15%、焼土が5~10㎜大で2%混じる。固くしまる。シルト粒土。
8層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が5㎜大で1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
9層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR3/2(黒褐)が5%、焼土が5㎜大で2%混じる。固くしまる。シルト粒土。
10層　10YR4/4(褐)に焼土が5㎜大で2%混じる。固くしまる。シルト粒土。
11層　10YR4/6(褐)に10YR2/1(黒)が10㎜大で2%混じる。固くしまる。シルト粒土。
12層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が5~10㎜大で5%、炭化物が10㎜大で1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
13層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/1(黒)が5%、10YR6/4(にぶい黄橙)が30㎜大で5%、焼土が5~30㎜大で5%混じる。固くしまる。シルト粒土。
14層　10YR3/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が30%、10YR6/4(にぶい黄橙)が30㎜大で10%混じる。固くしまる。シルト粒土。
15層　10YR3/3(暗褐)に10YR3/2(黒褐)が30%、10YR4/3(にぶい黄褐)が20%、焼土が10%混じる。しまる。シルト粒土。
16層　10YR3/2(黒褐)に10YR4/6(褐)が5~10㎜大で2%混じる。固くしまる。シルト粒土。
17層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が10%、10YR2/1(黒)が5㎜大で1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
18層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/2(黒褐)が10%、焼土が5~20㎜大で3%、炭化物が50㎜大で10%混じる。固くしまる。シルト粒土。
19層　10YR3/2(黒褐)に10YR4/6(褐)が10%混じる。固くしまる。シルト粒土。
20層　10YR3/2(黒褐)に10YR4/6(褐)が5㎜大で1%混じる。シルト粒土。
21層　10YR3/2(黒褐)。固くしまる。シルト粒土。
22層　10YR2/2(黒褐)に10YR2/1(黒)が2%、焼土が5~10㎜大で5%混じる。固くしまる。シルト粒土。
23層　10YR3/2(黒褐)に10YR4/6(褐)が5㎜大で2%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
24層　10YR3/4(暗褐)に焼土が5~20㎜大で5%混じる。固くしまる。シルト粒土。
25層　10YR5/3(にぶい黄褐)。固くしまる。シルト粒土。
26層(貼床)　10YR5/6(黄褐)。非常に固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR5/6(黄褐)。固くしまる。シルト粒土。

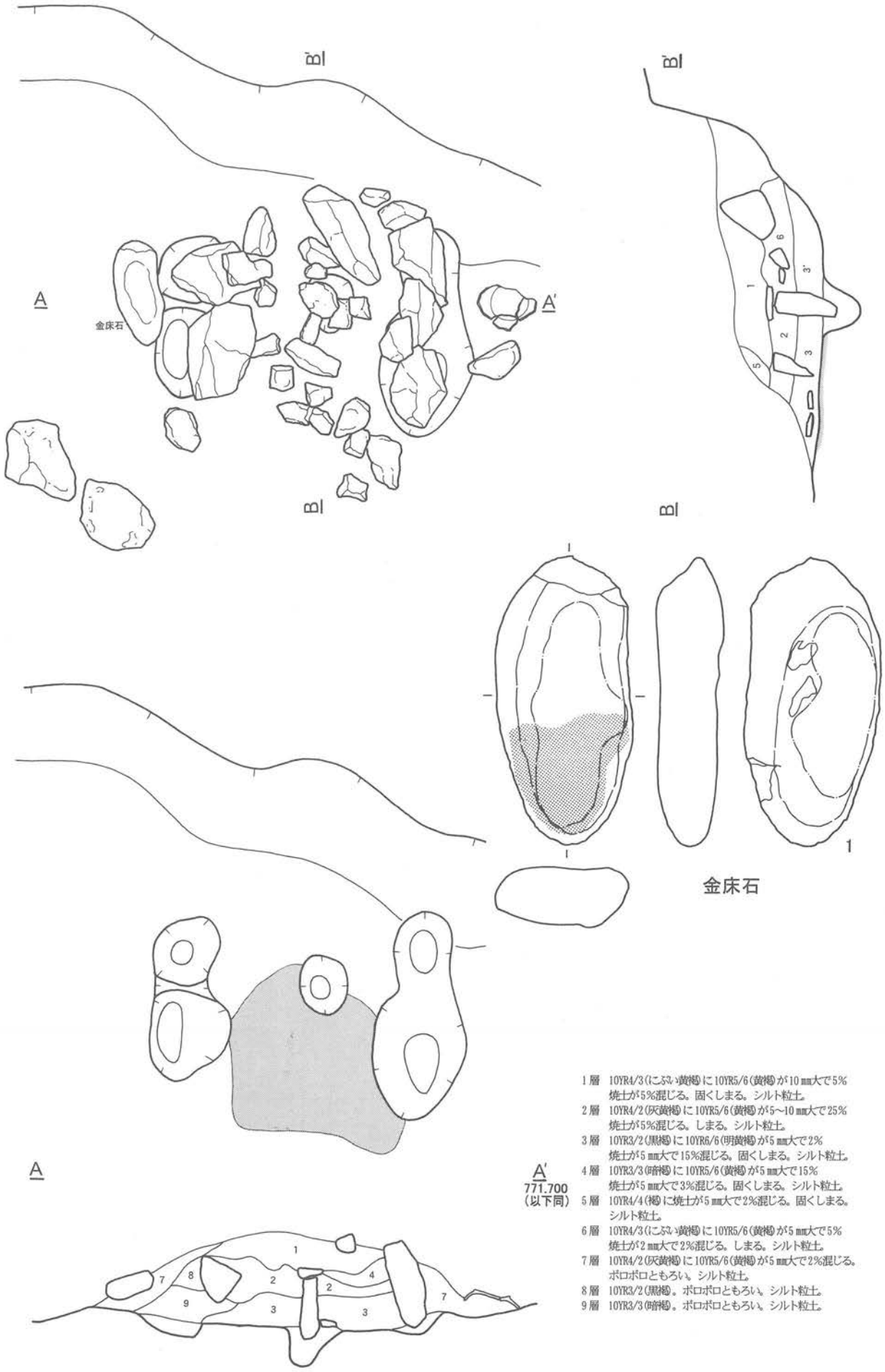
第66図　118号住居（1/60）



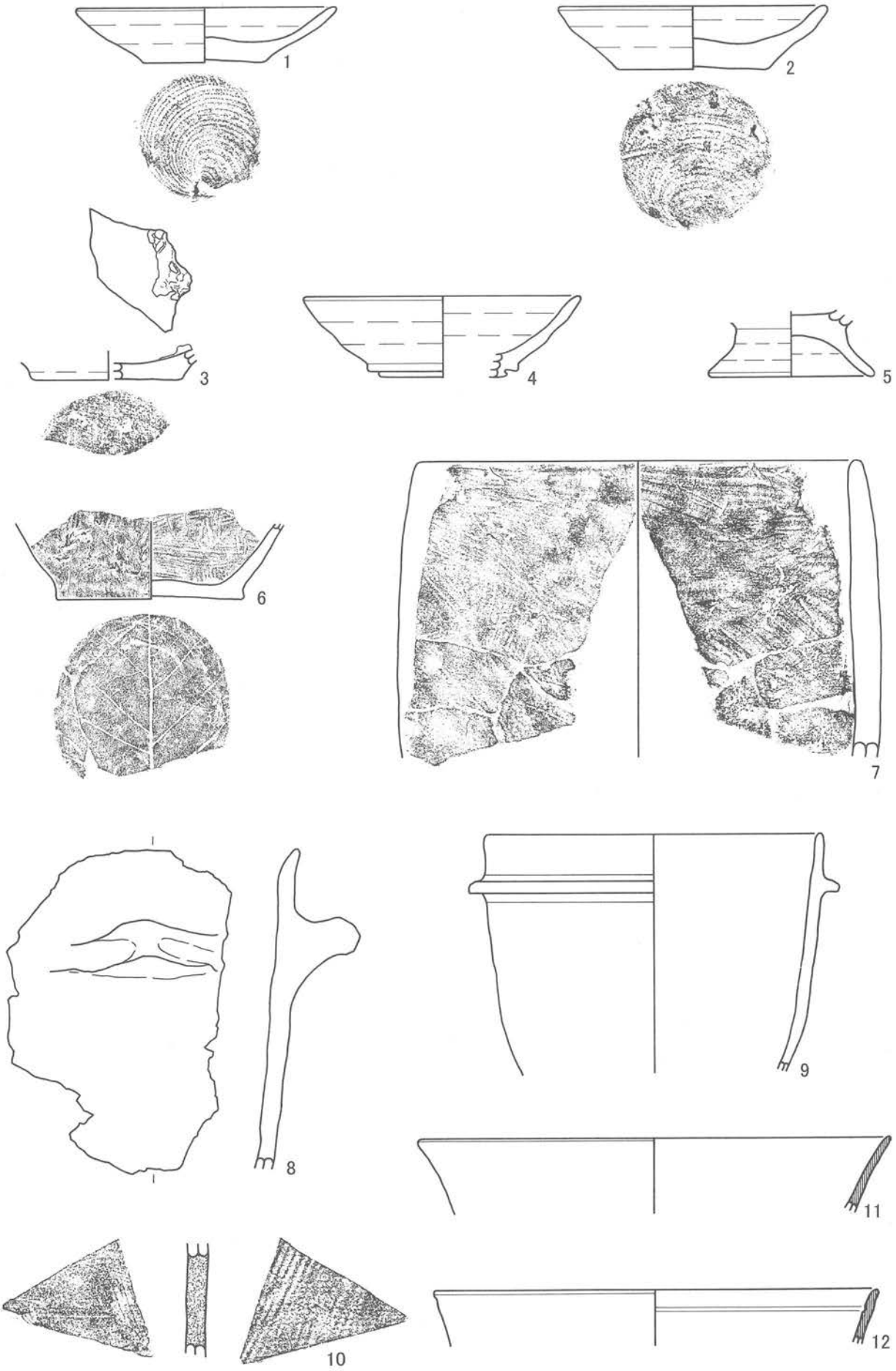


1層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が10%、焼土・炭化物が5%混じる。ややしまる。シルト粒土。
2層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が10%、焼土が10%、炭化物が5%混じる。ややしまる。シルト粒土。
3層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が10%、焼土が30%、炭化物が5%混じる。しまる。シルト粒土。
4層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が20%、焼土が40%、炭化物が5%混じる。ややしまる。シルト粒土。
5層　10YR2/3(黒褐)に焼土が50%、炭化物が30%混じる。ややしまる。シルト粒土。
6層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が20%、炭化物が40%混じる。ややしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が2%混じる。固くしまる。シルト粒土。

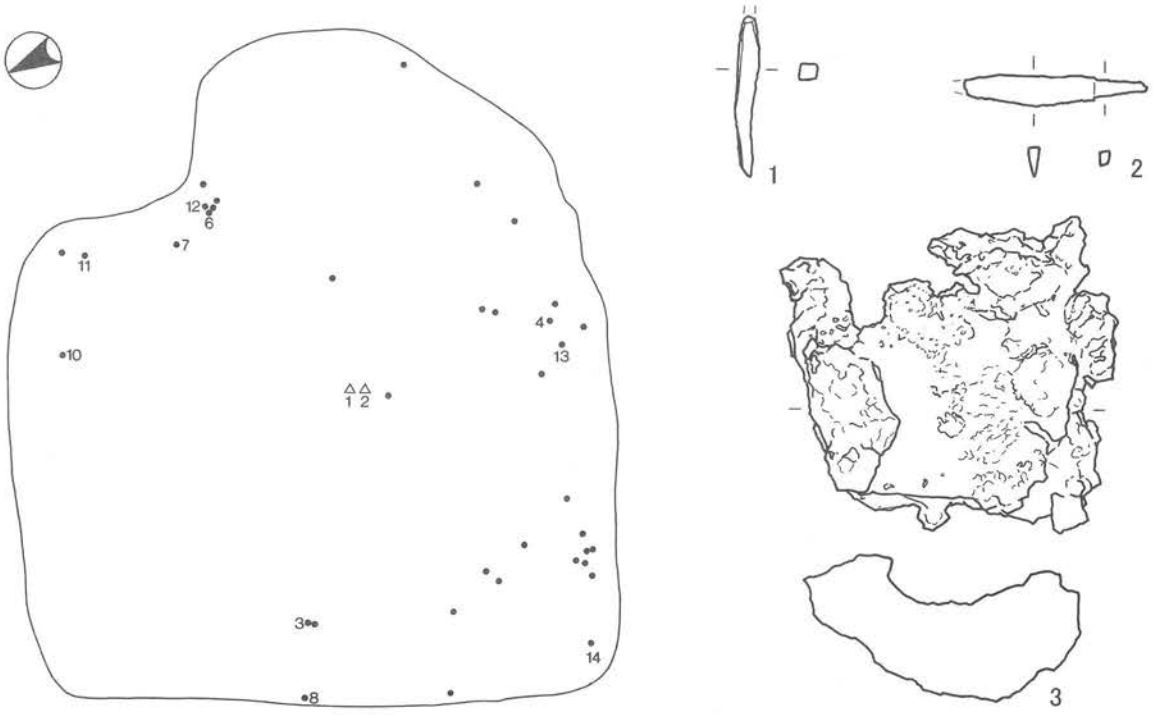
第67図　118号住居（1/60）　297号土坑（1/20）



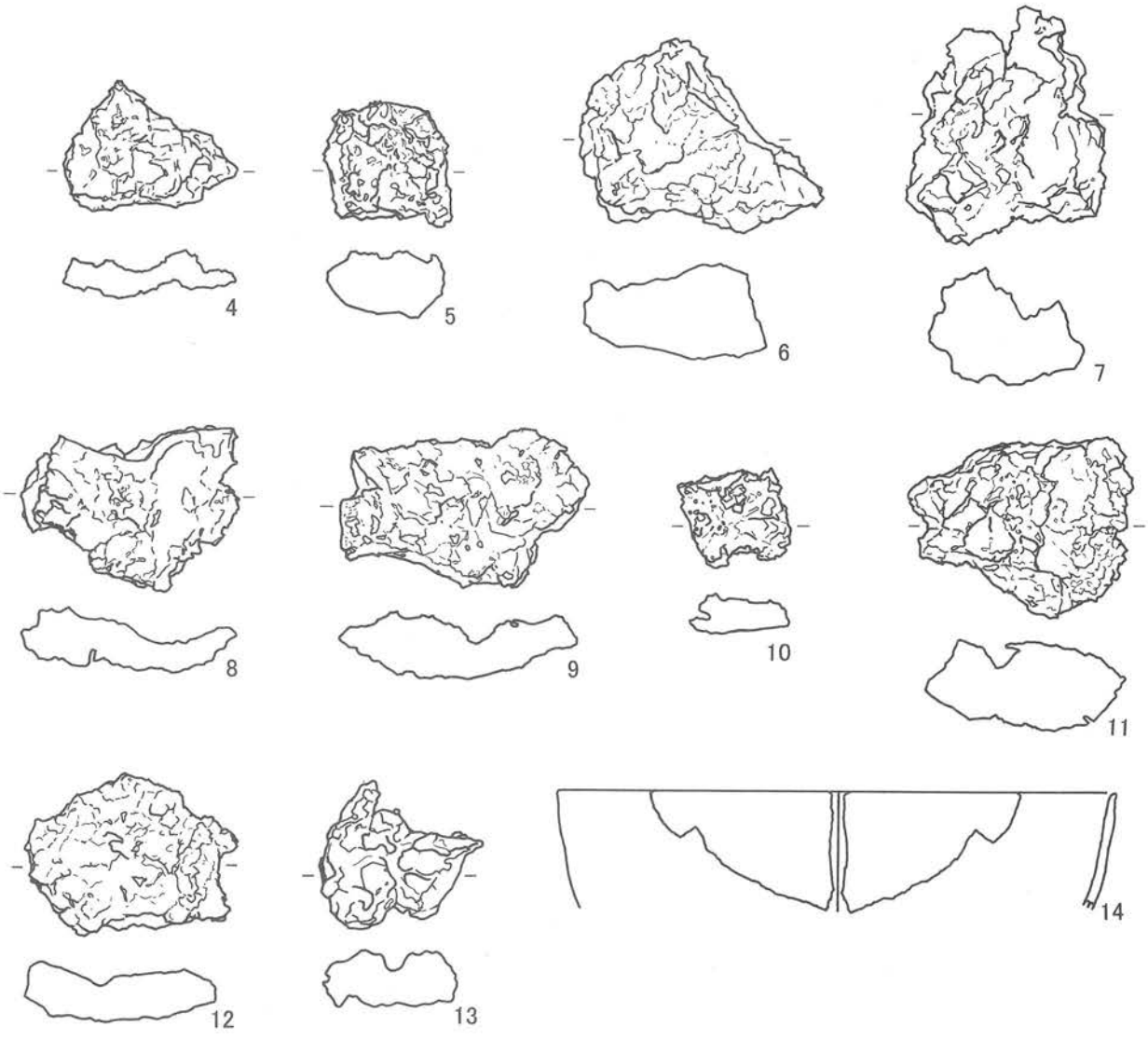
第68図　118号住居カマド（1/20）および出土遺物（1/4）



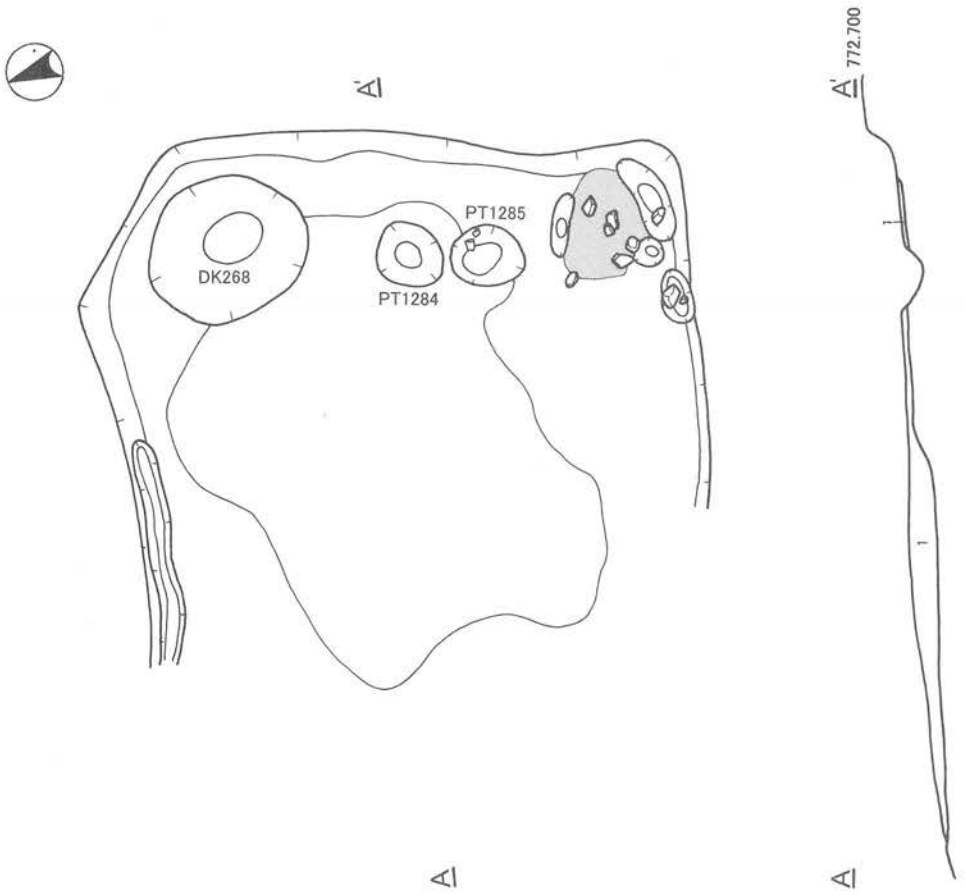
第69図　118号住居出土遺物（1/2、6･9 1/4）



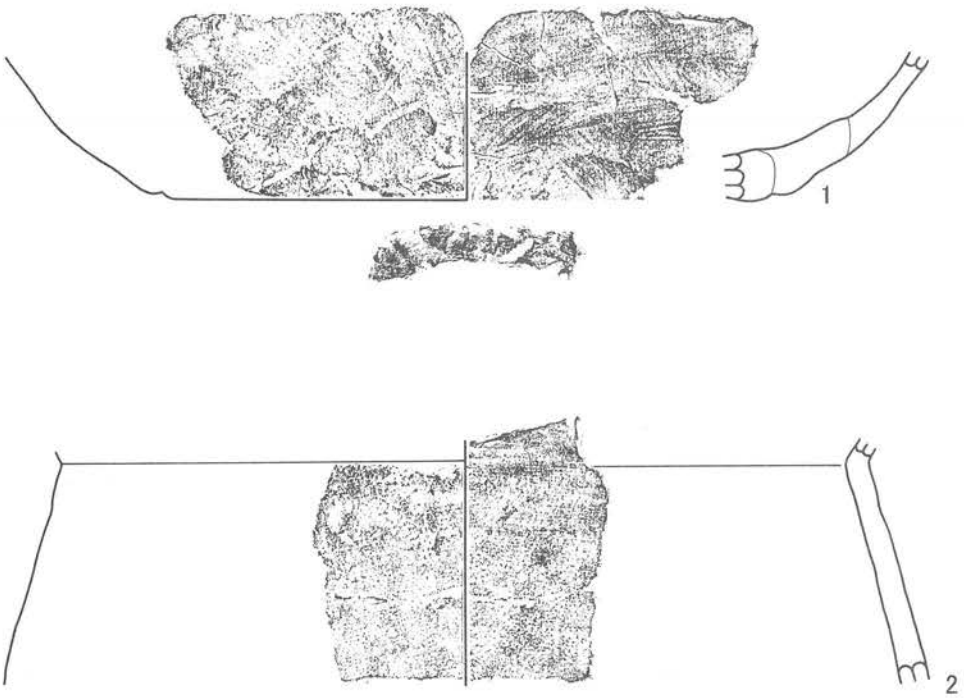
PH118 出土鉄製品・鉄滓分布図(1/80)



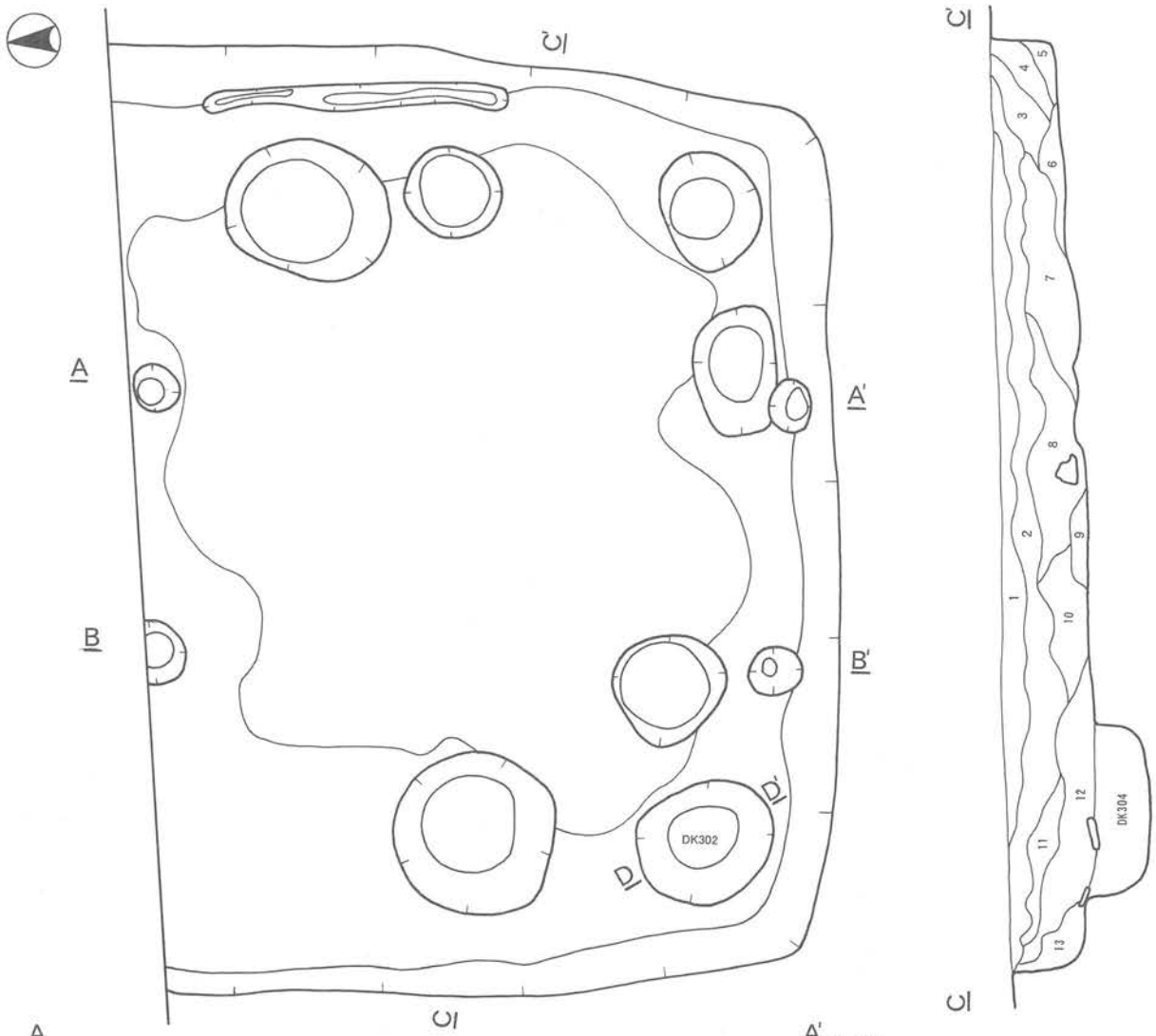
第70図　118号住居出土遺物 (1/2、14 1/4)



1層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/1(黒)が10%混じる。しまる。シルト粒土。
床面　10YR3/4(暗褐)に10YR2/1(黒)が3%混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR3/4(暗褐)に10YR2/1(黒)が3%混じる。固くしまる。シルト粒土。



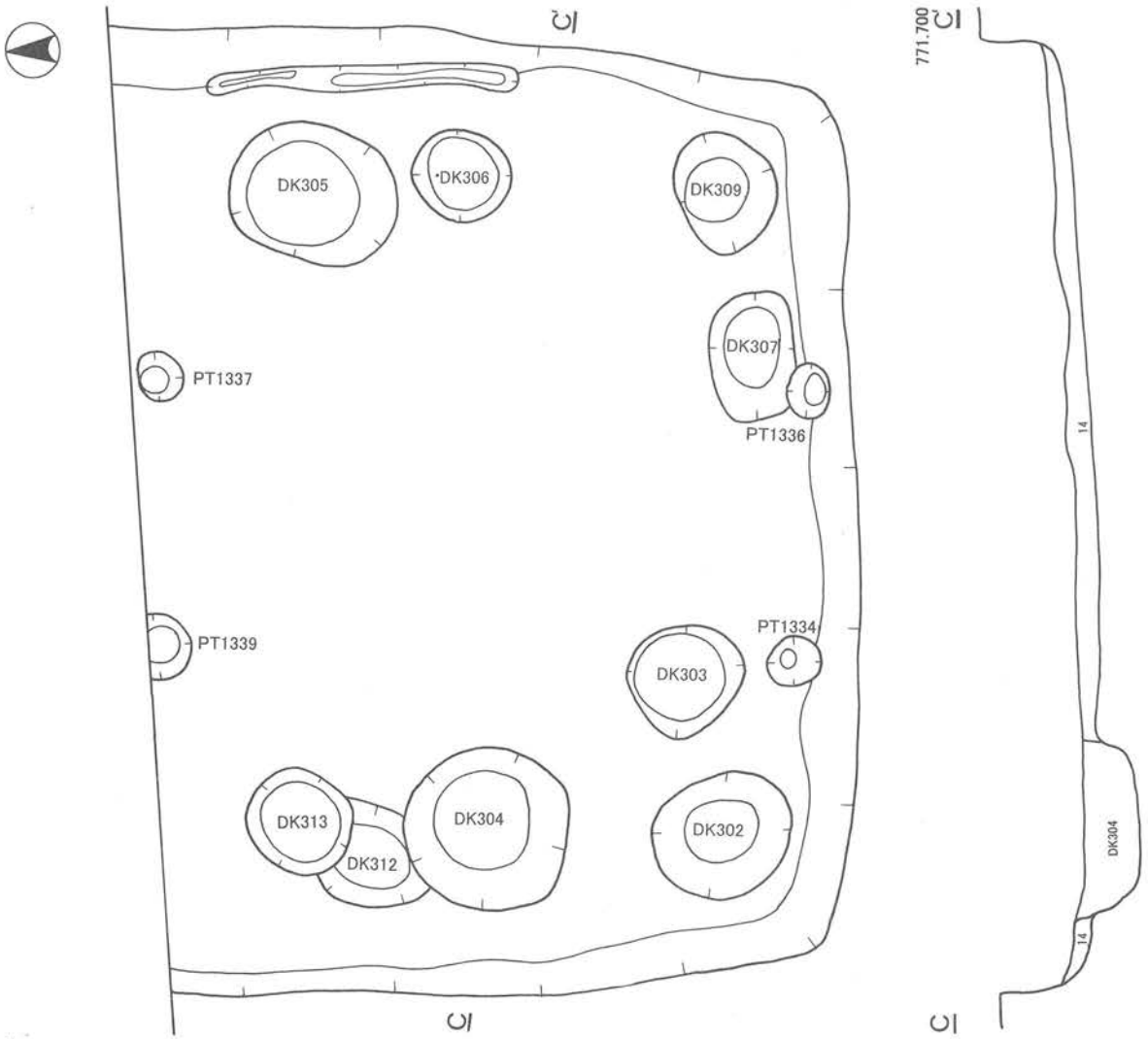
第71図　119号住居（1/40）および出土遺物（1/2）

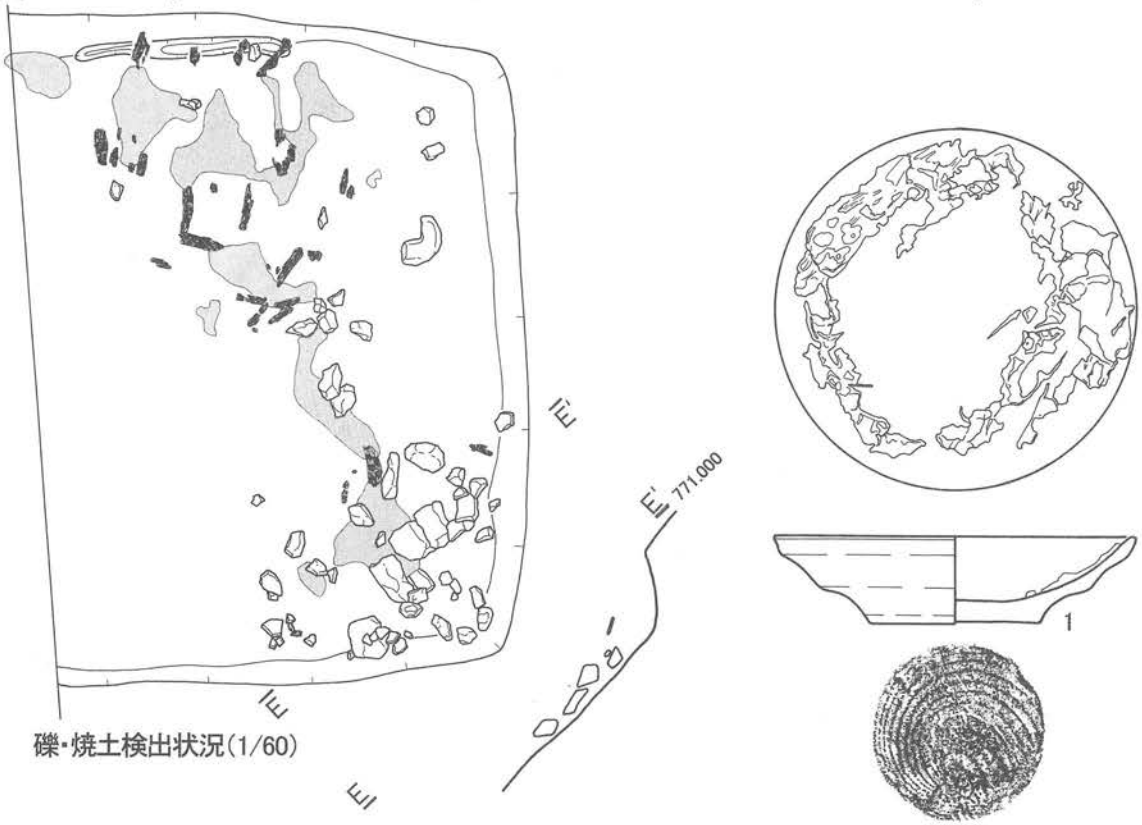


1層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が10%
焼土が40%、炭化物が5%混じる。
しまりなし。シルト粒土。
2層　2.5YR3/6(暗赤褐)の焼土に
10YR3/3(暗褐)が10%混じる。
しまりなし。シルト粒土。
3層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が5%
焼土が20%混じる。しまりなし。
シルト粒土。
地山　10YR4/4(褐)。非常に固くしまる。
シルト粒土。

1層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が10%、焼土が2%、炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
2層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が10%、10YR4/4(褐)が10%、焼土が5%、炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
3層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が20%、焼土が10%、炭化物が5%混じる。ややしまる。シルト粒土。
4層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が30%、焼土が3%、炭化物が10%混じる。しまる。シルト粒土。
5層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が20%、焼土が2%、炭化物が2%混じる。しまる。シルト粒土。
6層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が10%、焼土が50%、炭化物が5%混じる。ややしまる。シルト粒土。
7層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が20%、焼土が20%、炭化物が10%混じる。しまる。シルト粒土。
8層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が10%、焼土が10%、炭化物が10%混じる。ややしまる。シルト粒土。
9層　10YR2/2(黒褐)に焼土が50%、炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
10層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/6(褐)が10%、焼土が5%、炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
11層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が10%、焼土が1%、炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
12層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が20%、焼土が2%、炭化物が5%混じる。ややしまる。シルト粒土。
13層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が30%、焼土が1%、炭化物が1%混じる。ややしまる。シルト粒土。
14層(貼床)　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が10%混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が10%混じる。固くしまる。シルト粒土。

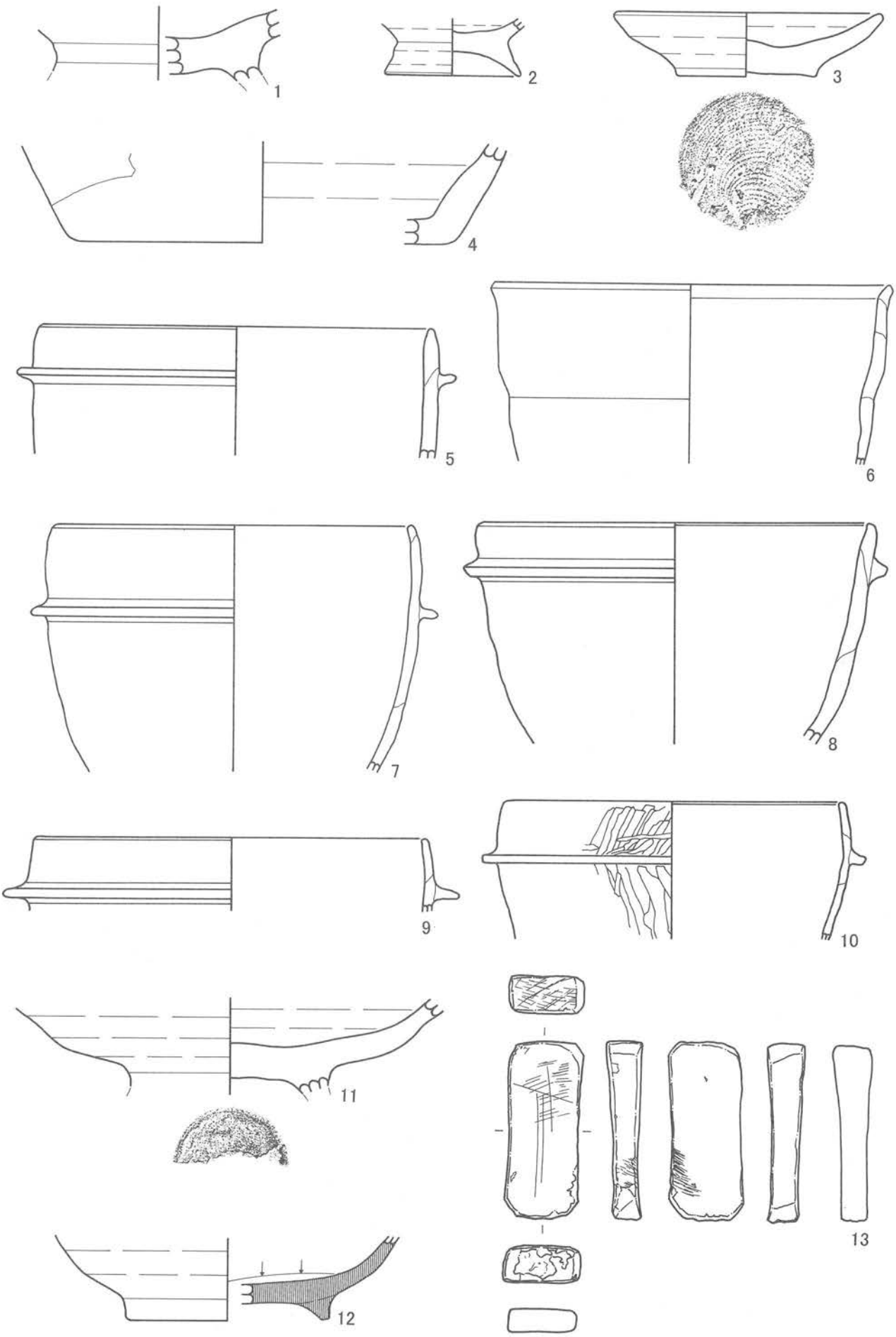
第72図　120号住居（1/40）



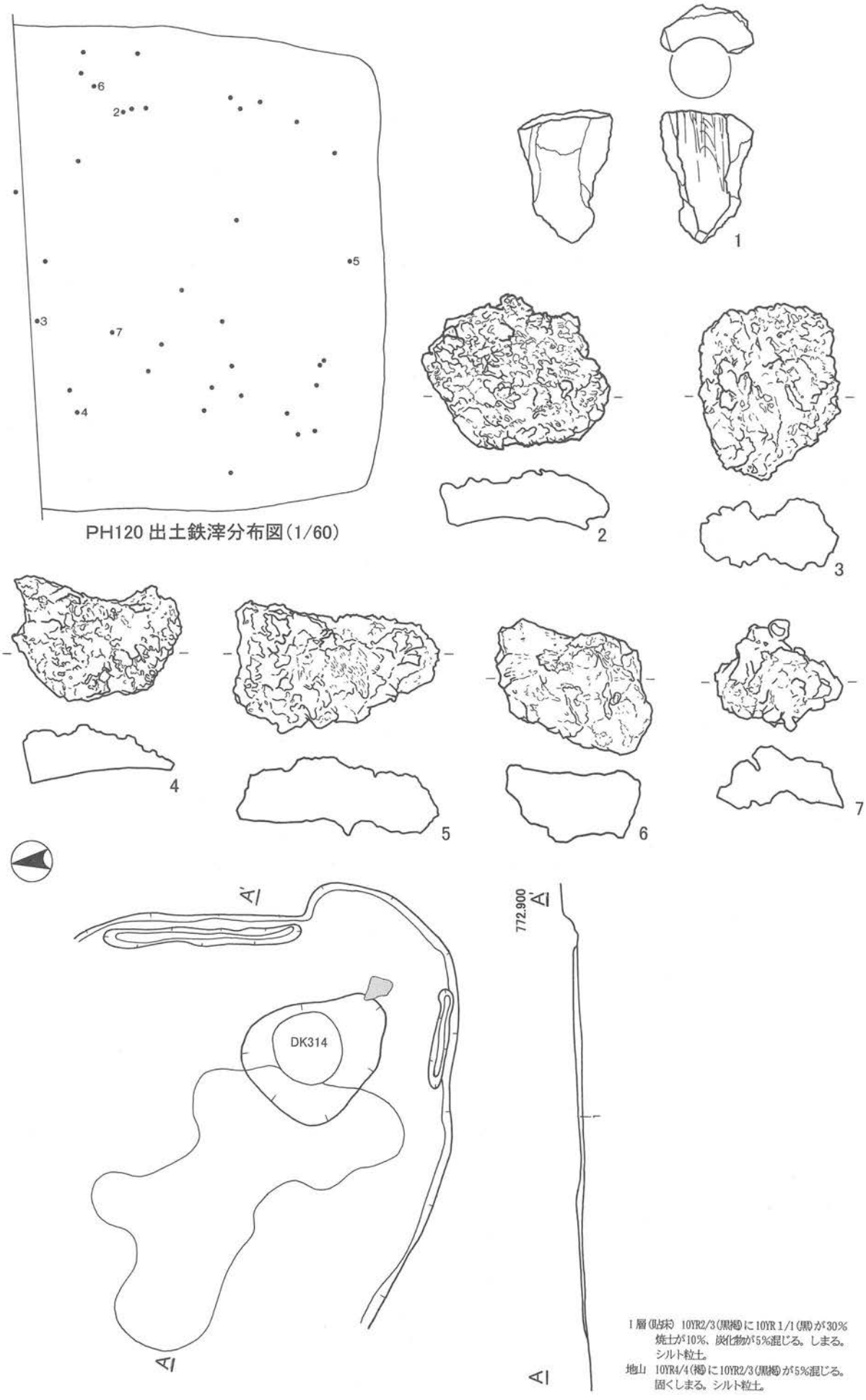


礫・焼土検出状況(1/60)

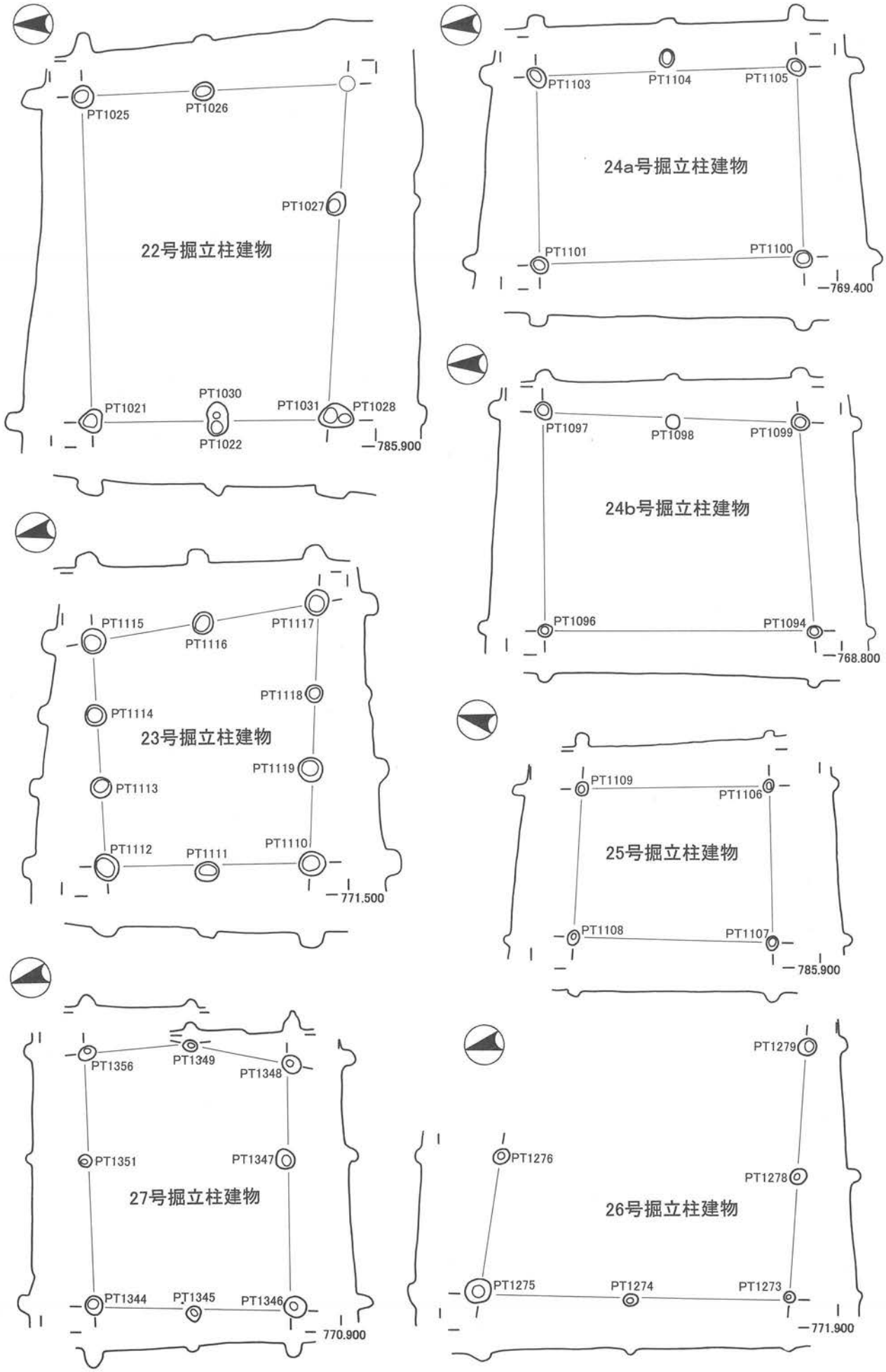
第73図　120号住居（1/40）および出土遺物（1/2）



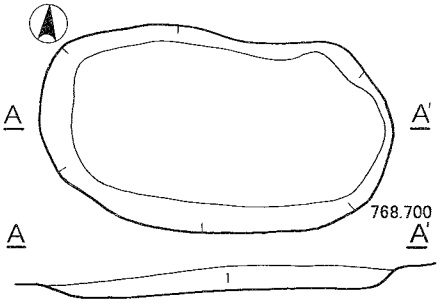
第74図　120号住居（1/2、5～10 1/4）



第75図　120号住居出土遺物（1/2）　121号住居（1/40）

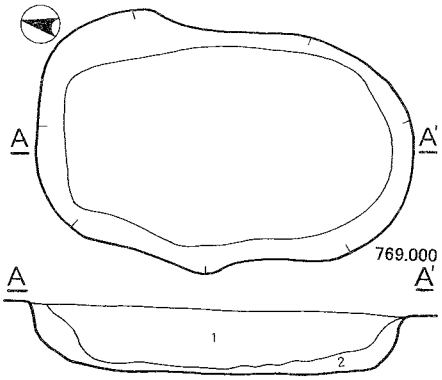


第76図　掘立柱建物（1/80）



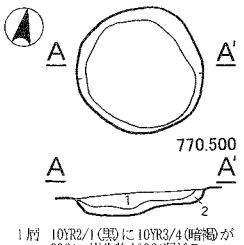
1層 10YR2/1(黒)に10YR3/4(暗褐)が40%、炭化物が3%混じる。しまる。シルト粒土。
地山 10YR3/4(暗褐)に10YR2/2(黒褐)が20%混じる。固くしまる。シルト粒土。

220号土坑



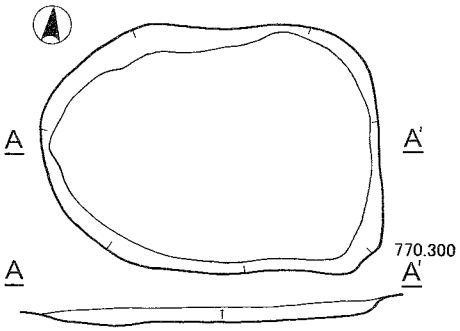
1層 7.5YR4/3(褐)に7.5YR3/2(黒褐)が20%、7.5YR4/6(褐)が5㎜～30㎜大で5%、10YR2/1(黒)が2%混じる。しまる。シルト粒土。
2層 7.5YR4/3(褐)に7.5YR4/6(褐)が30%混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山 7.5YR4/6(褐)に7.5YR4/4(褐)が10%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。

221号土坑



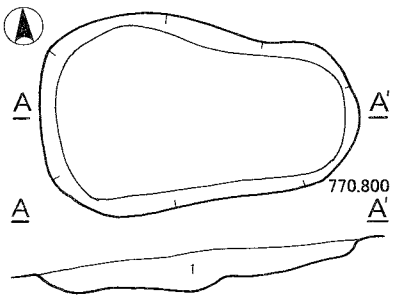
1層 10YR2/1(黒)に10YR3/4(暗褐)が30%、炭化物が3%混じる。しまる。シルト粒土。
2層 10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が20%混じる。しまる。シルト粒土。
地山 10YR3/4(暗褐)に10YR2/2(黒褐)が5%混じる。しまる。シルト粒土。

227号土坑



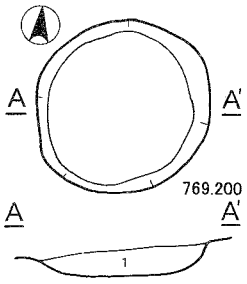
1層 10YR2/1(黒)に10YR3/4(暗褐)が30%、10YR4/6(褐)が10%、炭化物が5%混じる。しまる。シルト粒土。
地山 10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が30%混じる。固くしまる。シルト粒土。

223号土坑



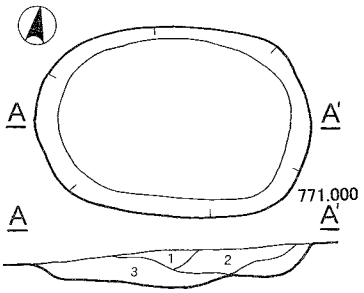
1層 10YR3/3(暗褐)に7.5YR4/4(褐)が10%、10YR2/1(黒)が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山 7.5YR4/4(褐)に7.5YR4/6(褐)が20%、7.5YR3/3(暗褐)が10%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土

225号土坑



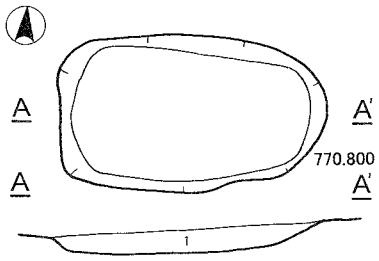
1層 10YR2/1(黒)に10YR3/4(暗褐)が40%、炭化物が3%混じる。しまる。シルト粒土。
地山 10YR3/4(暗褐)に10YR2/2(黒褐)が20%混じる。固くしまる。シルト粒土。

222号土坑



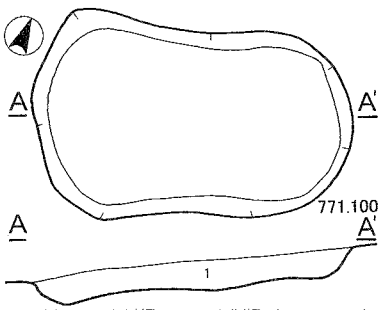
1層 10YR2/2(黒褐)に7.5YR4/3(褐)が20%、7.5YR4/4(褐)が5～10㎜大で5%混じる、固くしまる。シルト粒土。
2層 7.5YR4/4(褐)に7.5YR3/3(暗褐)が10%、7.5YR4/6(褐)が5～20㎜大で5%混じる、固くしまる。シルト粒土。
3層 7.5YR4/4(褐)に7.5YR3/2(黒褐)が10%、7.5YR3/1(黒褐)が5～30㎜大で、2%混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山 7.5YR4/6(褐)に7.5YR4/4(褐)が20%、7.5YR3/1(黒褐)が5～10㎜大で1%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。

226号土坑



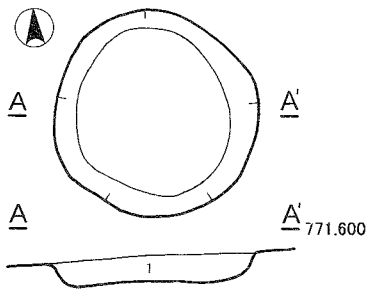
1層 10YR3/3(暗褐)に7.5YR4/4(褐)が20%、10YR3/1(黒褐)が10%混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山 7.5YR4/4(褐)に7.5YR4/6(褐)が30%、7.5YR3/1(黒褐)が3%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。

224号土坑



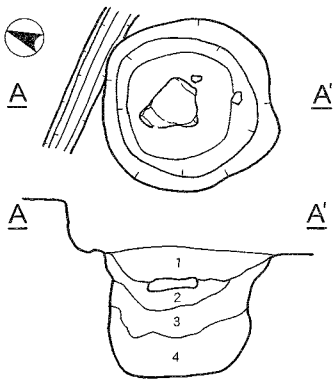
1層 7.5YR3/3(暗褐)に7.5YR3/2(黒褐)が10%、7.5YR4/4(褐)が10～50㎜大で3%、7.5YR4/6(褐)が20～50㎜大で3%混じる。しまる。シルト粒土。
地山 7.5YR4/4(褐)に7.5YR4/6(褐)が40%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。

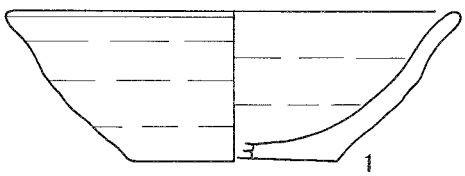
228号土坑



1層 7.5YR4/3(褐)に7.5YR4/4(褐)が20%、7.5YR4/6(褐)が5～15㎜大で3%、炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山 7.5YR4/6(褐)に7.5YR4/4(褐)が10%、7.5YR4/3(褐)が3%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。

229号土坑





249号土坑出土遺物

1層 10YR4/6(褐)に10R5/8(赤)が30%混じる。しまる。シルト粒土。
2層 10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が20%、10YR5/8(黄褐)が2%、焼土が1%混じる。しまる。シルト粒土。
3層 10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が20%、10YR5/8(黄褐)が10%混じる。しまる。シルト粒土。
4層 10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が5%混じる。ややしまる。シルト粒土。
地山 10YR5/8(黄褐)。固くしまる。シルト粒土。

249号土坑

第77図　平安時代の土坑（1/40、1 1/2）

第5節　120号住居出土土師器付着物の自然化学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

1．はじめに

山梨県北巨摩郡明野村浅尾字梅之木に所在する梅之木遺跡は、茅ヶ岳西麓の標高760ｍ～780ｍの山麓斜面に位置している。本遺跡は平安時代後半、9世紀中頃～11世紀初頭の集落跡とされており、竪穴住居跡や掘立柱建物跡、土坑などが検出されている。

本報告は、当遺跡から出土した不明物質が付着した土師器小皿について、不明物質に文字等が書かれているかを検証するために実施した赤外線撮影の成果報告である。

2．資料

撮影対象資料は、梅之木遺跡から出土した土師器小皿の内面に付着した不明物質である。

3．分析

赤外線撮影は、株式会社東都文化財研究所の協力を得た。なお、赤外線撮影は、暗室状態下において、文化財用赤外線ビジコンカメラシステム（IRRS-100）およびデジタルカメラ（DFC-707）を用いて実施する。

4．結果

土師器内面の赤外線撮影状況を写真図版10に示す。また、当図版には比較資料として通常撮影状況も合わせて示した。土器や木製品などに顔料や墨などで文字等が描かれている資料に対し赤外線撮影を行うと、これらは赤外線を吸収し黒く写る。今回はこの原理を応用し、土師器内面付着物における文字の有無の検証を行った。

赤外線撮影の結果、土師器内面の口縁部周辺の付着物が認められない部分は黒く写った。一方、付着物部分には、文字と考えられるような痕跡は検出されなかった。なお、土師器内面の口縁部周辺の黒色部分は、土器表面に塗布された何らかの顔料に反応したためと考えられる。

第４章　縄文時代の遺構と遺物

第１節　竪穴住居跡と出土遺物

本遺跡で検出された縄文時代の竪穴住居跡４軒について、以下に報告する。住居床面積は住居実測図の壁下端あるいは周溝の内側でプラニメーターを用いて計測した。

縄文１号住居（第78図～第80図、写真図版８）

位置　Ｅ１区東端に位置する。

規模・形態　耕作によると思われる削平をうけており不明。

施設　石囲炉を検出した。ピットを３基検出した。

時期　曽利Ⅴ新式期と思われる。

調査所見　削平をうけて壁面が失われている。炉石も一部が不自然に浮き上がっていることから床面まで削平されているようである。３基のピット以外に柱穴は検出されなかった。炉の南側で深鉢の底部が正位で出土したが、これは攪乱をうけて浮き上がってしまった埋甕とも考えられる。

縄文２号住居（第80図、第81図、写真図版８）

位置　Ｅ１区中央に位置する。

規模・形態　直径4.1ｍの円形。床面積12.9㎡。竪穴は深さ32㎝を測る。

施設　住居中央北寄りで炉を検出した。床面でピットを３基検出した。

時期　曽利Ⅳ新式頃と思われる。

調査所見　床面で検出されたピット（PT1288、PT1289、PT1290）の床面からの深さは25㎝、24㎝、26㎝である。炉内には礫は見られなかったが、住居中央北寄りの位置と覆土中に焼土が混じっていたという点から炉と判断した。住居西寄りの床面から10㎝上で深鉢が出土した。

縄文３号住居（第82図～第87図、写真図版９）

位置　Ｅ２区北端、118号住居に切られる。

規模・形態　直径6.0ｍの円形。床面積9.9㎡。竪穴は最大で深さ32㎝を測る。

施設　住居中央東寄りで炉を検出した。壁沿いで周溝を検出した。床面でピットを６基検出した。西の壁沿いで埋甕（第83図２）を検出した。

時期　曽利Ⅳ古式期から曽利Ⅳ新式期頃と思われる。

調査所見　118号住居の西壁および床面に切られている。炉は底面が被熱、焼土化しており覆土中からは拳大の礫が出土している。床面で検出された６基のピット（PT1356、PT1357、PT1358、PT1359、PT1360、PT1361）の深さは24㎝、31㎝、61㎝、29㎝、26㎝、24㎝であり、このうちPT1358の１基が直径も大きく深い。これらの６基のピットが柱穴であると思われる。

縄文４号住居（第88図～第92図、写真図版９）

位置　Ｅ２区北端、118号住居に切られる。

規模・形態　平面形は不明。検出面から床面までの深さは最大で18㎝を測る。

施設　石囲炉を検出した。床面でピットを６基検出した。

時期　曽利III式期と思われる。

調査所見　地山とほとんど変わらない覆土であったため遺構の確認に手間取り、壁面の検出ができなかった。炉は四方に石を持つ石囲炉で北東側と南東側が割れている。底面が被熱、焼土化している。床面から出土したピット（PT1365、PT1366、PT1367、PT1369、PT1370、PT1371）の深さは77cm、87cm、74cm、73cm、18cm、60cmである。PT1370は117号住居に切られているため残りが悪いが、縄文４号住居の床面からの推定値は54cmになる。床面上約３cmから15cmで16点の黒曜石と４点の白色石英が出土した。黒曜石２点と４点、白色石英４点がそれぞれ接合している（89図３・４、90図９～12、91図18～21）。本住居からは石器や未製品の出土がなく石器製作址とは考えられず、多くの剥片や石核が住居の東側に半円形に分布していることから壁に沿って意図的に置かれたものと推測される。また117号住居覆土中から石質の酷似する黒曜石が１点出土しておりこれも図示した。（91図17）

第２節　その他の遺構と出土遺物

１号埋設土器（第92図）

位置　Ｅ２区北側、116号住居の南に位置する。

規模・形態　長軸38cm、短軸30cm、深さ22cmの楕円形の掘り込み。

時期　曽利Ｖ新式期頃と思われる。

調査所見　土器は正位に埋設されている。底部は欠失しており上面が削平されているため口縁部の状況は不明。周辺に住居の存在を想定させる柱穴や炉址は検出されなかったが耕作によると思われる削平を受けているため、屋外埋設土器であるとは断定できない。

230号土坑（第93図）

位置　Ｅ１区西端中央に位置する。

規模・形態　直径1.1ｍの円形。深さは62cmを測る。

時期　曽利IV式頃と思われる。

調査所見　覆土上層で深鉢の底部と拳大の礫が出土した。

１号集石（第93図）

位置　Ｅ２区北側、116号住居の南に位置する。

規模・形態　長軸1.1ｍ、短軸76cmの楕円形。深さは22cmを測る。

時期　出土遺物がなく、時期は不明である。

第３節　遺構外出土遺物

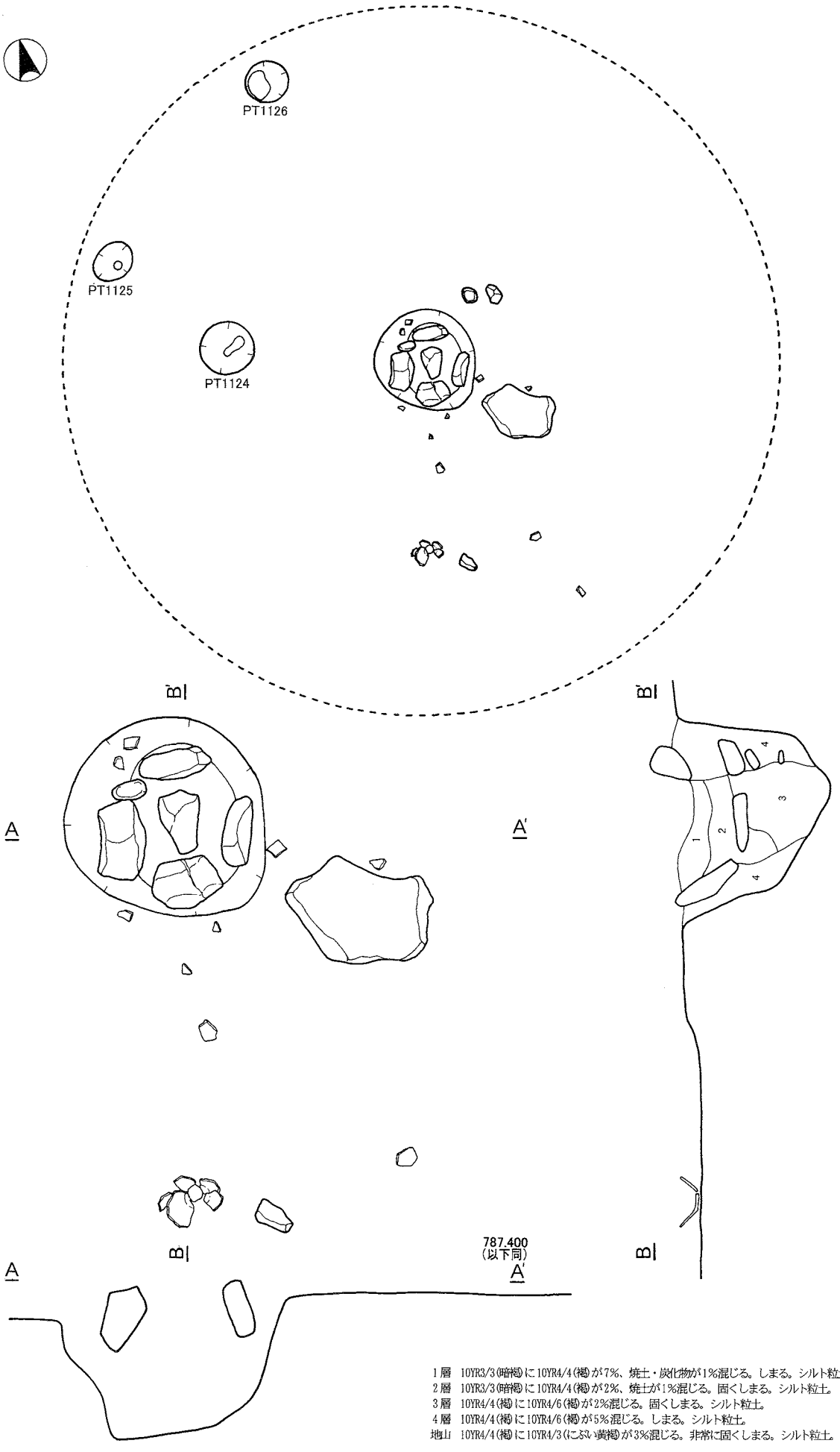
縄文時代のものと思われる遺構外出土遺物を報告する。94図１～10は縄文時代早期の押型文土器である、すべてＥ２区北側からの出土であることから、Ｅ２区内の時期不明の遺構には当該期のものも存在する可能性がある。

第４節　遺物観察表

第４章第３節までに報告した出土遺物の観察所見を報告する。観察表は以下のとおりである。

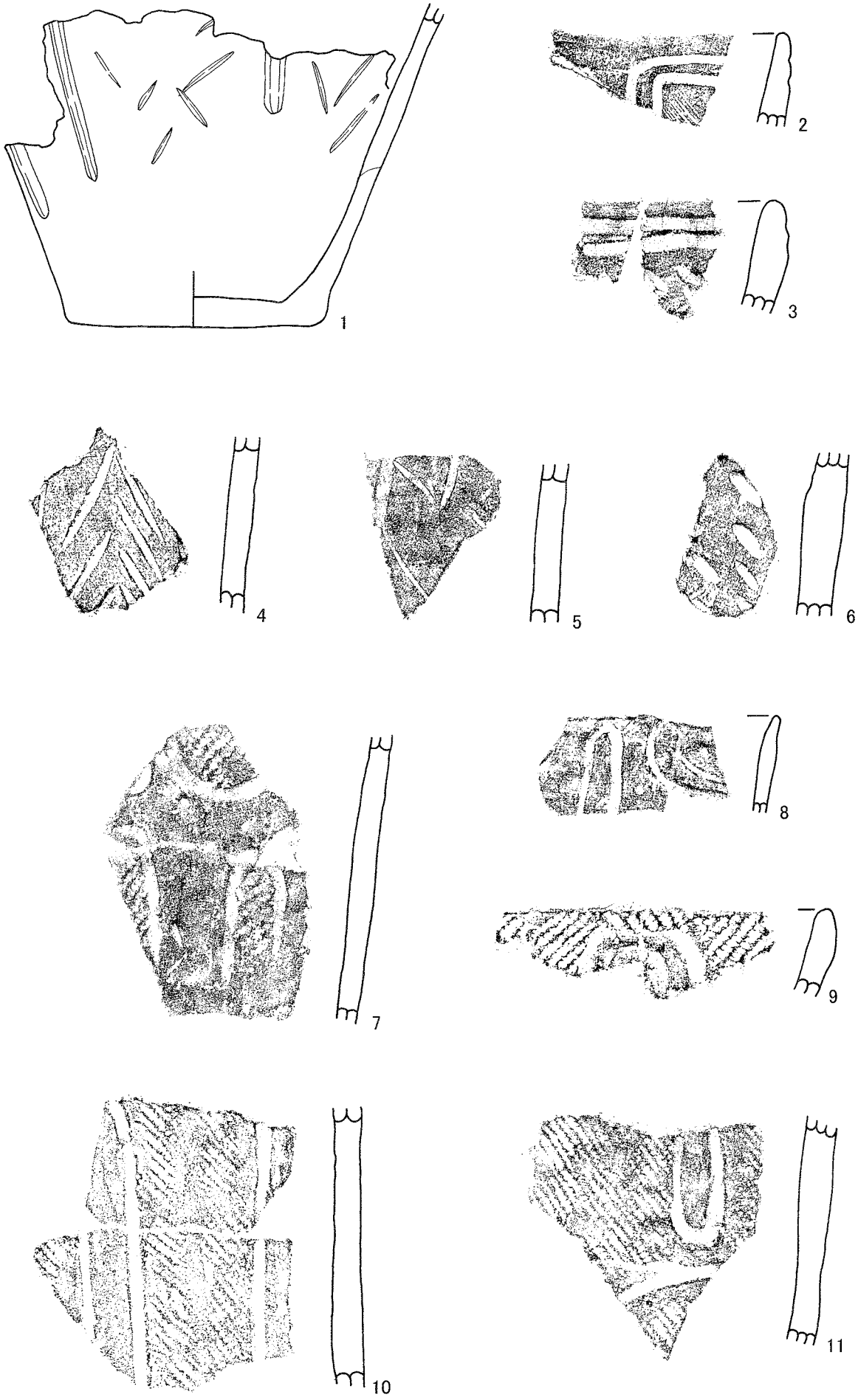
第８表　縄文時代・弥生時代・その他の時代の土器・土製品一覧

第９表　縄文時代・弥生時代の石器一覧

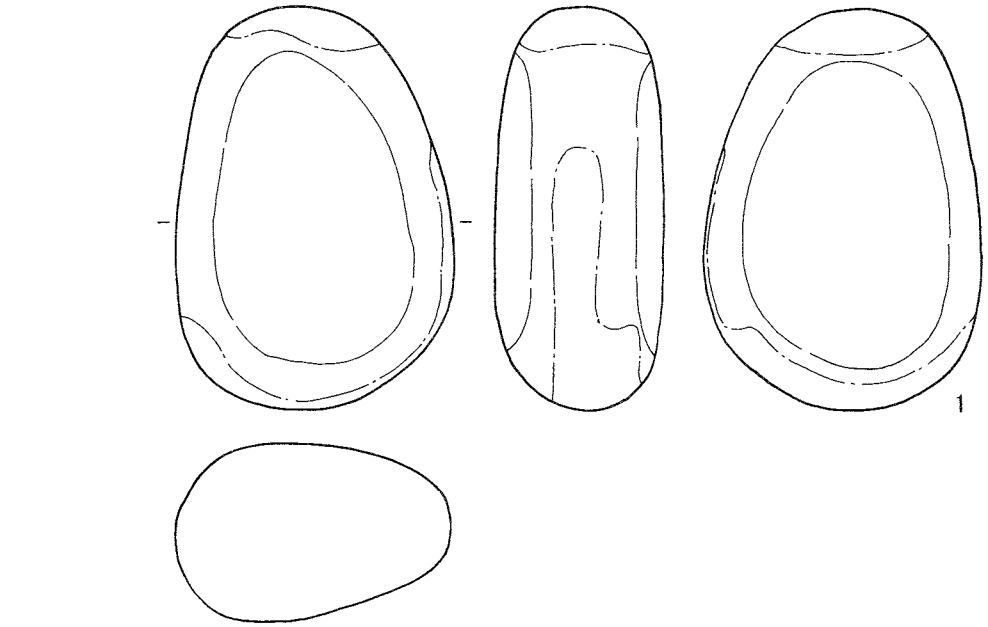


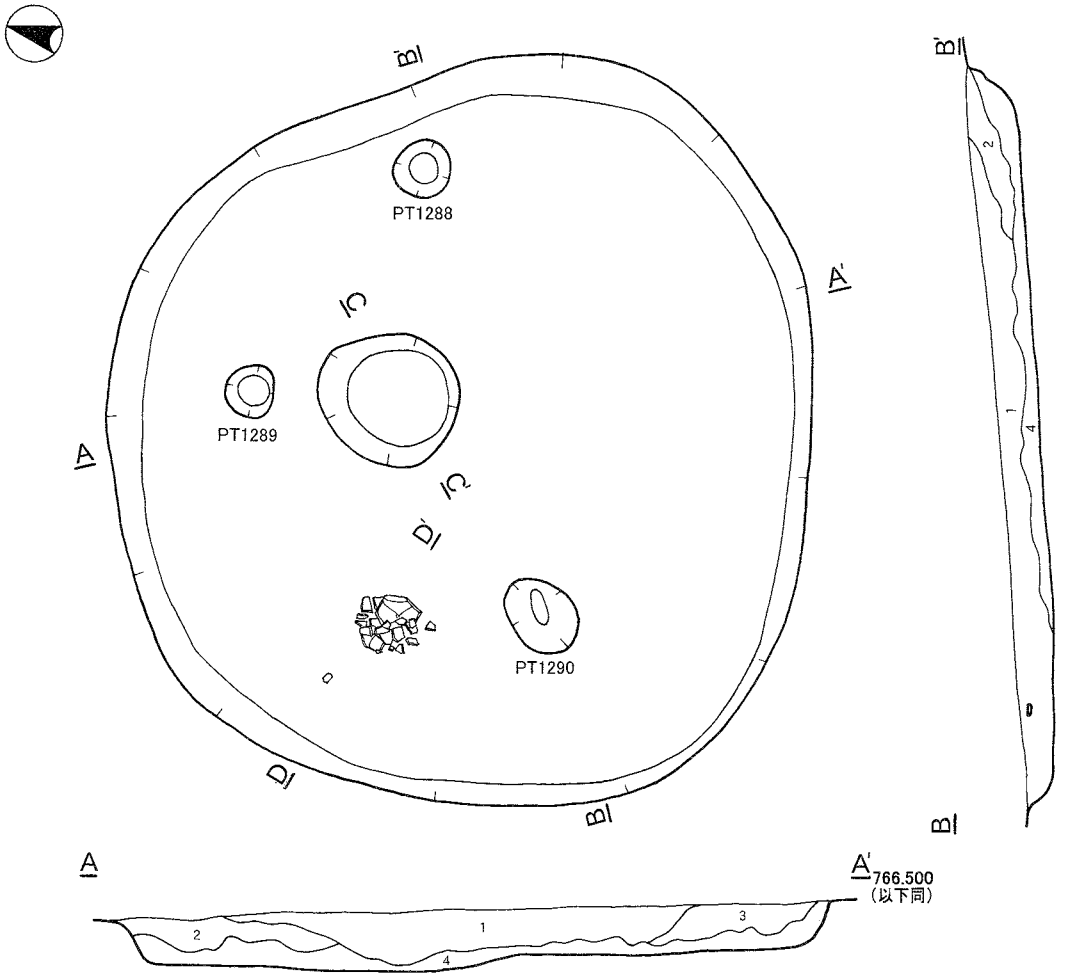
1層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が7%、焼土・炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が2%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
3層　10YR4/4(褐)に10YR4/6(褐)が2%混じる。固くしまる。シルト粒土。
4層　10YR4/4(褐)に10YR4/6(褐)が5%混じる。しまる。シルト粒土。
地山　10YR4/4(褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が3%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。

第78図　縄文1号住居（1/40）　縄文1号住居炉



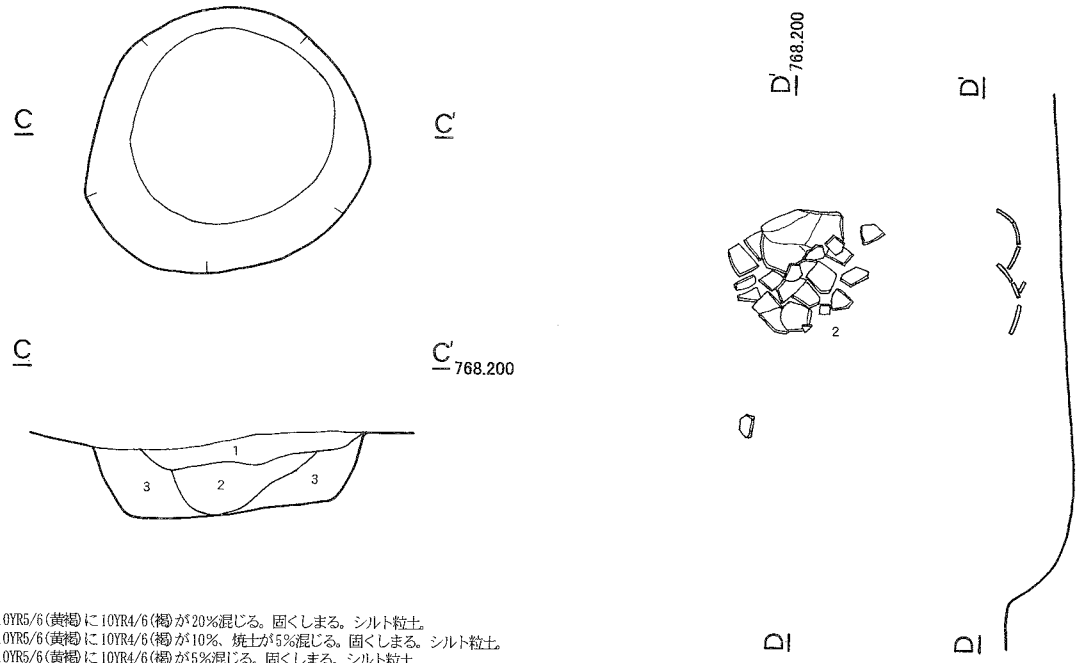
第79図　縄文１号住居出土遺物（1/2）



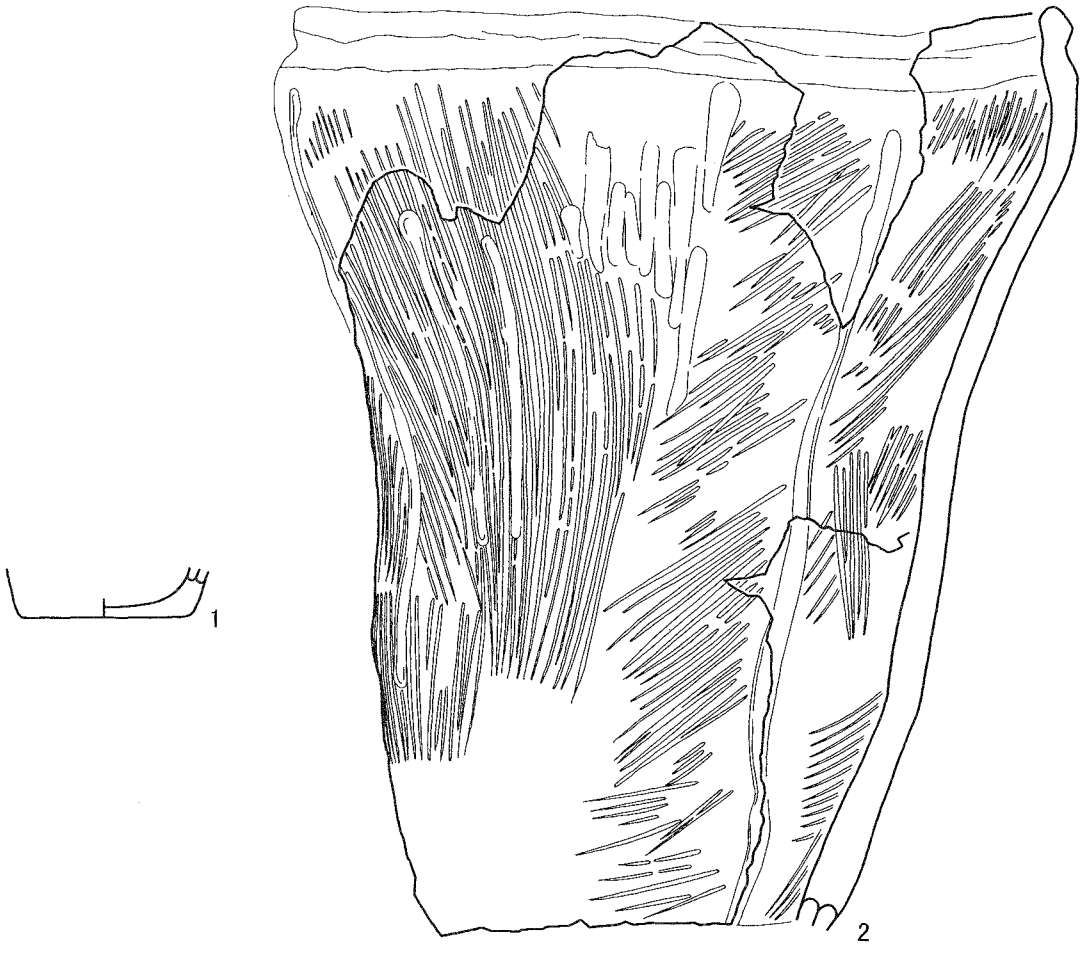


1層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR4/6(褐)が20%、10YR3/4(暗褐)が20%、焼土が1%、炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
2層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR4/6(褐)が20%、10YR3/4(暗褐)が10%混じる。固くしまる。シルト粒土。
3層　10YR4/6(褐)に10YR5/6(黄褐)が20%混じる。固くしまる。シルト粒土。
4層　10YR4/4(褐)に10YR4/6(褐)が30%混じる。しまる。シルト粒土。
床面　10YR4/4(褐)に10YR4/6(褐)が30%混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR5/6(黄褐)。固くしまる。シルト粒土。

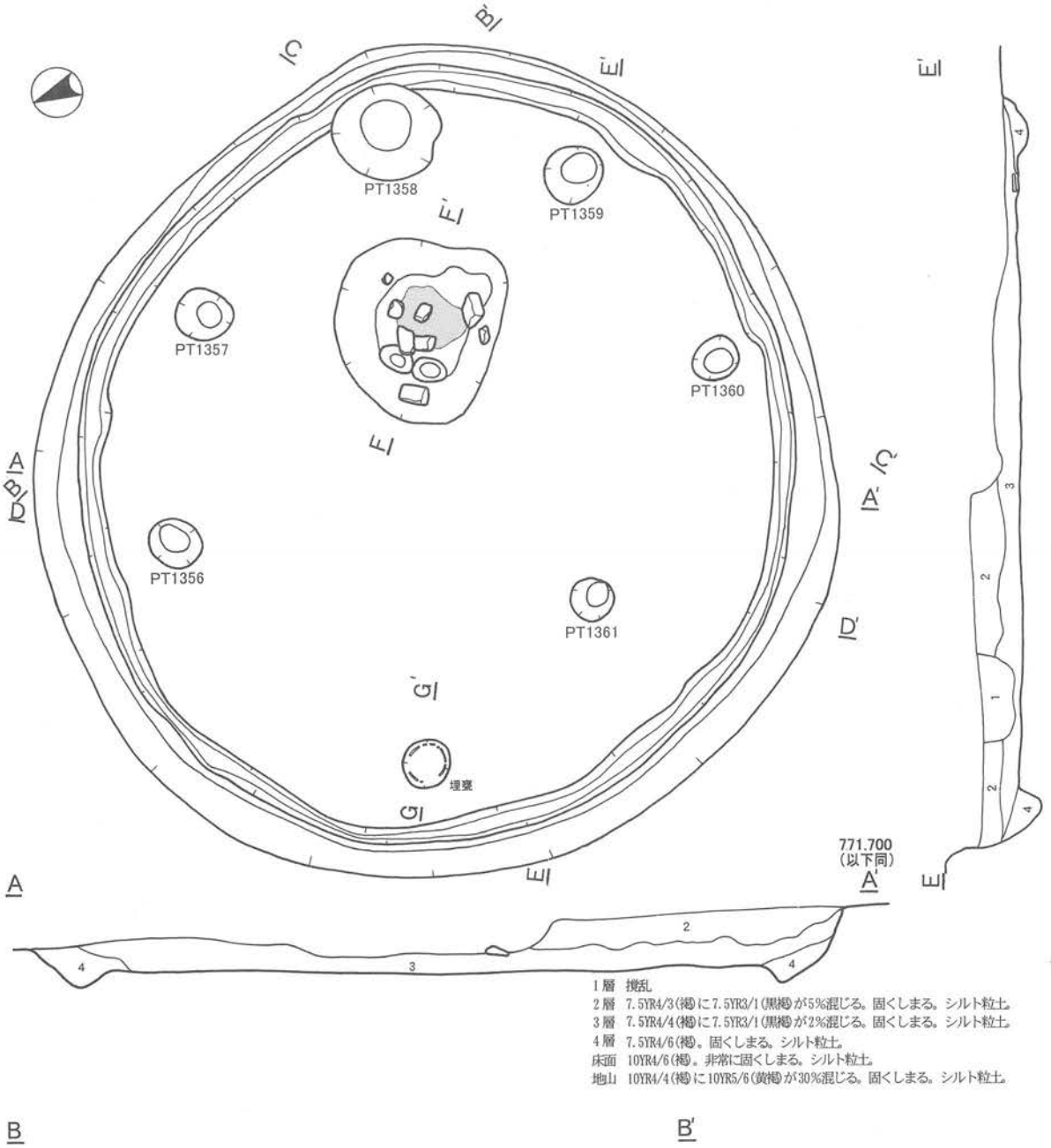
第80図　縄文1号住居出土遺物（1/2）　縄文2号住居（1/40）



1層　10YR5/6(黄褐)に10YR4/6(褐)が20%混じる。固くしまる。シルト粒土。
2層　10YR5/6(黄褐)に10YR4/6(褐)が10%、焼土が5%混じる。固くしまる。シルト粒土。
3層　10YR5/6(黄褐)に10YR4/6(褐)が5%混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR5/6(黄褐)に10YR4/6(褐)が10%混じる。固くしまる。シルト粒土。

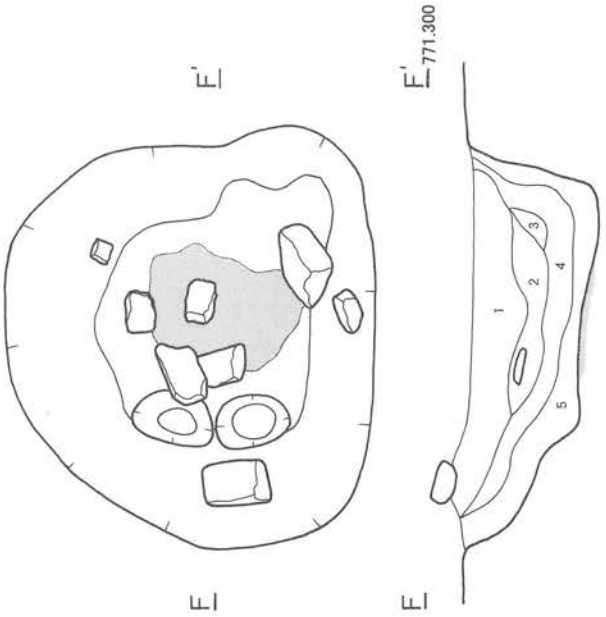


第81図　縄文2号住居炉（1/20）　縄文2号住居遺物出土状況（1/20）および出土遺物（1/2）



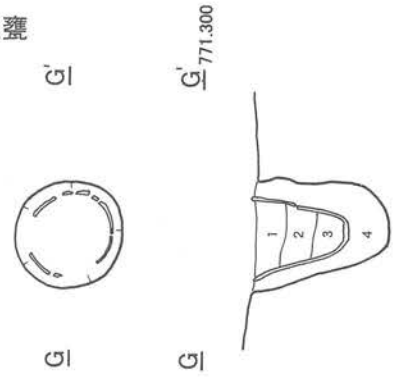
1層　撹乱
2層　7.5YR4/3(褐)に7.5YR3/1(黒褐)が5%混じる。固くしまる。シルト粒土。
3層　7.5YR4/4(褐)に7.5YR3/1(黒褐)が2%混じる。固くしまる。シルト粒土。
4層　7.5YR4/6(褐)。固くしまる。シルト粒土。
床面　10YR4/6(褐)。非常に固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が30%混じる。固くしまる。シルト粒土。

第82図　縄文3号住居（1/40）

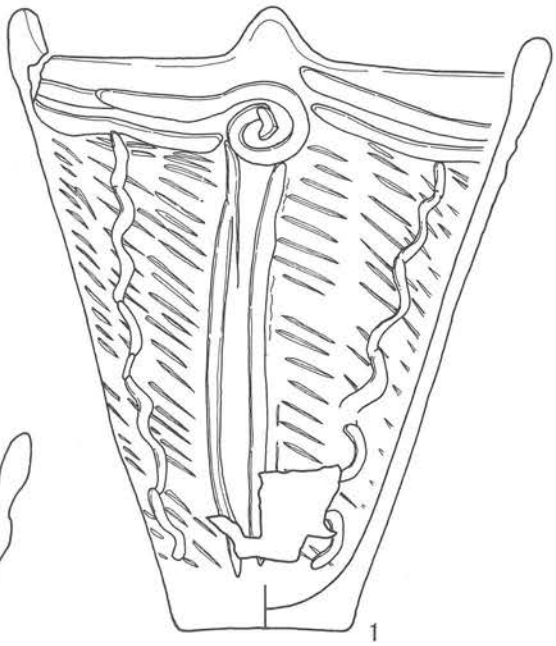


1層　10YR4/6(褐)に10YR4/4(褐)が20%。焼土・炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
2層　10YR4/6(褐)に焼土が1%混じる。しまる。シルト粒土。
3層　10YR4/6(褐)に焼土が20%混じる。固くしまる。シルト粒土。
4層　10YR4/6(褐)に10YR5/6(黄褐)が20%、焼土が1%混じる。しまる。シルト粒土。
5層　10YR5/6(黄褐)に10YR4/6(褐)が20%、焼土が5%混じる。しまる。シルト粒土。
地山　10YR5/6(黄褐)に10YR4/6(褐)が10%混じる。しまる。シルト粒土。

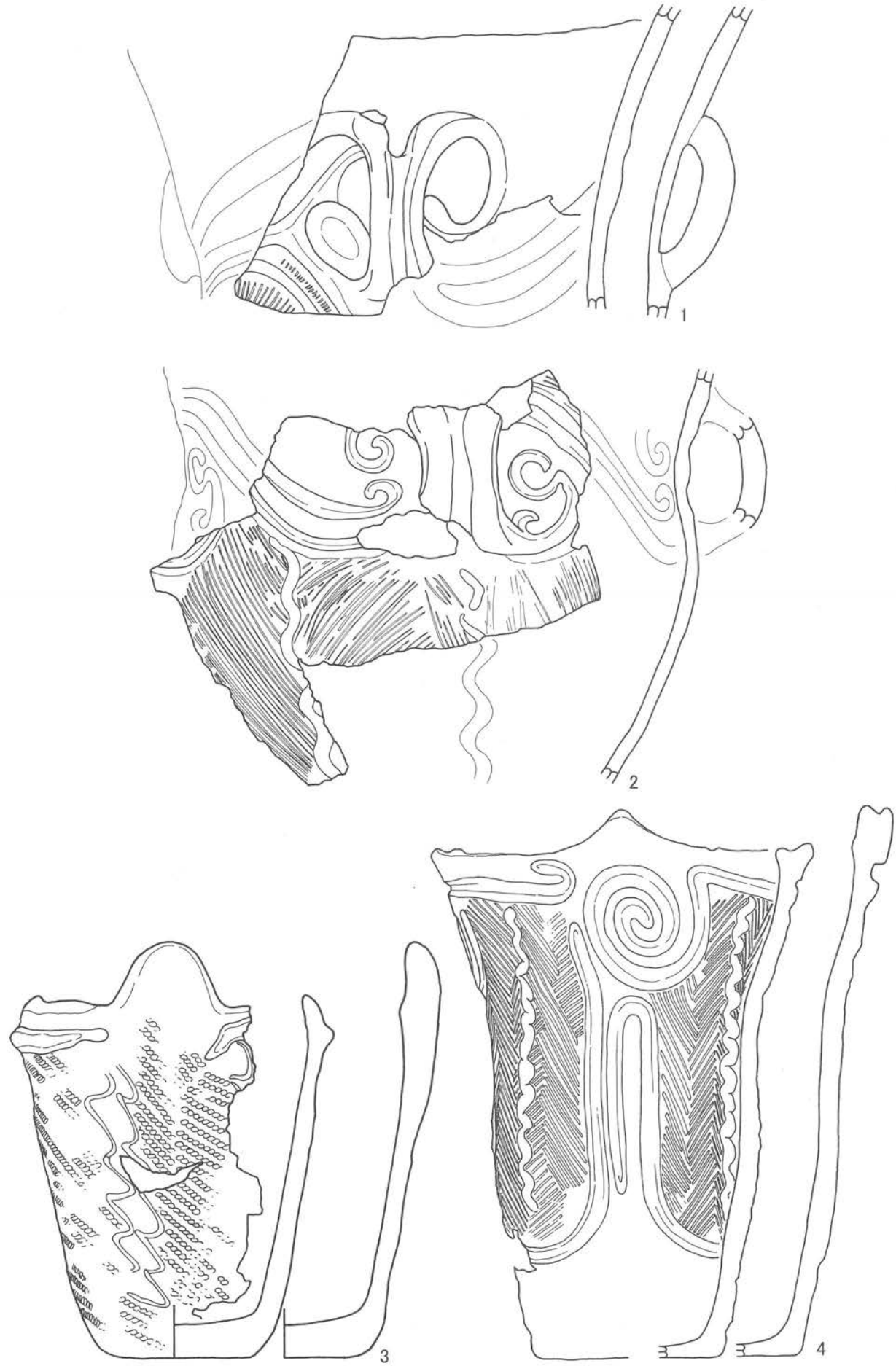
PJ3埋甕



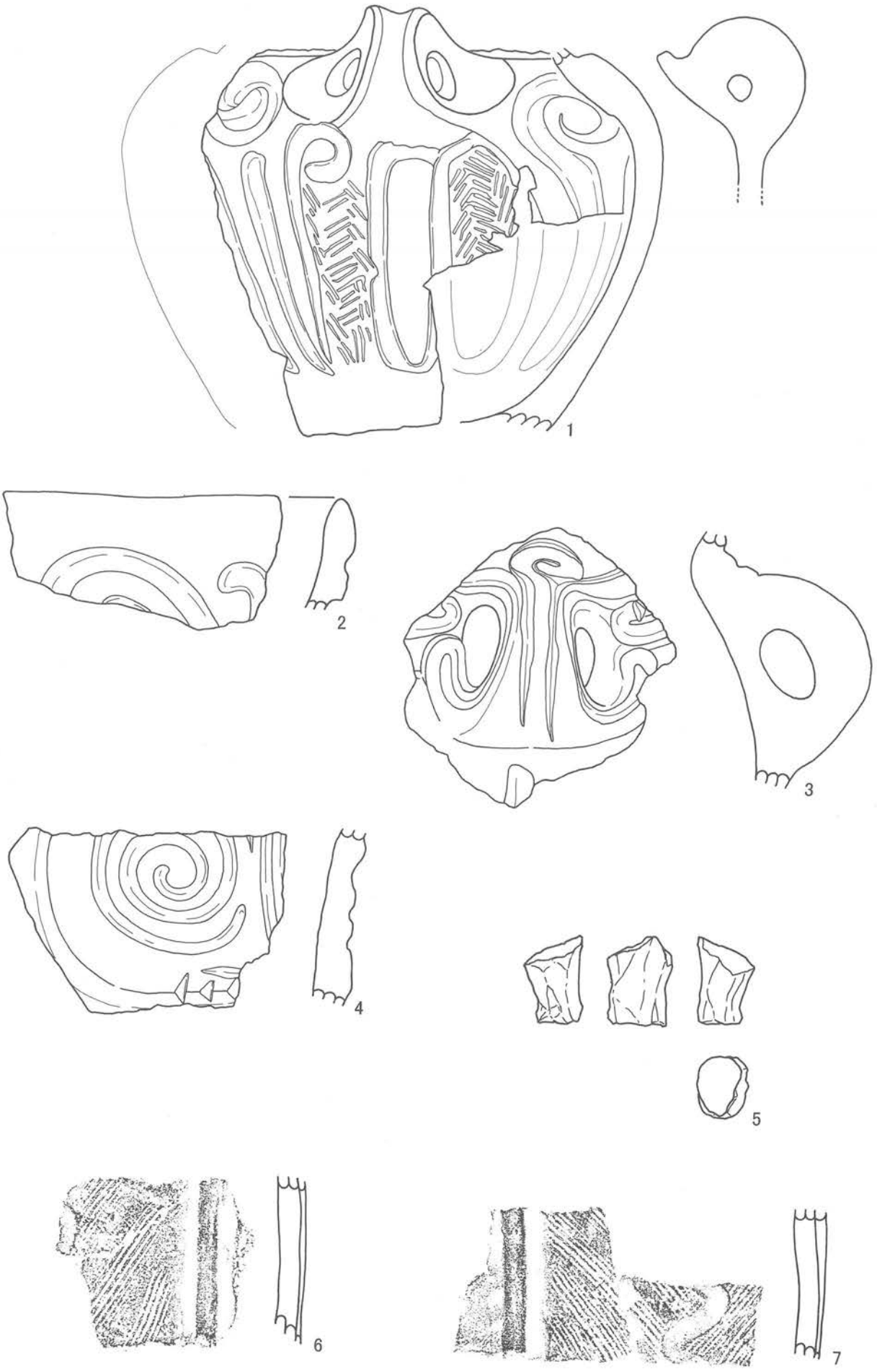
1層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%混じる。しまる。シルト粒土。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が10%混じる。しまる。シルト粒土。
3層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が5%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。
4層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が5%混じる。しまる。シルト粒土。



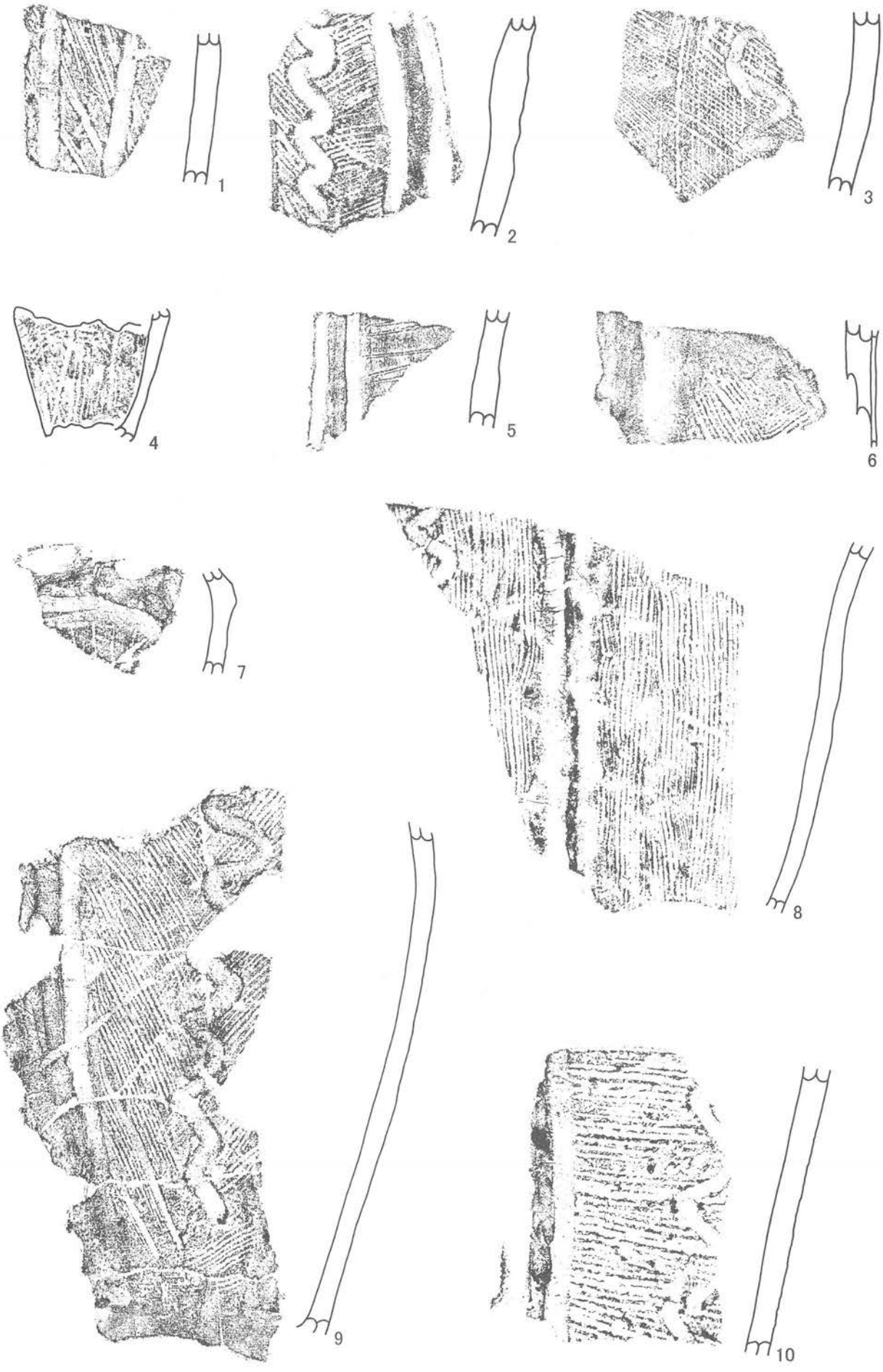
第83図　縄文3号住居炉（1/20）　埋甕（1/20）　縄文3号住居出土遺物（1/3）



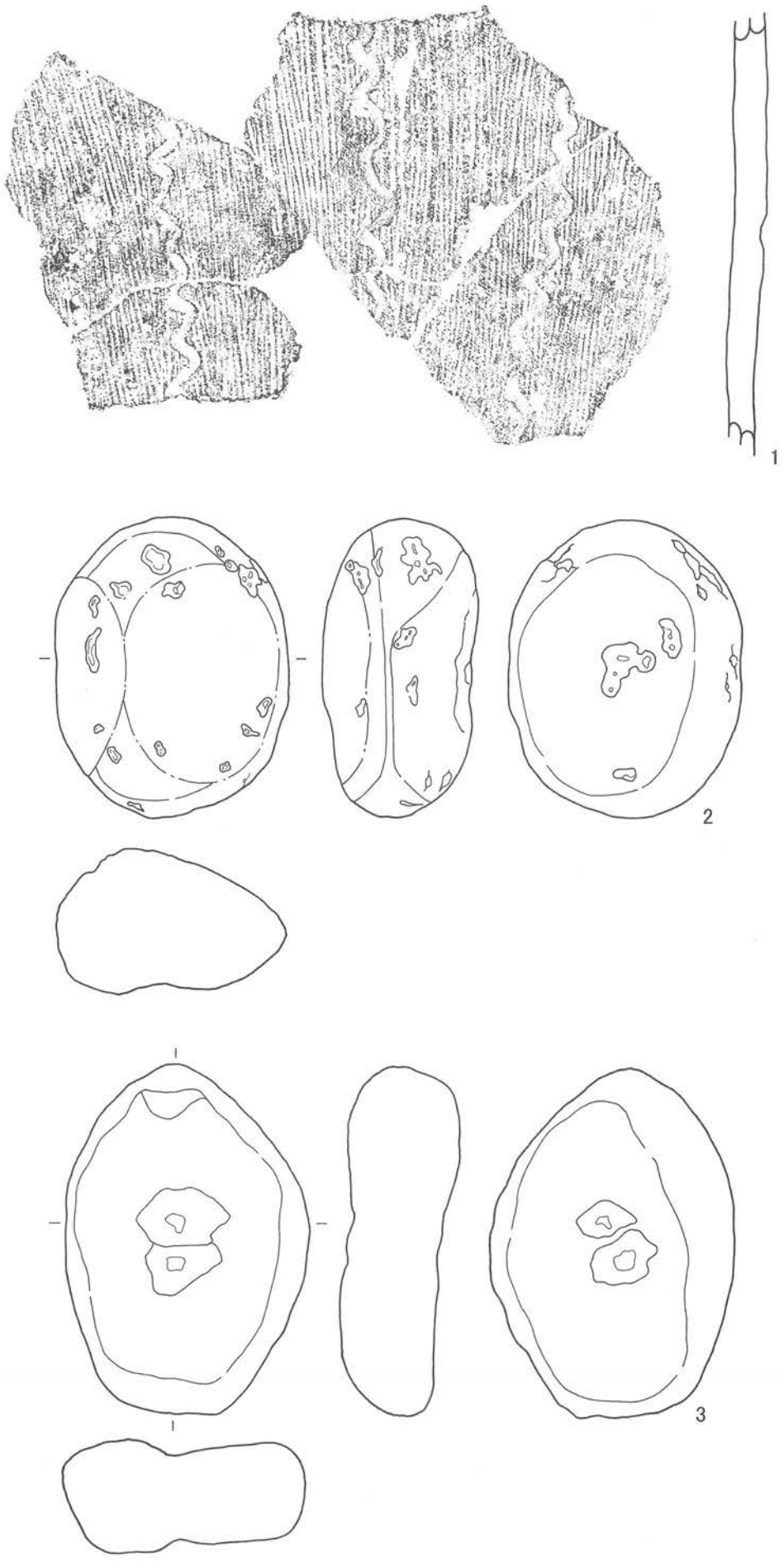
第84図　縄文３号住居出土遺物（1/2、1･2 1/3）



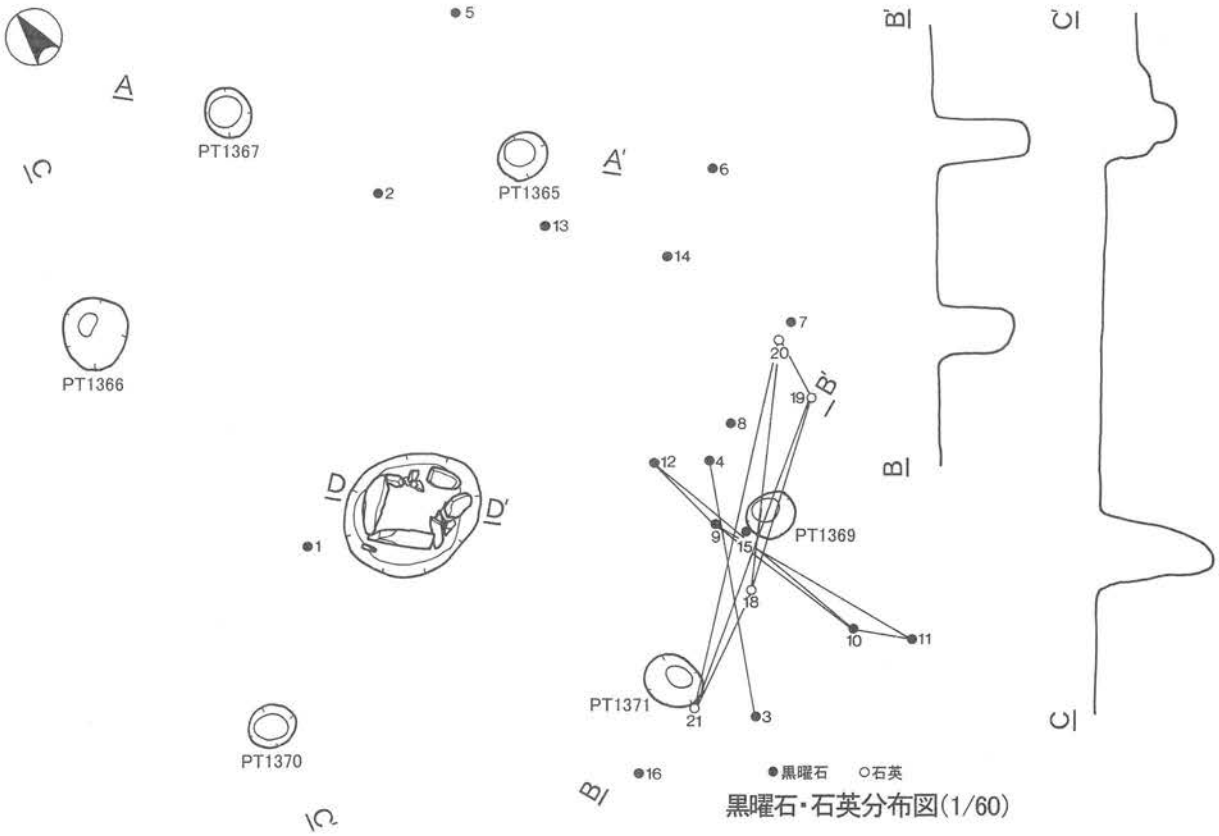
第85図　縄文３号住居出土遺物（1/2）



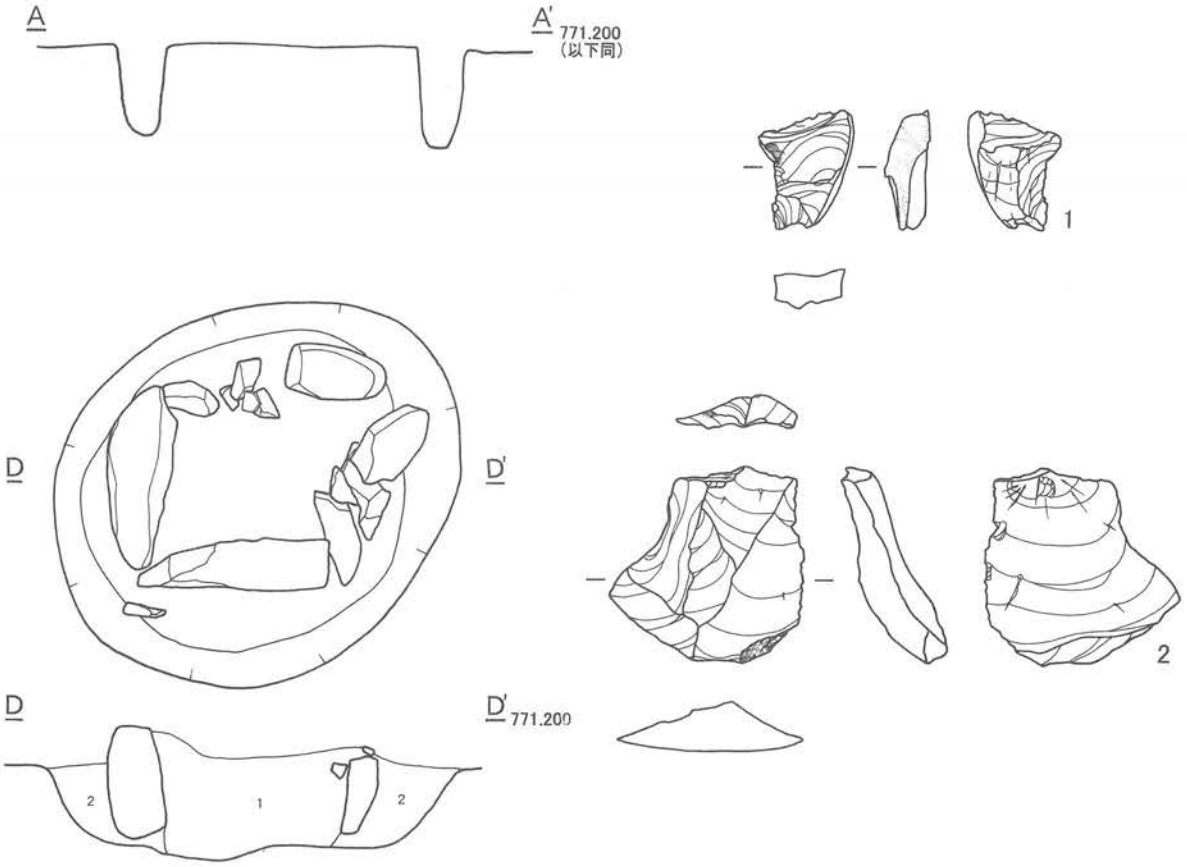
第86図　縄文３号住居出土遺物（1/2）



第87図　縄文３号住居出土遺物（1/2）

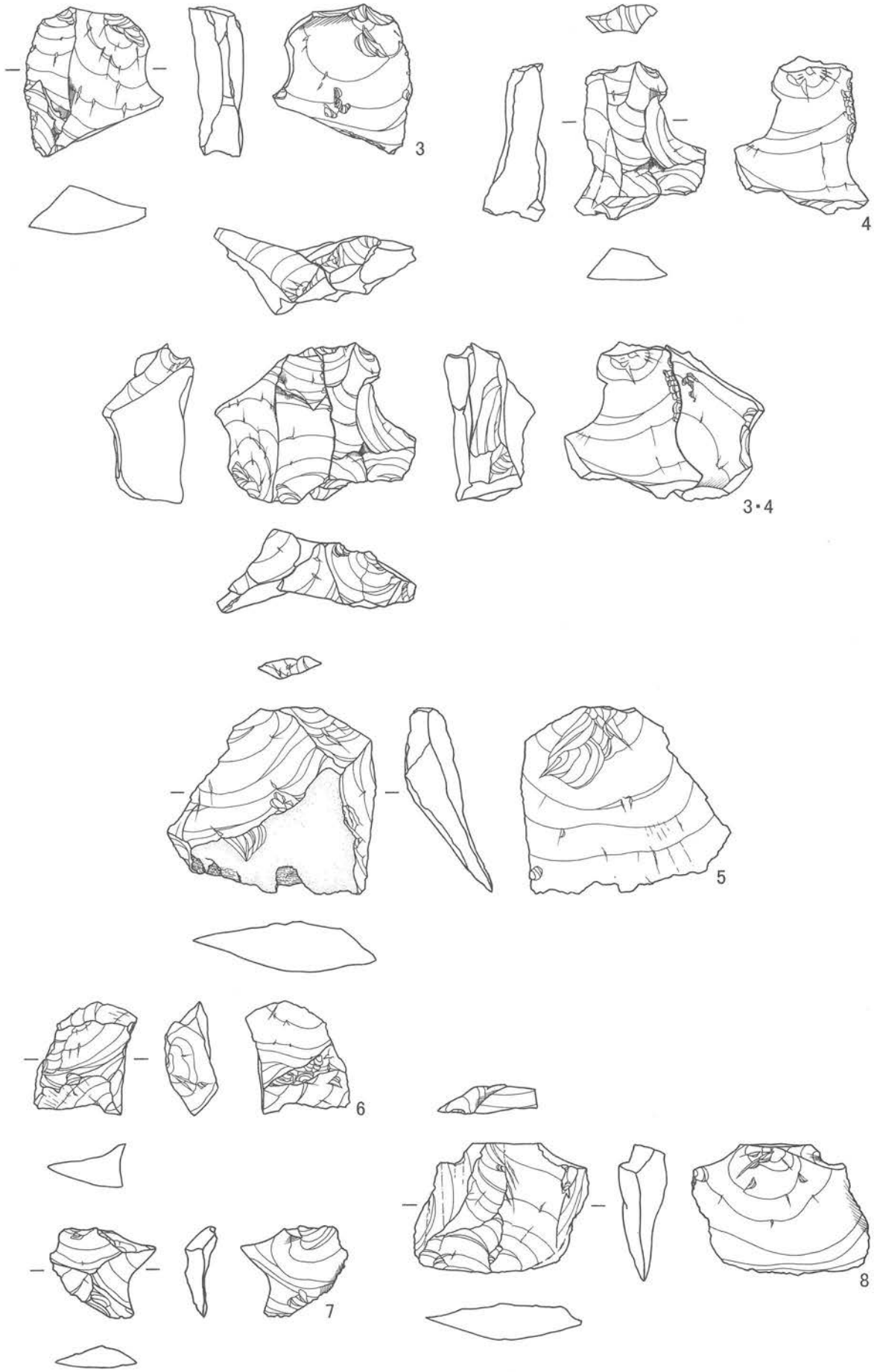


黒曜石・石英分布図(1/60)

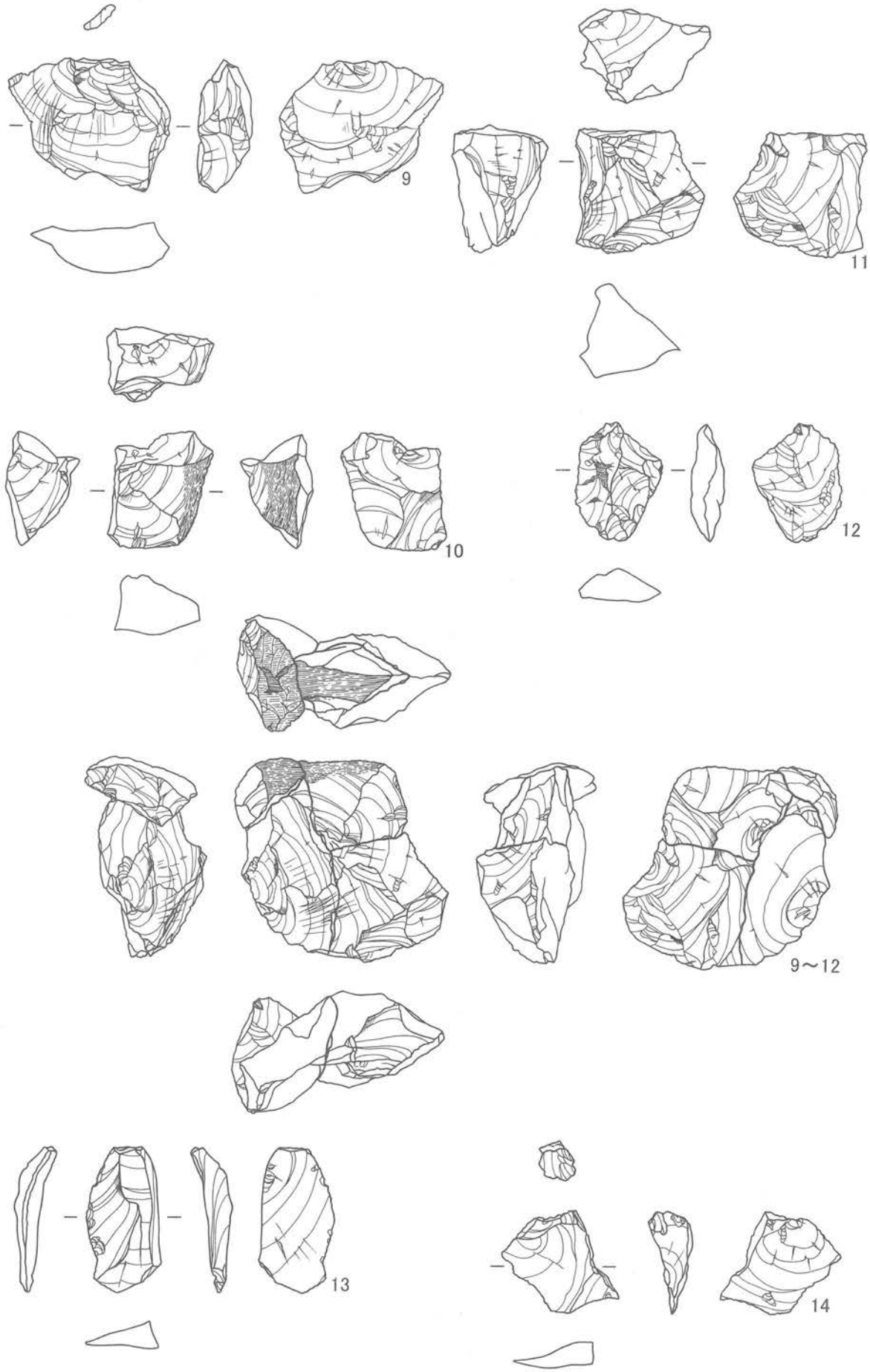


1層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が5%、非常に固くしまる焼土が10%、炭化物が3%混じる。しまる。シルト粒土。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が3%、炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
地山　10YR3/4(暗褐)。しまる。シルト粒土。

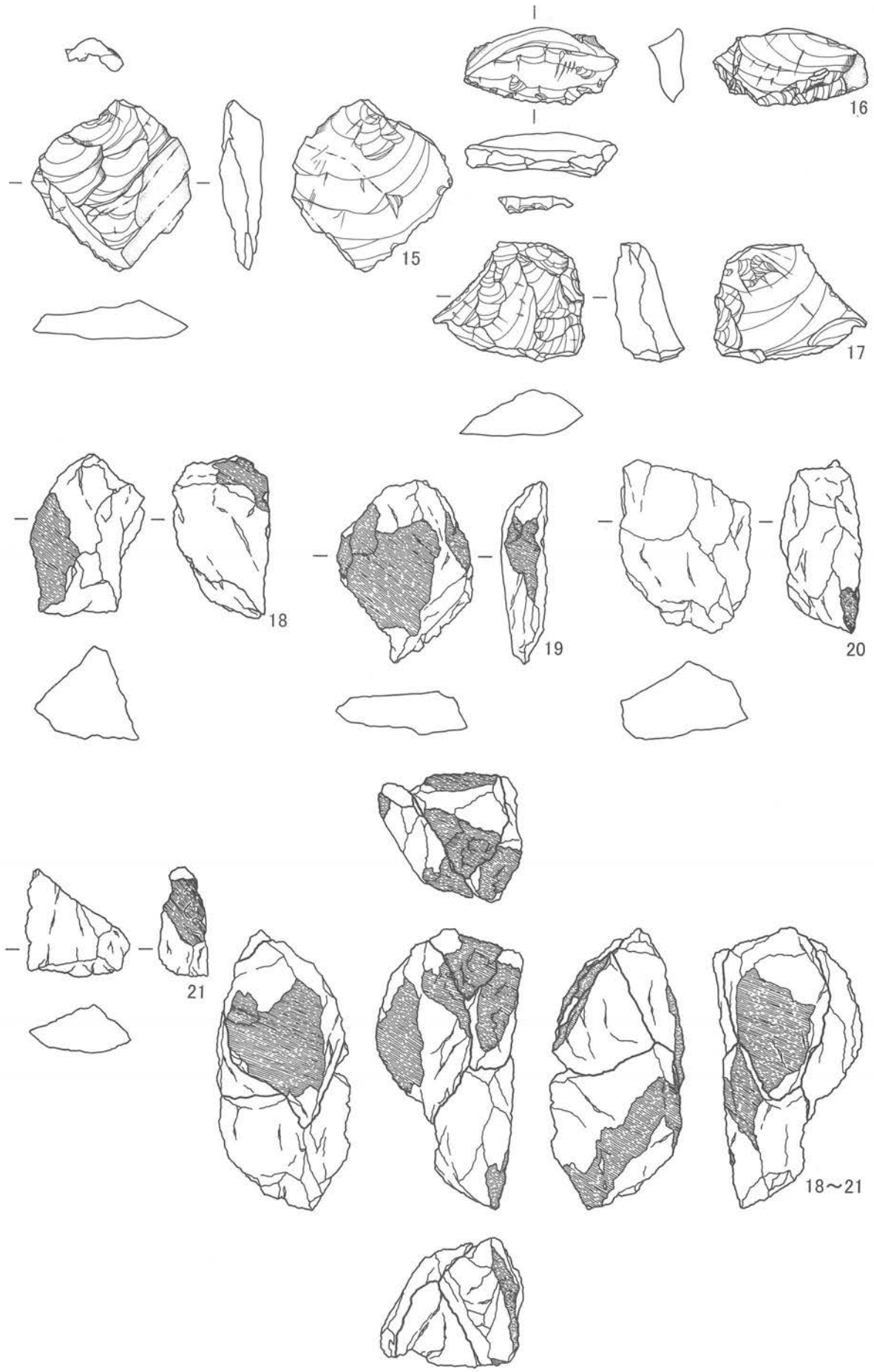
第88図　縄文4号住居（1/60）　縄文4号住居炉（1/20）　縄文4号住居出土遺物（1/2）



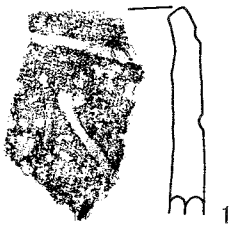
第89図　縄文４号住居出土遺物（1/2）

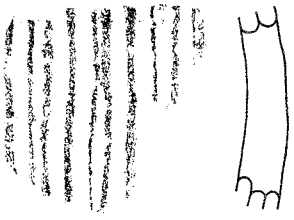


第90図　縄文４号住居出土遺物（1/2）



第91図　縄文４号住居出土遺物（1/2）

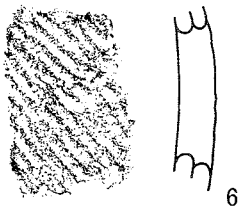

1


2

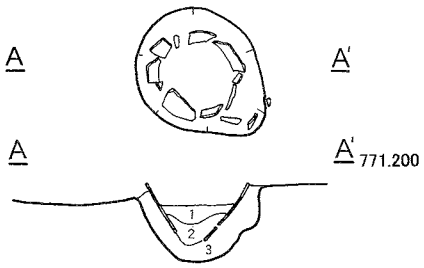
3

4

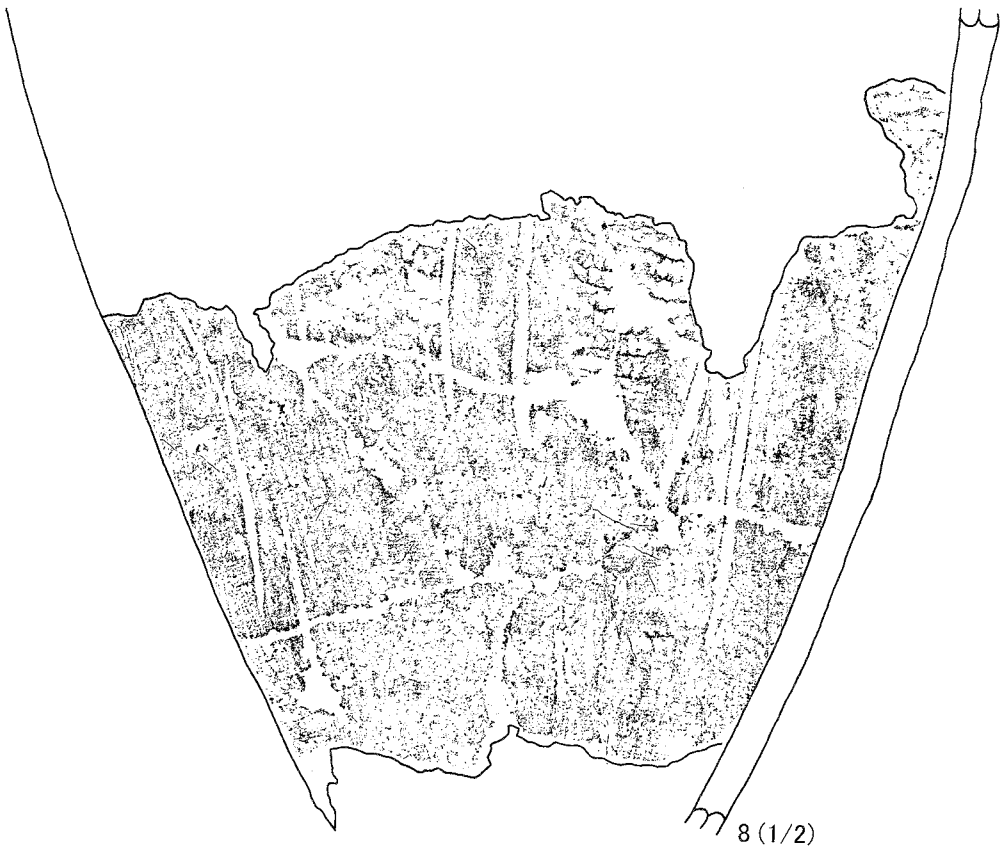
5


6

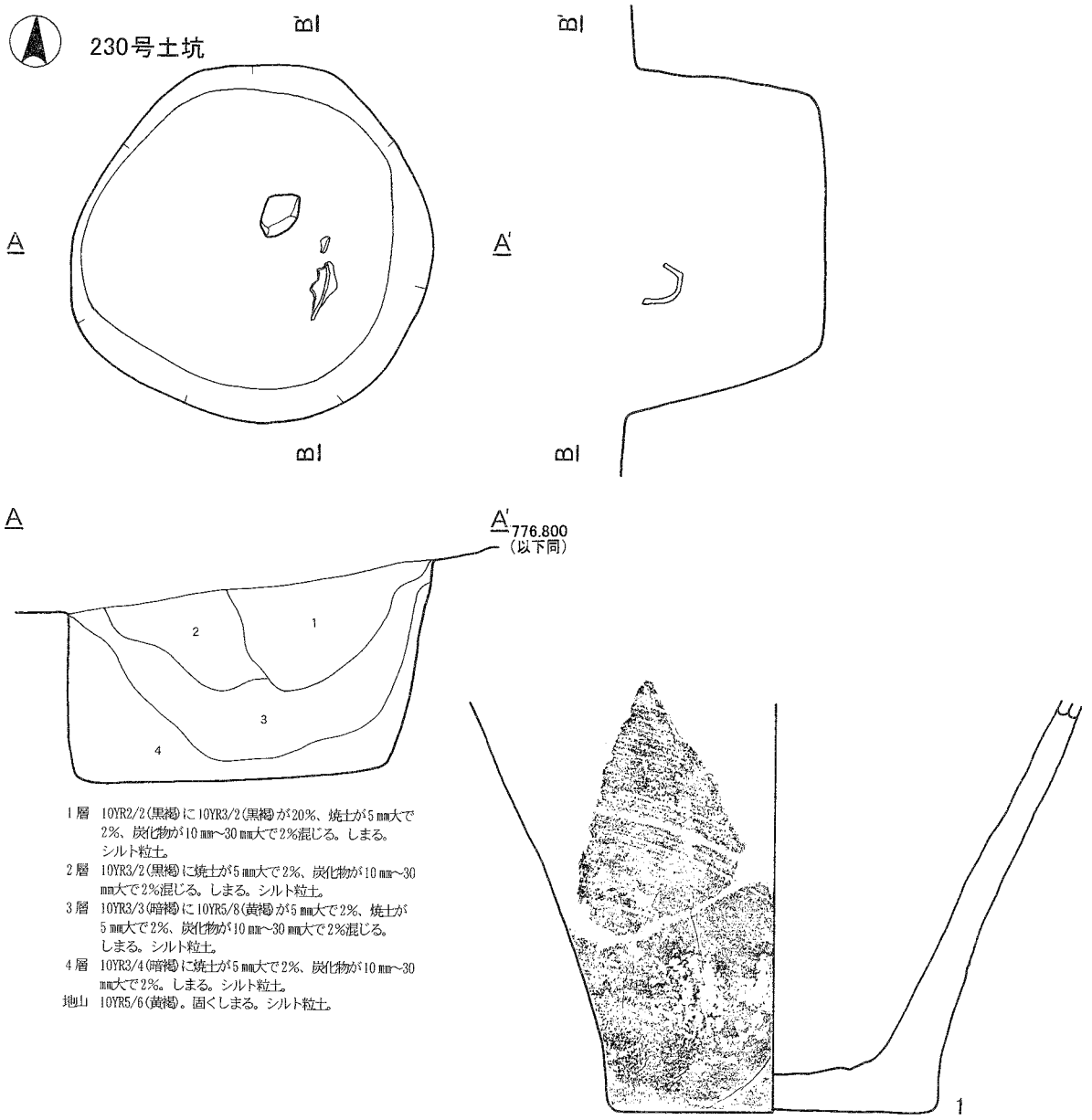
7



1層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/2(黒褐)が10%混じる。しまる。シルト粒土。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/2(黒褐)が5%混じる。しまる。シルト粒土。
3層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/2(黒褐)が3%、焼土が1%混じる。しまる。シルト粒土。
地山　10YR3/4(暗褐)。しまる。シルト粒土。

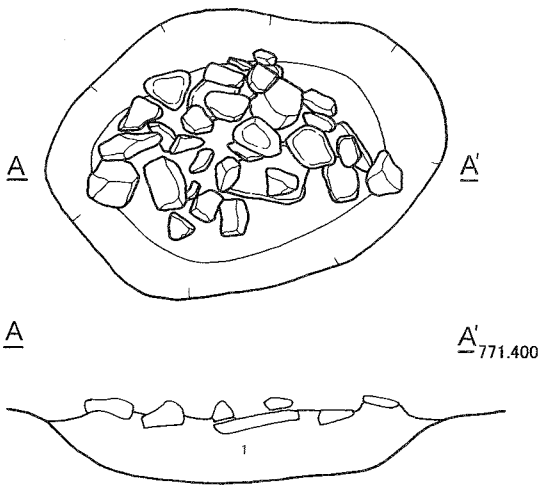

8 (1/2)

第92図　縄文４号住居出土遺物（1/2）　１号埋設土器（1/20）



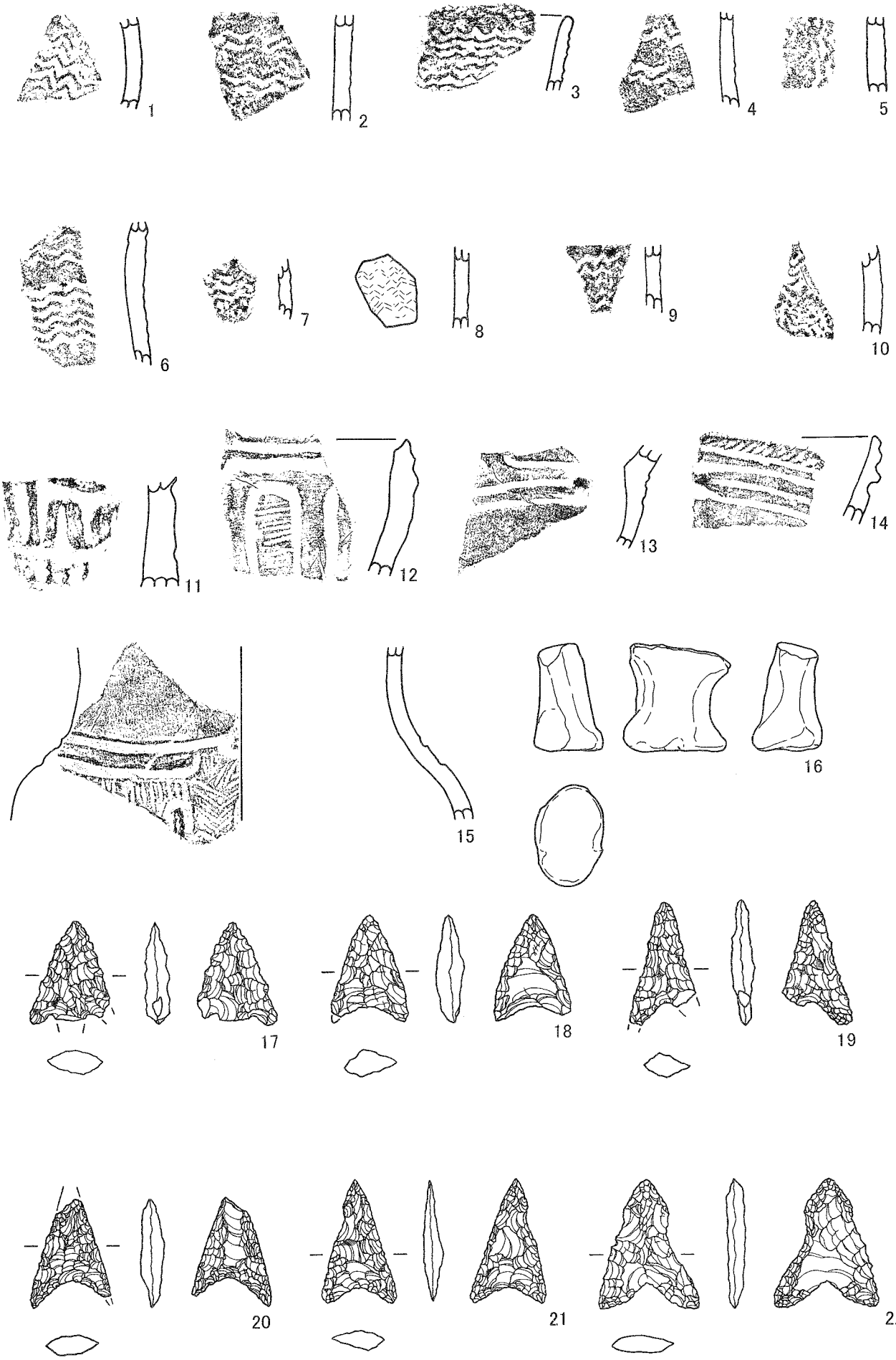
1層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/2(黒褐)が20%、焼土が5㎜大で2%、炭化物が10㎜～30㎜大で2%混じる。しまる。シルト粒土。
2層　10YR3/2(黒褐)に焼土が5㎜大で2%、炭化物が10㎜～30㎜大で2%混じる。しまる。シルト粒土。
3層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/8(黄褐)が5㎜大で2%、焼土が5㎜大で2%、炭化物が10㎜～30㎜大で2%混じる。しまる。シルト粒土。
4層　10YR3/4(暗褐)に焼土が5㎜大で2%、炭化物が10㎜～30㎜大で2%。しまる。シルト粒土。
地山　10YR5/6(黄褐)。固くしまる。シルト粒土。

1号集石

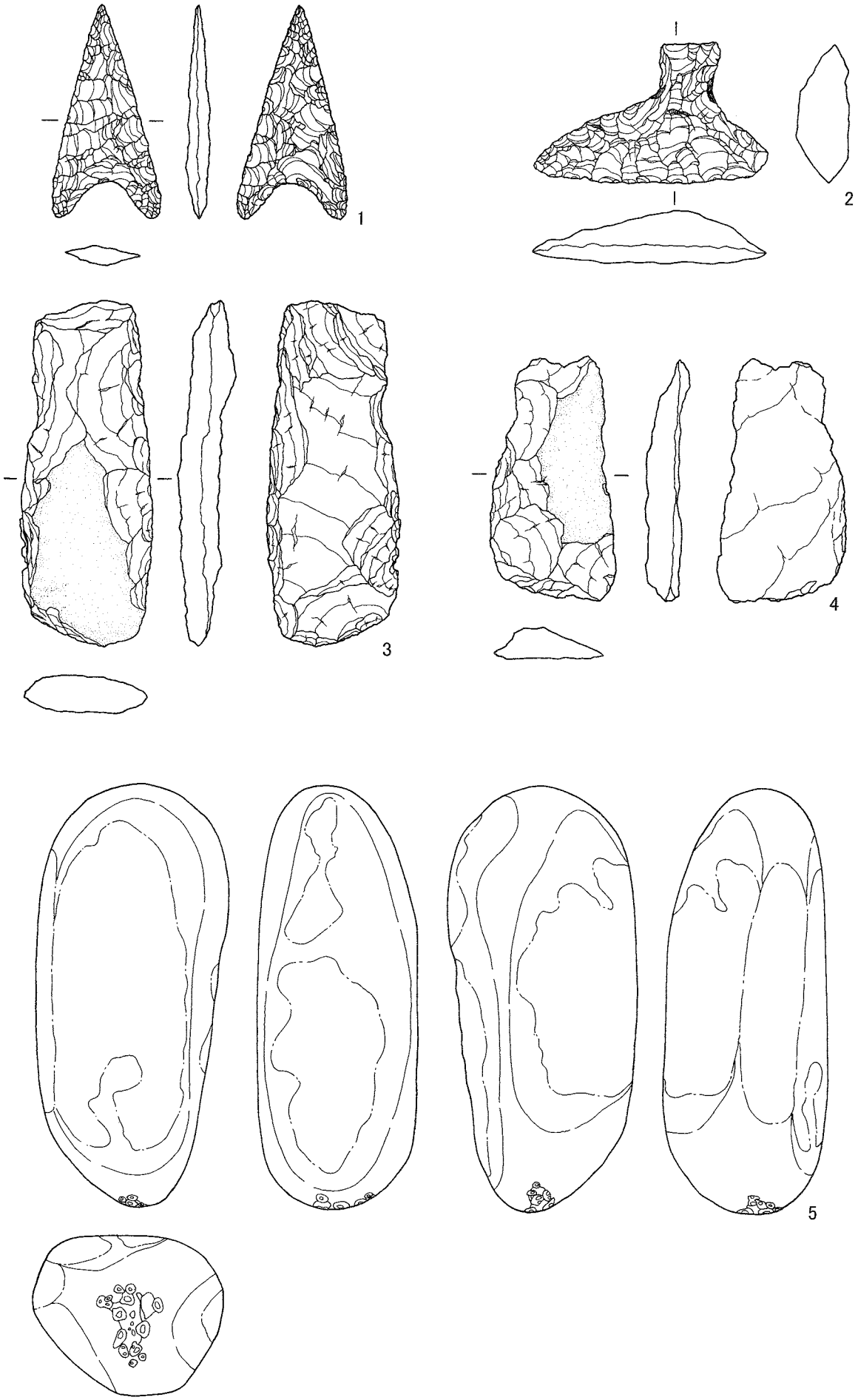


1層　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が2%、炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/4(褐)に10YR2/3(黒褐)が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。

第93図　230号土坑（1/20）および出土遺物（1/2）　1号集石（1/20）



第94図　遺構外出土遺物（1/2、17～22 1/1）



第95図　遺構外出土遺物（1/2、1･2 1/1）

第５章　弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構は土坑が５基検出された。このうち４基を図示した。時期不明の遺構には当該期のものも存在する可能性がある。

第１節　土坑と出土遺物

315号土坑（第96図、写真図版９）

位置　Ｅ２区北側、117号住居に切られる。

規模・形態　長軸2.7ｍ、短軸2.3ｍの不整楕円形。深さは1.6ｍを測る。

時期　弥生時代前期と思われる。

調査所見　117号住居の南西隅部に切られている。上層には２㎜～10㎜大の炭化物が混入しており、最下層の土は厚く堆積している。底面には人頭大以上の大型の礫が多数出土した。

318号土坑（第96図、写真図版９）

位置　Ｅ２区北側、116号住居の北西隅に位置する。

規模・形態　長軸2.7ｍ、短軸2.6ｍの円形。断面は擂鉢状を呈し深さは1.9ｍを測る。

時期　弥生時代前期と思われる。

調査所見　上層には10㎜大の炭化物が混入しており、最下層の覆土は上層のものよりしまりがやや弱い。土器以外には拳大の礫が数点出土したのみである。

322号土坑（第97図、写真図版９）

位置　Ｅ２区北端、縄文４号住居と重複する。

規模・形態　直径1.4ｍの円形。深さは28㎝を測る。

時期　弥生時代前期と思われる。

調査所見　覆土は褐色土が混じる暗褐色土の単一のもので、人為的に埋め戻されたと推測される。覆土上層から中層で扁平な礫２点が、中層から下層にかけて条痕文土器片が出土している。

327号土坑（第97図、写真図版９）

位置　Ｅ２区北端、117号住居の東に位置する。

規模・形態　開口部の長軸1.1ｍ、短軸0.9ｍ。最大幅の長軸1.2ｍ、短軸1.1ｍ。深さは44㎝を測る。

時期　弥生時代前期と思われる。

調査所見　断面はフラスコ状を呈している。最下層には地山起源と思われる褐色土が堆積し、これは崩落した壁土と推測される。上層から中層の覆土は水平に堆積している。

第２節　遺構外出土遺物

遺構外から条痕文土器が出土している。平安時代の住居覆土からの出土もあることから、後世の遺構により失われた遺構も存在していた可能性がある。

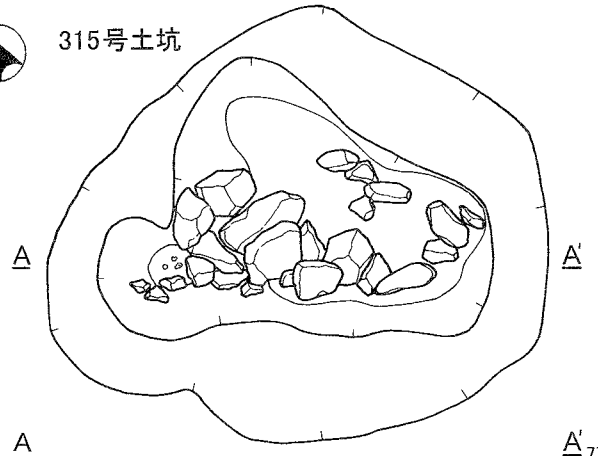
第３節　遺物観察表

第５章第１節までに報告した出土遺物の観察所見を報告する。観察表は以下のとおりである。

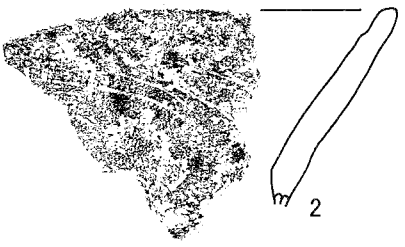
第８表　縄文時代・弥生時代・その他の時代の土器・土製品一覧

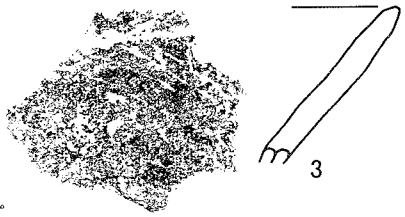
第９表　縄文時代・弥生時代の石器・石製品一覧

315号土坑

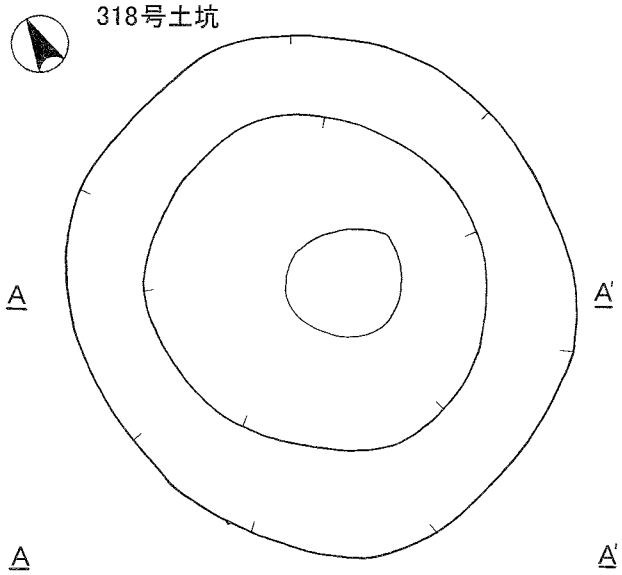


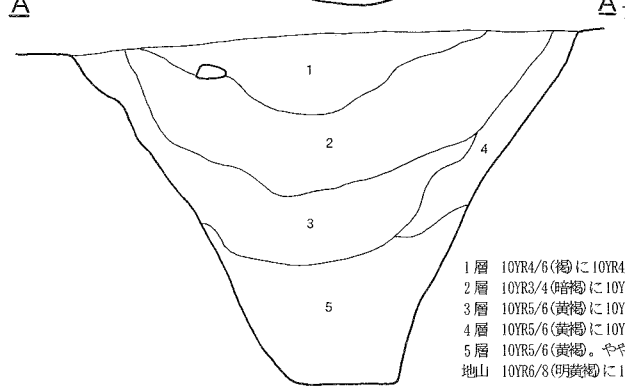
1層　10YR4/4(褐)に10YR4/6(褐)が30%、10YR4/3(にぶい黄褐)が10%、炭化物が2～10㎜大で5%混じる。しまる。シルト粒土。
2層　10YR4/4(褐)に10YR4/6(褐)が20%、10YR5/6(黄褐)が10%、炭化物が2～3㎜大で3%混じる。しまる。シルト粒土。
3層　10YR4/6(褐)に10YR5/6(黄褐)が30%、炭化物が2%混じる。しまる。シルト粒土。
4層　10YR4/6(褐)に10YR5/6(黄褐)が30%、10YR4/4(褐)が10%、炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
5層　10YR5/6(黄褐)に10YR4/4(褐)が10%混じる。固くしまる。シルト粒土。



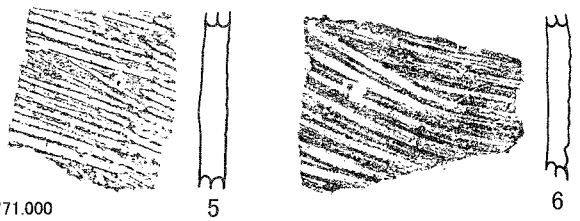


318号土坑

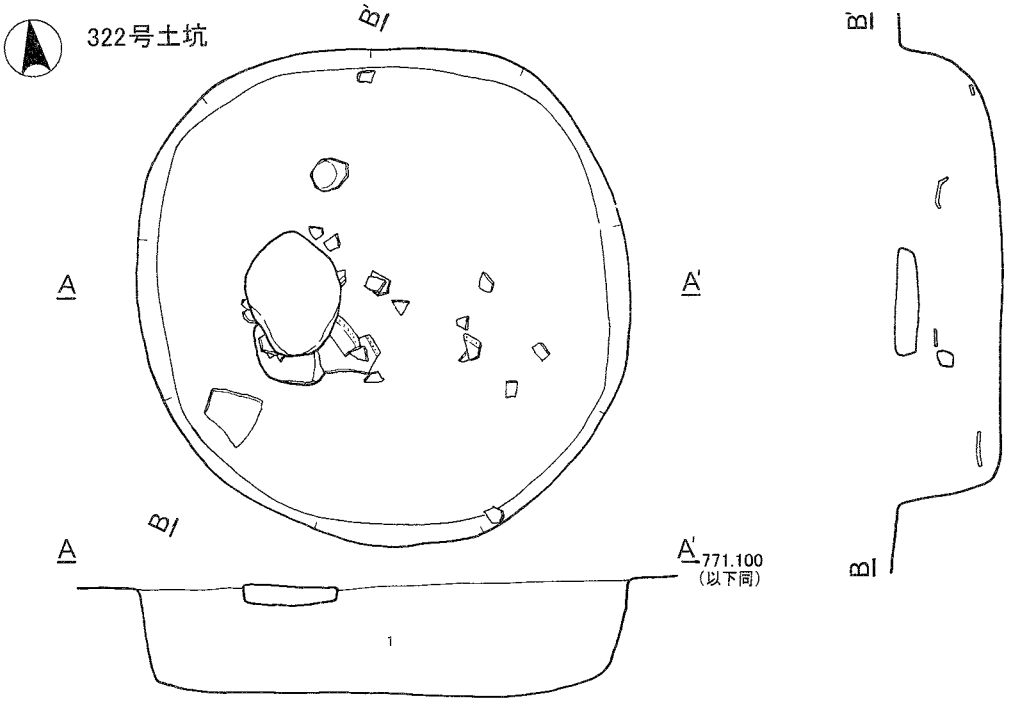




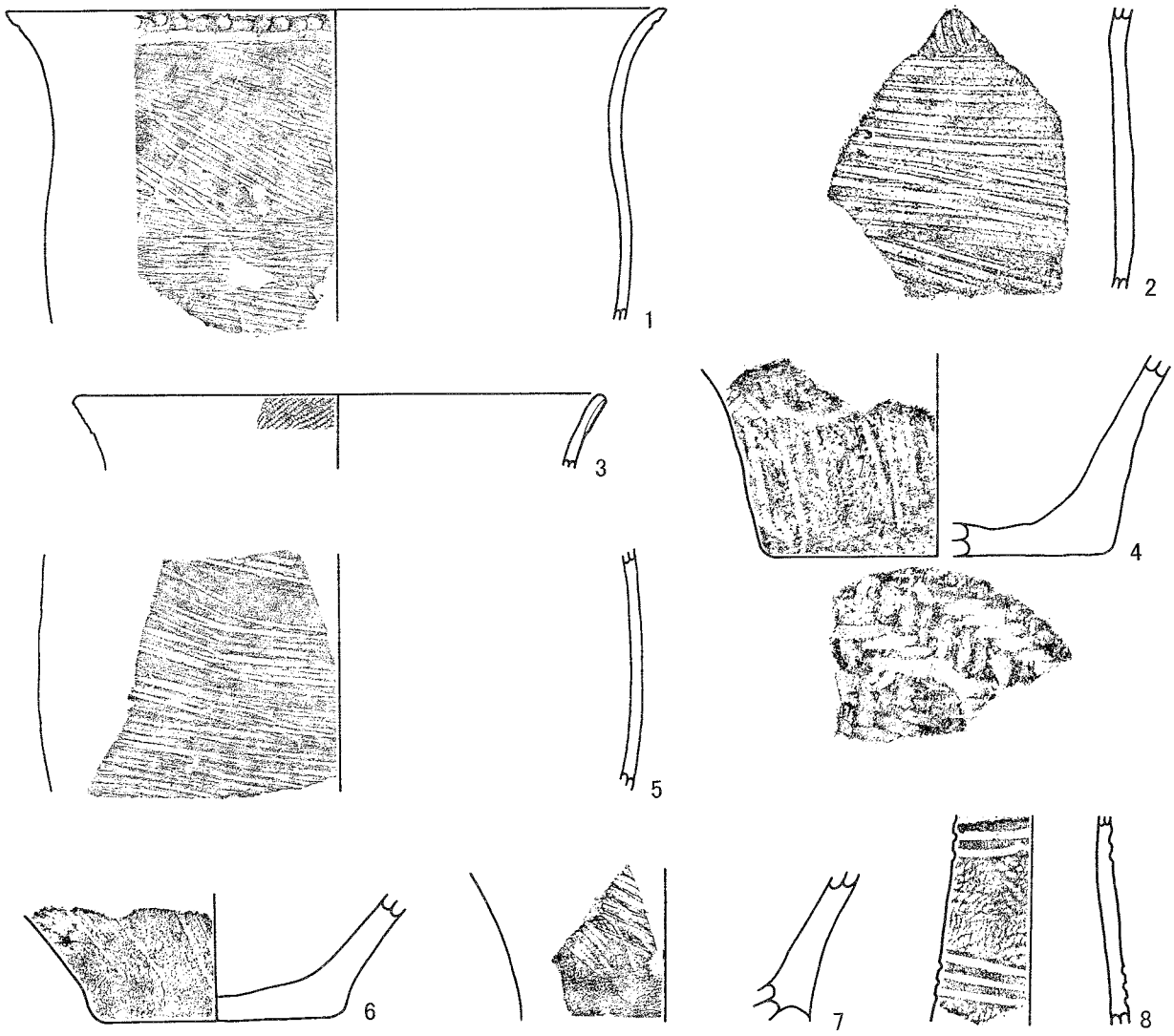
1層　10YR4/6(褐)に10YR4/4(褐)が30%、炭化物が10㎜大で7%混じる。しまる。シルト粒土。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が30%混じる。しまる。シルト粒土。
3層　10YR5/6(黄褐)に10YR4/6(褐)が30%混じる。しまる。シルト粒土。
4層　10YR5/6(黄褐)に10YR6/8(明黄褐)が30%混じる。シルト粒土。
5層　10YR5/6(黄褐)。ややしまる。シルト粒土。
地山　10YR6/8(明黄褐)に10YR5/8(黄褐)が40%混じる。固くしまる。シルト粒土。



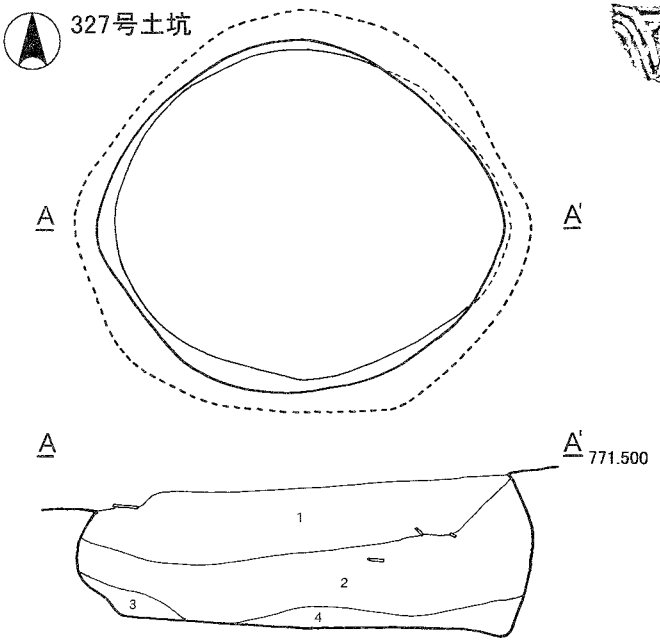
第96図　315号・318号土坑（1/40）および出土遺物（1/2）



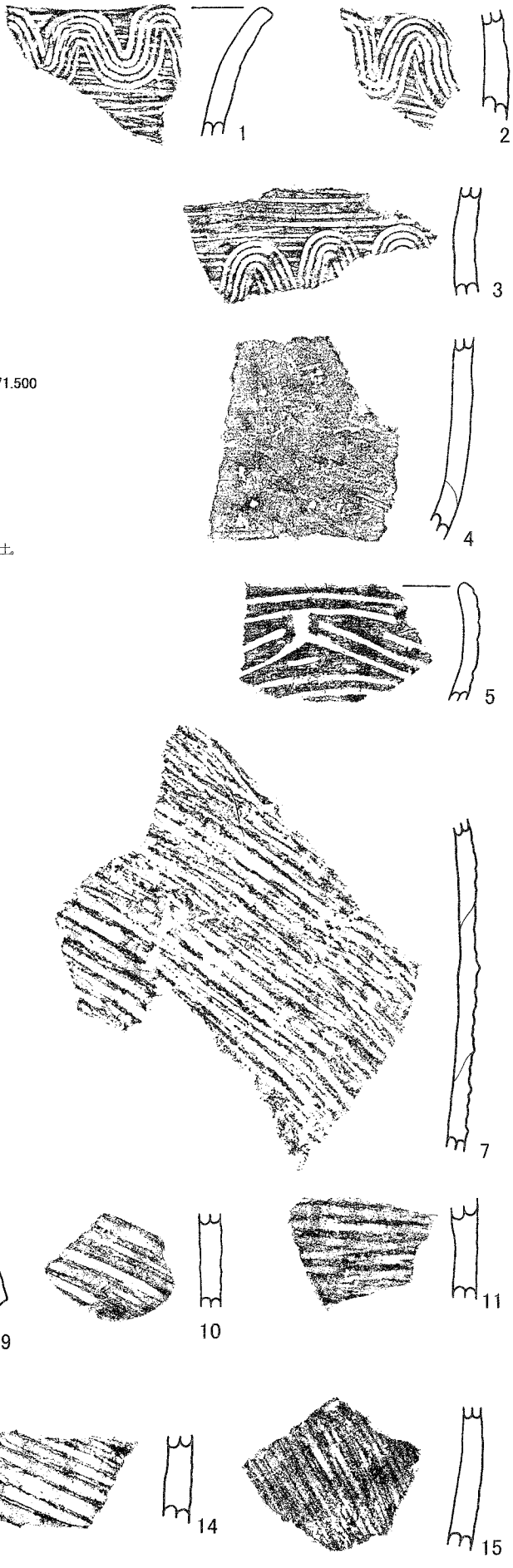
1層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%、焼土・炭化物が1%混じる。ややしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/4(褐)。ややしまる。シルト粒土。



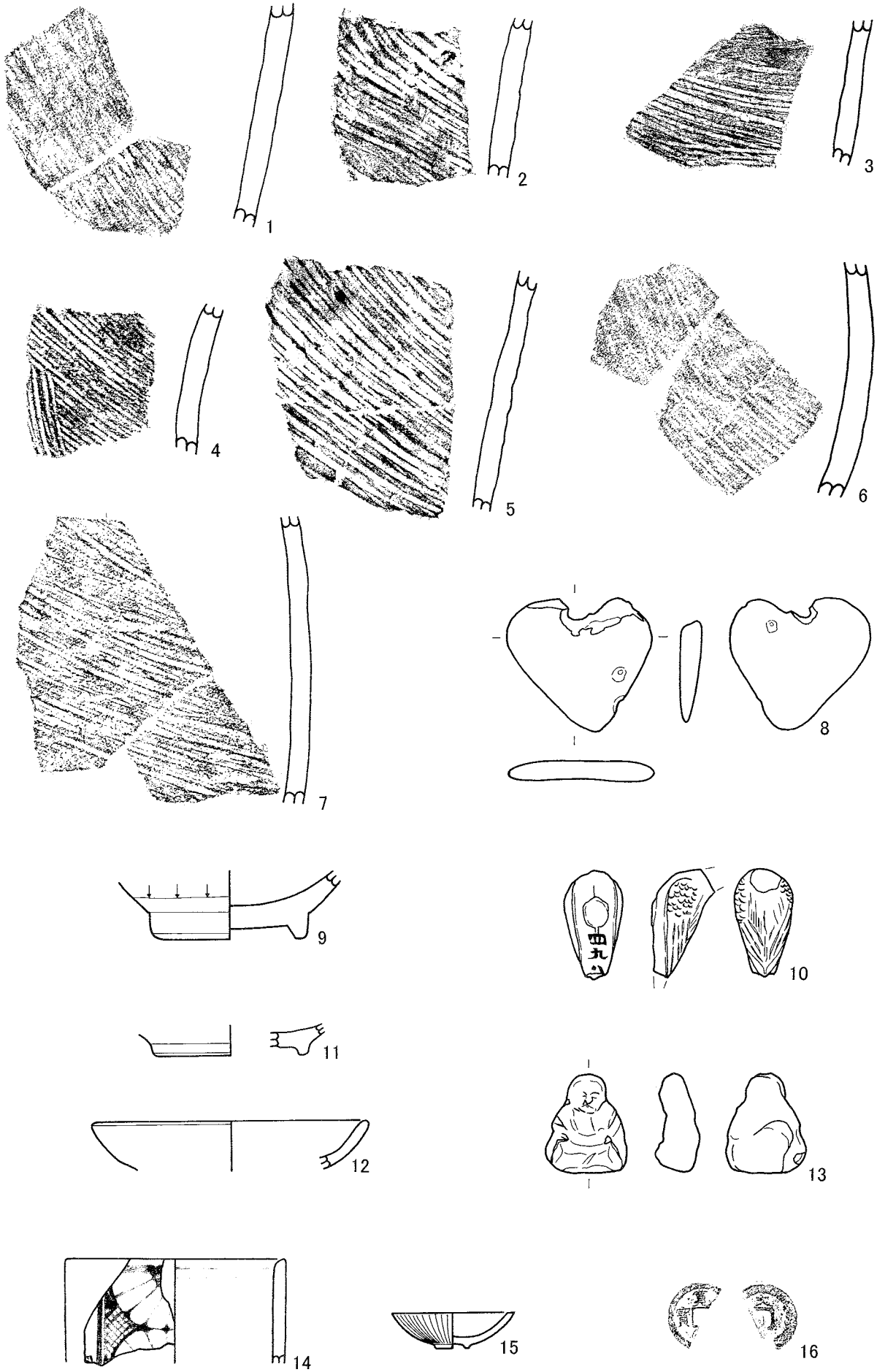
第97図　322号土坑（1/20）および出土遺物（1/2、1・3・5 1/4）



1層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が30%、炭化物が5%、焼土が1%混じる。しまる。シルト粒土。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%、炭化物が3%混じる。しまる。シルト粒土。
3層　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が10%混じる。しまる。シルト粒土。
4層　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が20%、炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/4(褐)。固くしまる。シルト粒土。



第98図　327号土坑（1/20）および出土遺物（1/2）



第99図　遺構外出土遺物（1/2、8･13 1/1）

第８表　縄文時代・弥生時代・その他の時代の土器・土製品一覧

図版番号	種　別	胎土色調	残存度	重量(ｇ)	特徴、出土位置、胎土質など
79図１	縄文土器	7.5YR５/６	１/３	492	縄文１号住覆土より出土、出土位置から考えると埋甕か
79図２	縄文土器	10YR５/６	小破片	21	縄文１号住覆土より出土、曽利Ｖ式
79図３	縄文土器	7.5YR３/３	小破片	26	縄文１号住炉内より出土、曽利Ｖ式
79図４	縄文土器	7.5YR５/６	小破片	33	縄文１号住炉内より出土、曽利Ｖ式
79図５	縄文土器	10YR５/４	小破片	29	縄文１号住覆土より出土、曽利Ｖ式
79図６	縄文土器	５YR４/６	小破片	28	縄文１号住炉内より出土、曽利Ｖ式
79図７	縄文土器	7.5YR４/６	小破片	89	縄文１号住覆土より出土、加曽利Ｅ４式
79図８	縄文土器	10YR３/３	小破片	19	縄文１号住覆土より出土、加曽利Ｅ４式？
79図９	縄文土器	10YR４/４	小破片	33	縄文１号住炉内より出土、加曽利Ｅ４式
79図10	縄文土器	10YR３/３	小破片	112	縄文１号住覆土より出土、加曽利Ｅ４式
79図11	縄文土器	7.5YR５/４	小破片	70	縄文１号住覆土より出土、加曽利Ｅ４式
81図１	縄文土器	10YR７/４	小破片	13	覆土中より出土、推定底径4.6cm、ミニチュア土器
81図２	縄文土器	10YR６/４	ほぼ完形	1,400	口径20.0cm。縄文２号住覆土より出土、曽利Ⅳ式
83図１	縄文土器	7.5YR６/４	2/3	910	口径19.8cm、器高24.8cm、底径6.9cm。曽利Ｖ式
83図２	縄文土器	7.5YR６/６	ほぼ完形	1,800	口径21.6cm、器高27.7cm、底径8.5cm。埋甕、曽利Ⅳ式
84図１	縄文土器	10YR６/４	小破片	922	縄文３号住覆土より出土、曽利Ⅳ式
84図２	縄文土器	10YR５/４	１/４	675	縄文３号住覆土より出土、曽利Ⅳ式
84図３	縄文土器	10YR７/４	１/２	216	口径11.2cm、器高15.1cm、底径5.2cm。曽利Ⅳ式
84図４	縄文土器	10YR５/３	ほぼ完形	655	口径13.8cm、器高19.7cm、底径7.0cm。曽利Ⅳ式
85図１	縄文土器	10YR６/４	１/４	400	縄文３号住覆土より出土、曽利Ｖ式
85図２	縄文土器	５YR５/６	小破片	80	縄文３号住覆土より出土、曽利Ｖ式
85図３	縄文土器	7.5YR６/４	小破片	250	縄文３号住覆土より出土、曽利Ⅰ式
85図４	縄文土器	7.5YR６/４	小破片	118	縄文３号住覆土より出土、曽利Ⅰ式
85図５	縄文土器	7.5YR７/６	小破片	15	縄文３号住覆土より出土、土偶の脚か
85図６	縄文土器	7.5YR７/６	小破片	45	縄文３号住覆土より出土、曽利Ⅳ式
85図７	縄文土器	10YR７/６	小破片	58	縄文３号住覆土より出土、曽利Ⅳ式
86図１	縄文土器	10YR５/４	小破片	37	縄文３号住覆土より出土、曽利Ⅳ式
86図２	縄文土器	7.5YR６/６	小破片	81	縄文３号住覆土より出土、曽利Ⅳ式
86図３	縄文土器	7.5YR６/６	小破片	51	縄文３号住覆土より出土、曽利Ⅳ式
86図４	縄文土器	7.5YR６/６	小破片	25	縄文３号住覆土より出土、ミニチュア土器
86図５	縄文土器	10YR４/４	小破片	22	縄文３号住覆土より出土、曽利Ⅳ式
86図６	縄文土器	10YR６/４	小破片	39	縄文３号住覆土より出土、曽利Ⅳ式
86図７	縄文土器	7.5YR５/６	小破片	23	縄文３号住覆土より出土、曽利Ⅳ式
86図８	縄文土器	10YR５/４	小破片	164	縄文３号住覆土より出土、曽利Ⅳ式
86図９	縄文土器	10YR６/４	小破片	200	縄文３号住覆土より出土、曽利Ⅳ式
86図10	縄文土器	7.5YR５/４	小破片	136	縄文３号住覆土より出土、曽利Ⅳ式
87図１	縄文土器	10YR７/４	小破片	324	縄文３号住覆土より出土、曽利Ⅳ式
92図１	縄文土器	7.5YR６/６	小破片	20	縄文４号住覆土より出土、曽利Ⅲ式
92図２	縄文土器	7.5YR７/６	小破片	44	縄文４号住覆土より出土、曽利Ⅲ式
92図３	縄文土器	10YR７/４	小破片	29	縄文４号住覆土より出土、曽利Ⅲ式
92図４	縄文土器	10YR７/６	小破片	44	縄文４号住覆土より出土、加曽利Ｅ３～Ｅ４式
92図５	縄文土器	10YR７/６	小破片	33	縄文４号住覆土より出土、加曽利Ｅ３～Ｅ４式
92図６	縄文土器	7.5YR４/４	小破片	25	縄文４号住覆土より出土、加曽利Ｅ３～Ｅ４式
92図７	縄文土器	10YR７/６	小破片	54	縄文４号住覆土より出土、加曽利Ｅ３式
92図８	縄文土器	7.5YR５/４	１/２	1,230	曽利Ｖ式
93図１	縄文土器	５YR７/６	小破片	308	曽利Ⅳ式
94図１	縄文土器	7.5YR６/４	小破片	7	山形押型文、113住覆土より出土、縄文時代早期
94図２	縄文土器	10YR７/４	小破片	11	山形押型文、117住覆土中より出土、縄文時代早期
94図３	縄文土器	7.5YR６/６	小破片	8	山形押型文、117住覆土中より出土、縄文時代早期
94図４	縄文土器	５YR４/６	小破片	8	山形押型文、縄文時代早期
94図５	縄文土器	10YR６/６	小破片	6	山形押型文、縄文４号住覆土より出土、縄文時代早期
94図６	縄文土器	10YR2/1	小破片	13	山形押型文、縄文４号住覆土より出土、縄文時代早期
94図７	縄文土器	10YR５/３	小破片	3	山形押型文、縄文時代早期
94図８	縄文土器	10YR４/２	小破片	4	山形押型文、117号住覆土中より出土、縄文時代早期
94図９	縄文土器	10YR７/４	小破片	12	山形押型文、117号住覆土中より出土、縄文時代早期
94図10	縄文土器	7.5YR５/４	小破片	6	山形押型文、縄文時代早期
94図11	縄文土器	10YR７/４	小破片	28	117号住覆土中より出土、曽利Ⅰ式
94図12	縄文土器	５YR５/６	小破片	35	120号住覆土より出土、縄文時代中期
94図13	縄文土器	５YR５/４	小破片	19	117号住覆土中より出土、縄文時代晩期の土器か
94図14	縄文土器	５YR４/６	小破片	21	外面赤彩、117号住覆土中より出土
94図15	縄文土器	7.5YR７/６	小破片	35	118号住覆土中より出土、縄文時代後期の土器か
94図16	縄文土器	7.5YR６/４	小破片	35	縄文土器の把手、もしくは土偶の脚と思われる
96図１	弥生土器	10YR６/６	小破片	59	器面に条痕文
96図２	弥生土器	10YR５/４	小破片	32	口縁部破片、器面に条痕文
96図３	弥生土器	10YR５/４	小破片	29	口縁部破片、器面に条痕文
96図４	弥生土器	10YR５/３	小破片	25	
96図５	弥生土器	５YR３/１	小破片	25	器面に条痕文
96図６	弥生土器	10YR７/４	小破片	20	器面に条痕文
96図７	弥生土器	５YR４/４	小破片	21	器面に条痕文
97図１	弥生土器	10YR７/４	１/４	436	口縁部に指頭押圧した突帯1条、胴部に条痕文
97図２	弥生土器	10YR８/６	小破片	42	器面に条痕文
97図３	弥生土器	7.5YR７/６	小破片	21	口縁部に縄文を施す、推定口径29.4cm
97図４	弥生土器	10YR８/４	小破片	77	胴部に条痕文、底部に網代痕
97図５	弥生土器	10YR７/６	小破片	100	器面に条痕文
97図６	弥生土器	7.5YR７/６	１/４	120	胴部に条痕文

図版番号	種　別	胎土色調	残存度	重量(g)	特徴、出土位置、胎土質など
97図 7	弥生土器	10YR 7 / 3	小破片	18	器面に条痕文
97図 8	弥生土器	5 YR 7 / 2	小破片	20	器面に縄文、沈線
98図 1	弥生土器	5 YR 4 / 6	小破片	20	口縁部破片、器面に条痕文、波状文、水神平式土器
98図 2	弥生土器	5 YR 4 / 6	小破片	12	器面に条痕文、波状文、水神平式土器
98図 3	弥生土器	5 YR 4 / 6	小破片	25	器面に条痕文、波状文、水神平式土器
98図 4	弥生土器	7.5YR 6 / 6	小破片	32	器面に条痕文
98図 5	縄文土器	10YR 3 / 3	小破片	15	口縁部破片、縄文時代晩期氷Ⅰ式の土器か
98図 6	弥生土器	5 YR 5 / 6	小破片	118	器面に条痕文
98図 7	弥生土器	5 YR 5 / 6	小破片	79	器面に条痕文
98図 8	弥生土器	7.5YR 5 / 4	小破片	21	118号住覆土中より出土、口縁部破片、器面に沈線、条痕文
98図 9	弥生土器	10YR 7 / 4	小破片	32	縄文４号住覆土より出土、口縁部破片
98図10	弥生土器	10YR 7 / 4	小破片	11	器面に条痕文
98図11	弥生土器	7.5YR 6 / 6	小破片	15	器面に条痕文
98図12	弥生土器	10YR 5 / 2	小破片	19	器面に条痕文
98図13	弥生土器	10YR 6 / 4	小破片	15	器面に条痕文
98図14	弥生土器	10YR 5 / 2	小破片	14	器面に条痕文
98図15	弥生土器	7.5YR 5 / 6	小破片	21	器面に条痕文
99図 1	弥生土器	7.5YR 5 / 6	小破片	47	118号住覆土中より出土、器面に条痕文
99図 2	弥生土器	10YR 7 / 6	小破片	36	器面に条痕文
99図 3	弥生土器	7.5YR 5 / 6	小破片	26	118号住覆土中より出土、器面に条痕文
99図 4	弥生土器	7.5YR 5 / 4	小破片	29	118号住覆土中より出土、器面に条痕文
99図 5	弥生土器	10YR 7 / 6	小破片	63	器面に条痕文
99図 6	弥生土器	7.5YR 5 / 4	小破片	48	118号住覆土中より出土、器面に条痕文
99図 7	弥生土器	7.5YR 5 / 4	小破片	78	縄文４号住覆土より出土
99図 9	陶器	10YR 8 / 4	底部 1 / 2	35	瀬戸・美濃系丸碗、推定底径5.6cm、16世紀後半
99図10	土製品	2.5Y 8 / 2	頭部欠損	12	腹部に墨書「四九八ヵ」、型合せ成形、中実、京都系
99図11	陶器	10YR 7 / 4	小破片	5	瀬戸・美濃系丸皿、推定底径5.4cm、16世紀後半
99図12	陶器	5 YR 7 / 3	小破片	4	瀬戸・美濃系丸皿、推定口径10.0cm、16世紀前半
99図13	土製品	7.5YR 6 / 6	完形	1未満	芥子面、長さ1.8cm、幅1.4cm、厚さ4mm
99図14	陶器	5 Y 8 / 1	小破片	9	瀬戸・美濃系筒型碗、推定口径7.9cm、陶胎染付
99図15	磁器	7.5Y 8 / 1	1 / 3	5	肥前系紅皿、型打ち成形、推定口径4.2cm

第９表　縄文時代・弥生時代の石器・石製品一覧

図版番号	種　別	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	石質	重量(g)	特徴、出土位置など
80図 1	磨石	10.7	7.3	4.6	砂岩	580	表裏、両側面に磨痕
87図 2	磨石	9.6	4.9	4.8	凝灰岩	466	表面に磨痕、裏面に凹み、縄文３号住覆土より出土
87図 3	凹石	11.3	7.8	3.6	砂岩	418	表裏両面に凹み、縄文３号住覆土より出土
88図 1	剥片	3.2	2.5	1.1	黒曜石	7	
88図 2	剥片	6.2	4.9	1.6	黒曜石	34	右側縁部に微細剥離
89図 3	剥片	5.3	4.9	1.7	黒曜石	39	左側縁部に微細剥離
89図 4	剥片	5.6	4.6	1.1	黒曜石	31	左側縁部に微細剥離
89図 5	剥片	6.6	7.4	1.9	黒曜石	69	
89図 6	剥片	4.0	3.7	1.6	黒曜石	19	
89図 7	剥片	3.2	3.3	1.2	黒曜石	7	
89図 8	剥片	4.6	6.2	1.7	黒曜石	35	
90図 9	剥片	4.7	5.8	1.9	黒曜石	44	
90図10	石核	4.2	3.7	2.1	黒曜石	30	
90図11	石核	4.5	4.6	3.4	黒曜石	56	
90図12	剥片	4.2	3.1	1.2	黒曜石	12	
90図13	剥片	5.2	2.7	1.0	黒曜石	10	左側縁部に微細剥離
90図14	剥片	3.7	4.2	1.7	黒曜石	11	
91図15	剥片	6.1	5.7	1.6	黒曜石	35	左側縁部に微細剥離
91図16	剥片	2.8	5.5	1.2	黒曜石	17	下縁部に微細剥離
91図17	剥片	4.3	5.4	1.7	黒曜石	39	左側縁部に微細剥離、117号住より出土
91図18	石英片	5.9	4.1	3.4	石英	73	
91図19	石英片	6.5	4.9	1.7	石英	51	
91図20	石英片	6.2	4.7	2.8	石英	86	
91図21	石英片	3.9	3.7	1.7	石英	21	
94図17	石鏃	(1.9)	(1.5)	0.4	黒曜石	1	有茎鏃、茎部及び右脚部欠損、遺構外より出土
94図18	石鏃	2.0	1.4	0.5	チャート	1	左脚部欠損、遺構外より出土
94図19	石鏃	(2.3)	(1.3)	0.4	黒曜石	1	両脚部欠損、遺構外より出土
94図20	石鏃	(2.0)	(1.4)	0.4	黒曜石	1	先端部、右脚部欠損、遺構外より出土
94図21	石鏃	2.3	1.4	0.4	黒曜石	1	遺構外より出土
94図22	石鏃	2.3	1.8	0.3	黒曜石	1	遺構外より出土
95図 1	石鏃	3.8	1.9	0.4	チャート	2	遺構外より出土
95図 2	石鏃	1.9	1.9	0.4	チャート	1	石鏃未製品、遺構外より出土
95図 3	打製石斧	12.4	4.6	1.4	ホルンフェルス	120	遺構外より出土
95図 4	打製石斧	8.8	4.6	1.2	ホルンフェルス	51	106号住内PT2571より出土
95図 5	敲石	15.2	6.8	5.6	凝灰岩	870	下端部に敲打痕、110号住覆土より出土
95図 2	石匙	2.5	4.2	0.9	チャート	7	遺構外より出土
99図 8	不明	2.4	2.6	0.4	砂岩	2	上部に穿孔、磨製石鏃か

第6章　まとめ

第1節　遺構について

1．各時期の遺構分布

梅之木遺跡で検出された平安時代集落の時期ごとの変遷をまとめてみたい。(第100図～第101図)。

まず各時期の遺構分布状況を確認する。遺構の時期は出土遺物により推定した。出土遺物がなく時期が推定できない遺構は除外した。

第1期（9世紀第3四半期～9世紀第4四半期）

宮ノ前Ⅶ期に該当する。この時期より遡る遺物の出土する住居はみられない。調査区東端で検出された住居は本期のものだけである。本期に属すると思われる遺構は竪穴住居9軒である。土坑はみられない。

竪穴住居　96号、97号、98号、107号、108号、110号、113号、114号、117号

第2期（9世紀第4四半期～10世紀第1四半期）

宮ノ前Ⅷ期に該当する。住居数は第1期から大幅に減少する。調査区東端に住居は見られなくなり、前期の住居の集中する地区に重複はせずに設けられている。本期に属すると思われる遺構は、竪穴住居2軒である。

竪穴住居　109号、115号

第3期（10世紀第2四半期～10世紀第3四半期）

宮ノ前Ⅸ期に該当する。住居数は第3期と変化はないものの、102号住居は前期や本期の住居が集中する地区とは離れた地点に位置している。住居の重複はなく、やはり前期とは異なる地点に建設されている。本期に属すると思われる遺構は、竪穴住居2軒である。

竪穴住居　102号、116号

第4期（10世紀第3四半期～10世紀第4四半期）

宮ノ前Ⅹ期に該当する。前期までの住居が集中する地区とともに住居が設けられていない調査区の南西側にも3軒の竪穴住居が現れる。本期に属すると思われる遺構は、竪穴住居5軒、土坑1基である。

竪穴住居　99号、100号、101号、105号、106号

土坑　249号

第5期（10世紀末～11世紀前葉）

宮ノ前Ⅺ期に該当する。前期までの住居が集中する地区の東端に住居が設けられている。本期に属すると思われる遺構は、竪穴住居3軒である。いずれの住居も1辺5m以上と本遺跡内では大型の規模をもつ。118号と120号住居は多量の鉄滓が出土する鍛冶遺構であるが、鍛冶遺構は本期にのみ確認された。

竪穴住居　112号、118号、120号

2．鍛冶遺構について

今回の調査では118号住居と120号住居の2軒の鍛冶遺構と考えられる竪穴住居が検出された。

118号住居では鉄滓が多量に出土した他に鉄分の付着した扁平な礫が出土し、また住居の床面の一部が被熱し非常に硬くしまっていたことからこれらを金床石、地床鍛冶炉と考え、また鉄滓の付着した土師器片が出土していることから鍛冶遺構と判断した。焼土と炭化材が床面上から出土している点も鍛冶遺構に関連するものと考えられる。また鍛冶遺構と直接結びつくものではないが、東壁に張り出しをもつ、床面に周溝とは異なる浅い溝が2条検出される、カマドの主軸が対角線を向いているなど本遺跡における他の住居とは異なる特徴を有している。

120号住居は多量の鉄滓の他に羽口と思われる土製品が出土していることから鍛冶遺構と判断した。118号住居

と同様に床面上から焼土と炭化材が出土している。鍛冶炉は検出されなかったが302号土坑は底面が硬くしまり、埋没途中の覆土が皿状に被熱していることからあるいはこの土坑が鍛冶炉ではないかとも考えられる。壁沿いに土坑が設けられている、覆土中から漆紙と思われる付着物のある土師器小皿が出土するなどの特徴をもっている。この2軒の住居はどちらも南壁の立ち上がり部に2本、床面中央北寄りに2本の柱穴を持つという構造の共通点を持つ。

以上のような特徴を保坂康夫氏の鍛冶遺構の分類（保坂 1992）にあてはめると、118号住居は竪穴住居内に鍛冶関連施設をもつ「地床鍛冶炉型」と考えられる。120号住居では住居内に明確な鍛冶施設は確認されなかったが、遺構は調査区外まで及んでいるためここでの分類は保留しておきたい。

保坂氏は金床石や地床炉などの鍛冶施設を持つ鍛冶遺構が甲斐型Ⅶ期に出現し、Ⅷ期に消滅するとしており、「地床鍛冶炉型」の消滅時期を甲斐型Ⅷ期頃と想定している。118号、120号住居の時期はともに甲斐型土器消滅以後、宮ノ前Ⅺ期と考えられることから「地床鍛冶炉型」は本期まで存続するという可能性が指摘できる。

3．掘立柱建物・土坑について

今回の調査で掘立柱建物は7棟検出されている。規模は2間×2間が2棟、3間×2間が1棟、1間×2間が1棟、1間×1間が1棟でほかに規模の不明なものが2棟ある。構造は規模不明の2棟を含めて全てが側柱建物である。遺物の出土はほとんどなく、他の遺構との切り合いもないため時期の特定はできなかったが、複数の掘立柱建物がまとまっているという分布状況から考えると各時期の竪穴住居2～3軒に1棟の掘立柱建物という組み合わせが想定できる。

平安時代の土坑は竪穴住居の屋内で機能していたと思われるものを除くと12基が検出されている。そのうちの11基がＥ1区西側南寄りに集中している。これらの土坑は楕円形もしくは円形で、覆土が酷似していたが遺物の出土がほとんどなく、時期ごとの分布は明らかにできなかった。楕円形の土坑は7基検出されており、規模は長軸が1.4ｍから2.0ｍの間、短軸は0.8ｍから1.3ｍの間に収まる、深さは8㎝から20㎝の間に収まるが、221号土坑のみ28㎝とやや深い。円形の土坑は3基検出されており、規模は直径が0.7ｍから1.1ｍの間に、深さは12㎝から16㎝の間である。

土坑の深さから考えると上面はかなり削平されているものと思われるが、削平を受けた深さが均一であると仮定すれば、平面形・深さともに近い数字を示していることから土坑構築時の規模はほぼ一定のものであったと考えられる。11基の土坑が集中する地区には竪穴住居が分布していない点とあわせて、特定の機能を持った土坑が一定の範囲に設けられ、そこには住居を設けないという規制が集落内には作用していたと考えられる。しかし土坑の時期が不明であるため、土坑が集落の存続期間中絶え間なく構築されたものか、それとも特定の時期に設けられたものなのかは不明である。

第2節　遺物について

1．墨書・刻書土器

本遺跡では10軒の竪穴住居から27点の墨書、刻書土器が出土した。それらを第10表に整理し、その出土位置を第102図に示した。

第1期では97号住居から「目」・「倭」、107号住居からは「十」2点、108号住居からは「山」・「十ヵ」と判読不可能の墨書が1点、110号住居からは「目」・「金ヵ」、113号住居からは「金ヵ」・「田ヵ」と判読不可能の墨書が3点、114号住居からは「丈」・「十ヵ」・「金ヵ」と判読不可能の墨書1点が出土している。第2期の住居は109号住居の「乙」1点だけである。第3期は102号住居から「仁（刻書）」が出土している、116号住

居からは判読不可能の墨書5点が出土している。第4期では判読不可能の墨書が106号住居から1点出土している。第5期の住居からは墨書土器は出土していない。

こうして見てみると多数の墨書土器が出土する第1期では共通の墨書が複数の住居から出土していることがわかる、97号と110号住居で「目」墨書土器が、107号、108号、114号住居で「十」、110号、113号、114号住居で「金ヵ」が出土している。

また1軒の住居内で同一内容の複数の墨書土器が出土している例は107号住居出土の「十」墨書土器2点だけである。ともに甲斐型の高台坏に墨書されている2点の文字は筆跡はよく似ているが107a号住居の覆土中から出土した「十」墨書土器（36図6）の文字ははっきりとしているのに対し、床面で検出された277号土坑覆土から出土した「十」墨書土器（36図7）の文字はかすれているように薄くなっている。

107号住居は壁面を共有する新旧2枚の床面を持つ竪穴住居である、両住居間に時期の大きな違いは認められない。277号土坑が検出されたのは旧住居107b号の床面であることから両者は（107b号住居の）床面の埋め戻しにより、一方は新住居の床面の下に、もう一方は床面の上に存在していたと考えられる。また土器を観察してみると、107a号住居覆土中出土の墨書土器の口縁部が平坦なのに対し、既に埋められている277号土坑出土墨書土器のほうは口縁部が玉縁化してより新しい印象をうける。

これらの点から、277号土坑出土のものは長期間使用された後に埋められ、107a号住居覆土出土のものは使用された期間が短かったため墨痕の濃淡に違いが現れたと考えられないだろうか。また文字のはっきりした107a号住居出土の口縁部がやや古手の特徴をもっていることから、文字のかすれることのない長期間の行為ということも考えられるが、土器の製作時期と墨書のなされる時期が必ずしも一致しないので断定はできない。

第3節　明野村・梅之木遺跡出土の墨書土器「目」と「倭」について

原　正人

明野村教育委員会による、今年度の梅之木遺跡の発掘調査で、竪穴住居97号住居から発見された「目」「倭」と記された2つの墨書土器について、甲斐国、ことに巨麻郡の古代史を考える上での重要な文字資料の新出であるという見地から、若干のコメントを述べたい。

〔土器の年代〕 2つの墨書土器のうち、「倭」と記された方は所謂「甲斐型皿」とよばれる土師器で、宮ノ前編年の第Ⅶ期、実年代で9世紀第3四半期から9世紀第4四半期に相当する時期にあたると推定される。一方、「目」の墨書土器は、内面に黒色処理を施す別種の坏であるが同一住居内の同一地表面から出土していることから判断して、ほぼ同時期の土器とみなしてよいと思われる。

〔墨書の書体〕 一目見て気付くのは、両者とも極めて勢いのある筆遣いで、字画の整った楷書体は、相当筆馴れた人の字に見られる点である。あるいは、同一人の手になるものかもしれない。こうした官衙風の書体を持つ墨書は、公権力につらなる役人――例えば、郡司か郷長のような在地の有力層か、国衙の中下級官人かが想定される――が記主である可能性を想像させる。なお、この住居内から石製の袴帯が出土していることも、一般民衆とは区別された何らかの指導的な立場にあった人物に関わるものらしいことを示唆する。

〔「目」「倭」の意味するもの〕 梅之木遺跡からは、昨年度の調査区からも多量の墨書土器が出土しており、同時期の北巨摩郡下の平安集落遺跡と比較しても、其の規模や墨書土器の濃密さなどからして、拠点的な集落のひとつであること、遺跡立地からみて、後院牧の「小笠原牧」もしくは御牧の「穂坂牧」に隣接する牧経営集団に関係する集落ではないかと推定される。その中で、「目」「倭」の墨書は、それぞれ1点ずつであり、これまで判明している県内遺跡からの墨書土器に類例を見ないものである点で注目される。

たった1文字の、しかも1例しかない墨書の文字から、特定の意味を推測することは危険であり、即断はさら

に慎まなければならないが、ひとつの可能性として文献資料に知られる当該期の歴史的状況から、次のような仮説を提示しておきたい。

「目」は、国司の四等官「守・介・掾・目」のうちの「目（さかん）」ではあるまいか。

これまでに県内で「守」２点（長坂町深草遺跡、一宮町国分尼寺）「介」１点（韮崎市宮ノ前遺跡）の報告事例があり、それらが国司の守・介を指すものとの確証はないものの、今回新たに加わった「目」も含めて、国司の四等官を意味する事例として検討の俎上にあげてみたい。

先述の当墨書土器の年代推定とも偶然の一致をみるのだが、『日本文徳天皇実録』仁寿二年（852）二月己未（22日）条に、「詔加二甲斐国目一員一。」の記録がみえ、『類聚三代格』巻五所収の同年同月日付の太政官符では、さらに詳しい格文全体が知られ、甲斐国に目一員を置くことの理由として、「衆務斯多。従レ事人少」と述べられている。この辺の経緯についてはすでに述べたことがある(1)が、目一員の増置が御牧の発展・拡充と密接に関わるものではないかとする説もあって、国司が担う「衆務」の一つに御牧経営のことがあったという推測は十分に首肯できる。大目・少目の二員制となったのち、そのうちの一人が御牧の専当となったという解釈もなりたちうるのではなかろうか。

「倭」は、甲斐国巨摩郡の式内社の一つ「倭文神社」に関係するものではないか。

この「倭」の墨書も、従来の報告事例にはなかった新出の文字資料で貴重である。

「倭」は一般に、その一字で「わ」または「やまと」と訓じられるが、甲斐国の古代史にひきつけてその用例を探すならば、『延喜式』神名帳（神名式）に登録されている甲斐国二十座のうちの巨麻郡五座に「倭文神社」（訓名は「しずり」、または「しどり」）の名がみえ、『延喜式』段階よりも少し遡って９世紀後半には、すでに幣帛の対象と朝廷に認知されていたことが推測される。同社は、現在の韮崎市穂坂町宮久保に鎮座する同名社に比定されて、とくに論社がないことから、「穂坂牧」の地に居住した集団により奉斎された神（現在の祭神は、天羽槌雄命・棚機姫命の二神）であるとみられる。ちなみに、巨麻郡五座のうちのもう一社「宇波刀神社」を明野村上手に鎮座する同名社に当てるのが通説であり、やはりある程度の伝統的な集落とその奉斎集団の存在が式内社選定の前提になっていたことを物語っている。倭文神社・宇波刀神社ともに、穂坂牧または小笠原牧の経営集団との何らかの関係をもつ神社ではなかったかという見通しを指摘しておきたい。

註

(1)『須玉町史』第一巻、第二章の当該史料の解説参照

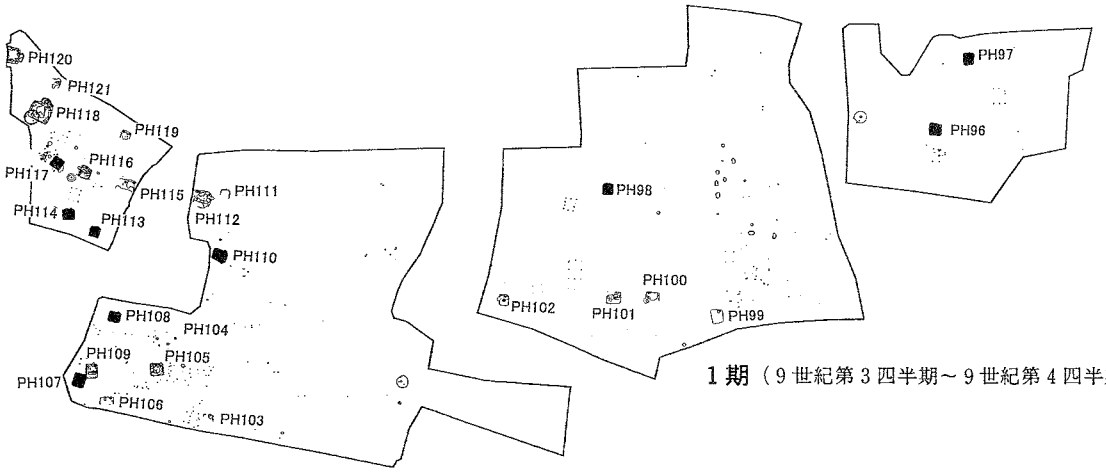
参考文献

秋山　敬　2001「文献からみた古代・中世の小笠原」『山梨考古第81号』山梨県考古学協会
明野村教育委員会　1990『千野木Ⅰ・Ⅱ遺跡・池の下遺跡・踊石Ⅱ遺跡・中村道祖神遺跡』
明野村教育委員会　1991『宮後遺跡』
明野村教育委員会　1995『村之内Ⅱ・Ⅲ・高台・中谷井』
明野村教育委員会　1997『下大内遺跡・屋敷添第２遺跡・中原遺跡』
明野村埋蔵文化財センター　1999「寺前遺跡調査概要」
明野村埋蔵文化財センター　2000「寺前遺跡見学会パンフレット」
雨宮正樹　1998「湯沢遺跡」『山梨県史資料編１原始・古代１考古（遺跡）』
岡本範之　1990「平安期における甲斐国巨摩郡の動向」『山梨県考古学協会誌第３号』山梨県考古学協会
甲斐型土器研究グループ　1992『甲斐型土器―その編年と年代―』山梨県考古学協会
上ノ原遺跡発掘調査団　1999『上ノ原遺跡』

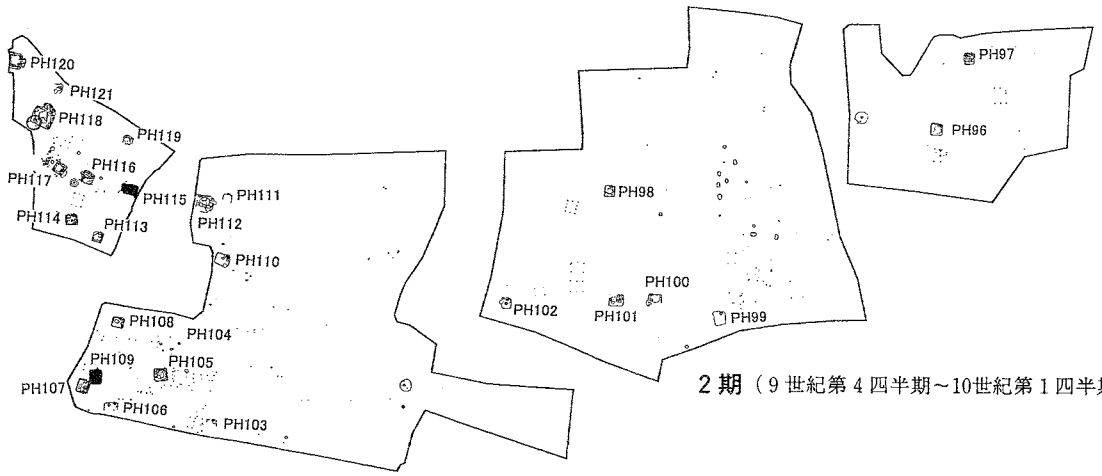
瀬田正明　1992 「山梨県内出土の腰帯具について」『山梨県考古学協会誌第５号』山梨県考古学協会
中山誠二　1993 「甲斐弥生土器編年の現状と課題　―時間軸の設定―」『研究紀要９』山梨県立考古博物館
韮崎市遺跡調査会　1992 『宮ノ前遺跡』
萩原三雄　1986 「八ヶ岳南麓における平安集落の展開」『山梨考古学論集Ⅰ』山梨県考古学協会
原　正人　2002 「律令制変容期の甲斐国と巨摩郡」『須玉町史通史編第１巻』
平野　修　1992 「山梨県内出土の墨書土器と線刻土器」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告第４集』
保坂康夫　1992 「山梨県下の平安時代鍛冶遺構の様相」『山梨県考古学協会誌第５号』山梨県考古学協会
武川村教育委員会　1988 『宮間田遺跡』
森原明廣　1994 「山梨県地域における古代末期の土器様相」『丘陵第14号』甲斐丘陵考古学研究会
山梨県教育委員会　1987 『寺所遺跡』
山梨県教育委員会　1987 『柳坪遺跡』
山梨県教育委員会　1988 『金生遺跡Ⅱ（縄文時代編）』

第10表　墨書・刻書土器一覧

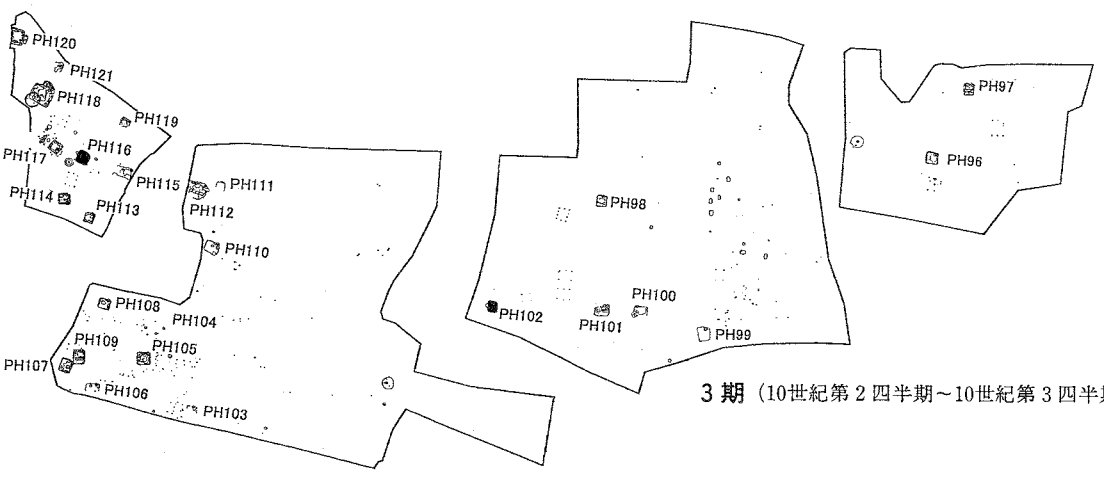
図版番号	遺構番号	墨書・刻書	種別	器種	記銘部位	記銘状態	墨痕濃淡	時期
10図１	97号住	目	大小久保型	坏	体部外面	正位	濃	宮ノ前Ⅶ期
10図２	97号住	倭	甲斐型	皿	体部外面	正位	濃	宮ノ前Ⅶ期
25図１	102号住	仁（刻書）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	―	宮ノ前Ⅸ期
32図５	106号住	□	甲斐型	坏・皿	体部外面	不明	淡	宮ノ前Ⅹ期
36図６	107号住	十	土師器	坏	体部外面	正位	濃	宮ノ前Ⅶ期
36図７	107号住	十	土師器	坏	体部外面	正位	淡	宮ノ前Ⅶ期
39図１	108号住	山	甲斐型	皿	体部外面	逆位	濃	宮ノ前Ⅶ期
40図２	108号住	□	大小久保型	坏	体部外面	不明	―	宮ノ前Ⅶ期
40図５	108号住	□	甲斐型	坏・皿	体部外面	不明	淡	宮ノ前Ⅶ期
40図６	108号住	十ヵ	土師器	坏	体部外面	正位	淡	宮ノ前Ⅶ期
43図８	109号住	乙	甲斐型	坏・皿	体部外面	不明	濃	宮ノ前Ⅷ期
46図１	110号住	金ヵ	大小久保型	坏	体部外面	逆位	淡	宮ノ前Ⅶ期
46図２	110号住	目	大小久保型	坏	体部外面	正位	淡	宮ノ前Ⅶ期
51図１	113号住	金ヵ	甲斐型	皿	体部外面	逆位	淡	宮ノ前Ⅶ期
51図９	113号住	□	甲斐型	坏・皿	体部外面	不明	淡	宮ノ前Ⅶ期
51図10	113号住	□（田ヵ）	甲斐型	坏・皿	体部外面	不明	淡	宮ノ前Ⅶ期
51図11	113号住	□	甲斐型	坏	体部外面	不明	淡	宮ノ前Ⅶ期
51図12	113号住	□	甲斐型	坏・皿	体部外面	不明	淡	宮ノ前Ⅶ期
54図１	114号住	丈	甲斐型	皿	体部外面	逆位	濃	宮ノ前Ⅶ期
55図５	114号住	□(十ヵ)	大小久保型	坏	体部外面	正位	淡	宮ノ前Ⅶ期
55図７	114号住	金ヵ	大小久保型	坏	体部外面	逆位	淡	宮ノ前Ⅶ期
55図13	114号住	□	甲斐型	坏・皿	体部外面	不明	濃	宮ノ前Ⅶ期
61図１	116号住	□	甲斐型	坏・皿	体部外面	不明	淡	宮ノ前Ⅸ期
61図２	116号住	□	甲斐型	坏・皿	体部外面	不明	淡	宮ノ前Ⅸ期
61図３	116号住	□	土師器	坏	体部外面	不明	濃	宮ノ前Ⅸ期
61図４	116号住	□	甲斐型	坏・皿	体部外面	不明	淡	宮ノ前Ⅸ期
61図５	116号住	□	甲斐型	坏・皿	体部外面	不明	淡	宮ノ前Ⅸ期



1期（9世紀第3四半期～9世紀第4四半期）

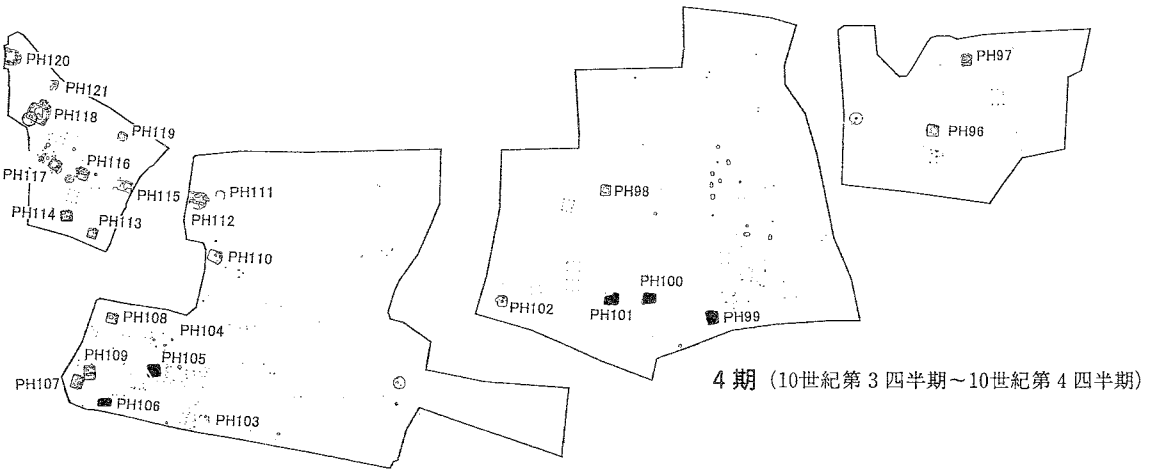


2期（9世紀第4四半期～10世紀第1四半期）

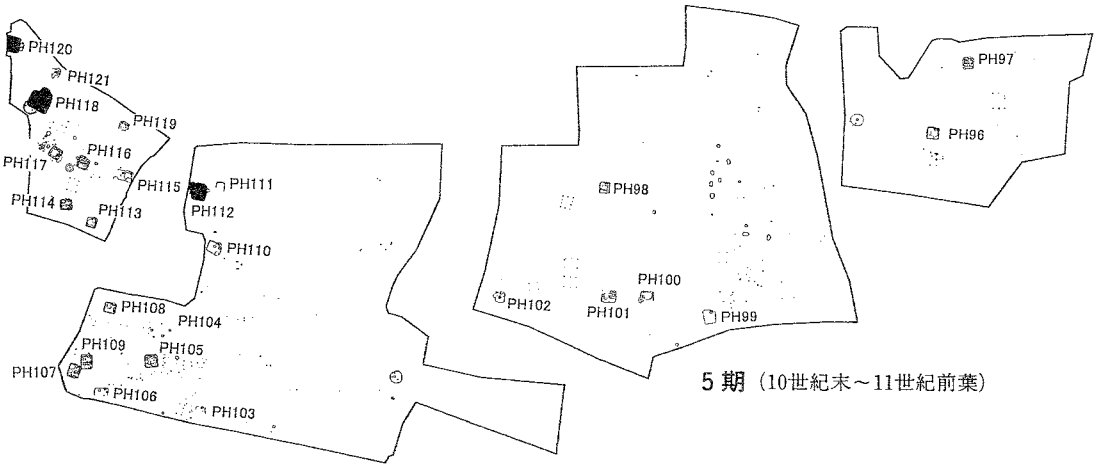


3期（10世紀第2四半期～10世紀第3四半期）

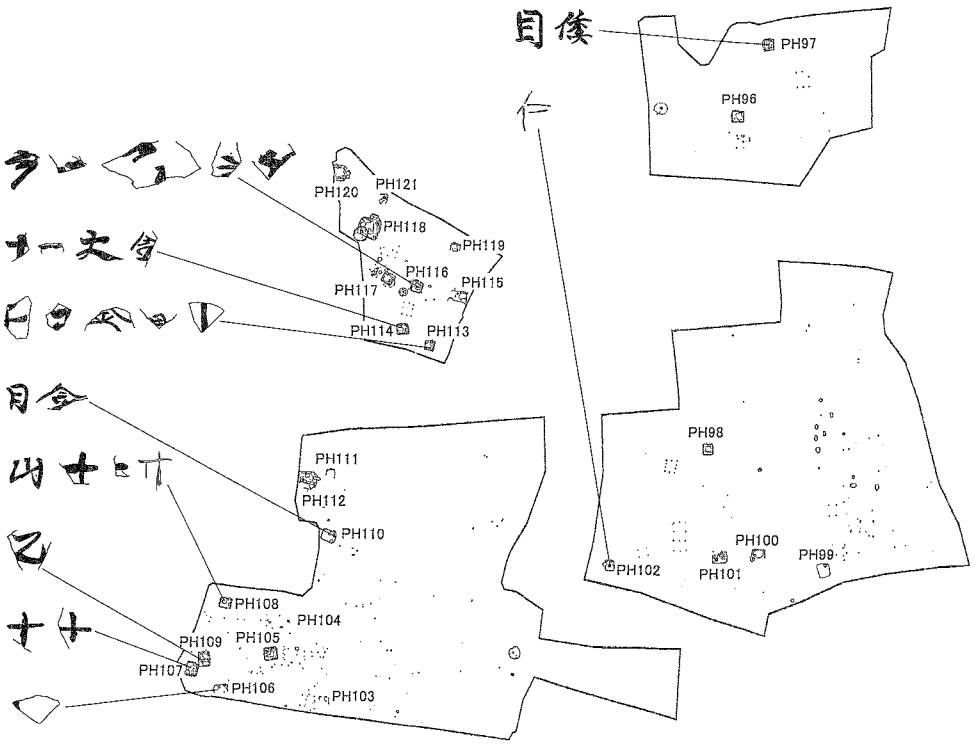
第100図　時期別遺構分布図



4期（10世紀第3四半期～10世紀第4四半期）



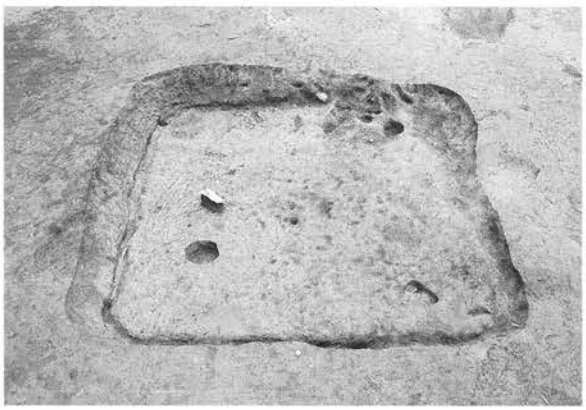
5期（10世紀末～11世紀前葉）

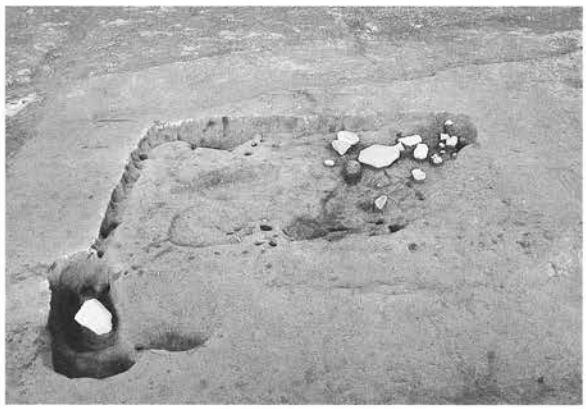


第101図　時期別遺構分布図（上段）・墨書刻書土器出土位置図

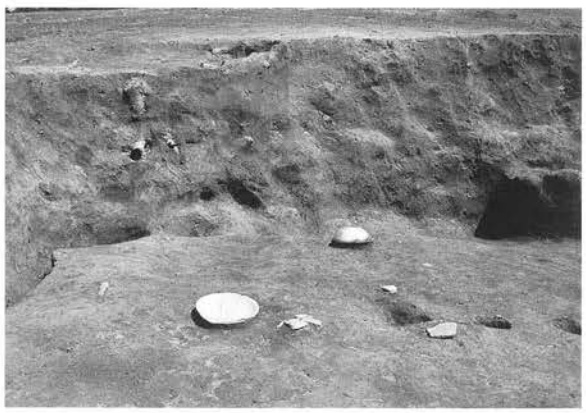
梅之木遺跡全景と金ヶ岳

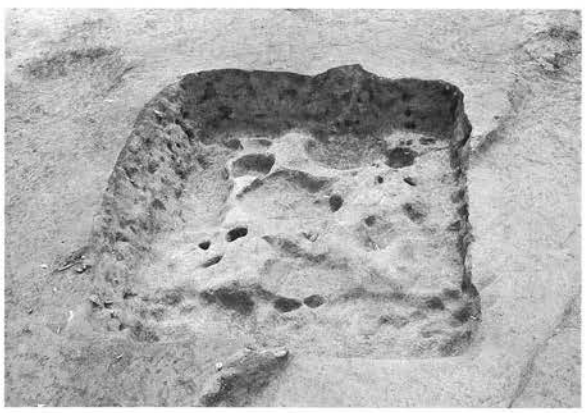
梅之木遺跡Ｅ１・Ｅ２区全景





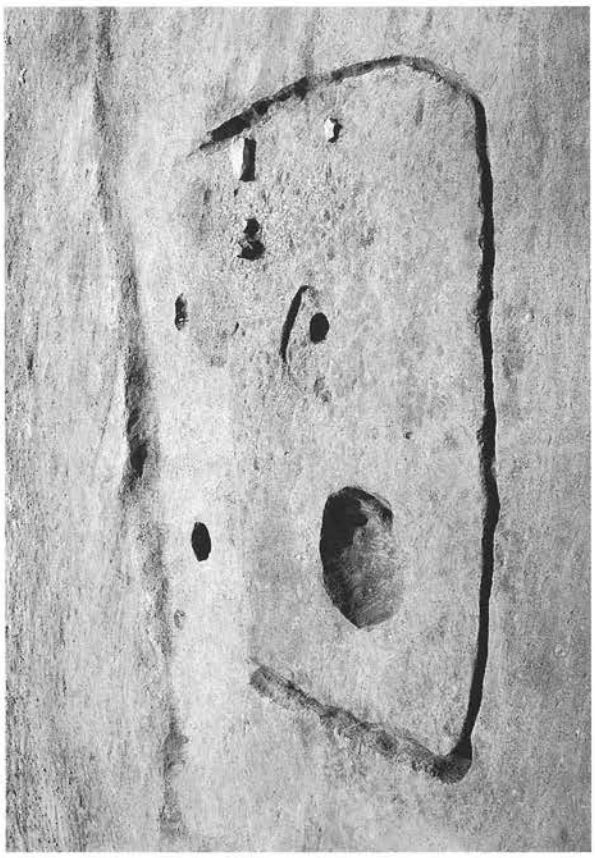
96号住居・100号住居（左下）・97号住居（右）



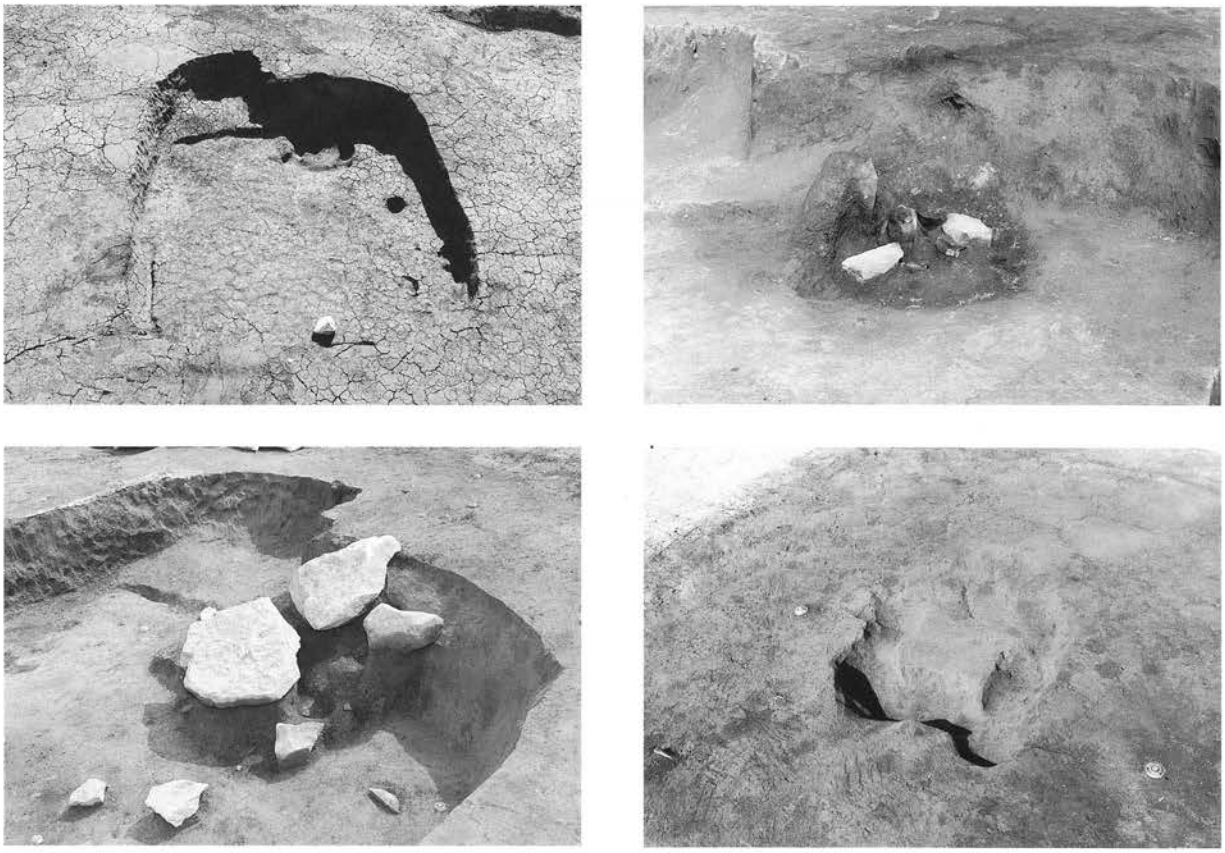


97号住居カマド・墨書土器出土状況（左下）・腰帯具出土状況（右上）・完掘（右下）

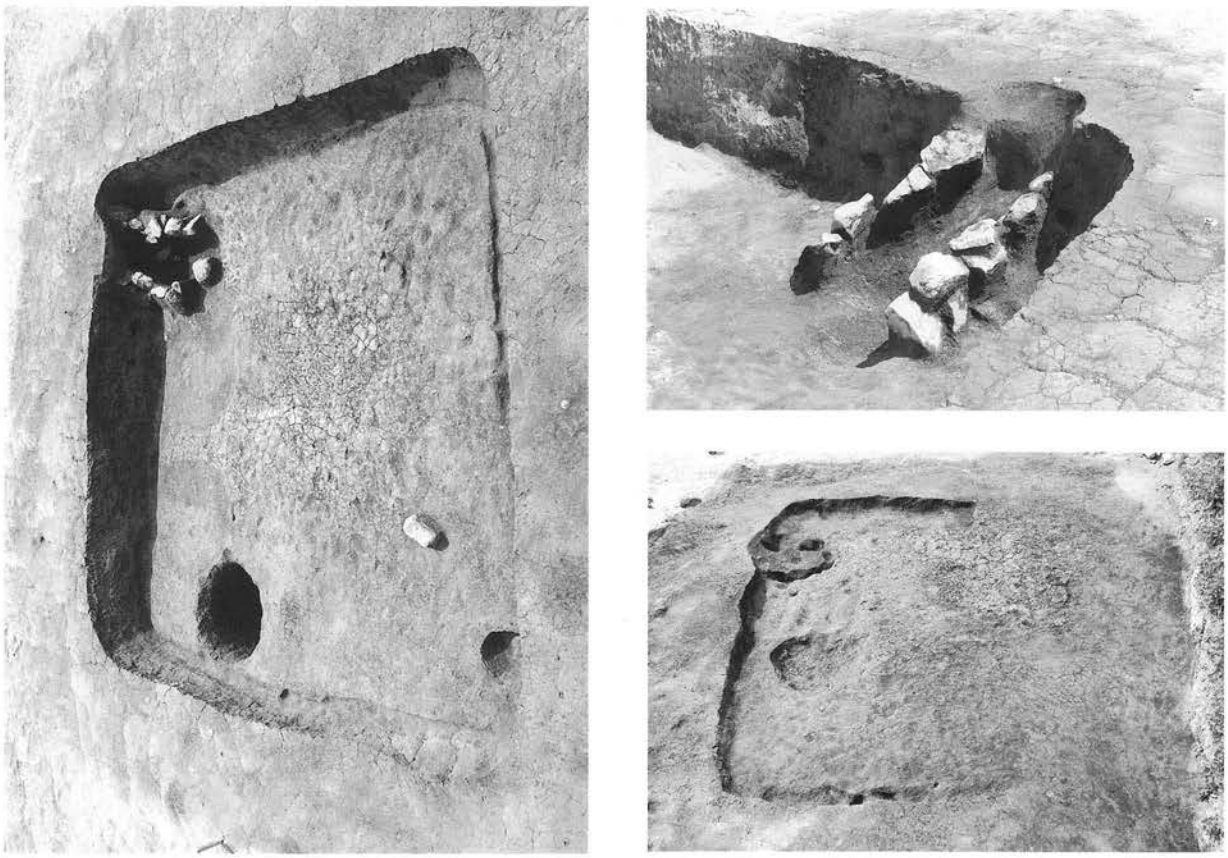
98号住居・カマド（右上）・103号住居（右下）



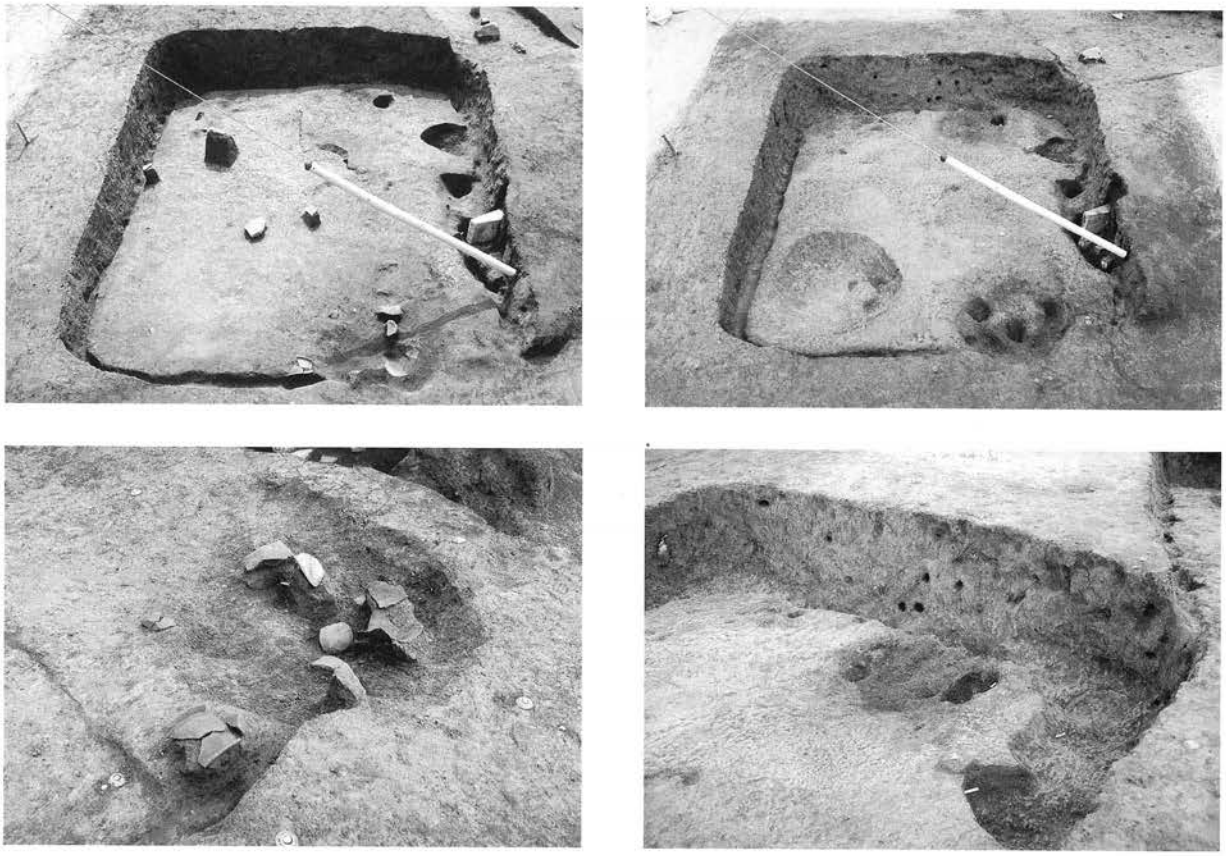
101号住居・258号土坑遺物出土状況（右上）・完掘（右下）



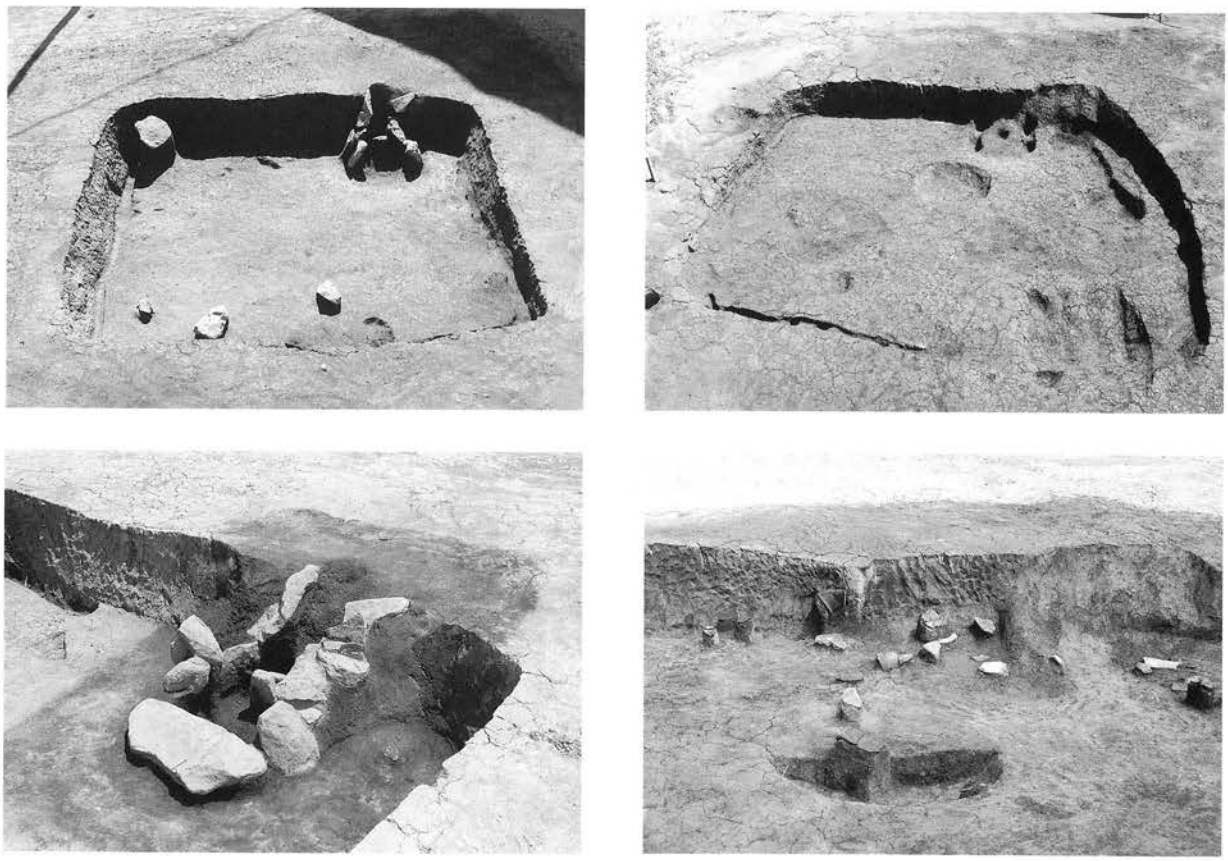
102号住居・カマド（左下）・カマド遺物出土状況（右上）・104号住居カマド（右下）



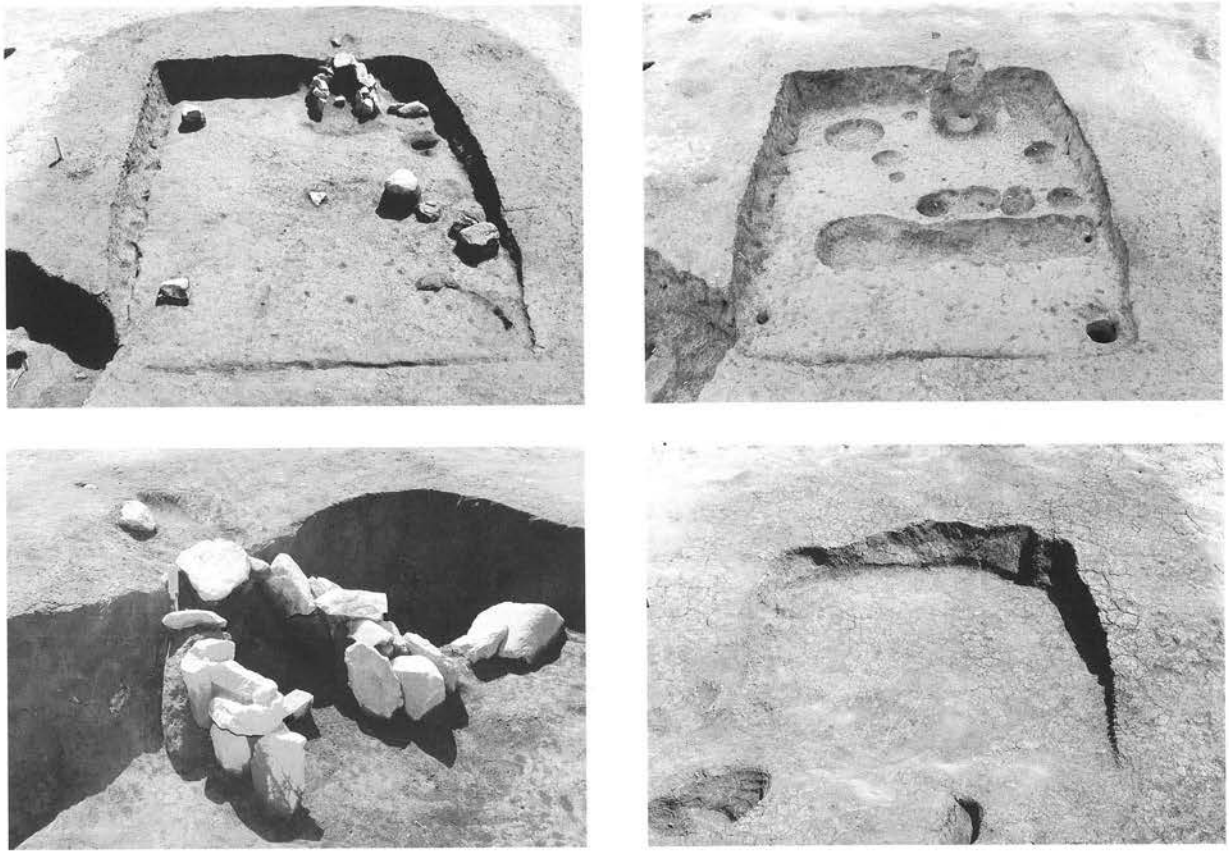
105号住居・カマド（右上）・106号住居（右下）



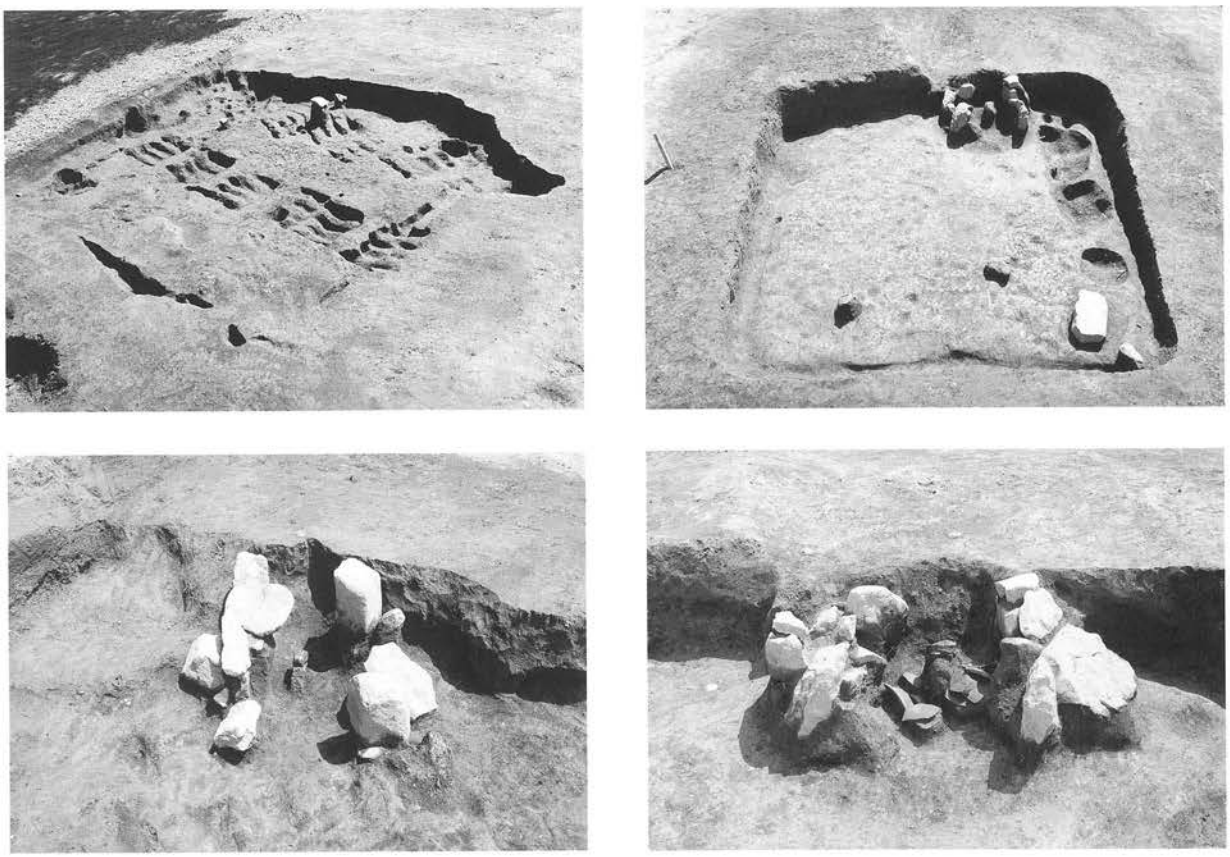
107 a 号住居・カマド（左下）・107 b 号住居（右上）・カマド（右下）



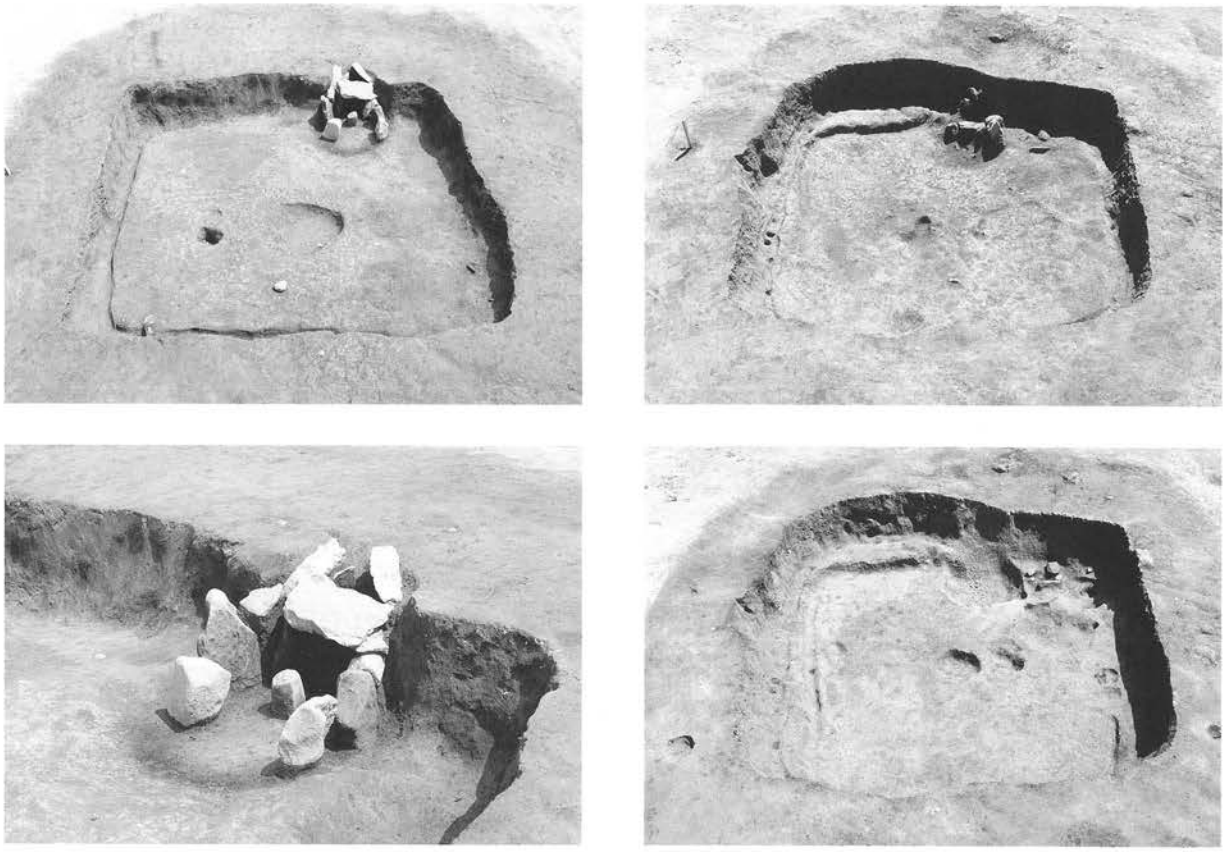
108号住居・カマド（左下）・110号住居（右上）・カマド（右下）



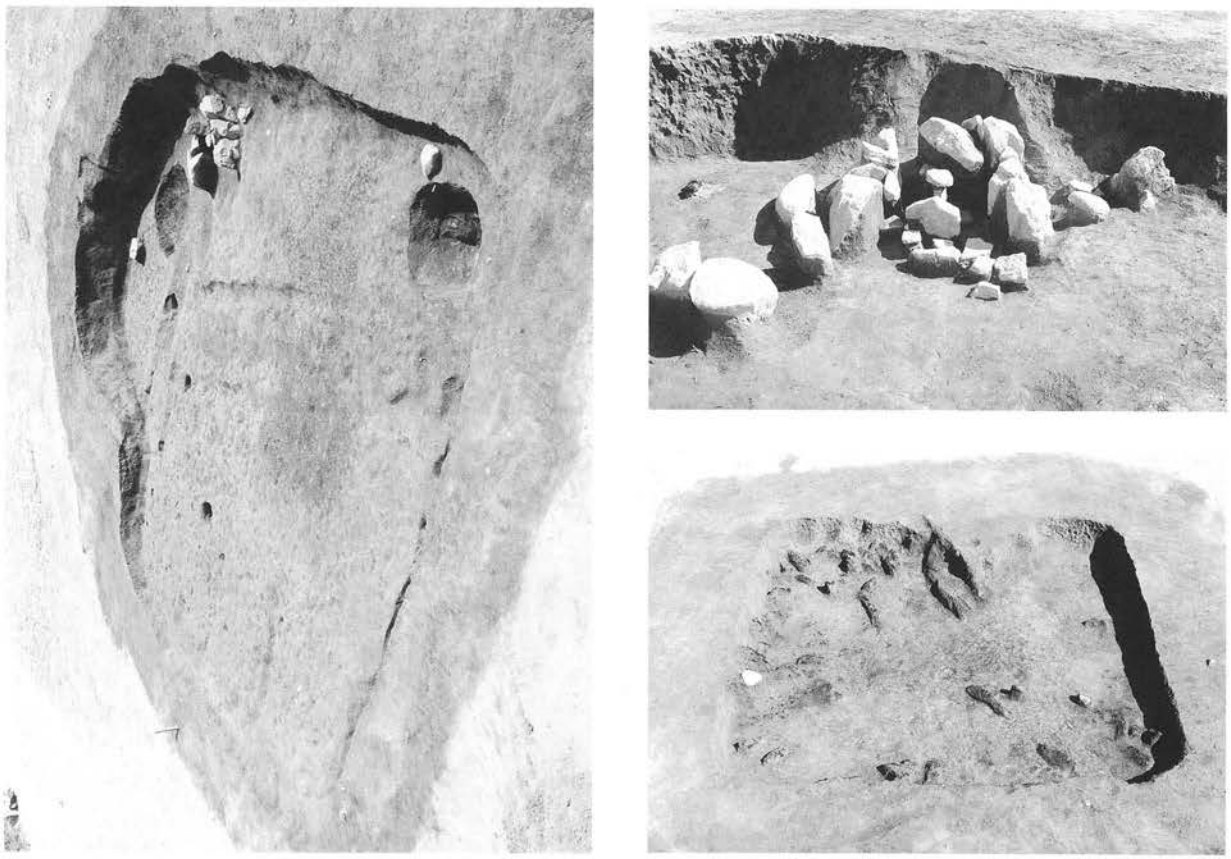
109号住居・カマド（左下）・完掘（右上）・111号住居（右下）



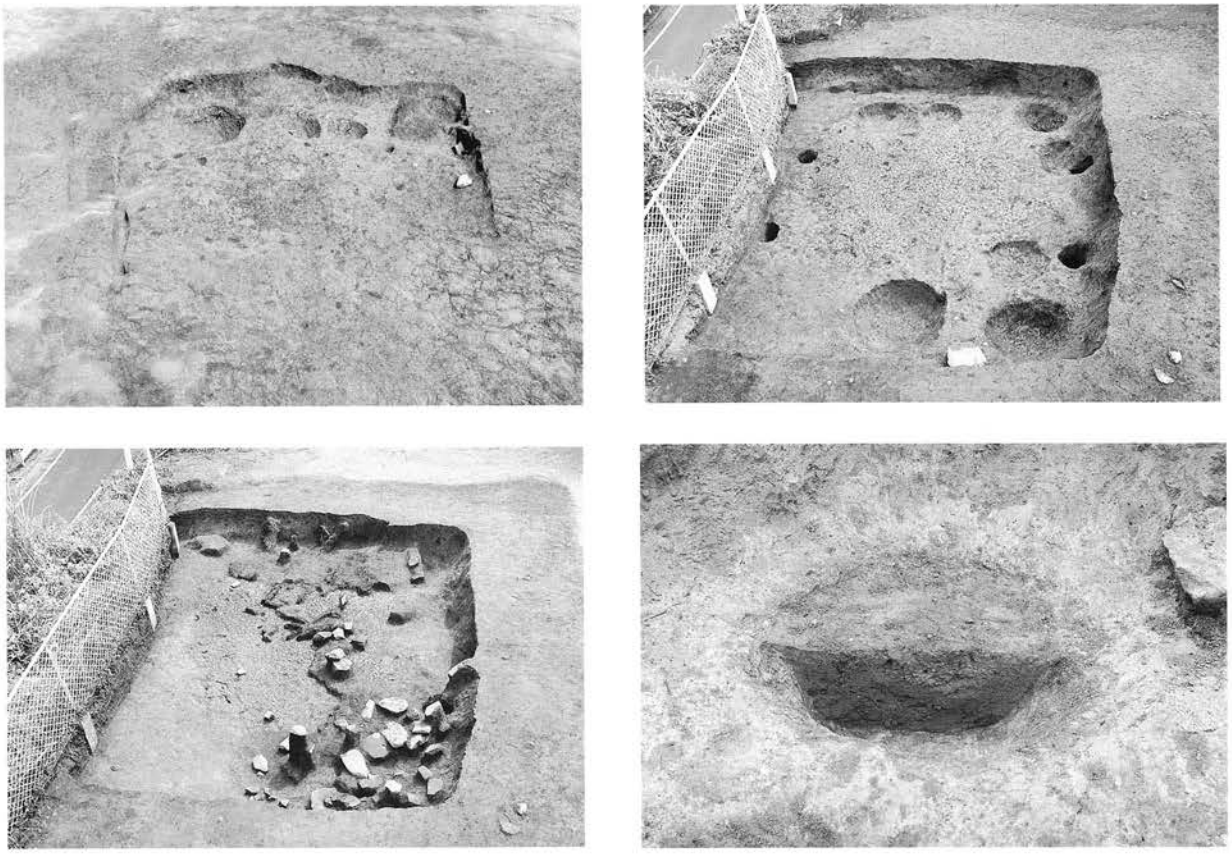
112号住居・カマド（左下）・113号住居（右上）・カマド（右下）



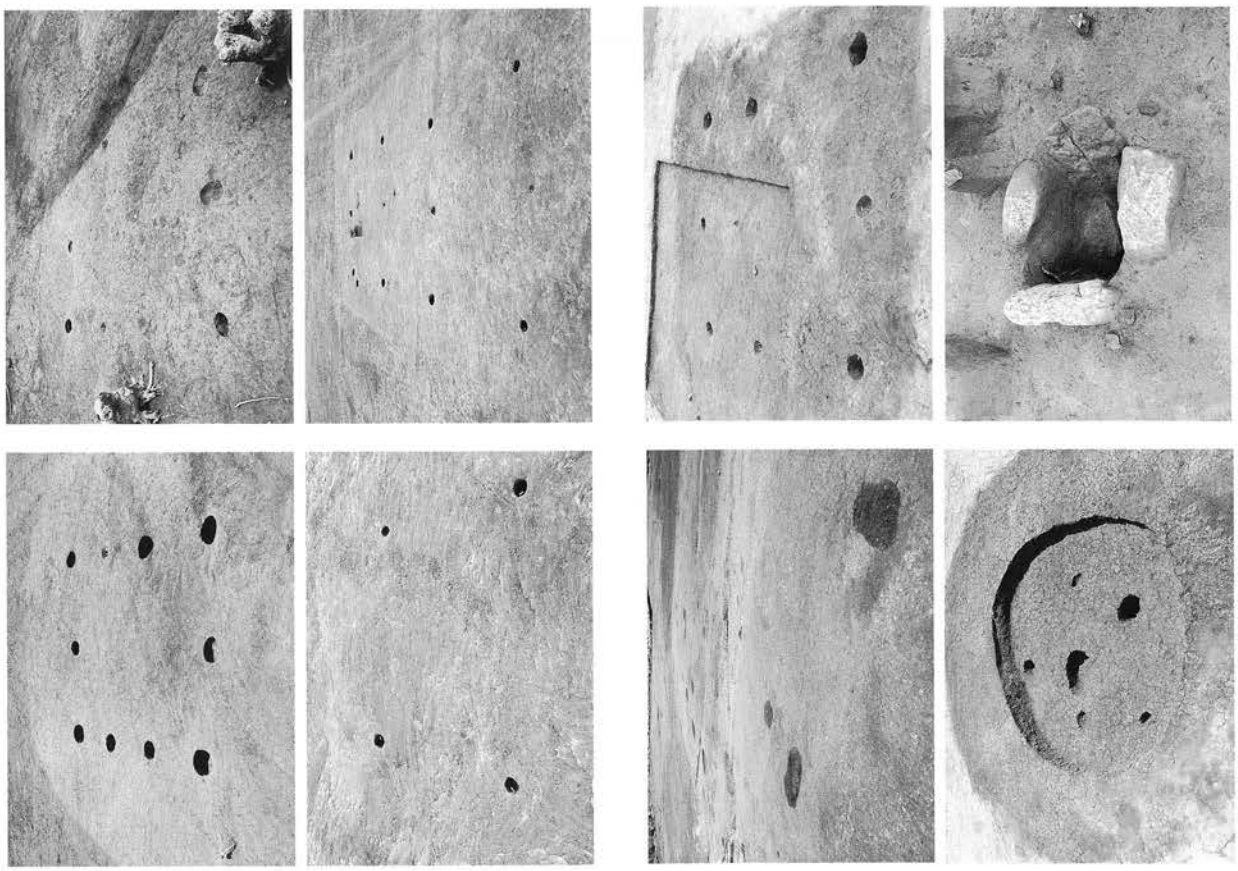
114号住居・カマド（左下）・116 a 号住居（左上）・116 b 号住居（右下）



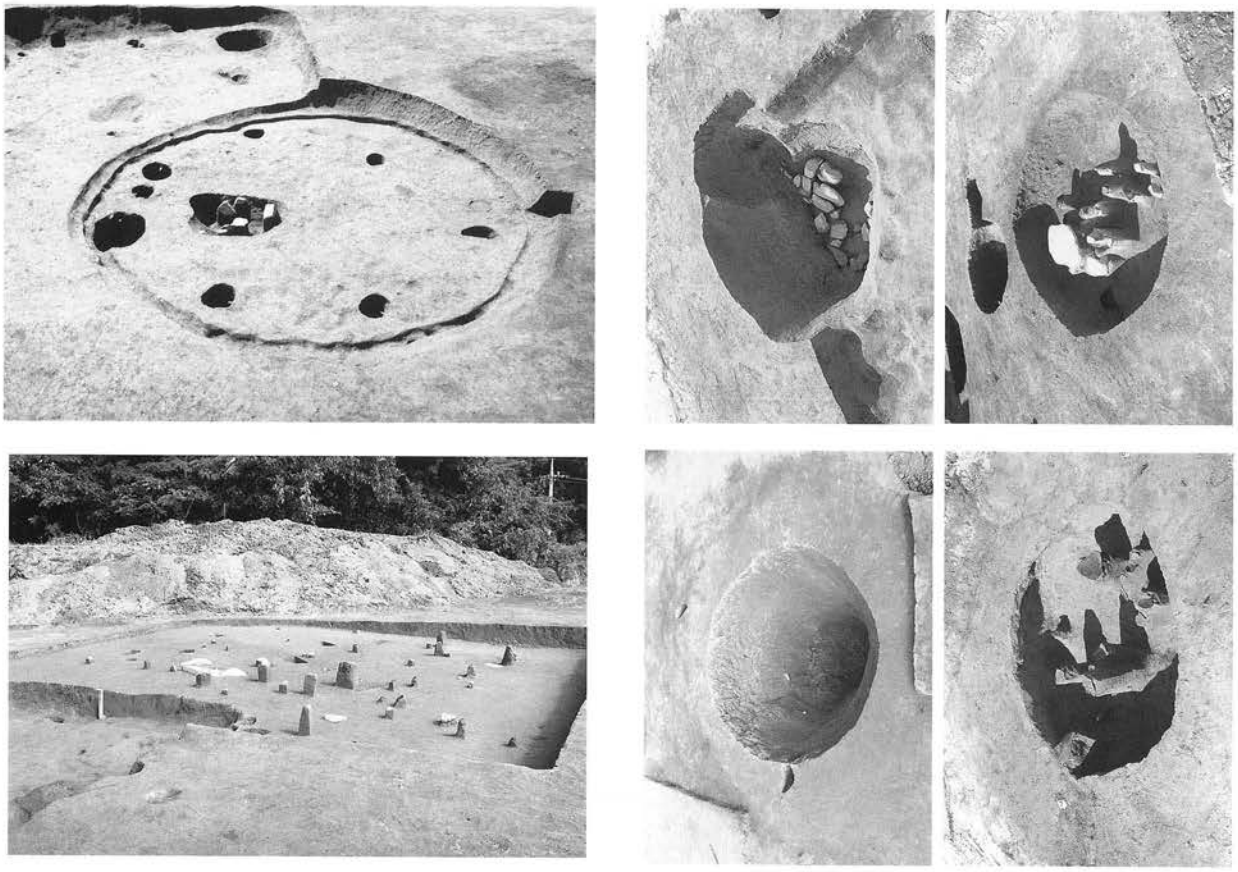
118号住居・カマド（右上）・117号住居（右下）



119号住居・120号住居（左下）・完掘（右上）・302号土坑（右下）

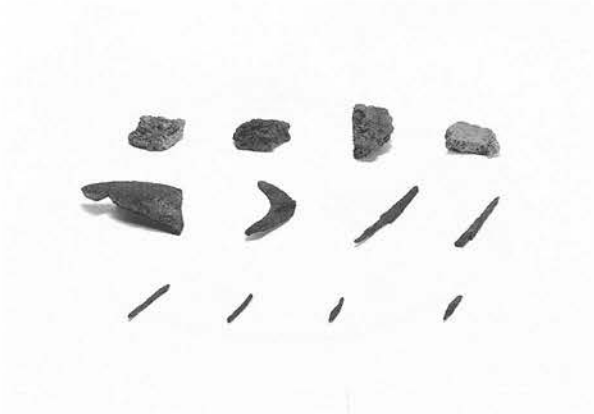
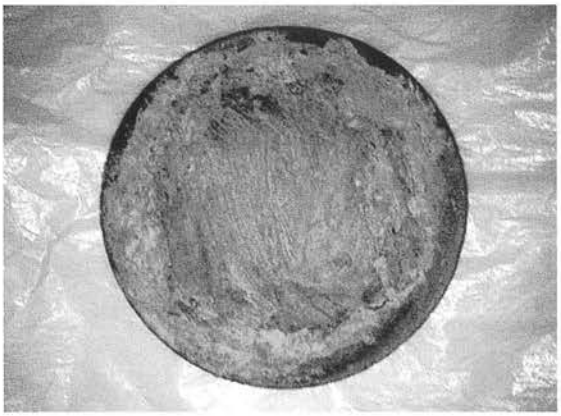
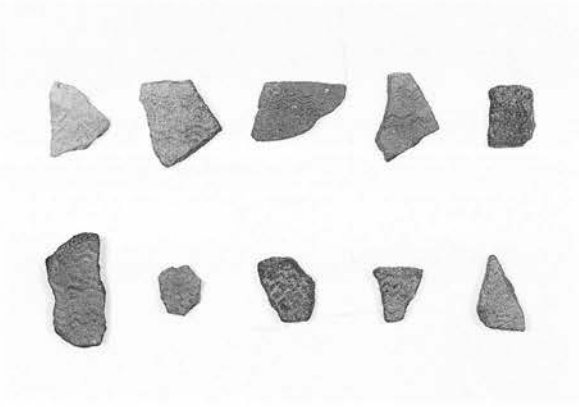


掘立柱建物（左上から22号、23号、24ａ・ｂ号、27号）・ＰＪ１炉・土坑群・ＰＪ２

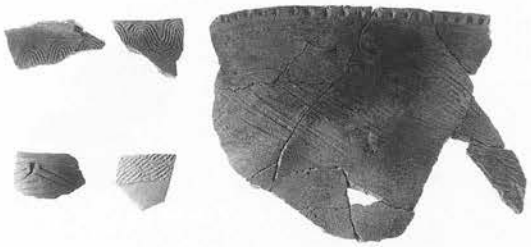


ＰＪ３（左上）・ＰＪ４遺物出土状況・弥生時代の土坑（右上左から315号、318号、322号、327号）

９世紀後半の出土品・９世紀末から10世紀初頭の出土品（左下）・10世紀前半から後半の出土品（右上）10世紀末から11世紀初頭の出土品

120号住居出土土師器内面状況・赤外線写真（左下）・主な金属製品・押型文土器



縄文時代中期後半の出土品・縄文４号住居出土接合資料（左下）・同接合資料（右上）・弥生時代前期の土器

報　告　書　抄　録

ふりがな	うめのきいせき　に
書名	梅之木遺跡Ⅱ
副題	県営畑地帯総合整備事業にともなう平安時代遺跡の発掘調査報告
シリーズ名	明野村文化財調査報告　15
著者	大山祐喜　原　正人
発行機関	明野村教育委員会
編集機関	明野村埋蔵文化財センター
所在地／電話	〒407－0204　山梨県北巨摩郡明野村上手8310　ＴＥＬ（0551）25－2019
印刷所	株式会社　ぎょうせい
発行日	平成15年（2003）年３月31日

ふりがな	やまなしけんきたこまぐんあけのむらあさおあざうめのき
所在地	山梨県北巨摩郡明野村浅尾字梅之木
位置	北緯35°47′　　東経138°27′
調査原因	明野地区県営畑地帯総合整備事業
調査期間	平成14年５月14日～平成15年３月31日
調査機関	明野村埋蔵文化財センター
調査面積	22,500㎡
時期	縄文時代、弥生時代、平安時代
主な遺構	縄文時代の竪穴住居４軒、土坑１基、弥生時代の土坑５基、平安時代の竪穴住居26軒、掘立柱建物７棟、土坑102基、ピット347基
主な遺物	縄文土器、弥生土器、平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器、石製品（腰帯具）、金属製品（刀子、鉄鍋）、鉄滓、羽口、石器
特記事項	「目」、「倭」などの墨書刻書が出土した。茅ヶ岳西麓では規模が大きい９世紀後半から10世紀後半の集落跡。御牧「穂坂牧」、後院牧「小笠原牧」に関連した集落の可能性あり。

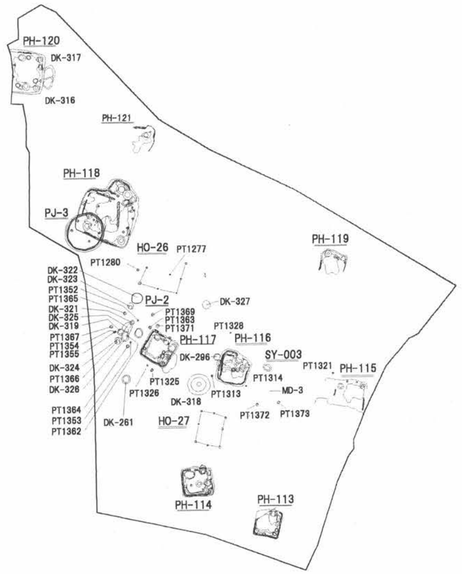
明野村文化財調査報告　15

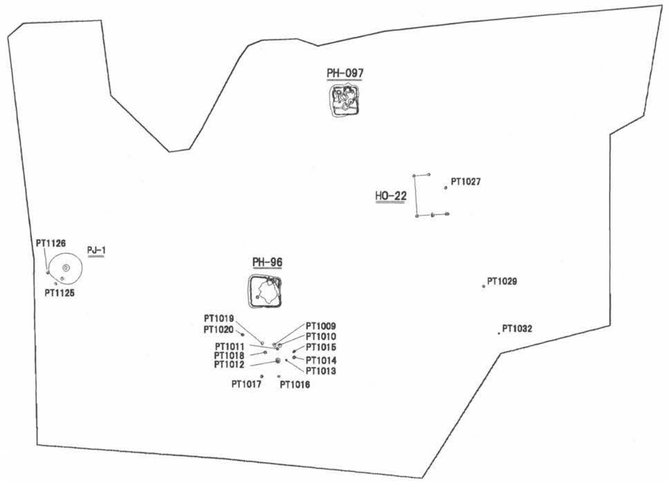
梅之木遺跡 II

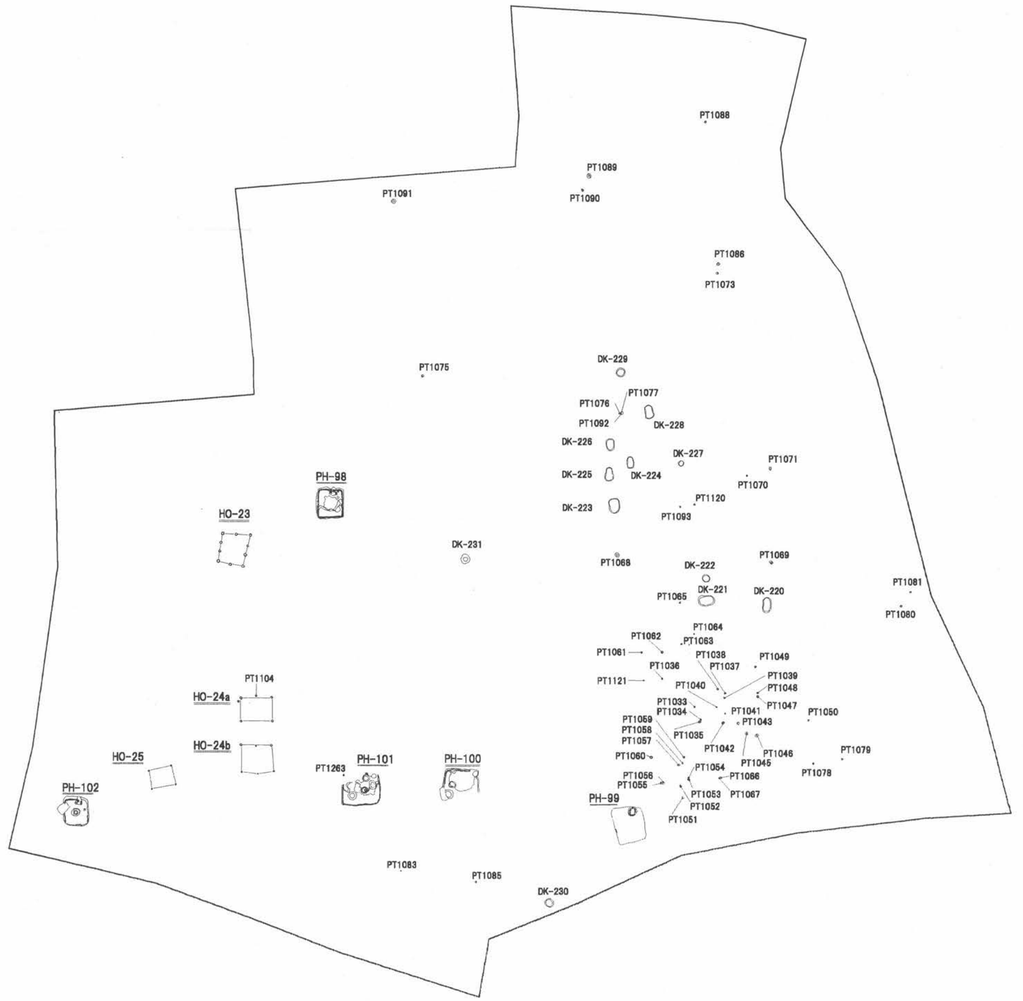
2003. 3. 31発行

発　行　　明野村教育委員会
　　峡北地域振興局農務部

印　刷　　株式会社　ぎょうせい







梅ノ木遺跡Ⅱ　遺構配置図